

基本計画書

基本計画								
事項	記入欄						備考	
計画の区分	学部の設置							
フリガナ設置者	ガッコウホウジン セイケイガクエン 学校法人 成蹊学園							
フリガナ大学の名称	セイケイダイガク 成蹊大学 (Seikei University)							
大学本部の位置	東京都武蔵野市吉祥寺北町三丁目3番1号							
大学の目的	成蹊大学は、教育基本法に則り、学校教育法の定める大学として学術の理論及び応用を研究教授するとともに、成蹊学園建学の精神に基づき、良識ある人格高き社会の指導的人物を養成することを目的とする。							
新設学部等の目的	<p>【経済学部】 経済学の知見に基づき、現代の複雑な社会問題を正しく理解するための分析力と、それらを意欲的に解決するための実践力とを備え、持続可能な経済社会の構築に資する人材を養成する。こうした人材の養成のために、経済学の知識と分析力、確かな教養と豊かな人間性を基礎に、人類が直面する諸問題に対して主体的かつ批判的に向き合い、社会の発展のために献身的に貢献できる能力を学生に習得させる。加えて、地域社会に根ざしつつ、世界に開かれた教育・研究機関として、その成果を社会に還元することで持続的な経済発展と豊かな市民社会の実現に寄与することを教育研究上の目的とする。</p> <p>【経済数理学科】 数理モデルによる経済分析やデータの統計処理を駆使して、経済現象や経済問題の本質を的確に理解し、問題解決に導く効果的な方法を社会に対して提案できる人材を養成する。こうした人材養成のために、経済学理論の基礎の下で数理モデルの分析によって経済現象を解明する能力、および統計学の基礎の下で経済データを集計し活用する情報処理の能力を学生に習得させる。加えて、経済学の数理的な理論研究・実証研究を行い、その成果を世界に発信することを通じ、社会に貢献することを教育研究上の目的とする。</p> <p>【現代経済学科】 多角的な視座から学んだ経済学の知識を、現代社会の抱える問題の発見につなげていく実践力・応用力を備えた人材を養成する。さらに、データの収集分析能力を高めることで、直面する問題を客観的かつ批判的に直視することができ、他者と協働しながら身近な地域社会の課題克服に立ち向かう人材を養成する。こうした人材の養成のために、持続可能性を追求する2つのプログラムを通して、自らの拠って立つ地域社会の抱える問題を見通す視座と国内外を比較・分析するグローバルな視座の双方から、複雑多岐にわたる社会問題を経済学的に的確に分析し、問題解決に迫る方法を導く能力を学生に習得させる。加えて、経済学の数理的な理論研究・実証研究を行い、その成果を世界に発信することを通じ、社会に貢献することを教育研究上の目的とする。</p>							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地 東京都武蔵野市吉祥寺北町三丁目3番1号
	経済学部 (Faculty of Economics)	年	人	年次	人		年 月 第 年次	
	経済数理学科 (Department of Economics and Econometrics)	4	80	—	320	学士（経済学） (Bachelor of Economics)	令和2年4月 第1年次	
	現代経済学科 (Department of Contemporary Economic Studies)	4	150	—	600	学士（経済学） (Bachelor of Economics)	令和2年4月 第1年次	
	計		230		920			

教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数					
		講義	演習	実験・実習	計						
		経済学部 経済数理学科	230科目	121科目	2科目		353科目	124単位			
経済学部 現代経済学科	270科目	130科目	3科目	403科目	124単位						
教員組織の概要	学部等の名称	専任教員等						兼任教員等			
		教授	准教授	講師	助教	計	助手				
		新設	経済学部 経済数理学科	6人 (5)	1人 (1)	1人 (1)	0人 (1)		8人 (8)	1人 (1)	180人 (180)
		現代経済学科	8 (9)	1 (1)	0 (0)	1 (0)	10 (10)		0 (0)	191 (191)	
		経営学部 総合経営学科	14 (14)	9 (9)	0 (0)	0 (0)	23 (23)		0 (0)	174 (174)	
		計	28 (28)	11 (11)	1 (1)	1 (1)	41 (41)		1 (1)	— (—)	
		既設	理工学部 物質生命理工学科	11 (11)	1 (1)	2 (1)	12 (12)		26 (25)	0 (0)	38 (38)
		情報科学科	8 (8)	6 (6)	0 (0)	11 (11)	25 (25)		0 (0)	42 (42)	
		システムデザイン学科	9 (9)	5 (5)	0 (0)	10 (9)	24 (23)		0 (0)	48 (48)	
		文学部 英米文学科	8 (8)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	10 (10)		1 (1)	39 (39)	
		日本文学科	7 (7)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	7 (7)		0 (0)	36 (36)	
		国際文化学科	8 (8)	0 (0)	1 (1)	1 (1)	10 (10)		0 (0)	42 (42)	
		現代社会学科	4 (4)	3 (3)	1 (1)	1 (1)	9 (9)		0 (0)	26 (26)	
		法学部 法律学科	18 (13)	3 (3)	0 (0)	1 (1)	22 (17)		0 (0)	25 (25)	
		政治学科	12 (12)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	13 (13)		0 (0)	21 (21)	
		教養教育	16 (16)	7 (7)	1 (1)	1 (1)	25 (25)		0 (0)	253 (253)	
		教職課程	4 (4)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	5 (5)		0 (0)	21 (21)	
		大学共通 大学附属機関等	1 (1)	0 (0)	15 (14)	0 (0)	16 (15)		0 (0)	5 (5)	
		計	106 (101)	28 (28)	20 (18)	38 (37)	192 (184)		1 (1)	— (—)	
		合計	134 (129)	39 (39)	21 (19)	39 (38)	233 (225)		2 (2)	— (—)	
教員以外の職員の概要	職種	専任	兼任		計						
	事務職員	134人 (134)	90人 (90)		224人 (224)						
	技術職員	1 (1)	2 (2)		3 (3)						
	図書館専門職員	5 (5)	20 (20)		25 (25)						
	その他の職員	1 (1)	38 (38)		39 (39)						
計	141 (141)	150 (150)		291 (291)							

平成31年4月届出済み

校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	成蹊高等学校				
	校 舎 敷 地	78,816.78㎡	0㎡	51,241.63㎡	130,058.41㎡	(必要面積13,704㎡)(収容定員:966人)と共用				
	運 動 場 用 地	87,580.85㎡	0㎡	18,671.01㎡	106,251.86㎡	成蹊中学校				
	小 計	166,397.63㎡	0㎡	69,912.64㎡	236,310.27㎡	(必要面積12,924㎡)(収容定員:801人)と共用				
	そ の 他	8,256.21㎡	237,813.30㎡	0㎡	246,069.51㎡	成蹊小学校				
	合 計	174,653.84㎡	237,813.30㎡	69,912.64㎡	482,379.78㎡	(必要面積10,620㎡)(収容定員:720人)と共用				
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計					
		92,528.93㎡ (92,528.93㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	92,528.93㎡ (92,528.93㎡)					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体				
	70室	46室	211室	8室 (補助職員 0人)	6室 (補助職員 0人)					
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称		室 数						
		経済学部 経済数理学科		10 室						
		経済学部 現代経済学科		14 室						
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	大学全体での共 用分 図書 179,214〔44,851〕 (172,298〔44,332〕)		
	経済学部	70,049〔33,974〕 (67,267〔33,361〕)	788〔300〕 (788〔300〕)	73〔73〕 (73〔73〕)	29,937 (27,265)	284 (284)	0 (0)			
	計	70,049〔33,974〕 (67,267〔33,361〕)	788〔300〕 (788〔300〕)	73〔73〕 (73〔73〕)	29,937 (27,265)	284 (284)	0 (0)			
図 書 館		面積		閲覧座席数	収 納 可 能 冊 数		大学全体			
		11,925.03㎡		1032	1,700,000					
体 育 館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要				大学全体		
		5006.6㎡		野球場 1面、サッカー場 1面、テニスコート 1面、卓球場 1棟 ハンドボールコート 1面、アーチェリー射場 1面、弓道場 1面						
経 費 の 見 積 び 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経 費 の 見 積 り	区 分	開設前年度	第 1 年次	第 2 年次	第 3 年次	第 4 年次	第 5 年次	第 6 年次	届出学部全体 図書費には電子 ジャーナル・デー タベースの整備費 (運用コストを含 む)を含む。
		教員 1 人当り研究費等		1,068千円	1,068千円	1,068千円	1,068千円	— 千円	— 千円	
		共 同 研 究 費 等		1,305千円	1,305千円	1,305千円	1,305千円	— 千円	— 千円	
		図 書 購 入 費	7,372千円	7,372千円	7,372千円	7,372千円	7,372千円	— 千円	— 千円	
	設 備 購 入 費	8,209千円	8,209千円	8,209千円	8,209千円	8,209千円	— 千円	— 千円		
	学 生 1 人 当 り 納 付 金	第 1 年次	第 2 年次	第 3 年次	第 4 年次	第 5 年次	第 6 年次			
		1,300千円	1,100千円	1,100千円	1,100千円	— 千円	— 千円			
学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学等経常費補助金、資産運用収入、雑収入等							

既設大学等の状況	大学の名称		成蹊大学						所在地	
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学員定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度		
		年	人	年次人	人		倍			
	経済学部						—		東京都武蔵野市吉祥寺北町三丁目3番1号	
	経済経営学科	4	—	—	—	学士(経済学)	—	平成16年度		令和2年度より学生募集停止
	理工学部				1580		1.00			
	物質生命理工学科	4	133	—	526	学士(理工学)	0.98	平成17年度		平成30年度入学定員増(3人)
	情報科学科	4	134	—	528	学士(理工学)	1.03	平成17年度		平成30年度入学定員増(4人)
	システムデザイン学科	4	133	—	526	学士(工学)	0.98	平成17年度		平成30年度入学定員増(3人)
	文学部				1760		1.01			
	英語英米文学科	4	130	—	520	学士(文学)	1.01	昭和40年度		
	日本文学科	4	90	—	360	学士(文学)	1.03	昭和40年度		
	国際文化学科	4	110	—	440	学士(文学)	0.99	平成12年度		
	現代社会学科	4	110	—	440	学士(文学)	1.00	平成12年度		
	法学部				1740		1.02			
	法律学科	4	280	—	1110	学士(法学)	1.01	昭和43年度		平成30年度入学定員増(5人)
	政治学科	4	160	—	630	学士(政治学)	1.03	昭和43年度		平成30年度入学定員増(5人)
	理工学研究科									
	理工学専攻									
	博士前期課程	2	70	—	140	修士(理工学)又は修士(工学)	0.85	平成21年度		
	博士後期課程	3	10	—	30	博士(理工学)又は博士(工学)	0.13	平成21年度		
	経済経営研究科									
	経済学専攻									
	博士前期課程	2	6	—	12	修士(経済学)	0.16	平成19年度		
	博士後期課程	3	3	—	9	博士(経済学)	0.00	平成19年度		
	経営学専攻									
	博士前期課程	2	10	—	20	修士(経営学)	0.35	平成19年度		
	博士後期課程	3	3	—	9	博士(経営学)	0.00	平成19年度		
	法学政治学研究科									
	法学専攻									
	博士前期課程	2	8	—	16	修士(法学)	0.06	昭和45年度		
	博士後期課程	3	4	—	12	博士(法学)	0.08	昭和47年度		
	政治学専攻									
	博士前期課程	2	4	—	8	修士(政治学)	0.37	昭和47年度		
	博士後期課程	3	2	—	6	博士(政治学)	0.00	昭和48年度		

文学研究科	英米文学専攻 博士前期課程	2	8	—	16	修士 (文学)	0.12	昭和 46年度	平成29年度より学 生募集停止
	博士後期課程	3	4	—	12	博士 (文学)	0.16	平成 10年度	
	日本文学専攻 博士前期課程	2	8	—	16	修士 (文学)	0.31	昭和 46年度	
	博士後期課程	3	4	—	12	博士 (文学)	0.08	平成 3年度	
	社会文化論専攻 博士前期課程	2	8	—	16	修士 (学術)	0.06	平成 3年度	
	博士後期課程	3	4	—	12	博士 (学術)	0.08	平成 3年度	
	法務研究科 法務専攻	3	—	—	—	法務博士 (専門職)	—	平成 16年度	
附属施設の概要	<p>名称：成蹊大学高等教育開発・支援センター 目的：教育の質的向上に資する全学的な学修・教育支援施策の企画及び実施並びに教育活動の継続的な改善の推進及び支援、教育研究環境の整備 所在地：東京都武蔵野市吉祥寺北町三丁目3番1号 規模：308.49㎡ 設置年月：2014年4月</p>								
	<p>名称：成蹊大学アジア太平洋研究センター 目的：アジア太平洋地域に関連する各分野の学際的・国際的共同研究の推進及びその研究成果の社会への還元並びに国際学術交流の促進 所在地：東京都武蔵野市吉祥寺北町三丁目3番1号 規模：698.82㎡ 設置年月：1981年4月</p>								
	<p>名称：成蹊大学国際教育センター 目的：大学における国際教育を円滑に推進すること 所在地：東京都武蔵野市吉祥寺北町三丁目3番1号 規模：377.38㎡ 設置年月：2004年4月</p>								
	<p>名称：成蹊大学キャリア支援センター 目的：全学的な見地から全学生に対してキャリア教育の推進を図るとともに、個々の学生の進路、就職等に関する支援を行うこと 所在地：東京都武蔵野市吉祥寺北町三丁目3番1号 規模：606.12㎡ 設置年月：2006年4月</p>								
	<p>名称：成蹊大学ボランティア支援センター 目的：大学における学生及び教職員によるボランティア等の地域・社会貢献並びに地域交流活動に対する意識の高揚を図り、学生及び教職員が行うボランティア活動等について支援すること 所在地：東京都武蔵野市吉祥寺北町三丁目3番1号 規模：151.19㎡ 設置年月：2014年4月</p>								

(注)

- 1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「教員組織の概要」の「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学又は高等専門学校の出定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」、「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 6 空欄には、「—」又は「該当なし」と記入すること。

教 育 課 程 等 の 概 要

(経済学部経済数理学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
全学共通科目 外国語	College English (Listening & Speaking) I	1前	1			○									兼3
	College English (Reading & Writing) I	1前	1			○									兼3
	College English (Listening & Speaking) II	1後	1			○									兼3
	College English (Reading & Writing) II	1後	1			○									兼3
	College English (Integrated Skills) I	2前	1			○									兼2
	College English (Integrated Skills) II	2後	1			○									兼2
	TOEFL Preparation Introduction	1前		1			○								兼1
	TOEFL Preparation Intermediate	1後		1			○								兼1
	TOEIC Preparation Introduction	1前		1			○								兼1
	TOEIC Preparation Intermediate	1後		1			○								兼1
	IELTS Preparation Introduction	1前		1			○								兼1
	IELTS Preparation Intermediate	1後		1			○								兼1
	基礎からのコミュニケーション英文法	1前		2			○								兼1
	自分でデザインする英語学習	1前		2			○								兼1
	英語発音トレーニング	1前		2			○								兼1
	英語読解トレーニング	1前		2			○								兼1
	Presentation Skills Basic	1前		2			○								兼1
	Discussion Skills Basic	1前		2			○								兼1
	Writing Skills (Paragraph)	1前		2			○								兼1
	Presentation Skills Intermediate	1後		2			○								兼1
	Discussion Skills Intermediate	1後		2			○								兼1
	Writing Skills (Essay)	1後		2			○								兼1
	多読で学ぶ英語と文化	2前		2			○								兼1
	映画で学ぶ英語と文化	2前		2			○								兼1
	ドラマで学ぶ英語と文化	2前		2			○								兼1
	歌で学ぶ英語と文化	2前		2			○								兼1
	メディアで学ぶ英語と文化	2前		2			○								兼1
	キャリアのための英語と文化	2前		2			○								兼1
	TOEFL Preparation Advanced I	1前		1				○							兼1
	TOEFL Preparation Advanced II	1後		1				○							兼1
	IELTS Preparation Advanced I	1前		1				○							兼1
	IELTS Preparation Advanced II	1後		1				○							兼1
	TOEIC Preparation Advanced	1前		1				○							兼1
	Media English	2前		2				○							兼1
	Academic Listening	2前後		2				○							兼1
	Cross Cultural Communication Skills	2前後		2				○							兼2
	Discussion & Presentation	2後		2				○							兼1
	English for the Workplace	2後		2				○							兼1
	Essay Writing	2前後		2				○							兼2
	Intensive Reading	2前後		2				○							兼2
	World Englishes	2後		2				○							兼1
小計(41科目)			6	59	0				0	0	0	0	0	0	兼20
初修外国語科目	ドイツ語基礎A I	1前		1			○								兼1
	ドイツ語基礎B I	1前		1			○								兼1
	フランス語基礎A I	1前		1			○			1					
	フランス語基礎B I	1前		1			○								兼1
	スペイン語基礎A I	1前		1			○								兼2
	スペイン語基礎B I	1前		1			○								兼2
	中国語基礎A I	1前		1			○								兼3
	中国語基礎B I	1前		1			○								兼3
	韓国語基礎A I	1前		1			○								兼1
	韓国語基礎B I	1前		1			○								兼1
	ドイツ語基礎A II	1後		1			○								兼1
	ドイツ語基礎B II	1後		1			○								兼1
	フランス語基礎A II	1後		1			○			1					
	フランス語基礎B II	1後		1			○								兼1
	スペイン語基礎A II	1後		1			○								兼2
	スペイン語基礎B II	1後		1			○								兼2
中国語基礎A II	1後		1			○								兼3	
中国語基礎B II	1後		1			○								兼3	
韓国語基礎A II	1後		1			○								兼1	
韓国語基礎B II	1後		1			○								兼1	

教 育 課 程 等 の 概 要

(経済学部経済数理学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
全学共通科目 外国語 初修外国語科目	ドイツ語演習コミュニケーションⅠ	1前		2			○								兼1
	ドイツ語演習コミュニケーションⅡ	1後		2			○								兼1
	ドイツ語演習コミュニケーションⅢ	2前		2			○								兼1
	ドイツ語演習コミュニケーションⅣ	2後		2			○								兼1
	ドイツ語演習コミュニケーションⅤ	2前		2			○								兼1
	フランス語演習コミュニケーションⅠ	1前		2			○								兼1
	フランス語演習コミュニケーションⅡ	1後		2			○								兼1
	フランス語演習コミュニケーションⅢ	2前		2			○								兼1
	フランス語演習コミュニケーションⅣ	2後		2			○								兼1
	フランス語演習コミュニケーションⅤ	2前		2			○								兼1
	スペイン語演習コミュニケーションⅠ	1前		2			○								兼1
	スペイン語演習コミュニケーションⅡ	1後		2			○								兼1
	スペイン語演習コミュニケーションⅢ	2前		2			○								兼1
	スペイン語演習コミュニケーションⅣ	2後		2			○								兼1
	スペイン語演習コミュニケーションⅤ	2前		2			○								兼1
	中国語演習コミュニケーションⅠ	1前		2			○								兼1
	中国語演習コミュニケーションⅡ	1後		2			○								兼1
	中国語演習コミュニケーションⅢ	2前		2			○								兼1
	中国語演習コミュニケーションⅣ	2後		2			○								兼1
	中国語演習コミュニケーションⅤ	2前		2			○								兼1
	韓国語演習コミュニケーションⅠ	1前		2			○								兼1
	韓国語演習コミュニケーションⅡ	1後		2			○								兼1
	韓国語演習コミュニケーションⅢ	2前		2			○								兼1
	韓国語演習コミュニケーションⅣ	2後		2			○								兼1
	韓国語演習コミュニケーションⅤ	2前		2			○								兼1
	ドイツ語演習言語と文化Ⅰ	2前		2			○								兼1
	ドイツ語演習言語と文化Ⅱ	2後		2			○								兼1
	ドイツ語演習言語と文化Ⅲ	2前		2			○								兼1
	ドイツ語演習言語と文化Ⅳ	2後		2			○								兼1
	フランス語演習言語と文化Ⅰ	2前		2			○			1					
	フランス語演習言語と文化Ⅱ	2後		2			○			1					
	フランス語演習言語と文化Ⅲ	2前		2			○								兼1
	フランス語演習言語と文化Ⅳ	2後		2			○								兼1
	スペイン語演習言語と文化Ⅰ	2前		2			○								兼1
	スペイン語演習言語と文化Ⅱ	2後		2			○								兼1
	スペイン語演習言語と文化Ⅲ	2前		2			○								兼1
	スペイン語演習言語と文化Ⅳ	2後		2			○								兼1
	中国語演習言語と文化Ⅰ	2前		2			○								兼1
	中国語演習言語と文化Ⅱ	2後		2			○								兼1
	中国語演習言語と文化Ⅲ	2前		2			○								兼1
	中国語演習言語と文化Ⅳ	2後		2			○								兼1
	韓国語演習言語と文化Ⅰ	2前		2			○								兼1
	韓国語演習言語と文化Ⅱ	2後		2			○								兼1
	韓国語演習言語と文化Ⅲ	2前		2			○								兼1
	韓国語演習言語と文化Ⅳ	2後		2			○								兼1
	ドイツ語演習検定対策Ⅰ	2前		2			○								兼1
	ドイツ語演習検定対策Ⅱ	2後		2			○								兼1
	ドイツ語演習検定対策Ⅲ	2前		2			○								兼1
ドイツ語演習検定対策Ⅳ	2後		2			○								兼1	
フランス語演習検定対策Ⅰ	2前		2			○								兼1	
フランス語演習検定対策Ⅱ	2後		2			○								兼1	
フランス語演習検定対策Ⅲ	2前		2			○								兼1	
フランス語演習検定対策Ⅳ	2後		2			○								兼1	
スペイン語演習検定対策Ⅰ	2前		2			○								兼1	
スペイン語演習検定対策Ⅱ	2後		2			○								兼1	
スペイン語演習検定対策Ⅲ	2前		2			○								兼1	
スペイン語演習検定対策Ⅳ	2後		2			○								兼1	
中国語演習検定対策Ⅰ	2前		2			○								兼1	
中国語演習検定対策Ⅱ	2後		2			○								兼1	
中国語演習検定対策Ⅲ	2前		2			○								兼1	
中国語演習検定対策Ⅳ	2後		2			○								兼1	

教 育 課 程 等 の 概 要

(経済学部経済数理学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
初修外国語科目	韓国語演習検定対策Ⅰ	2前		2			○								兼1
	韓国語演習検定対策Ⅱ	2後		2			○								兼1
	韓国語演習検定対策Ⅲ	2前		2			○								兼1
	韓国語演習検定対策Ⅳ	2後		2			○								兼1
	ドイツ語演習プレゼンテーションⅠ	2前		2			○								兼1
	ドイツ語演習プレゼンテーションⅡ	2後		2			○								兼1
	フランス語演習プレゼンテーションⅠ	2前		2			○								兼1
	フランス語演習プレゼンテーションⅡ	2後		2			○								兼1
	スペイン語演習プレゼンテーションⅠ	2前		2			○								兼1
	スペイン語演習プレゼンテーションⅡ	2後		2			○								兼1
	中国語演習プレゼンテーションⅠ	2前		2			○								兼1
	中国語演習プレゼンテーションⅡ	2後		2			○								兼1
	韓国語演習プレゼンテーションⅠ	2前		2			○								兼1
	韓国語演習プレゼンテーションⅡ	2後		2			○								兼1
	世界の言語(ロシア語Ⅰ)	1前		1			○								兼1
	世界の言語(ロシア語Ⅱ)	1後		1			○								兼1
	世界の言語(タイ語Ⅰ)	1前		1			○								兼1
世界の言語(タイ語Ⅱ)	1後		1			○								兼1	
世界の言語(イタリア語Ⅰ)	1前		1			○								兼1	
世界の言語(イタリア語Ⅱ)	1後		1			○								兼1	
小計(101科目)		—	0	176	0		—		1	0	0	0	0	0	兼34
全学共通科目	実践日本語表現	1前後		2			○								兼1
	実践話し方入門	1前後		2			○								兼1
	日本語表現講義	1後		2			○								兼1
	実践漢字講座	1後		2			○								兼1
	語彙・読解講座	1後		2			○								兼1
	古典に学ぶ日本語表現	1前後		2			○								兼1
	実用文書の作り方・情報の伝え方	2前後		2			○								兼2
	テーマ別日本語表現(文芸をたのしむ)	2後		2			○								兼1
	テーマ別日本語表現(成蹊俳句教室)	2前		2			○								兼1
	テーマ別日本語表現(源氏物語を読む)	2前		2			○								兼1
	テーマ別日本語表現(文章表現を磨く)	2前後		2			○								兼1
	テーマ別日本語表現(話し方を磨く)	2前		2			○								兼1
小計(12科目)		—	0	24	0		—		0	0	0	0	0	0	兼9
キャリア教育科目	キャリアアップトレーニング	1前後		2			○								兼2
	ビジネストレーニングセミナー	1後		2			○								兼1
	キャリアセミナー	2前後		2			○								兼1
	グローバルキャリアセミナー	2前		2			○								兼1
	キャリア発展講義	2後		2			○								兼1
	日本企業の現状と展望	3後		2			○								兼2
	インターンシップ準備講座	3前		2			○								兼1
	インターンシップ実習	3前		2			○								兼1
	発展インターンシップ準備講座	3前		2			○								兼1
	発展インターンシップ実習	3後		2			○								兼1
小計(10科目)		—	0	20	0		—		0	0	0	0	0	0	兼6
情報基盤科目	情報基礎	1前		2			○								兼2
	情報活用A	1後		2			○								兼1
	情報活用B	1後		2			○								兼1
	情報活用C	1後		2			○								兼1
	情報活用D	1後		2			○								兼1
	情報活用E	1後		2			○								兼1
	情報活用F	1後		2			○								兼1
小計(7科目)		—	0	14	0		—		0	0	0	0	0	0	兼5
健康・スポーツ科目	健康・スポーツ演習A	1前		2			○								兼10
	健康・スポーツ演習B	1後		2			○								兼10
	スポーツと科学	1後		2			○								兼1
	健康と科学	1後		2			○								兼1
	スポーツと文化	1後		2			○								兼1
	スポーツと社会	1後		2			○								兼1
小計(6科目)		—	0	12	0		—		0	0	0	0	0	0	兼10

教 育 課 程 等 の 概 要

(経済学部経済数理学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
教養基礎 人文学	哲学の基礎	1前後		2		○			1						兼1	
	倫理学の基礎	1前後		2		○										兼1
	現代社会と哲学	1後		2		○										兼1
	現代社会と倫理学	1後		2		○										兼1
	文学への招待	1前後		2		○										
	芸術への招待	1前後		2		○										兼2
	カルチュラル・スタディーズ	1前		2		○										兼3
	心理学の基礎	1前後		2		○										兼1
	自己理解の心理学	1前後		2		○										兼1
	教育原理	1前		2		○										兼1
	教育心理学	1前		2		○										兼1
小計(11科目)	—	0	22	0	—				1	0	0	0	0	0	兼13	
社会科学	政治学の基礎	1前後		2		○									兼1	
	社会学と現代	1前後		2		○									兼2	
	日本国憲法	1前後		2		○									兼2	
	市民生活と法A	1前		2		○									兼1	
	市民生活と法B	1後		2		○									兼1	
	現代のマスメディア	1前		2		○									兼1	
	社会心理学入門	1前		2		○									兼1	
	企業と社会	1後		2		○									兼1	
	学校と社会	1後		2		○									兼1	
	近現代日本史A	1前後		2		○									兼1	
	近現代日本史B	1前後		2		○									兼1	
	現代社会の地理	1前後		2		○									兼2	
小計(12科目)	—	0	24	0	—				0	0	0	0	0	0	兼13	
自然科学	物質の究極像	1前		2		○									兼1	
	人間と進化	1後		2		○									兼1	
	脳科学と心	1後		2		○									兼1	
	天文学入門	1前		2		○									兼2	
	薬はなぜ効くか	1後		2		○									兼1	
	身の回りの科学	1前		2		○									兼1	
	科学史	1前		2		○									兼1	
	科学技術の発展と歴史	1後		2		○									兼1	
	サイエンス・トピックス(熱と光の科学)	1後		2		○									兼1	
	サイエンス・トピックス(物質の科学)	1前		2		○									兼1	
	サイエンス・トピックス(数の世界)	1前		2		○									兼1	
	サイエンス・トピックス(生命の科学)	1後		2		○									兼1	
	サイエンス・トピックス(文系のための数学)	1後		2		○									兼1	
	サイエンス・トピックス(文系のための科学実験)	1後		2		○									兼2	
小計(14科目)	—	0	28	0	—				0	0	0	0	0	0	兼16	
持続社会探究 環境・地域	地球と環境	2前		2		○									兼1	
	気象と地球環境	2後		2		○									兼1	
	自然環境と文明	2前		2		○									兼1	
	日本列島の歴史と災害	2前		2		○									兼1	
	日本の国土と社会	2前後		2		○									兼1	
	外国の自然と社会A	2後		2		○									兼1	
	外国の自然と社会B	2前		2		○									兼1	
	地域づくり論	2前		2		○									兼1	
	環境科学トピックス(生命と環境)	2前		2		○									兼1	
	環境科学トピックス(食料と環境)	2後		2		○									兼1	
小計(10科目)	—	0	20	0	—				0	0	0	0	0	0	兼9	

教 育 課 程 等 の 概 要

(経済学部経済数理学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
国際 理解	戦後の日本と世界	2前後		2		○			1						兼1
	近現代のアジアA	2前		2		○									兼1
	近現代のアジアB	2後		2		○									兼1
	近現代の欧米A	2前		2		○									兼1
	近現代の欧米B	2後		2		○									兼1
	中東地域史	2前		2		○									兼1
	現代の国際政治	2前		2		○									兼1
	グローバル経済論	2前		2		○									兼1
	国際文化交流論	2後		2		○									兼1
	異文化理解トピックス(ドイツ語圏)	2後		2		○									兼1
	異文化理解トピックス(フランス語圏)	2後		2		○									兼1
	異文化理解トピックス(スペイン語圏)	2後		2		○									兼1
	異文化理解トピックス(中国語圏)	2後		2		○									兼1
	異文化理解トピックス(韓国語圏)	2後		2		○									兼1
	異文化理解トピックス(イスラーム世界)	2後		2		○									兼1
小計(15科目)	—		0	30	0	—			1	0	0	0	0	兼12	
人権・ 共生	裁判と社会	2後		2		○								兼1	
	生命倫理と法	2後		2		○								兼1	
	地域福祉論	2前		2		○								兼1	
	人権とジェンダー	2前		2		○								兼1	
	こころの健康と臨床	2前		2		○								兼1	
	老人福祉論	2前		2		○								兼1	
	福祉社会に生きる	2後		2		○								兼1	
	特別支援教育概論	2前		2		○								兼1	
	共生社会トピックス(アートと社会)	2前		2		○								兼1	
	共生社会トピックス(日本女性史)	2後		2		○								兼1	
小計(10科目)	—		0	20	0	—			0	0	0	0	0	兼9	
実践	成蹊を知る	1後		2		○								兼1	
	情報保障とボランティア	1前		2		○								兼1	
	野外自然教育論	1前		2		○								兼1	
	地元学実践演習	1後		2			○							兼1	
	武蔵野地域研究	1後		2		○								兼1	
	武蔵野市寄附講座	1後		2		○								兼1	
	大学生活と相互理解	1後		2		○								兼2	
	成蹊グローバルセミナーA	1前		2			○							兼1	
成蹊グローバルセミナーB	1後		2			○							兼1		
武蔵野地域連携セミナー	1後		2			○							兼1		
小計(10科目)	—		0	20	0	—			0	0	0	0	0	兼10	
全学共通科目 小計(259科目)				6	469	0			1	0	0	0	0	0	兼153

教 育 課 程 等 の 概 要

(経済学部経済数理学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手				
専門科目	ゼミナール科目	基礎ゼミナール	1前	2				○		5	1	1			兼12		
		プログラミング演習	2前		2			○		1					兼1		
		理論・計量ワークショップ	2後		2			○		2	1						
		計量実践ワークショップ	3後		2			○		1							
		経済学ワークショップ	3通		4			○		1							
		上級ゼミナールⅠ	3前	2				○		4		1					
		上級ゼミナールⅡ	3後	2				○		4	1	1					
		卒業研究	4通	4				○		4	1	1					
	小計(8科目)			10	10	0				6	1	1	0	0	兼12		
	専門科目	基盤科目	基盤Ⅰ	ミクロ経済学Ⅰ	1前		2		○								
				マクロ経済学Ⅰ	1前		2		○		1						
				計量経済学Ⅰ	1前		2		○		1						
経済数学Ⅰ				1前		2		○		1							
ミクロ経済学Ⅱ				1後		2		○		1							
マクロ経済学Ⅱ				1後		2		○							兼2		
計量経済学Ⅱ			1後		2		○		1								
経済数学Ⅱ			1後		2		○		1								
ミクロ経済学Ⅲ			2前		2		○		1								
マクロ経済学Ⅲ			2前		2		○				1						
計量経済学Ⅲ			2前		2		○		1								
経済数学Ⅲ			2前		2		○		1								
小計(12科目)			0	24	0				5	1	1	0	0	兼2			
専門科目	基盤Ⅱ	ゲーム理論	2前		2		○		1								
		情報の経済学	2後		2		○		1								
		経済発展論	2前		2		○							兼1			
		行動経済学	2前		2		○		1								
		国際マクロ経済学	2前		2		○				1			兼1			
		応用計量経済学	2後		2		○							兼2			
		人口学	2前		2		○							兼1			
		社会経済地理学	1後		2		○							兼1			
		社会学	2前		2		○							兼1			
		小計(9科目)			0	18	0				2	0	1	0	0	兼6	
		専門科目	総合科目	制度・歴史	経済史の基礎	1後		2		○							兼1
					数量経済史	2前		2		○							兼1
経済学史	2前					2		○							兼1		
現代日本経済	2後					2		○							兼1		
社会思想史	2後					2		○							兼1		
小計(5科目)					0	10	0				0	0	0	0	0	兼4	
社会理解	労働法		2後		2		○								兼1		
	企業会計		2前		2		○								兼1		
	社会理解実践講義		2前		2		○								兼1		
	経済実務講義		2前		2		○								兼1		
	小計(4科目)				0	8	0				0	0	0	0	0	兼4	
	専門科目		応用発展科目	産業組織論A	2前		2		○								兼1
産業組織論B		2後			2		○								兼1		
国際経済学A		2前			2		○								兼1		
国際経済学B		2後			2		○								兼1		
組織の経済学		2後			2		○								兼1		
法と経済		2後			2		○								兼1		
労働経済学		2後			2		○								兼1		
金融論A		2前			2		○			1							
金融論B		2後			2		○			1							
ファイナンスA		2前			2		○								兼1		
ファイナンスB		2後			2		○								兼1		
国際金融論		2後			2		○								兼2		
財政学A		2前			2		○								兼1		
財政学B		2後			2		○			1							
公共経済学		2後			2		○								兼1		
都市経済学		2後			2		○			1							
教育経済学		2後			2		○					1					
環境経済学A		2前			2		○				1						
小計(18科目)			0	36	0				2	1	1	0	0	兼6			

教 育 課 程 等 の 概 要

(経済学部経済数理学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目	応用発展科目 発展科目	Advanced Microeconomics I	3前	2		○			1						
		Advanced Macroeconomics I	3前	2		○					1				
		Advanced Econometrics I	3前	2		○			1						
		Advanced Microeconomics II	3後	2		○				1					
		Advanced Macroeconomics II	3後	2		○			1						
		Advanced Econometrics II	3後	2		○			1						
	小計(6科目)		—	0	12	0			3	1	1	0	0	0	
	広域基礎科目	日本史概論 I	2前		2		○								兼1
		日本史概論 II	2後		2		○								兼1
		世界史概論 I	2前		2		○								兼1
		世界史概論 II	2後		2		○								兼1
		人文地理学	2前		2		○								兼1
		自然地理学	2後		2		○								兼1
		地誌学	2後		2		○								兼1
現代の政治学		2後		2		○								兼1	
小計(8科目)		—	0	16	0	—		0	0	0	0	0	0	兼6	
教職課程の大学が独自に設定する科目	教職特論演習 I	3後			2		○							兼1	
	教職特論演習 II	4前			2		○							兼1	
	学校経営と学校図書館	2前			2		○							兼1	
	学校図書館メディアの構成	2後			2		○							兼1	
	学習指導と学校図書館	2前			2		○							兼1	
	読書と豊かな人間性	2後			2		○							兼1	
	情報メディアの活用	2後			2		○							兼1	
小計(7科目)		—	0	0	14	—		0	0	0	0	0	0	兼4	
教職の教科及び教職に関する科目	教職論	1前			2		○							兼1	
	教育課程論	2前			2		○							兼1	
	道徳教育の指導法	3前			2		○							兼2	
	総合的な学習の時間の指導法	3前			2		○							兼1	
	特別活動の指導法	3前			2		○							兼1	
	教育方法論	2前			2		○							兼4	
	生徒・進路指導論	1後			2		○							兼1	
	教育相談	2前			2		○							兼2	
	教育実習論	3後			1		○							兼3	
	教育実習(中・高)	4通			5						○			兼3	
	教育実習(高)	4通			3						○			兼3	
	教職実践演習(中・高)	4後			2			○						兼4	
	社会科教育法A	3前			2		○							兼1	
	社会科教育法B	3前			2		○							兼1	
	社会科・地理歴史科教育法	2後			2		○							兼1	
	社会科・公民科教育法	2後			2		○							兼1	
	公民科教育法	3後			2		○							兼1	
小計(17科目)		—	0	0	37	—		0	0	0	0	0	0	兼8	
専門科目 小計(94科目)		—	10	134	51	—		6	1	1	0	0	0	兼37	
合計(353科目)		—	16	603	51	—		6	1	1	0	0	0	兼180	
学位又は称号	学士(経済学)	学位又は学科の分野	経済学関係												
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
4年以上在学し、かつ、次のすべての要件を満たした上で、124単位以上を修得すること。 (1) 全学共通科目にあつては、次の要件を満たした上で28単位以上修得すること。 ①「外国語(英語科目、初修外国語科目)」「技能(日本語力科目、キャリア教育科目、情報基盤科目、健康・スポーツ科目)」から16単位以上(このうち英語科目必修6単位を含む) 「教養基礎」「持続社会探究」から8単位以上 (2) 経済数理学科専門科目にあつては、次の要件を満たした上で68単位以上修得すること。 ①「ゼミナール科目」: 必修科目10単位を含み12単位以上 ②「専門科目」: 次の要件を満たした上で50単位以上 基盤科目: 基盤 I から18単位以上、基盤 II から8単位以上 総合科目: 制度・歴史から2単位以上、社会理解から2単位以上を含み6単位以上 応用発展科目: 応用科目から12単位以上、 発展科目から6単位以上 (3) 卒業に必要な単位124単位のうち、(1)(2)から規定単位数を差し引いた残り28単位については、(1)(2)において規定単位数以上を修得した科目の単位を合計する。 (履修科目の登録の上限: 40単位(年間))								1 学年の学期区分	2期						
								1 学期の授業期間	14週						
								1 時限の授業時間	100分						

教 育 課 程 等 の 概 要

(経済学部現代経済学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手					
全学 共通科目	外国語	College English (Listening & Speaking) I	1前	1			○									兼4		
		College English (Reading & Writing) I	1前	1			○										兼6	
		College English (Listening & Speaking) II	1後	1			○										兼4	
		College English (Reading & Writing) II	1後	1			○										兼6	
		Intensive English I	1前		1			○									兼2	
		Intensive English II	1後		1			○									兼2	
		College English (Integrated Skills) I	2前		1			○									兼5	
		College English (Integrated Skills) II	2後		1			○									兼5	
		TOEFL Preparation Introduction	1前		1				○									兼1
		TOEFL Preparation Intermediate	1後		1				○									兼1
		TOEIC Preparation Introduction	1前		1				○									兼1
		TOEIC Preparation Intermediate	1後		1				○									兼1
		IELTS Preparation Introduction	1前		1				○									兼1
		IELTS Preparation Intermediate	1後		1				○									兼1
		基礎からのコミュニケーション英文法	1前		2				○									兼1
		自分でデザインする英語学習	1前		2				○									兼1
		英語発音トレーニング	1前		2				○									兼1
		英語読解トレーニング	1前		2				○									兼1
		Presentation Skills Basic	1前		2			○										兼1
		Discussion Skills Basic	1前		2			○										兼1
		Writing Skills (Paragraph)	1前		2			○										兼1
		Presentation Skills Intermediate	1後		2			○										兼1
		Discussion Skills Intermediate	1後		2			○										兼1
		Writing Skills (Essay)	1後		2			○										兼1
		多読で学ぶ英語と文化	2前		2			○										兼1
		映画で学ぶ英語と文化	2前		2			○										兼1
		ドラマで学ぶ英語と文化	2前		2			○										兼1
		歌で学ぶ英語と文化	2前		2			○										兼1
		メディアで学ぶ英語と文化	2前		2			○										兼1
		キャリアのための英語と文化	2前		2			○										兼1
		TOEFL Preparation Advanced I	1前		1				○									兼1
		TOEFL Preparation Advanced II	1後		1				○									兼1
		IELTS Preparation Advanced I	1前		1				○									兼1
		IELTS Preparation Advanced II	1後		1				○									兼1
		TOEIC Preparation Advanced	1前		1				○									兼1
		Media English	2前		2				○									兼1
		Academic Listening	2前後		2				○									兼1
		Cross Cultural Communication Skills	2前後		2				○									兼2
		Discussion & Presentation	2後		2				○									兼1
		English for the Workplace	2後		2				○									兼1
		Essay Writing	2前後		2				○									兼2
		Intensive Reading	2前後		2				○									兼2
		World Englishes	2後		2				○									兼1
小計(43科目)			—	4	63	0	—			0	0	0	0	0		兼23		
初修 外国語科目	ドイツ語基礎A I	1前		1			○									兼1		
	ドイツ語基礎B I	1前		1			○									兼1		
	フランス語基礎A I	1前		1			○									兼1		
	フランス語基礎B I	1前		1			○									兼1		
	スペイン語基礎A I	1前		1			○									兼2		
	スペイン語基礎B I	1前		1			○									兼2		
	中国語基礎A I	1前		1			○									兼3		
	中国語基礎B I	1前		1			○									兼3		
	韓国語基礎A I	1前		1			○									兼1		
	韓国語基礎B I	1前		1			○									兼1		
	ドイツ語基礎A II	1後		1			○									兼1		
	ドイツ語基礎B II	1後		1			○									兼1		
	フランス語基礎A II	1後		1			○									兼1		
	フランス語基礎B II	1後		1			○									兼1		
	スペイン語基礎A II	1後		1			○									兼2		
	スペイン語基礎B II	1後		1			○									兼2		
中国語基礎A II	1後		1			○									兼3			
中国語基礎B II	1後		1			○									兼3			

教 育 課 程 等 の 概 要

(経済学部現代経済学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
全学共通科目 外国語 初修外国語科目	韓国語基礎AⅡ	1後		1		○									兼1
	韓国語基礎BⅡ	1後		1		○									兼1
	ドイツ語演習コミュニケーションⅠ	1前		2			○								兼1
	ドイツ語演習コミュニケーションⅡ	1後		2			○								兼1
	ドイツ語演習コミュニケーションⅢ	2前		2			○								兼1
	ドイツ語演習コミュニケーションⅣ	2後		2			○								兼1
	ドイツ語演習コミュニケーションⅤ	2前		2			○								兼1
	フランス語演習コミュニケーションⅠ	1前		2			○								兼1
	フランス語演習コミュニケーションⅡ	1後		2			○								兼1
	フランス語演習コミュニケーションⅢ	2前		2			○								兼1
	フランス語演習コミュニケーションⅣ	2後		2			○								兼1
	フランス語演習コミュニケーションⅤ	2前		2			○								兼1
	スペイン語演習コミュニケーションⅠ	1前		2			○								兼1
	スペイン語演習コミュニケーションⅡ	1後		2			○								兼1
	スペイン語演習コミュニケーションⅢ	2前		2			○								兼1
	スペイン語演習コミュニケーションⅣ	2後		2			○								兼1
	スペイン語演習コミュニケーションⅤ	2前		2			○								兼1
	中国語演習コミュニケーションⅠ	1前		2			○								兼1
	中国語演習コミュニケーションⅡ	1後		2			○								兼1
	中国語演習コミュニケーションⅢ	2前		2			○								兼1
	中国語演習コミュニケーションⅣ	2後		2			○								兼1
	中国語演習コミュニケーションⅤ	2前		2			○								兼1
	韓国語演習コミュニケーションⅠ	1前		2			○								兼1
	韓国語演習コミュニケーションⅡ	1後		2			○								兼1
	韓国語演習コミュニケーションⅢ	2前		2			○								兼1
	韓国語演習コミュニケーションⅣ	2後		2			○								兼1
	韓国語演習コミュニケーションⅤ	2前		2			○								兼1
	ドイツ語演習言語と文化Ⅰ	2前		2			○								兼1
	ドイツ語演習言語と文化Ⅱ	2後		2			○								兼1
	ドイツ語演習言語と文化Ⅲ	2前		2			○								兼1
	ドイツ語演習言語と文化Ⅳ	2後		2			○								兼1
	フランス語演習言語と文化Ⅰ	2前		2			○								兼1
	フランス語演習言語と文化Ⅱ	2後		2			○								兼1
	フランス語演習言語と文化Ⅲ	2前		2			○								兼1
	フランス語演習言語と文化Ⅳ	2後		2			○								兼1
	スペイン語演習言語と文化Ⅰ	2前		2			○								兼1
	スペイン語演習言語と文化Ⅱ	2後		2			○								兼1
	スペイン語演習言語と文化Ⅲ	2前		2			○								兼1
	スペイン語演習言語と文化Ⅳ	2後		2			○								兼1
	中国語演習言語と文化Ⅰ	2前		2			○								兼1
	中国語演習言語と文化Ⅱ	2後		2			○								兼1
	中国語演習言語と文化Ⅲ	2前		2			○								兼1
	中国語演習言語と文化Ⅳ	2後		2			○								兼1
	韓国語演習言語と文化Ⅰ	2前		2			○								兼1
	韓国語演習言語と文化Ⅱ	2後		2			○								兼1
	韓国語演習言語と文化Ⅲ	2前		2			○								兼1
	韓国語演習言語と文化Ⅳ	2後		2			○								兼1
	ドイツ語演習検定対策Ⅰ	2前		2			○								兼1
	ドイツ語演習検定対策Ⅱ	2後		2			○								兼1
	ドイツ語演習検定対策Ⅲ	2前		2			○								兼1
ドイツ語演習検定対策Ⅳ	2後		2			○								兼1	
フランス語演習検定対策Ⅰ	2前		2			○								兼1	
フランス語演習検定対策Ⅱ	2後		2			○								兼1	
フランス語演習検定対策Ⅲ	2前		2			○								兼1	
フランス語演習検定対策Ⅳ	2後		2			○								兼1	
スペイン語演習検定対策Ⅰ	2前		2			○								兼1	
スペイン語演習検定対策Ⅱ	2後		2			○								兼1	
スペイン語演習検定対策Ⅲ	2前		2			○								兼1	
スペイン語演習検定対策Ⅳ	2後		2			○								兼1	
中国語演習検定対策Ⅰ	2前		2			○								兼1	
中国語演習検定対策Ⅱ	2後		2			○								兼1	
中国語演習検定対策Ⅲ	2前		2			○								兼1	
中国語演習検定対策Ⅳ	2後		2			○								兼1	

教 育 課 程 等 の 概 要

(経済学部現代経済学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
外国語	韓国語演習検定対策Ⅰ	2前		2			○								兼1
	韓国語演習検定対策Ⅱ	2後		2			○								兼1
	韓国語演習検定対策Ⅲ	2前		2			○								兼1
	韓国語演習検定対策Ⅳ	2後		2			○								兼1
	ドイツ語演習プレゼンテーションⅠ	2前		2			○								兼1
	ドイツ語演習プレゼンテーションⅡ	2後		2			○								兼1
	フランス語演習プレゼンテーションⅠ	2前		2			○								兼1
	フランス語演習プレゼンテーションⅡ	2後		2			○								兼1
	スペイン語演習プレゼンテーションⅠ	2前		2			○								兼1
	スペイン語演習プレゼンテーションⅡ	2後		2			○								兼1
	中国語演習プレゼンテーションⅠ	2前		2			○								兼1
	中国語演習プレゼンテーションⅡ	2後		2			○								兼1
	韓国語演習プレゼンテーションⅠ	2前		2			○								兼1
	韓国語演習プレゼンテーションⅡ	2後		2			○								兼1
	世界の言語(ロシア語Ⅰ)	1前		1			○								兼1
	世界の言語(ロシア語Ⅱ)	1後		1			○								兼1
	世界の言語(タイ語Ⅰ)	1前		1			○								兼1
	世界の言語(タイ語Ⅱ)	1後		1			○								兼1
	世界の言語(イタリア語Ⅰ)	1前		1			○								兼1
	世界の言語(イタリア語Ⅱ)	1後		1			○								兼1
小計(101科目)	—		0	176	0		—		0	0	0	0	0	0	兼35
全学 共通科目	実践日本語表現	1前後		2			○								兼1
	実践話し方入門	1前後		2			○								兼1
	日本語表現講義	1後		2			○								兼1
	実践漢字講座	1後		2			○								兼1
	語彙・読解講座	1後		2			○								兼1
	古典に学ぶ日本語表現	1前後		2			○								兼1
	実用文書の作り方・情報の伝え方	2前後		2			○								兼2
	テーマ別日本語表現(文芸をたのしむ)	2後		2			○								兼1
	テーマ別日本語表現(成蹊俳句教室)	2前		2			○								兼1
	テーマ別日本語表現(源氏物語を読む)	2前		2			○								兼1
	テーマ別日本語表現(文章表現を磨く)	2前後		2			○								兼1
	テーマ別日本語表現(話し方を磨く)	2前		2			○								兼1
	小計(12科目)	—		0	24	0		—		0	0	0	0	0	0
技能	キャリアプランニング	1前後		2			○								兼2
	ビジネストレーニングセミナー	1後		2			○								兼1
	キャリアセミナー	2前後		2			○								兼1
	グローバルキャリアセミナー	2後		2			○								兼1
	キャリア発展講義	2後		2			○								兼1
	日本企業の現状と展望	3後		2			○								兼2 共同
	インターンシップ準備講座	3前		2			○								兼1
	インターンシップ実習	3前		2				○							兼1
	発展インターンシップ準備講座	3前		2				○							兼1
	発展インターンシップ実習	3後		2				○							兼1
Global Career Design	3後		2				○							兼1	
小計(11科目)	—		0	22	0		—		0	0	0	0	0	0	兼7
情報 基盤 科目	情報基礎	1前		2			○								兼2
	情報活用A	1後		2			○								兼1
	情報活用B	1後		2			○								兼1
	情報活用C	1後		2			○								兼1
	情報活用D	1後		2			○								兼1
	情報活用E	1後		2			○								兼1
	情報活用F	1後		2				○							兼1
小計(7科目)	—		0	14	0		—		0	0	0	0	0	0	兼5
健康・ スポ ーツ 科目	健康・スポーツ演習A	1前		2			○								兼10
	健康・スポーツ演習B	1後		2			○								兼10
	スポーツと科学	1後		2			○								兼1
	健康と科学	1後		2			○								兼1
	スポーツと文化	1後		2			○								兼1
	スポーツと社会	1後		2			○								兼1
小計(6科目)	—		0	12	0		—		0	0	0	0	0	0	兼10

教 育 課 程 等 の 概 要

(経済学部現代経済学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
教養基礎	哲学の基礎	1前後		2		○									兼1
	倫理学の基礎	1前後		2		○									兼1
	現代社会と哲学	1後		2		○									兼1
	現代社会と倫理学	1後		2		○									兼1
	文学への招待	1前後		2		○									兼1
	芸術への招待	1前後		2		○									兼2
	カルチュラル・スタディーズ	1前		2		○									兼3
	心理学の基礎	1前後		2		○									兼1
	自己理解の心理学	1前後		2		○									兼1
	教育原理	1前		2		○									兼1
	教育心理学	1前		2		○									兼1
小計(11科目)		—	0	22	0	—			0	0	0	0	0	0	兼14
社会科学	政治学の基礎	1前後		2		○									兼1
	社会学と現代	1前後		2		○									兼2
	日本国憲法	1前後		2		○									兼2
	市民生活と法A	1前		2		○			1						
	市民生活と法B	1後		2		○			1						
	現代のマスメディア	1前		2		○			1						
	社会心理学入門	1前		2		○									兼1
	企業と社会	1後		2		○									兼1
	学校と社会	1後		2		○									兼1
	近現代日本史A	1前後		2		○									兼1
	近現代日本史B	1前後		2		○									兼1
現代社会の地理	1前後		2		○									兼2	
小計(12科目)		—	0	24	0	—			2	0	0	0	0	0	兼11
自然科学	物質の究極像	1前		2		○									兼1
	人間と進化	1後		2		○									兼1
	脳科学と心	1後		2		○									兼1
	天文学入門	1前		2		○									兼2
	薬はなぜ効くか	1後		2		○									兼1
	身の回りの科学	1前		2		○									兼1
	科学史	1前		2		○									兼1
	科学技術の発展と歴史	1後		2		○									兼1
	サイエンス・トピックス(熱と光の科学)	1後		2		○									兼1
	サイエンス・トピックス(物質の科学)	1前		2		○									兼1
	サイエンス・トピックス(数の世界)	1前		2		○									兼1
	サイエンス・トピックス(生命の科学)	1後		2		○									兼1
	サイエンス・トピックス(文系のための数学)	1後		2		○									兼1
	サイエンス・トピックス(文系のための科学実験)	1後		2		○									兼2
小計(14科目)		—	0	28	0	—			0	0	0	0	0	0	兼16
環境・地域 持続社会探究	地球と環境	2前		2		○									兼1
	気象と地球環境	2後		2		○				1					
	自然環境と文明	2前		2		○									兼1
	日本列島の歴史と災害	2前		2		○									兼1
	日本の国土と社会	2前後		2		○			1						
	外国の自然と社会A	2後		2		○									兼1
	外国の自然と社会B	2前		2		○									兼1
	地域づくり論	2前		2		○									兼1
	環境科学トピックス(生命と環境)	2前		2		○									兼1
	環境科学トピックス(食料と環境)	2後		2		○									兼1
小計(10科目)		—	0	20	0	—			1	1	0	0	0	0	兼7

教 育 課 程 等 の 概 要

(経済学部現代経済学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
全学 共通科目	国際 理解	戦後の日本と世界	2前後	2		○			1						兼1	
		近現代のアジアA	2前	2		○										兼1
		近現代のアジアB	2後	2		○										兼1
		近現代の欧米A	2前	2		○										兼1
		近現代の欧米B	2後	2		○										兼1
		中東地域史	2前	2		○										兼1
		現代の国際政治	2前	2		○										兼1
		グローバル経済論	2前	2		○										
		国際文化交流論	2後	2		○										兼1
		異文化理解トピックス(ドイツ語圏)	2後	2		○										兼1
		異文化理解トピックス(フランス語圏)	2後	2		○										兼1
		異文化理解トピックス(スペイン語圏)	2後	2		○										兼1
		異文化理解トピックス(中国語圏)	2後	2		○										兼1
		異文化理解トピックス(韓国語圏)	2後	2		○										兼1
		異文化理解トピックス(イスラーム世界)	2後	2		○										兼1
	小計(15科目)	—	0	30	0	—	—	—	1	0	0	0	0	0	兼12	
	持統 社会 探究	人権・ 共生	裁判と社会	2後	2		○									兼1
			生命倫理と法	2後	2		○									兼1
			地域福祉論	2前	2		○									兼1
			人権とジェンダー	2前	2		○									兼1
			こころの健康と臨床	2前	2		○									兼1
			老人福祉論	2前	2		○									兼1
			福祉社会に生きる	2後	2		○									兼1
			特別支援教育概論	2前	2		○									兼1
			共生社会トピックス(アートと社会)	2前	2		○									兼1
			共生社会トピックス(日本女性史)	2後	2		○									兼1
	小計(10科目)	—	0	20	0	—	—	—	0	0	0	0	0	0	兼9	
	実践	成蹊を知る	情報保障とボランティア	1後	2		○									兼1
			野外自然教育論	1前	2		○									兼1
			地元学実践演習	1後	2			○								兼1
			武蔵野地域研究	1後	2		○									兼1
			武蔵野市寄附講座	1後	2		○									兼1
			大学生活と相互理解	1後	2		○									兼2
成蹊グローバルセミナーA			1前	2			○								兼1	
成蹊グローバルセミナーB			1後	2			○								兼1	
武蔵野地域連携セミナー			1後	2			○								兼1	
Global Studies Seminar I (Academic Study Abroad Preparation)			1前	2			○								兼1	
Global Studies Seminar II (Global Citizenship)			1後	2			○								兼1	
Global Studies Seminar III (Japanese Culture)			2前	2			○								兼1	
小計(13科目)			—	0	26	0	—	—	—	0	0	0	0	0	0	兼13
全学共通科目 小計(265科目)			4	481	0				4	1	0	0	0	0	兼154	

教 育 課 程 等 の 概 要

(経済学部現代経済学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
ゼミナール科目	基礎ゼミナール	1前	2				○		7	1			1		兼10
	プレゼンテーション演習	2前		2			○			1					
	上級ゼミナールⅠ	3前	2				○		6	1					
	上級ゼミナールⅡ	3後	2				○		6	1					
	経済学ワークショップ	3通		4			○		1						
	卒業研究	4通	4				○		6	1					
	小計(6科目)			10	6	0				8	1	0	1	0	兼10
サステナビリティ研究科目	フィールドワークの技法	1後		2			○		1						
	社会調査の技法	2前		2			○		1						兼1
	地域研究法	2前		2			○								
	情報分析ゼミナール(産業連関分析)	2前		2				○	1						
	実践ゼミナールA	2前		2				○	1						
	実践ゼミナールB	2前		2					1						
	コミュニティ研究ゼミナール	2前		2					1						兼1
	GISゼミナール	2前		2						1					
小計(8科目)			0	16	0				4	1	0	0	0	兼2	
グローバル経済科目	エリア・スタディーズA	2前		2			○								兼1
	エリア・スタディーズB	2前		2			○		1						
	文化と経済(欧米世界)	2前		2			○								兼1
	国際理解ゼミナール	2前		2				○	1						兼1
	Special Lectures on International Communications	2前		2				○	1						
	Special Lecture on Global Economy	2前		2				○	1						
	グローバル特殊講義(国際労働市場)	2前		2				○	1						
	グローバル特殊講義(統計でまなぶ世界経済)	2前		2				○							兼1
	外国語短期研修	2前		2					1						
小計(9科目)			0	18	0				3	0	0	0	0	兼4	
基盤Ⅰ	初級ミクロ経済学Ⅰ	1前		2			○								兼1
	初級マクロ経済学Ⅰ	1前		2			○		1			1			
	初級統計学Ⅰ	1前		2			○								兼1
	初級経済数学	1前		2			○								兼1
	初級ミクロ経済学Ⅱ	1後		2			○								兼1
	初級マクロ経済学Ⅱ	1後		2			○								兼1
	初級統計学Ⅱ	1後		2			○		1						兼1
	社会経済地理学	1後		2			○								
小計(8科目)			0	16	0				2	0	0	1	0	兼4	
基盤Ⅱ	中級ミクロ経済学	2前		2			○								兼1
	中級マクロ経済学	2前		2			○					1			兼1
	中級経済数学	2前		2			○						1		兼1
	中級計量経済学	2前		2			○		1						
	ゲーム理論	2前		2			○								兼1
	応用計量経済学	2後		2			○		1						
	国際マクロ経済学	2前		2			○		1						兼1
	行動経済学	2前		2			○								兼1
	情報の経済学	2後		2			○								兼1
	経済発展論	2前		2			○								兼1
	人口学	2前		2			○								兼1
	社会学	2前		2			○		1						
小計(12科目)			0	24	0				3	0	0	1	0	兼7	
総合科目	経済史の基礎	1後		2			○								兼1
	現代日本経済	2後		2			○		1						
	数量経済史	2前		2			○		1						
	日本経済史A	2前		2			○		1						
	日本経済史B	2後		2			○		1						
	西洋経済史A	2前		2			○								兼1
	西洋経済史B	2後		2			○								兼1
	比較経済史	2前		2			○								兼1
	経済学史	2前		2			○								兼1
	地域経済史	2前		2			○								兼1
	社会思想史	2後		2			○		1						
	社会史	2前		2			○		1						
	総合特殊講義(家族関係と法)	2前		2			○		1						
小計(13科目)			0	26	0				3	0	0	0	0	兼2	

教 育 課 程 等 の 概 要

(経済学部現代経済学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
総合科目	労働法	2後		2		○									兼1
	企業会計	2前		2		○									兼1
	社会理解実践講義	2前		2		○									兼1
	経済実務講義	2前		2		○									兼1
	小計(4科目)		0	8	0				0	0	0	0	0		兼4
企業経済科目	産業組織論A	2前		2		○			1						
	産業組織論B	2後		2		○			1						
	組織の経済学	2後		2		○			1						
	法と経済	2後		2		○			1						
	国際経済学A	2前		2		○			1						
	国際経済学B	2後		2		○			1						
	労働経済学	2後		2		○									兼1
	企業を取り巻く法律	2前		2		○									兼1
	企業経済特殊講義(観光と経済)	2前		2		○			1						
	企業経済特殊講義(企業の社会的責任)	2前		2		○									兼1
		小計(10科目)		0	20	0				3	0	0	0	0	
金融経済科目	ファイナンスA	2前		2		○			1						
	ファイナンスB	2後		2		○			1						
	金融論A	2前		2		○									兼1
	金融論B	2後		2		○									兼1
	金融に関する法律	2前		2		○									兼1
	国際金融論	2後		2		○			1						兼1
	小計(6科目)		0	12	0				2	0	0	0	0		兼3
地域・環境科目	環境経済学A	2前		2		○									兼1
	環境経済学B	2後		2		○									兼1
	都市経済学	2後		2		○									兼1
	経済地理学A	2前		2		○			1						
	経済地理学B	2後		2		○			1						
	地球環境問題	2前		2		○				1					兼1
	資源経済学	2前		2		○									
	環境と法	2前		2		○			1						
	地域・環境特殊講義(環境社会学の基礎)	2前		2		○			1						
	地域・環境特殊講義(交通経済学)	2前		2		○									兼1
	小計(10科目)		0	18	0				3	1	0	0	0		兼4
公共政策科目	財政学A	2前		2		○									兼1
	財政学B	2後		2		○									兼1
	公共経済学	2後		2		○									兼1
	教育経済学	2後		2		○									兼1
	社会保障論A	2前		2		○									兼1
	社会保障論B	2後		2		○									兼1
	医療経済学	2前		2		○									兼1
	ベーシック民法	2前		2		○			1						
	公共政策特殊講義	2後		2		○									兼1
	政策課題演習	3前		2			○		1						
	小計(10科目)		0	20	0				1	0	0	0	0		兼4
EAGLE国際教養科目	International Business	2前		2		○									兼1
	Japanese Economy	2前		2		○									兼1
	Current Topics in Business and Economics	2前		2		○									兼1
	International Relations	2後		2		○									兼1
	Regional Studies	2前		2		○									兼1
	Current Topics in Global Issues	2前		2		○									兼1
	Japanese Contemporary Issues	2後		2		○									兼1
	Japanese Traditional Culture	2後		2		○									兼1
	Current Topics in World Affairs	2前		2		○									兼1
	小計(9科目)		0	18	0				0	0	0	0	0		兼8

教 育 課 程 等 の 概 要														
(経済学部現代経済学科)														
科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
専 門 科 目	広 域 基 礎 科 目	日本史概論Ⅰ	2前	2		○			1	1				兼1
		日本史概論Ⅱ	2後	2		○						兼1		
		世界史概論Ⅰ	2前	2		○						兼1		
		世界史概論Ⅱ	2後	2		○						兼1		
		人文地理学	2前	2		○								
		自然地理学	2後	2		○								
		地誌学	2後	2		○								
		現代の政治学	2後	2		○								
小計(8科目)		—	0	16	0				1	1	0	0	0	兼4
教 職 課 程 に 設 定 す る 科 目	教 職 に 関 す る 科 目	教職特論演習Ⅰ	3後		2		○							兼1
		教職特論演習Ⅱ	4前		2		○							兼1
		学校経営と学校図書館	2前		2		○							兼1
		学校図書館メディアの構成	2後		2		○							兼1
		学習指導と学校図書館	2前		2		○							兼1
		読書と豊かな人間性	2後		2		○							兼1
		情報メディアの活用	2後		2		○							兼1
		小計(7科目)		—	0	0	14	—			0	0	0	0
教 職 の 教 科 及 び 教 職 に 関 す る 科 目	教 職 に 関 す る 科 目	教職論	1前		2		○							兼1
		教育課程論	2前		2		○							兼1
		道徳教育の指導法	3前		2		○							兼2
		総合的な学習の時間の指導法	3前		2		○							兼1
		特別活動の指導法	3前		2		○							兼1
		教育方法論	2前		2		○							兼4
		生徒・進路指導論	1後		2		○							兼1
		教育相談	2前		2		○							兼2
		教育実習論	3後		1		○							兼3
		教育実習(中・高)	4通		5				○					兼3
		教育実習(高)	4通		3				○					兼3
教職実践演習(中・高)	4後		2			○						兼4		
教 職 に 関 す る 科 目	教 職 に 関 す る 科 目	社会科教育法A	3前		2		○							兼1
		社会科教育法B	3前		2		○							兼1
		社会科・地理歴史科教育法	2後		2		○							兼1
		社会科・公民科教育法	2後		2		○							兼1
		地理歴史科教育法	3後		2		○							兼1
		公民科教育法	3後		2		○							兼1
		小計(18科目)		—	0	0	39	—			0	0	0	0
専門科目 小計(138科目)		—	10	218	53	—			8	1	0	1	0	兼47
合計(403科目)		—	14	699	0	—			8	1	0	1	0	兼191
学位又は称号	学士(経済学)	学位又は学科の分野			経済学関係									
卒業要件及び履修方法									授業期間等					
4年以上在学し、かつ、次のすべての要件を満たした上で、124単位以上を修得すること。 (1) 全学共通科目にあっては、次の要件を満たした上で28単位以上修得すること。 ①「外国語(英語科目、初修外国語科目)」 「技能(日本語力科目、キャリア教育科目、情報基盤科目、健康・スポーツ科目)」から16単位以上(このうち英語科目を必修4単位を含め6単位以上) ②「教養基礎」「持続社会探究」から8単位以上 (2) 現代経済学科専門科目にあっては、次の要件を満たした上で76単位以上修得すること。 ①「ゼミナール科目」:必修科目10単位 ②「サステナビリティ研究科目」 地域コミュニティ経済科目:6単位以上 グローバル経済科目:6単位以上 ③「基盤科目」 基盤Ⅰから12単位以上および基盤Ⅱから6単位以上含み、基盤ⅠとⅡの合計が20単位以上 ④「総合科目」:制度・歴史から4単位以上を含み、6単位以上 ④「応用発展科目」 企業経済科目、金融経済科目、地域・環境科目、公共政策科目から各4単位以上を含み、26単位以上 (3) 卒業に必要な単位124単位のうち、(1)(2)から規定単位数を差し引いた残り20単位については、(1)(2)において規定単位数以上を修得した科目の単位を合計する。 (履修科目の登録の上限:40単位(年間))									1学年の学期区分	2期				
									1学期の授業期間	14週				
									1時限の授業時間	100分				

別記様式第2号（その2の1）

教育課程等の概要																
(経済学部経済経営学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
全学共通科目	桃李成蹊科目	フレッシュヤーズ・セミナー	1前	2					○		15	9	1	2	兼1	
		フレッシュヤーズ講座	1前		1			○							兼1	
		成蹊を知る	1後		2			○			1					
		成蹊教養セミナー	1前		2			○							兼2	
		成蹊ボランティア	1休		2			○								
		武蔵野地域研究	1後		2			○							兼1	
		成蹊環境セミナー	1休		2			○								
		地域福祉論	1前		2			○								兼1
		武蔵野市寄附講座	1後		2			○								兼1
		武蔵野地域連携セミナー	1前		2			○								兼3
		人権とジェンダー	1前		2			○								兼1
		青年の心と身体	1後		2			○			1					兼1 (共同)
		こどもと社会	1前		2			○								兼1
		老人福祉論	1前		2			○								兼1
		福祉社会に生きる	1後		2			○								兼1
		情報保障とボランティア	1前		2			○								兼4 (共同)
		成蹊グローバルセミナーA	1前		2			○								兼1
成蹊グローバルセミナーB	1後		2			○								兼1		
小計 (18科目)			2	33	0	-			16	9	1	2	0	兼19		
全学共通科目	人間形成系統 英語科目	Freshers' English	1前	1			○				1				兼18	
		College English (Listening & Speaking) I	1前	1			○								兼18	
		College English (Listening & Speaking) II	1後	1			○				1				兼19	
		College English (Reading & Writing) I	1前	1			○								兼18	
		College English (Reading & Writing) II	1後	1			○				1				兼19	
		College English (Global Topics) I	2前	1			○								兼19	
		College English (Global Topics) II	2後	1			○								兼17	
		College English (Local Topics) I	2前	1			○								兼19	
		College English (Local Topics) II	2後	1			○								兼17	
		TOEFL Preparation Intermediate	1前		1			○								兼3
		TOEFL Preparation Advanced	1前		1			○								兼2
		TOEIC Preparation Intermediate	1前		1			○								兼2
		TOEIC Preparation Advanced	1前		1			○								兼2
		IELTS Preparation Intermediate	1前		1			○								兼4
		IELTS Preparation Advanced	1前		1			○								兼4
		Presentation Skills	2後		2			○								兼1
		Discussion Skills	2前		2			○				1				
Writing Skills	2前		2			○								兼1		
多読で学ぶ英語と文化	2前		2			○			1	1				兼2		
映画で学ぶ英語と文化	2前		2			○			1					兼1		
ドラマで学ぶ英語と文化	2前		2			○			1					兼1		
歌で学ぶ英語と文化	2後		2			○								兼1		
小計 (22科目)			9	20	0	-			2	2			0	兼72		

教 育 課 程 等 の 概 要

(経済学部経済経営学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手				
全学 共通科目	人間 形成系 統	日本 語力 科目	日本語表現講義	1前	2		○									兼1	
			実践漢字講座	1前	2		○										兼1
			実践日本語表現	1前	2		○										兼4
			実践話し方入門	1前	2		○										兼1
			文章読解講座	1前	2		○										兼1
			古典日本語A	1後	2		○										兼1
			古典日本語B	1前	2		○										兼2
			テーマ別日本語表現	2前	2		○										兼3
			実用文書の作り方・情報の伝え方	2前	2		○										兼2
	小計 (9科目)		0	18	0	-							0		兼14		
	キ ャ リ ア 教 育 科 目	キャリアプランニング	1前		2		○									兼5	
		ビジネストレainingセミナー	1後		2		○									兼1	
		キャリアセミナー	2前		2		○									兼5	
		キャリア発展講義	2後		2		○									兼2	
		International Internship	2休		2		○									(共同)	
		日本企業の現状と展望	3後		2		○			2						兼1	
		インターンシップ準備講座	3前		2		○									兼1	
	インターンシップ実習	3後		2		○			1						兼1		
小計 (8科目)		0	16	0	-			2				0		兼7			
情 報 基 盤 科 目	情報基礎	1前		2		○									兼8		
	情報活用A	1後		2		○									兼2		
	情報活用B	1後		2		○									兼1		
	情報活用C	1後		2		○									兼2		
	情報活用D	1後		2		○									兼1		
	情報活用E	1後		2		○									兼1		
	情報活用F	1後		2		○									兼1		
小計 (7科目)		0	14	0	-							0		兼12			
健 康 ・ ス ポ ー ツ 科 目	健康・スポーツの基礎	1前		2		○									兼15		
	スポーツと科学	1後		2		○									兼1		
	スポーツと文化	1後		2		○									兼1		
	スポーツと社会	1後		2		○									兼1		
	健康と科学	1後		2		○									兼1		
	スポーツと身体	1休		2		○											
	健康・スポーツの発展A I	1休		2				○									
	健康・スポーツの発展A II	1休		2				○									
	健康・スポーツの発展A III	1休		2				○									
	健康・スポーツの発展A IV	1休		2				○									
	健康・スポーツの発展B I	1休		2				○									
	健康・スポーツの発展B II	1後		2				○							兼16		
	健康・スポーツの発展B III	1休		2				○									
	健康・スポーツの発展B IV	1休		2				○									
健康・スポーツの発展S I	1休		2				○										
健康・スポーツの発展S II	1後		2				○							兼16			
健康・スポーツの発展S III	1休		2				○										
健康・スポーツの発展S IV	1休		2				○										
小計 (18科目)		0	36	0	-							0		兼21			

教 育 課 程 等 の 概 要

(経済学部経済経営学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
全学共通科目	文化創造系統 総合文化科目	哲学の基礎	1前	2		○									兼3
		倫理学の基礎	1前	2		○									兼2
		心理学の基礎	1前	2		○				1					兼2
		自己理解の心理学	1前	2		○				1					兼2
		文学への招待	1前	2		○				1					兼1
		現代社会と哲学	2後	2		○									兼1
		現代社会と倫理学	2後	2		○									兼1
		現代社会と宗教	2前	2		○									兼1
		日本の思想史	2前	2		○									兼1
		脳科学と心	2前	2		○									兼1
		こころの健康と臨床	2前	2		○					1				
		音楽への招待	2前	2		○									兼1
		美術への招待	2前	2		○									兼1
		人間と美術	2後	2		○									兼1
		多文化主義と文学	2前	2		○									兼1
		サブカルチャーと文学	2前	2		○									兼1
		舞台芸術論	2前	2		○									兼1
		ことばの科学	2休	2		○									
		ファッションと文化	2前	2		○									兼1
		映像と文化	2前	2		○									兼1
		映像と人間	2後	2		○									兼1
		文化人類学の考え方	2後	2		○									兼1
		政治学の基礎	1前	2		○					1			1	兼1
		経済学の基礎	1前	2		○					1	1			兼2
		社会学と現代	1前	2		○					1				兼2
		日本国憲法	1前	2		○									兼1
		市民生活と法Ⅰ	1後	2		○									兼1
		市民生活と法Ⅱ	1前	2		○									兼1
		日本の政治	2休	2		○									
		現代の国際政治	2後	2		○									兼1
		日本と世界の経済	2前	2		○					1				
		企業と社会	2後	2		○							1		
		現代のマスメディア	2前	2		○					1				
		コミュニケーションと社会	2前	2		○									兼1
		社会心理学入門	2前	2		○									兼1
		社会と統計	2前	2		○									兼1
		裁判と社会	2後	2		○									兼1
		生命倫理と法	2休	2		○									
		科学的に考える	1前	2		○									兼7
		環境と科学	1前	2		○									兼2
		物質の究極像	2後	2		○									兼1
		人間と進化	2後	2		○									兼1
		天文学入門	2前	2		○									兼2
		薬はなぜ効くか	2後	2		○									兼1
		身の回りの科学	2前	2		○									兼1
		科学技術の発展と歴史	2休	2		○									
		科学と哲学	2前	2		○									兼1
		環境論	2後	2		○									兼1
		気象と地球環境	2後	2		○					1				
小計 (49科目)			一	0	98	0	—		4	3		2	0	兼46	

教 育 課 程 等 の 概 要

(経済学部経済経営学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手	
全学 共通科目	文化 創造系 統 国際 理解科 目	ドイツ語基礎A I	1後	1		○								兼2
		ドイツ語基礎A II	2前	1		○								兼2
		ドイツ語基礎B I	1後	1		○								兼1
		ドイツ語基礎B II	2前	1		○								兼1
		フランス語基礎A I	1後	1		○				1				兼1
		フランス語基礎A II	2前	1		○				1				兼1
		フランス語基礎B I	1後	1		○								兼2
		フランス語基礎B II	2前	1		○								兼2
		スペイン語基礎A I	1前	1		○				1				兼3
		スペイン語基礎A II	2前	1		○				1				兼3
		スペイン語基礎B I	1前	1		○								兼4
		スペイン語基礎B II	2前	1		○								兼4
		中国語基礎A I	1前	1		○								兼7
		中国語基礎A II	2前	1		○								兼7
		中国語基礎B I	1前	1		○								兼7
		中国語基礎B II	2前	1		○								兼7
		韓国語基礎A I	1後	1		○								兼3
		韓国語基礎A II	2前	1		○								兼3
		韓国語基礎B I	1後	1		○								兼3
		韓国語基礎B II	2前	1		○								兼3
		ドイツ語基礎A III	2後	1		○								兼2
		ドイツ語基礎B III	2後	1		○								兼2
		フランス語基礎A III	2後	1		○								兼1
		フランス語基礎B III	2後	1		○								兼1
		スペイン語基礎A III	2後	1		○				1				兼2
		スペイン語基礎B III	2後	1		○								兼2
		中国語基礎A III	2後	1		○								兼2
		中国語基礎B III	2後	1		○								兼2
		韓国語基礎A III	2後	1		○								兼2
		韓国語基礎B III	2後	1		○								兼2
		ドイツ語演習言語と文化 I	3前	2		○								兼1
		ドイツ語演習言語と文化 II	3後	2		○								兼1
		ドイツ語演習検定対策 I	3休	2		○								
		ドイツ語演習検定対策 II	3休	2		○								
		ドイツ語演習プレゼンテーション I	3前	2		○								兼1
		ドイツ語演習プレゼンテーション II	3後	2		○								兼1
		フランス語演習言語と文化 I	3前	2		○				1				
		フランス語演習言語と文化 II	3後	2		○				1				
		フランス語演習検定対策 I	3前	2		○								兼1
		フランス語演習検定対策 II	3後	2		○								兼1
		フランス語演習プレゼンテーション I	3前	2		○								兼1
		フランス語演習プレゼンテーション II	3後	2		○								兼1
スペイン語演習言語と文化 I	3前	2		○								兼1		
スペイン語演習言語と文化 II	3後	2		○								兼1		
スペイン語演習検定対策 I	3休	2		○										
スペイン語演習検定対策 II	3休	2		○										
スペイン語演習プレゼンテーション I	3前	2		○								兼1		
スペイン語演習プレゼンテーション II	3後	2		○								兼1		
中国語演習言語と文化 I	3前	2		○								兼1		
中国語演習言語と文化 II	3後	2		○								兼1		

教 育 課 程 等 の 概 要

(経済学部経済経営学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
全学 共通 科目	文化 創造 系 統 国 際 理 解 科 目	中国語演習検定対策Ⅰ	3前	2		○									兼1	
		中国語演習検定対策Ⅱ	3後	2		○									兼1	
		中国語演習プレゼンテーションⅠ	3前	2		○									兼1	
		中国語演習プレゼンテーションⅡ	3後	2		○									兼1	
		韓国語演習言語と文化Ⅰ	3休	2		○										
		韓国語演習言語と文化Ⅱ	3休	2		○										
		韓国語演習検定対策Ⅰ	3前	2		○										兼1
		韓国語演習検定対策Ⅱ	3後	2		○										兼1
		韓国語演習プレゼンテーションⅠ	3前	2		○										兼1
		韓国語演習プレゼンテーションⅡ	3後	2		○										兼1
		ドイツ語会話Ⅰ	2前	1		○										兼2
		ドイツ語会話Ⅱ	2後	1		○										兼2
		ドイツ語会話Ⅲ	3前	1		○										兼1
		ドイツ語会話Ⅳ	3後	1		○										兼1
		フランス語会話Ⅰ	2前	1		○										兼2
		フランス語会話Ⅱ	2後	1		○										兼2
		フランス語会話Ⅲ	3前	1		○										兼1
		フランス語会話Ⅳ	3後	1		○										兼1
		スペイン語会話Ⅰ	2前	1		○										兼1
		スペイン語会話Ⅱ	2後	1		○										兼1
		スペイン語会話Ⅲ	3前	1		○										兼1
		スペイン語会話Ⅳ	3後	1		○										兼1
		中国語会話Ⅰ	2前	1		○										兼5
		中国語会話Ⅱ	2後	1		○										兼5
		中国語会話Ⅲ	3前	1		○										兼3
		中国語会話Ⅳ	3後	1		○										兼2
		韓国語会話Ⅰ	2前	1		○										兼2
		韓国語会話Ⅱ	2後	1		○										兼2
		韓国語会話Ⅲ	3前	1		○										兼1
		韓国語会話Ⅳ	3後	1		○										兼1
		異文化理解A	1前	2		○					1					兼18
		異文化理解B	1後	2		○					2					兼3
		世界の言語	1前	1		○										兼3
		近現代日本史A	1前	2		○										兼2
		近現代日本史B	1前	2		○										兼3
		戦後の日本と世界	1前	2		○										兼3
		現代日本の地理	1前	2		○					1					
		現代世界の地理	1前	2		○										兼2
		国際教養総合講義	1前	2		○										兼3
		近現代アジア史A	2前	2		○										兼1
		近現代アジア史B	2後	2		○										兼1
		近現代欧米史A	2前	2		○										兼2
		近現代欧米史B	2後	2		○										兼2
		歴史トピックス	2前	2		○										兼2
		アジア地域理解	2前	2		○										兼1
		ヨーロッパ地域理解	2前	2		○					1					
		北米地域理解	2後	2		○										兼1
イスラーム世界理解	2後	2		○										兼1		
地域理解トピックス	2前	2		○										兼2		
海外研修A	1休	2		○												
海外研修B	1休	2		○												
小計 (101科目)		—	0	151	0	—			3				0	兼73		
全学共通科目 計 (232科目)		—	11	386	0	—			21	10	1	2		兼254		

教 育 課 程 等 の 概 要

(経済学部経済経営学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
演習科目	上級演習Ⅰ	3前	2				○			24	5	1			
	上級演習Ⅱ	3後	2				○			24	5	1			
	卒業研究	4前	4				○			24	3				
	トピックス演習	1後		2			○			1	2				
	コア演習	2前		2			○			5	3				
	経済経営ワークショップ	3後		4			○			1					
	小計(6科目)	—	8	8	0		—			25	7	1		0	
A群	マクロ経済学入門Ⅰ	1前		2			○			3			1		
	ミクロ経済学入門Ⅰ	1前		2			○			4					
	会社入門	1前		2			○			1	1		1		
	統計入門	1前		2			○			3	1				
	マクロ経済学入門Ⅱ	1後		2			○			3			1		
	ミクロ経済学入門Ⅱ	1後		2			○			4					
	企業経営入門	1後		2			○			3			1		
	企業会計入門	1後		2			○			3			1		
	小計(8科目)	—	0	16	0		—			17	2		2	0	
	B群	マクロ経済学	2前		2			○					1	1	
ミクロ経済学		2前		2			○			2					
ゲーム理論		2前		2			○			1					
財政学		2前		2			○			1		1			
国際経済学		2前		2			○			2					
金融経済学		2前		2			○			1					
競争戦略		2前		2			○				1				
マーケティング		2前		2			○			1					
人間行動と組織		2前		2			○			2					
ファイナンスの基礎		2前		2			○			1					
経営分析		2前		2			○			1					
経営科学		2前		2			○			2					
基盤特殊講義		2後		2			○				1				
小計(13科目)	—	0	26	0		—			11	2	1	1	0		
A群(経済理論)	上級マクロ経済学	2後		2			○					1			
	上級ミクロ経済学	2前		2			○			1					
	国際マクロ経済学	2後		2			○			1					
	経済発展論	2後		2			○			1					
	情報の経済学	2後		2			○			1					
	公共経済学	2後		2			○				1				
	法と経済	2前		2			○			1					
	組織の経済学	2後		2			○			1					
小計(8科目)	—	0	16	0		—			5	1	1		0		
B群(産業と金融)	産業の経済学	2前		2			○			1					
	産業と政策	2後		2			○			1					
	観光の経済学	2前		2			○			1					
	産業と立地	2前		2			○			1					
	企業の国際戦略	2後		2			○			1					
	日本の金融制度	2後		2			○			1					
	国際金融	2前		2			○			1					
	環境経済学	2前		2			○				1				
小計(8科目)	—	0	16	0		—			5	1			0		

教 育 課 程 等 の 概 要

(経済学部経済経営学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
経済学部開設科目	C群 (くらしと経済)	労働経済学	2前	2		○			1							
		労働市場のしくみと制度	2後	2		○			1							
		教育経済学	2後	2		○					1					
		福祉の経済学	2後	2		○			1							
		年金の経済学	2前	2		○			1							
		医療と健康の経済学	2後	2		○			1							
		土地と住宅の経済学	2後	2		○			1							
		地域と交通政策	2前	2		○										兼1
		小計(8科目)	—	0	16	0	—	—	3		1			0		兼1
	D群	地方公共政策	2前	2		○			1							
		開発経済学	2後	2		○			1							
		経済地理	2後	2		○			1							
		現代日本経済	2前	2		○			1							
		地域振興の実践	2後	2		○			1							
		経済学特殊講義	2前	2		○										兼4
	小計(6科目)	—	0	12	0	—	—	5					0		兼4	
	A群 (戦略とマーケティング)	経営戦略	2後	2		○				1						兼1
		情報戦略	2後	2		○										
ブランド戦略		2前	2		○				1							
広告と市場		2前	2		○				1							
消費者行動		2後	2		○			1								
生産管理		2前	2		○										兼1	
イノベーションと製品開発		2後	2		○										兼1	
国際経営		2前	2		○			1								
小計(8科目)		—	0	16	0	—	—	2	2				0		兼2	
B群 (組織と人間)	人的資源管理	2後	2		○			1								
	人事政策	2前	2		○			1								
	人間情報処理	2前	2		○			1								
	組織と管理	2前	2		○										兼1	
	意思決定科学	2前	2		○			1								
	コーチングの基礎	2後	2		○										兼1	
	職場の心理学	2後	2		○										兼1	
	カウンセリングの基礎	2後	2		○				1							
小計(8科目)	—	0	16	0	—	—	3	1				0		兼3		
C群 (財務と会計)	コーポレート・ファイナンス	2後	2		○			1								
	資産選択の意思決定	2前	2		○			1								
	証券市場	2後	2		○			1								
	管理会計	2前	2		○			1								
	財務会計	2前	2		○			1								
	財務諸表論	2後	2		○			1								
	国際会計	2前	2		○			1								
	コストマネジメント	2後	2		○										兼1	
	小計(8科目)	—	0	16	0	—	—	4					0		兼1	
D群	戦略支援システム	2後	2		○			1								
	環境と経営戦略	2前	2		○			1								
	組織と社会	2後	2		○			1								
	企業の社会的責任	2後	2		○										兼1	
	基本簿記	2前	2		○			1								
	経営学特殊講義	2前	2		○			3	1						兼5	
小計(6科目)	—	0	12	0	—	—	4	1				0		兼6		

教 育 課 程 等 の 概 要

(経済学部経済経営学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
学際基礎科目	基礎解析	1前		2		○			2	1					
	行列	1前		2		○			2	1					
	統計学	1後		2		○				1					
	プログラミングの基礎	1後		2		○				1					
	経済史の基礎	1後		2		○			1						
	環境問題の基礎	1後		2		○				1					
	小計(6科目)	—	0	12	0	—			4	2				0	
A群 (数学情報)	解析	2後		2		○			1						
	確率	2前		2		○			1						
	多変量解析	2後		2		○						1			兼1
	データの活用	2前		2		○									
	エコノメトリクス入門	2前		2		○			1						
	上級エコノメトリクス	2後		2		○			1						
	経営情報分析	2後		2		○			1						
	ビジネスゲーム	2前		2		○			1						
	小計(8科目)	—	0	16	0	—			6				1	0	兼1
	B群 (環境)	環境社会学の基礎	2前		2		○			1					
環境と社会システム		2後		2		○			1						
地球環境問題		2後		2		○									兼1
環境とGIS		2前		2		○				1					
環境経営実践		2前		2		○									兼1
日本の環境政策	2前		2		○				1						
小計(6科目)	—	0	12	0	—			1	2					0	兼2
C群 (歴史)	日本経済史A	2前		2		○			1						
	日本経済史B	2後		2		○			1						
	西洋経済史A	2前		2		○									兼1
	西洋経済史B	2後		2		○									兼1
	社会史	2後		2		○			1						
	社会経済思想史	2前		2		○			1						
	数量経済史	2後		2		○			1						
	比較経済史	2後		2		○			1						
	地域経済史	2前		2		○			1						
小計(9科目)	—	0	18	0	—			3						0	兼1
D群	欧米地域研究	2前		2		○			1						
	アジア地域研究	2前		2		○									兼1
	職業生活の法律	2前		2		○									兼1
	雇用と労働法	2後		2		○									兼1
	企業をとりまく法律	2前		2		○									兼1
	金融に関する法律	2後		2		○									兼1
	対人関係の心理学	2後		2		○									兼1
	学際分野特殊講義	2前		2		○			2	2					兼2
	社会理解実践講義	2前		2		○			2						兼15
	社会理解実践演習	2後		2			○								兼2
小計(10科目)	—	0	20	0	—			4	2					0	兼24

教 育 課 程 等 の 概 要

(経済学部経済経営学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
経済学部開設科目	情報分析プログラム	情報分析演習Ⅰ	2前	2			○		1						兼1 兼1	
		情報分析演習Ⅱ	2後	2			○			1						
		情報分析演習Ⅲ	3前	2			○		1							
		情報分析演習Ⅳ	3後	2			○			1						
		総合分析A	2後	2			○		1							
		総合分析B	2後	2			○		1							
		マルチメディアプレゼンテーションA	2前	2			○		1							
		マルチメディアプレゼンテーションB	2前	2			○		1							
		情報分析特殊講義A	2前	2			○		2	2						
		情報分析特殊講義B	3休	2			○									
	小計(10科目)		—	0	20	0	—	—	6	2				0	兼1	
	高度学際科目	成蹊国際コース	Independent Study I	2前	2			○			1					兼4
			Independent Study II	2後	2			○			1					兼4
			Independent Study III	3前	2			○			1					兼4
			English for the Work Place	2後	2			○								兼1
			Cross Cultural Communication Skills	2前	2			○								兼2
			Academic Listening	2前	2			○								兼1
			Intensive Reading	2前	2			○			1					
			Discussion & Presentation	2後	2			○								兼1
			Essay Writing	2後	2			○								兼2
			Global Perspectives	2前	2			○			1					兼3
			Embracing Cultural Diversity	2前	2			○								兼1
			History and the World	2後	2			○								兼1
			International Societies and Representation of "Others"	2前	2			○								兼1
Regional Studies Seminar			2前	2			○				1					
Seminar on Culture	2後	2			○								兼2			
Current Topics	2後	2			○				1							
Exploring Media Literacy	2前	2			○			1								
Global Peace Studies	2後	2			○								兼1			
Global Values	2休	2			○											
Science and Technology in the World	2後	2			○								兼1			
World Politics in Comparative Perspective	2後	2			○								兼1			
Seminar on Communication Strategy A	2休	2			○											
Seminar on Communication Strategy B	2休	2			○											
World Englishes	2後	2			○			1								
小計(24科目)		—	0	48	0	—	—	3	3				0	兼21		
経済学部開設科目	広域基礎科目	日本史概論Ⅰ	2前	2			○								兼1	
		日本史概論Ⅱ	2後	2			○								兼1	
		世界史概論Ⅰ	2前	2			○								兼1	
		世界史概論Ⅱ	2後	2			○								兼1	
		人文地理学	2前	2			○			1						
		自然地理学	2後	2			○				1					
		地誌学	2後	2			○								兼1	
		現代の政治学	2後	2			○								兼1	
	小計(8科目)		—	0	16	0	—	—	1	1				0	兼4	
	自己設計科目	海外研修C	1休		2			○								
海外研修D		1休		2			○									
海外研修E		1休		2			○									
海外研修F		1休		2			○									
海外研修G		1休		2			○									
海外研修H	1休		2			○										
検定試験 単位認定 科目	検定試験	1休		2												
小計(7科目)		—	0	14	0	—	—						0			
経済学部開設科目 計(175科目)		—	8	346	0	—	—	30	10	1	2	0	0	兼68		

教 育 課 程 等 の 概 要

(経済学部経済経営学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
自に設定する科目 教職課程の大学が独	教職特論演習Ⅰ	3後			2		○								兼1
	教職特論演習Ⅱ	4前			2		○								兼1
	学校経営と学校図書館	2前			2	○									兼1
	学校図書館メディアの構成	2後			2	○									兼1
	学習指導と学校図書館	2前			2	○									兼1
	読書と豊かな人間性	2後			2	○									兼1
	情報メディアの活用	2後			2	○									兼1
	小計(7科目)	—	0	0	14	—							0		兼4
教職の教科及び教職に関する科目	教職論	1前			2	○									兼1
	教育原理	1前			2	○									兼1
	学校と社会	1後			2	○									兼1
	教育心理学	1前			2	○									兼1
	特別支援教育概論	2前			2	○									兼2
	教育課程論	2前			2	○									兼1
	生徒・進路指導論	1後			2	○									兼1
	教育方法論	2前			2	○									兼4
	教育相談	2前			2	○									兼2
	道徳教育の指導法	3前			2	○									兼2
	総合的な学習の時間の指導法	3前			2	○									兼1
	特別活動の指導法	3前			2	○									兼1
	教育実習論	3後			1	○									兼3
	教育実習(中・高)	4通			5			○							兼3
	教育実習(高)	4通			3			○							兼3
	教職実践演習(中・高)	4後			2			○							兼4
	社会科教育法A	3前			2	○									兼1
社会科教育法B	3前			2	○									兼1	
社会科・地理歴史科教育法	2後			2	○									兼1	
社会科・公民科教育法	2後			2	○									兼1	
地理歴史科教育法	3後			2	○									兼1	
公民科教育法	3後			2	○									兼1	
小計(17科目)	—	0	0	47	—								0	兼11	
教職課程科目 計 (24科目)		—	0	0	61	—									兼14
合計 (431科目)		—	19	732	61	—				32	11	1	2		兼315
学位又は称号		学士(経済学)			学位又は学科の分野			経済学関係							
卒業要件及び履修方法							授業期間等								
全学共通科目からは、桃李成蹊科目と人間形成系統から必須科目11単位を含め20単位、文化創造系統から14単位修得すること。学部の専門科目からは、演習科目の必修8単位と選択科目から66単位を修得し、学部の専門科目と全学共通科目を合わせて124単位以上修得すること。(年間履修上限：40単位)							1学年の学期区分		2期						
							1学期の授業期間		15週						
							1時限の授業時間		90分						

授 業 科 目 の 概 要

(経済学部経済数理学科)

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目	外国語	英語科目	College English (Listening & Speaking) I	この授業科目は、会話相手と円滑なコミュニケーションを取るために、相手の言うことを正確に聞き取って理解する力、そして相手の言うことを踏まえて自分が伝えたいことを伝えられるようになる力(発信する力)を鍛えることを目的とする。まずは、日常会話を正確に聞き取れるようになるために、ボキャブラリー増強を含むリスニングの訓練を集中的に行う。その後、習熟度に応じて、より高度なリスニングのスキルを身につけることを目指す。さらに、徐々に話す練習も取り入れていき、日常会話で用いる言い回しなどを学ぶ。	
		英語科目	College English (Reading & Writing) I	この授業科目は、英文を読む・書くことの楽しさを感じることができるようになるために、英文読解力を身につけ、自分の意見などを英語で表現できるようになることを目標とする。リーディングでは易しいと感じられるレベルの英文をたくさん読むことに加え、さまざまなトピックに関する英文にもチャレンジすることで、英文を読むことは必ずしも逐語訳をすることではないことを理解し、英文読解力を段階的に伸ばす。さらにインプットした英語を定着させるために、読んだ内容に対する自分の考えや感じたことを英語で書くなど、習熟度に応じてさまざまなライティングのアクティビティを行う。	
全学共通科目	外国語	英語科目	College English (Listening & Speaking) II	この授業科目は、College English Listening & Speaking I である程度英語の音に慣れていることを前提に、より高度で、かつ多岐にわたるトピックを扱い、円滑なコミュニケーションが取れるようにリスニング力、およびスピーキング力(発信力)を養うことを目的とする。まずは特定の場面を想定した練習を行うことで、場面に応じた適切なスピーキングスキルを身につける。さらに、習熟度に応じて、様々なシチュエーションに対応し、より自由に話せるような表現力とボキャブラリーの増強を図る。	
全学共通科目	外国語	英語科目	College English (Reading & Writing) II	この授業科目は、英文を読む・書くことの楽しさを感じることができるようになるために、College English Reading and Writing I で養ったリーディング力及びライティング力をさらに伸ばすことを目標とする。リーディングでは、より多岐にわたるジャンルやトピックの英文にチャレンジし、目的に応じた読み方を身につけながらボキャブラリーの増強も図る。さらにインプットした英語を自分でも使いこなせるようになるために、テキストの要約などさまざまなテーマ・形式のライティングを通して表現の幅をさらに広げていく。	
全学共通科目	外国語	英語科目	College English (Integrated Skills) I	この授業科目は、リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングの4技能統合型授業であり、1年次に身につけた英語のスキルとストラテジーをさらに応用し、英語での受信能力と発信能力をバランスよく鍛えることを目標とする。社会・文化・歴史・教育・自然科学など、多岐にわたるテーマを通して異文化理解を深め、様々な問題について多角的な視点から取り組み、議論に参加できるような英語運用能力を身につけることを目指す。	
全学共通科目	外国語	英語科目	College English (Integrated Skills) II	この授業科目は、リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングの4技能統合型授業であり、College English (Integrated Skills) I で身につけた英語のスキルとストラテジーをさらに伸ばし、英語での受信能力と発信能力をバランスよく鍛えることを目標とする。社会・文化・歴史・教育・自然科学など、多岐にわたるテーマを通して異文化理解を深め、様々な問題について多角的な視点から取り組み、議論に参加できるような英語運用能力を身につけることを目指す。	

授 業 科 目 の 概 要

(経済学部経済数理学科)

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目	外国語	英語科目	TOEFL Preparation Introduction	この授業科目は、将来留学を希望する学生や英語力を向上させたい学生のための TOEFL の入門授業である。原則として TOEIC400 点以上（または英検準2級・3級）程度の英語力がある学生を対象とする。TOEFL のテスト形式を理解し、それに則って、各セクション（リスニング、リーディング、スピーキング、ライティング）の実践的な指導を行いながら、アカデミックな内容を英語で理解し、発信できる基礎力、それを支える語彙力をつけ、4技能の総合的な英語力の向上に努める。	
		英語科目	TOEFL Preparation Intermediate	この授業科目は、将来留学を希望する学生や、高度な英語力を身につけたい学生のための TOEFL 受験対策の授業である。原則として TOEIC470 点以上（または英検準2級・2級）程度の英語力がある学生を対象とする。TOEFL のテスト形式に則り、各セクション（リスニング、文法、リーディング）の実践的な指導を行いながら、Introduction より高度でアカデミックな内容を英語で理解できるようにすることを目指して、語彙力強化も行き、総合的な英語力の向上に努める。	
全学共通科目	外国語	英語科目	TOEIC Preparation Introduction	この授業科目は、主に TOEIC400 点以上の学生を対象として、英語の基礎力をつけ、TOEIC スコアの向上を図る科目である。TOEIC のテスト形式に慣れることを第一に、各セクション（リスニングおよびリーディング）の実践的指導を、コンピュータや情報通信ネットワークを活用した指導を交えて行う。ただし、スコアアップのみならず、受講者それぞれが自律した英語学習法を確立し、受講後も英語力を伸ばせるよう指導する。	
		英語科目	TOEIC Preparation Intermediate	この授業科目は、主に TOEIC470 点以上の学生を対象とする。TOEIC スコアを向上させより高い英語力を身につけたい学生のために、TOEIC のテスト形式を理解していることをふまえて、各セクション（リスニングおよびリーディング）の指導を、Introduction よりも実践的に、コンピュータや情報通信ネットワークを活用した指導を交えて行う。ただし、スコアアップのみならず、受講者それぞれが自律した英語学習法を確立し、受講後も英語力を伸ばせるよう指導する。	
全学共通科目	外国語	英語科目	IELTS Preparation Introduction	この授業科目は、英語力を身につけ、将来留学を希望する学生のための IELTS 受験にあたっての入門科目である。原則として TOEIC400 点以上相当の英語力がある学生を対象とし、学部留学で必要とされる IELTS スコアを取得するための学習に習熟することを目指し、履修終了後も自学自修ができるスキルを身につけることを目指す。IELTS の問題に合わせて作成された教材を利用する。授業内でリーディング・リスニング・ライティング・スピーキングの活動をバランス良く取り入れながら、IELTS の問題の性質を理解するとともに、履修者同士の会話のセッションなどを通じて実用的な英語運用力の向上（特に、留学時や海外渡航時に役立つ英語力の向上）を目指す。今後の英語学習方法についても指導を行う。	

授 業 科 目 の 概 要

(経済学部経済数理学科)

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目	外国語	英語科目	IELTS Preparation Intermediate	この授業科目は、留学を希望する学生や、高度な英語力を身につけたい学生のための IELTS 受験準備、および会話力をはじめとする英語力向上のための授業である。原則として TOEIC470 点以上相当の英語力がある学生を対象とし、学部留学が必要とされる IELTS スコアを取得し、履修終了後も自学自修ができるスキルを身につけることを目指す。IELTS の問題に合わせて作成された教材を利用する。授業内でリーディング・リスニング・ライティング・スピーキングの活動をバランス良く取り入れながら、Introduction において理解した IELTS の問題の性質をふまえ、より高いスコアが取れるようになることを目指すと同時に、履修者同士の会話のセッションなども取り入れて、留学先で役立つ実用的な英語運用力向上を目指す。	
		英語科目	基礎からのコミュニケーション英文法	この授業科目は、自分が伝えたいことを確実に伝えられるようになる為に、英語のルールにかなった表現を効果的に用いる力(ちから)、つまり「文法を使える力」の習得を目的とする。文法書を片手に文法を学ぶのではなく、コミュニケーションの場面で必要となる英語のルールを、実践を通じて学ぶ。高校までに学んだ文法事項の知識を最大限に活用しながらグループワークやペアワークに挑戦し、基礎的な文法の知識を定着させるとともに「聴く・話す・読む・書く」の 4 技能を伸ばし、自信を持ってコミュニケーションに臨める姿勢を養う。	
全学共通科目	外国語	英語科目	自分でデザインする英語学習	この授業科目は、様々な英語学習方法を実践し、その学習効果を理解しながら自分の学習スタイルに適した学習方法を探索することを目的とする。また、段階的目標(短期・中期・長期)を設定し、実績に応じて計画の見直しや軌道修正を行うことも学ぶ。学生一人ひとりが今までの自分の学習スタイルを見つめ直し、より効果的なスタイルを考え、英語学習を継続するコツを見つける。授業外でも楽しみながら英語に触れる時間をできるだけ多く持たせ、自主的な取り組みを促す。	
全学共通科目	外国語	英語科目	英語発音トレーニング	この授業科目は、英語の発音をより良くしたい、留学前に発音を良くしておきたい、あるいは英語を使った仕事に就きたいのでよりよい発音を身につけたい、というような学生の要望に対応する授業である。単純な反復練習のみを繰り返す訓練をするだけでなく、日本語と比較しながら英語の発音について体系的に学び、「なぜ難しいのか」「何をどうすれば発音がより良くなるのか」について考えながら、英語発音の習得と上達を目指す。	
全学共通科目	外国語	英語科目	英語読解トレーニング	この授業科目は、アカデミックな英文の精読演習(Intensive Reading)を通じて、高度な英文読解力を養うことを目的とし、特に大学生が自らの知的関心の対象についてより深く学ぶために必要となる学術性や専門性の高い英文を読む力を伸ばしていく。英語圏の高校生・大学 1,2 年生が使用する教科書や、知的関心の高い一般読者向けの読み物などから、大学生の好奇心を刺激する様々なトピックを選び、文構造やテキスト構成の解析を通して、英語による高度な議論の内容を正解に把握する力を養う。	
全学共通科目	外国語	英語科目	Presentation Skills Basic	この授業科目は、学生のプレゼンテーションスキルを伸ばし、効果的にコミュニケーションを取れる(特に英語による)ようになることを目指す。プレゼンテーションに便利な語彙や言い回しを学び、流暢に使えるようにすると共に、グループでプレゼンテーションの練習をして自信をつけていく。また、グループメンバーのサポートを得てクラスの前で発表する機会も多く設ける。扱うトピックはインフォーマルなものを主とし、学生自身が各自の興味に沿って選ぶものとする。	

授 業 科 目 の 概 要

(経済学部経済数理学科)

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目	外国語	英語科目	Discussion Skills Basic	この授業科目は、ディスカッションスキルを学ぶことで、より効果的な(特に英語による)コミュニケーション力を養うことを目的とする。具体的には、ディスカッションに必要な語彙や句を学習し、自分のものとして使えるように練習を行う。学生は、自信を持って話せるトピックを自ら選び、堅苦しくない雰囲気の中でディスカッションを行う。本科目の履修を通して、学生は自分の意見を自信を持って主張し、議論に参加することを目標とする。	
		英語科目	Writing Skills (Paragraph)	この授業科目は、与えられたテーマについてまとまりのあるわかりやすいパラグラフ(段落)が書けるようになることが目標である。論理的なパラグラフを書くためには、モデルとなるパラグラフを読むことでパラグラフの構成を理解し、ライティングのルールや効果的な表現方法を学ぶことも大切である。書く前のアウトライン、原稿の作成に加え、教員からのフィードバックとピアレビューを繰り返し、それを基に推敲を重ねることでより良いパラグラフの書き方のプロセスも習得する。	
全学共通科目	外国語	英語科目	Presentation Skills Intermediate	この授業科目は、学生のプレゼンテーションスキルを伸ばし、効果的にコミュニケーションを取れる(特に英語による)ようになることを目指す。学生はより高度なプレゼンのストラテジー(例:視覚資料を効果的に使用する、計画通りに時間を守る、内容を聴衆に合わせる)を学ぶ。プレゼンテーションは個人で行うが、クラスメイトからのサポートやフィードバックも受ける。また、プレゼンのトピックはビジネス、アカデミック、ニュースのような時事的なものまで幅広く扱う。	
全学共通科目	外国語	英語科目	Discussion Skills Intermediate	この授業科目は、ディスカッションスキルを学ぶことで、より効果的な(特に英語による)コミュニケーション力を養うことを目的とする。具体的には、ディスカッションに必要なテクニックやストラテジーを学習し、中断、反論、小グループのディスカッションのリードの仕方などを適切に行う方法を学ぶ。トピックは、ビジネス会議、アカデミックセミナー、政治討議など様々なコンテクストを含むものから選ぶ。本科目の履修を通して、学生は様々なコンテクストやトピックにおけるディスカッションに参加し、リードできるようにすることを目標とする。	
全学共通科目	外国語	英語科目	Writing Skills (Essay)	この授業科目は、Writing Skills (Paragraph)で学んだパラグラフライティングの基礎を基に、論理的なエッセイが書けるようになることが目標である。論理的なエッセイを書くためには、モデルとなるエッセイを読むことで効果的な文章構成を学び、引用の仕方や自分の意見を明確に且つ説得力を持たせるための手法など、より高度なライティングスキルを身につけることが大切である。Writing Skills (Paragraph)同様、書く前のアウトライン、原稿の作成に加え、教員からのフィードバックとクラスメイトとのピアレビューを繰り返し、それを基に推敲を重ねることでより良いエッセイの書き方のプロセスも習得する。	
全学共通科目	外国語	英語科目	多読で学ぶ英語と文化	この科目は、今よりも英語力を大きく伸ばしたい、そしてそれを楽しく無理なく達成できる学習法があるのならばぜひともやりたいと思う人のためのものである。おそらくほとんどの人が、これまでに触れてきた英語をはるかに上回る量の英文を読むことになるであろう。それによって英語を、日本語を介することなく自然に英語のまま理解できるようになることを目指す。それを無理なく達成するために、最初はスラスラと読める易しい絵本から始め、そのスピードを保ったまま徐々にレベルの高い本を読んでいく。また、さまざまなジャンルの本を読むことによって英語圏の文化や社会に関する知識が増えていくため、英語に対する理解も深まることになる。最終的には、英語にとことん慣れ親しみ、日常的に英語に触れることを習慣にしてもらいたい。	

授 業 科 目 の 概 要

(経済学部経済数理学科)

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目	外国語	英語科目	映画で学ぶ英語と文化	この授業科目は、映画を通じて英語とともに映画の中で体験できる英語圏の文化やものの考え方、ならびに文化としての様々なジャンルの映画自体について学ぶことを目標とする。映画を原語で学ぶことは、学生にとっては未体験の部分が大きい、俗語から専門語まで様々な世代や立場の人が様々なシチュエーションで話すよりリアルな英語を学ぶためにも、映画は大変良い教材である。映画を素材に英語を学ぶことで、リスニング力・語彙力が鍛えられるだけでなく、授業内で様々な話題を取り上げてのプレゼンテーションやディスカッションを展開することで、映画作品に反映された文化的・歴史的・社会的な問題を学ぶ機会ともする。	
		英語科目	ドラマで学ぶ英語と文化	この授業科目は、テレビドラマを通じて英語とともにドラマの中で体験できる英語圏の文化やものの考え方、ならびに文化としての様々なジャンルのドラマ自体について学ぶことを目標とする。ドラマを原語で学ぶことは、学生にとっては未体験の部分が大きい、俗語から専門語まで様々な世代や立場の人が様々なシチュエーションで話すよりリアルな英語を学ぶためにも、ドラマは大変良い教材である。テレビドラマを素材に英語を学ぶことで、リスニング力・語彙力が鍛えられるだけでなく、授業内で様々な話題を取り上げてのプレゼンテーションやディスカッションを展開することで、ドラマ作品に反映された文化的・歴史的・社会的な問題を学ぶ機会ともする。	
全学共通科目	外国語	英語科目	歌で学ぶ英語と文化	この授業科目は、英語の歌を通して英語とともに歌詞やそのメッセージに映し出された英語圏の文化や思想、ならびに文化としての様々なジャンルの洋楽について学ぶことを目標とする。洋楽と称される広いジャンルを含む英語の歌は、英語の音やリズム、英語の語彙や英語圏の人々のものの考え方など、英語圏の言語や文化に関しての優れた教材である。さまざまなジャンルの英語の歌を取り上げ、実際に歌詞を聞き取りながらその意味や背景を考え、歌詞に出てくる英語の表現の意味やニュアンスに対する理解を深めるとともに、英語のリズムや音声に対する理解も深める。また、授業内で様々な話題を取り上げてのプレゼンテーションやディスカッションを展開することで、歌にこめられた文化的・歴史的・社会的な問題を学ぶ機会ともする。	
		英語科目	メディアで学ぶ英語と文化	この授業科目は、国内外の様々な英語メディアで発信される、幅広い種類のメッセージを扱うことで、英語とともに英語圏の文化的・社会的側面について学ぶことを目標とする。メディアが多様化する現在、英語での情報収集や英語で表現されたメッセージを読み解く力はますます重要となっている。新聞、テレビといった従来のメディアのみならず、インターネット上のニュース、さらには SNS のような媒体で発信される情報を読み解く力を育成し、教科書には出てこない、今の時代を映し出す旬の話題やそれを表現する言い回しなどを学ぶ。また、そうした情報を通じて、国際関係(世界各国のつながりやかけひき)、および日本の政治・経済の仕組みや問題点などを理解し、さらにインターネットを含むメディアにあふれる情報の中から正しい情報を選別する力を養い、将来も役立つメディアリテラシーを高める機会ともする。	
全学共通科目	外国語	英語科目	キャリアのための英語と文化	この授業科目は、社会人として必要とされる英語のスキルを幅広く扱うものである。職場ではどのような英語のスキルが必要か、想像することが難しい学生たちに対し、英文メールの書き方、英文履歴書の書き方、英語でのビジネスプレゼンテーションやディスカッション、図表の書き方/説明の仕方、関心のある業種・企業の事業内容の英語での説明など、多岐にわたるビジネス関連の英語の具体的な例と文化的背景を学ぶ機会を提供することで、学生への就職への意欲と成功にもつなげることを目指す。	

授 業 科 目 の 概 要

(経済学部経済数理学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
全学共通科目	外国語	英語科目	TOEFL Preparartion Advanced I	この授業科目は、TOEFL Preparation Introduction, Intermediate のレベルより高いスコアの取得、高度な英語力を身につけたい学生のための TOEFL 受験準備のための授業である。原則として TOEIC550 点以上相当の英語力がある学生を対象とし、学部留学で必要とされる TOEFL スコアを取得することを目指す。TOEFL のテスト形式に則って、各セクション（リスニング、文法、リーディング）の実践的な指導を行い、スキル向上を図る。また、ハイレベルな文献等を理解できるようにすることを目指して、さらなる語彙力強化も行いながら、4技能の総合的な英語力の向上に努める。	
		英語科目	TOEFL Preparation Advanced II	この授業科目は、TOEFL Preparation Advanced I に引き続き、さらに高度な英語力を身につけたい学生のための TOEFL 受験準備のための授業である。原則として TOEIC550 点以上相当の英語力がある学生を対象とし、学部留学に十分な TOEFL スコアを取得することを目指す。TOEFL のテスト形式に則って、各セクション（リスニング、文法、リーディング）の実践的な指導を行い、スキル向上に努める。また、高度でアカデミックな内容を英語で正しく理解できるようにすることを目指して、さらなる語彙力強化も行いながら、社会人として必要な4技能の総合的な英語力を身につける。	
全学共通科目	外国語	英語科目	IELTS Preparation Advanced I	この授業科目は、IELTS Preparation Introduction, Intermediate のレベルより高いスコアの取得、高度な英語力を身につけたい学生のための IELTS 受験準備と英語力向上のための授業である。原則として TOEIC550 点以上相当の英語力がある学生を対象とし、学部留学で必要とされる IELTS スコアを取得することを目指す。IELTS のテスト形式に則って、各セクション（リーディング・リスニング・ライティング・スピーキング）の実践的な指導を行い、各スキルの向上を図る。特に、留学先での日常生活・学生生活・授業参加に必要なコミュニケーション能力の向上を目指して、さらなる語彙力強化も行いながら、実用的な英語運用力の向上に努める。	
		英語科目	IELTS Preparation Advanced II	この授業科目は、IELTS Preparation Advanced I に引き続き、さらに高度な英語力を身につけたい学生のための IELTS 受験準備と英語力向上のための授業である。原則として TOEIC550 点以上相当の英語力がある学生を対象とし、学部留学に十分な IELTS スコアを取得することを目指す。IELTS のテスト形式に則って、各セクションの実践的な指導を行い、各スキルのさらなる向上を図る。特に、留学先での日常生活・学生生活・授業参加に必要な(理解力も含めた)コミュニケーション能力の向上を目指して、さらなる語彙力強化も行いながら、実用的な英語運用力の向上に努める。	
全学共通科目	外国語	英語科目	TOEIC Preparation Advanced	この授業科目は、主に TOEIC550 点以上の学生を対象とする。更に高度な英語力を身につけたい学生のために、TOEIC のテスト形式を理解していることを前提に、正確な英語の理解に重点をおきながら、各セクション（リスニングおよびリーディング）の指導を実践的に行う。コンピュータや情報通信ネットワークの活用を交えながら指導する。ただし、スコアアップのみならず、受講者それぞれが自律した英語学習法を確立し、受講後も英語力を伸ばせるよう指導する	

授 業 科 目 の 概 要

(経済学部経済数理学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
全学共通科目	外国語	英語科目	Media English	この授業科目では、時事問題ニュースを主な題材として、国内外の現況や社会的テーマについて英語で理解し、発信できる能力を養う。米国ABC World News, TIME, Newsweek などアメリカを中心とする海外の主要なメディアが発信するニュースを聞き、または読み、メディアで使用される特徴的な英語に慣れる訓練を行う。またこのような情報源から得られた内容について客観的な批評ができるようにメディアリテラシーを身につけ、批判的能力を養う。そして、自らも口頭または文章で時事問題に関する意見が述べられるようになることを目指す。	
	外国語	英語科目	Academic Listening	この授業科目は、英語4技能のうち、リスニング力を鍛える授業である。リスニングのコツを学び、様々な英語を聞いてその要旨や必要な情報を聴き取るスキルを身につける。特に留学先で講義を受けることを見据え、アカデミックな講義内容を聴き取るためのストラテジーや効果的なノートの取り方などについて実践的に学んでいく。さらには、TEDなどを適宜活用して、世界トップレベルの優れた講義に実際に触れることで、教養知識を深めることがねらいである。	
全学共通科目	外国語	英語科目	Cross Cultural Communication Skills	この授業科目では、異なる文化を有する人々とのコミュニケーションを円滑に行うスキルを学ぶ。ステレオタイプ、アイデンティティ・価値観の相違、言語・非言語コミュニケーション、カルチャーショックといった異文化交流の主要なテーマや問題点を学び、自文化と他文化を客観的に見つめる術を身につける。さらにはロールプレイなど実践的なアクティビティーを通して異文化適応能力を高める。また、世界における多様な文化に関する知識を深めることもこの科目のねらいである。	
	外国語	英語科目	Discussion & Presentation	この授業科目は、英語4技能のうち、スピーキング力を鍛える授業である。とりわけ英語によるディスカッションやプレゼンテーション能力を伸ばすことを目的とする。ディスカッションでは、アカデミックな議論において頻繁に使われる定型表現などを学び、実際にディスカッションをこなして実践力をつけていく。プレゼンテーションについては、基本構造、頻出表現、効果的なプレゼンテーションの仕方を学びつつ、自らもプレゼンテーションを行うことで発表力を養っていく。	
全学共通科目	外国語	英語科目	English for the Workplace	この授業科目は、グローバル化が進む世界の中で将来のキャリアにおいても役に立つ実践的なスキルを取得することを目的とする。メールを書く、アポをとる、履歴書やカバーレターを書く、面接を受ける、などといったフォーマルな場面やビジネスの場で必要とされる英語を学びながら、それぞれの強みや弱点について振り返り、今後のキャリアについて考える契機とする。その際、特に国際的なキャリアについても考えていく。	
	外国語	英語科目	Essay Writing	この授業科目は、英語4技能のうち、ライティング力を鍛える授業である。英語のエッセイ(小論文)の書き方を学び、自分の考えを英語で論理的に提示できるようにすることを目的とする。パラグラフの基本構造や書き方を復習しつつ、より長い小論文に取り組み、適切なトピックの選び方、アウトラインの作成、目的に合ったパラグラフの構成(比較、例示、説得、原因と結果など)や内容に合う文体(スタイル)、校正の仕方などを学ぶ。	
全学共通科目	外国語	英語科目	Intensive Reading	この授業科目は、英語4技能のうち、リーディング力を鍛える授業である。様々なリーディングのストラテジーなどを学び、アカデミックな内容の英文を読み込む力を身につける。論文や専門書など、実際に高度な内容の英文に取り組むと同時に、大量のリーディング課題を読みこなすコツを学ぶ。自分の専門分野の文献を実際に読んで、英語で専門知識を増やしていくことも、この科目のねらいである。	

授 業 科 目 の 概 要

(経済学部経済数理学科)

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目	外国語	英語科目	World Englishes	この授業科目は、グローバル社会における英語の多様性を理解し、アメリカ英語またはイギリス英語のみを基準とするのではなく、世界で使われている様々な英語に適応できる力を身につけることを目的とする。具体的には、イギリス、アメリカに加えアジア、ヨーロッパの国々をいくつか取り上げ、各英語方言の特徴について文献や映像音声資料などから学ぶと同時に、各国の言語事情や社会文化的背景についても理解を深めていく。さらには他国の事情を学ぶことで日本における英語学習についても理解を深める。なお、実践的に英語の多様性に親しむため、可能な範囲でゲストスピーカーを迎え、生の交流を体験する。	
		初修外国語科目	ドイツ語基礎A I	この授業科目は、初学者を対象に、ドイツ語圏（ドイツ・オーストリア・スイス）のさまざまな文化や多様な価値観に触れるために、初級ドイツ文法の基礎知識（話す・聞く・読む・書く）の習得および基本的な運用能力の養成を目的とする。このドイツ語基礎AIの授業では、主に文法の基礎的な内容に関する知識の修得し、発音やアクセントのルール、格変化、動詞の人称変化などを中心にドイツ語に特有の文法的特徴を押さえ、文の構造を理解できるようになることを目指す。また、ドイツ語圏の文化や生活習慣に触れながら基礎的な語彙や表現を身に付ける。並行して履修する「基礎BI」での実践練習に対応できる言語運用能力を養うとともに、次学期に履修する「基礎AII」に向けて発音や語形変化に慣れ親しむ。	
全学共通科目	外国語	初修外国語科目	ドイツ語基礎B I	この授業科目は、ドイツ語での会話・筆記・読解練習に重点を置き、「基礎AI」で学習した基本的な文法事項の習熟と定着を図るとともに、様々な日常生活のテーマを中心に、平易なドイツ語を聞く、読む、書く、話す練習を行い、基本的なコミュニケーション能力を養成することを目的とする。口頭練習を通してより自然な発音を身に付け、日常生活の様々な場面で必要な表現や、言語的背景的な知識も学びながら、話す・聞く・書く・読むの四技能をバランスよく伸ばす。それに平行して一つのヨーロッパの異文化を知り、新しい世界や考え方に会い、その面白さ楽しさを味わいながら手紙やメール等の作成や、ペアやグループでの会話を実際におこなうことで、実践的な力を高めていく。	
全学共通科目	外国語	初修外国語科目	フランス語基礎A I	この授業科目は、初学者を対象に、主にフランス語の文法の修得を通してフランス語圏の基本文化や価値観に触れること目的とする。日本語と異なる発音に留意しながら、ほぼ厳格に定められた発音の規則にまず慣れることから始めて、日常生活でも頻度の高い基本的な文法に関する知識の修得を目指しながら、フランス語圏の対人関係における基本的な約束事や独自の生活習慣に触れるための、基礎的な語彙を身に付けて表現力を養う。同時に履修する「基礎BI」でのより実践的な場面を想定した表現練習に対応できるように文法構造の正確な理解に基づく言語運用能力を高めるとともに、次学期に履修する「基礎AII」での学習に備えて、言語の文法的な特徴を理解する。	

授 業 科 目 の 概 要

(経済学部経済数理学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
全学共通科目	外国語	初修外国語科目	フランス語基礎B I	この授業科目は、日常生活でよく使用されるフランス語の表現を修得するための科目である。主に口頭による練習や、場面を設定しての役割に基づいて対話力を深めることを目指す。基本的な表現を学ぶうえでも、「基礎 AI」で学習した基本的な文法事項の習熟とそれを具体的に運用する力を伸ばすことを目指す。コミュニケーション能力の修得には、その文化の特殊性や日常生活での具体的な対人関係を考慮することが重要であり、それぞれの言語表現の文化的・社会的な背景についての知識も必要となる。そのうえで話す・聞く・書く・読むの四技能を相乗的に伸ばすことを目指す。日常的によく目にするような簡単な文章の読解や、利用頻度の高い単語や表現を使った会話練習を実際におこなうことで、対話能力を高めていく。	
		初修外国語科目	スペイン語基礎A I	この授業科目は、初学者を対象に、スペイン語圏の基本的な文化や価値観に触れるための基礎的語学力の養成を目的とする。発音やアクセントの仕組み、文字と発音の関係、名詞等の性数変化や直説法現在形の活用を中心にスペイン語に特有の文法的特徴を押さえ、文の構造を理解できるようになることを目指す。また、スペイン語圏の文化や生活習慣に触れながら基礎的な語彙や表現を身に付ける。並行して履修する「基礎 BI」での実践練習に対応できる言語運用能力を養うとともに、次学期に履修する「基礎 AII」に向けて発音や語形変化に慣れ親しむ。	
全学共通科目	外国語	初修外国語科目	スペイン語基礎B I	この授業科目は、スペイン語での会話・筆記・読解練習に重点を置き、「基礎 AI」で学習した基本的な文法事項(名詞等の性数変化、現在形の活用)の習熟と定着化を図るとともに、あいさつや自己紹介を始めとした基本的なコミュニケーション能力を養成することを目的とする。口頭練習を通してより自然な発音を身に付け、日常生活の様々な場面で必要な表現や、言語の背景的な知識も学びながら、話す・聞く・書く・読むの四技能をバランスよく伸ばす。手紙やメール等の作成や、ペアやグループでの会話を実際におこなうことで、実践的な力を高めていく。	
全学共通科目	外国語	初修外国語科目	中国語基礎A I	この授業科目は、初学者を対象に、中国語圏の基本的な文化や価値観に触れるための基礎的語学力の養成を目的とする。中国語の発音の仕組み、ピンインと四声、簡体字、基本語順などを押さえ、声調感覚の養成と文の構造を理解できるようになることを目指す。また、中国語圏の文化や生活習慣に触れながら基礎的な語彙や表現を身に付ける。並行して履修する「基礎 BI」での実践練習に対応できる言語運用能力を養うとともに、次学期に履修する「基礎 AII」に向けて発音の基礎を徹底的に身に付けていく。	
全学共通科目	外国語	初修外国語科目	中国語基礎B I	この授業科目は、中国語での会話練習に重点を置き、「基礎 AI」で学習した基本的な文法事項の習熟と定着化を図るとともに、基本的なコミュニケーション能力を養成することを目的とする。大量な発音練習を通してより自然な発音を身に付け、日常生活の様々な場面で必要な表現や、言語の背景的な知識も学びながら、話す・聞く・書く・読むの四技能をバランスよく伸ばす。基本文型に沿った短文の作成や、ペアやグループでの会話を実際におこなうことで、実践的な力を高めていく。	
全学共通科目	外国語	初修外国語科目	韓国語基礎A I	この授業科目は、初学者を対象にする。韓国語の文字と発音の仕組み、基本的な文法と文章の仕組みを学習することを目標とする。「基礎 BI」と並行して行う授業で、「基礎 BI」での実践練習に対応できる言語運用能力を養う。また、韓国語への理解を深めるために日本語と韓国語を比較するとともに、韓国語圏の文化・歴史・社会などの知識にも触れる。次学期に履修する「基礎 AII」での学習に備えて、韓国語の基礎的な特徴を概観的に理解する。	

授 業 科 目 の 概 要

(経済学部経済数理学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目	外国語	韓国語基礎B I	この授業科目は、韓国語の基本的な文法事項の習熟と定着化を図るとともに、基礎的な韓国語の語学力の養成することを目標とする。「基礎AI」で学習した基本的な文法事項と語彙を用いて練習する。具体的には、簡単な文章読解や作文、学習した単語を使った会話を練習することで、コミュニケーションに欠かせない言語の背景的な知識も学びながら話す・聞く・書く・読むという四技能をバランスよく伸ばすことを目指し、韓国語への理解を深めていく。	
	初修外国語科目			
全学共通科目	外国語	ドイツ語基礎A II	この授業科目は、「基礎AI」に引き続き、動詞の直説法過去、完了形、受動態、接続法を中心にドイツ語の基礎的語学力の養成を目的とする。「基礎AI」で学んだ発音の仕組み、格変化、動詞の人称変化等を復習しながら、未習の文法事項や日常生活に必要な基本的語彙および表現を修得することを目指す。並行して履修する「基礎BII」での実践練習に対応できる言語運用能力を養うとともに、学習を通してドイツ語圏の文化や社会に対する関心を深め、次の段階の学習につなげる。	
	初修外国語科目			
全学共通科目	外国語	ドイツ語基礎B II	この授業科目は、「基礎BI」に引き続き、ドイツ語の基本文法をベースに会話・筆記・読解練習をおこなうことで、ドイツ語の自然な表現を身に付けることを目的とする。「基礎AII」で学習した動詞を中心とする基本的な文法事項の習熟を図るとともに、日常生活に必要な語彙・表現を用いてコミュニケーション能力に磨きをかける。視聴覚教材やインターネットのニュースなどの時事的な情報等を通じて言語の背景的な知識も学びながら、話す・聞く・書く・読むの四技能をバランスよく伸ばすことを目指す。ペアやグループでの練習を通して言語に慣れ親しみ、次の段階の学習につなげる。	
	初修外国語科目			
全学共通科目	外国語	フランス語基礎A II	この授業科目は、「基礎AI」に引き続き、文法の観点からみたフランス語の基礎的語学力の養成を目的とする。「基礎AI」で学んだ発音の規則や、基本的な文法や文章構造に関する知識を復習しながら、未習の文法事項、基本的語彙および表現を修得することを目指す。並行して履修する「基礎BII」でのコミュニケーション能力の実践的な活用に対応できるように、正確な文法の理解をさらに深めていくとともに、フランス語圏の文化や社会に対する理解を、他の文化との比較対象なども交えながら深めていき、より高度な語学力を修得するための基本的なステップとしての重要な科目と位置付けられる。	
	初修外国語科目			
全学共通科目	外国語	フランス語基礎B II	この授業科目は、「基礎BI」に引き続き、日常生活での表現能力や対話能力を高めるためにフランス語の口頭練習を中心としながら基本的なフランス語の表現を修得することを目指す。「基礎AII」で学習した基本的な文法事項の習熟と定着化を図るとともに、基本的なコミュニケーション能力に加えて、自己の意見表明や、他者の表現に対する様々なリアクションの取り方なども含めて、対人関係を豊かにするための会話能力を育成する。コミュニケーションに欠かせない文化的、社会的な背景についても学びながら、話す・聞く・書く・読むの四技能を相互に高めていくことを目指す。日常生活での会話の基礎をなす主要メディアの文章表現などにもある程度親しみながら、より知的な文章の読解能力も習得しつつ、豊富な会話練習を通して言語と文化に慣れ親しみ、次のステップの学習につなげる。	
	初修外国語科目			

授 業 科 目 の 概 要

(経済学部経済数理学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
全学共通科目	外国語	初修外国語科目	スペイン語基礎A II	この授業科目は、「基礎 AI」に引き続き、動詞の直説法現在形を中心にスペイン語の基礎的語学力の養成を目的とする。「基礎 AI」で学んだ発音の仕組み、名詞等の性数変化、ser/estar 動詞の用法、規則活用等を復習しながら、未習の文法事項、特に不規則活用の動詞や gustar 型動詞、再帰動詞、日常生活に必要な基本的語彙および表現を修得することを目指す。並行して履修する「基礎 BII」での実践練習に対応できる言語運用能力を養うとともに、学習を通してスペイン語圏の文化や社会に対する関心を深め、次の段階の学習につなげる。	
		初修外国語科目	スペイン語基礎B II	この授業科目は、「基礎 BI」に引き続き、スペイン語の基本文法をベースに会話・筆記・読解練習をおこなうことで、スペイン語の自然な表現を身に付けることを目的とする。「基礎 AII」で学習した動詞の現在形および様々な応用表現 (gustar 型動詞、再帰動詞等) を中心とする基本的な文法事項の習熟を図るとともに、日常生活に必要な語彙・表現を用いてコミュニケーション能力に磨きをかける。視聴覚教材等を通じて言語の背景的な知識も学びながら、話す・聞く・書く・読むの四技能をバランスよく伸ばすことを目指す。ペアやグループでの練習を通して言語に慣れ親しみ、次の段階の学習につなげる。	
全学共通科目	外国語	初修外国語科目	中国語基礎A II	この授業科目は、「基礎 AI」に引き続き、声調感覚の養成と基本文型の習得を目的とする。「基礎 AI」で学んだピンインと声調、動詞述語文、形容詞述語文、助動詞「想」、数詞、助数詞等を復習しながら、未習の文法事項、「有」/「在」、完了と変化の「了」、前置詞等日常生活に必要な基本的語彙および表現を修得することを目指す。並行して履修する「基礎 BII」での実践練習に対応できる言語運用能力を養うとともに、学習を通して中国語圏の文化や社会に対する関心を深め、次の段階の学習につなげる。	
		初修外国語科目	中国語基礎B II	この授業科目は、「基礎 BI」に引き続き、中国語の基本文法をベースに会話練習をおこなうことで、中国語の自然な表現を身に付けることを目的とする。「基礎 AII」で学習した基本文型の習熟を図るとともに、日常生活に必要な語彙・表現を用いてコミュニケーション能力に磨きをかける。視聴覚教材等を通じて言語の背景的な知識も学びながら、話す・聞く・書く・読むの四技能をバランスよく伸ばすことを目指す。ペアやグループでの練習を通して言語に慣れ親しみ、次の段階の学習につなげる。	
全学共通科目	外国語	初修外国語科目	韓国語基礎A II	この授業科目は、「基礎 AI」に引き続き、韓国語の文法と文章の仕組み、より自然な韓国語の表現を学習することを目標とする。並行して履修する「基礎 BII」での実践練習に対応できる言語運用能力を養う。具体的には、韓国語の語尾変化と不規則変化を作文と会話の練習を通じて定着させる。より自然な表現を身につけるために、視聴覚教材を用いて韓国語圏の文化や社会に対する理解を深める。次の段階として用意されている演習科目での継続学習につなげる。	
		初修外国語科目	韓国語基礎B II	この授業科目は、「基礎 BI」に引き続き、「基礎 AII」で学習した文法事項と語彙を用いてより自然な表現を身につけることを目標とする。基本的な文法事項の習熟と定着化を図るとともに、基本的なコミュニケーション能力を養成する。具体的には、韓国で使われている表現を中心に学習するとともに、視聴覚教材を用いて表現の差異を学び、韓国語への理解も深めていく。ある程度まとまった文章読解や作文、会話練習を通して韓国語に慣れ親しみ、次の段階の学習につなげる。	

授 業 科 目 の 概 要

(経済学部経済数理学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目	外国語	初修外国語科目 ドイツ語演習コミュニケーションⅠ	この授業科目は、ドイツ語の入門レベルの会話能力の養成を目指す。格変化や人称変化の活用練習を中心に、ヨーロッパ共通言語参照枠の A1~A2 レベルの名詞、形容詞等の基本語彙を用いて様々な日常会話に対応できる力を身に付ける。家庭、交友、学校、余暇、旅行等、場面ごとに必要な表現を実際に使えるようにペアやグループで練習をおこない、正確な発音およびリスニングの力を身に付ける。同時に、適宜インターネットや視聴覚教材の視聴を通して、ドイツ語圏の多様な文化や生活習慣にも慣れ親しむ。	
		初修外国語科目 ドイツ語演習コミュニケーションⅡ	この授業科目は、「コミュニケーションⅠ」の継続科目として、ドイツ語の入門レベルの会話能力の養成を目指す。引き続き、格変化や人称変化の活用練習を中心に、様々な場面を想定してペアやグループで練習をおこなう。正確な発音およびリスニングの力を伸ばしつつ、ある程度まとまった内容の会話ができるようになる。インターネットや視聴覚教材の視聴を通して、ドイツ語圏の文化に触れるとともに、少しずつ自然なドイツ語のスピードにも慣れる機会とする。	
全学共通科目	外国語	初修外国語科目 ドイツ語演習コミュニケーションⅢ	この授業科目は、「コミュニケーションⅡ」の継続科目として、ドイツ語のヨーロッパ共通言語参照枠の A2~B1 レベルの会話能力の養成を目指す。学習する文法の範囲としては、直説法過去、完了形、受動態、接続法までとし、日常生活に必要な表現力や語彙力を修得する。また発音やリスニング、自然な言い回しにも重点を置く。さらに、インターネットや視聴覚教材の視聴を通して、政治・経済に関するテーマや文化に関するテーマ、あるいはドイツの地域的な違いなどにも関心を向ける。	
		初修外国語科目 ドイツ語演習コミュニケーションⅣ	この授業科目は、「コミュニケーションⅢ」の継続科目として、ドイツ語のヨーロッパ共通言語参照枠の A2~B1 レベルの会話能力の養成を目指す。直説法過去、完了形、受動態、接続法までを範囲とし、過去、現在、未来の出来事について、ある程度まとまった会話ができるようになることを目指す。合わせて、テーマごとに必要な表現や語彙を修得する。正確な発音や自然な言い回し、会話をスムーズにする様々な表現やしぐさにも注目していく。同時に、インターネットや視聴覚教材の視聴を通して、ドイツ語圏の人々の価値観に対する理解を深める。	
全学共通科目	外国語	初修外国語科目 ドイツ語演習コミュニケーションⅤ	この授業科目は、「コミュニケーションⅣ」の継続科目として、ドイツ語のヨーロッパ共通言語参照枠の B1 レベルの会話能力の養成を目指す。接続法までを範囲とし、依頼、願望、仮定、婉曲等のやや複雑な表現も織り込んで会話ができるようになることを目指す。正確な発音や自然な言い回し、インフォーマルな場面とフォーマルな場面における表現の違い等を学ぶ。同時に、インターネットや視聴覚教材の視聴を通して、ドイツ語圏の人々の会話でのマナーに対する理解を深める。	
		初修外国語科目 フランス語演習コミュニケーションⅠ	この授業科目は、フランス語の初学者を対象に、ごく入門程度の会話能力の養成を目指す。初歩の日常会話でよく使われる基本的な表現に重点をおき、実際に使えるようにペアやグループで練習をおこなう。原則としてネイティブスピーカーの教員の指導の下、正確な発音を学びながら、特定の場面における定型の会話表現の運用を身に付ける。同時に、フランス語圏の多様な文化や生活習慣にも触れる機会とするため、適宜ビデオや CD 等の視聴を通して理解を深める。	

授 業 科 目 の 概 要

(経済学部経済数理学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目	外国語	初修外国語科目	フランス語演習コミュニケーションⅡ	この授業科目は、「コミュニケーションⅠ」の継続科目として、フランス語の初級程度の会話能力の養成を目指す。旅行等で使える基本的な表現に重点をおき、基礎会話を復習しつつペアやグループで練習をおこなう。原則としてネイティブスピーカーの教員の指導の下、正確な発音を学びながら、特定の場面における定型の会話表現の運用を身に付ける。同時に、フランス語圏の多様な文化や生活習慣にも触れる機会とするため、適宜ビデオや CD 等の視聴を通して理解を深める。
	外国語	初修外国語科目	フランス語演習コミュニケーションⅢ	この授業科目は、「コミュニケーションⅡ」の継続科目として、フランス語の初級～中級程度の会話能力の養成を目指す。ペアやグループで練習しながら、日常生活で不自由しない程度の表現力や語彙力を修得する。原則としてネイティブスピーカーの教員の指導の下、正確な発音や自然な言い回し、特定の場面における定型の会話表現の運用を身に付ける。同時に、フランス語圏の多様な文化や生活習慣にも触れる機会とするため、適宜ビデオや CD 等の視聴を通して理解を深める。
全学共通科目	外国語	初修外国語科目	フランス語演習コミュニケーションⅣ	この授業科目は、「コミュニケーションⅢ」の継続科目として、フランス語の中級程度の会話能力の養成を目指す。ペアやグループで練習しながら、日常生活で不自由しない程度の表現力や語彙力を修得する。原則としてネイティブスピーカーの教員の指導の下、正確な発音や自然な言い回し、特定の場面における定型の会話表現の運用を身に付ける。同時に、フランス語圏の多様な文化や生活習慣にも触れる機会とするため、適宜ビデオや CD 等の視聴を通して理解を深める。
	外国語	初修外国語科目	フランス語演習コミュニケーションⅤ	この授業科目は、「コミュニケーションⅣ」の継続科目として、フランス語の中級～上級程度の会話能力の養成を目指す。ペアやグループで練習しながら、幅広いテーマの会話に対応できる表現力や語彙力を修得する。原則としてネイティブスピーカーの教員の指導の下、正確な発音や自然な言い回し、特定の場面における定型の会話表現の運用を身に付ける。同時に、フランス語圏の多様な文化や生活習慣にも触れる機会とするため、適宜ビデオや CD 等の視聴を通して理解を深める。
全学共通科目	外国語	初修外国語科目	スペイン語演習コミュニケーションⅠ	この授業科目は、スペイン語の入門レベルの会話能力の養成を目指す。動詞 <i>ser / estar</i> 、規則活用直説法現在形を中心に、名詞、形容詞等の基本語彙を用いて様々な日常会話に対応できる力を身に付ける。家庭、交友、学校、余暇、旅行等、場面ごとに必要な表現を実際に使えるようにペアやグループで練習をおこなう。原則としてネイティブスピーカーの教員の指導の下、正確な発音およびリスニングの力を身に付ける。同時に、適宜ビデオや CD 等の視聴を通して、スペイン語圏の多様な文化や生活習慣にも慣れ親しむ。
			スペイン語演習コミュニケーションⅡ	この授業科目は、「コミュニケーションⅠ」の継続科目として、スペイン語の入門レベルの会話能力の養成を目指す。引き続き、直説法現在形の練習を中心に基本語彙を身に付けながら、様々な場面を想定してペアやグループで練習をおこなう。原則としてネイティブスピーカーの教員の指導の下、正確な発音およびリスニングの力を伸ばしつつ、ある程度まとまった内容の会話ができるようにする。CD やビデオ等の視聴を通じてスペイン語圏の文化に触れるとともに、少しずつ自然なスペイン語のスピードにも慣れる機会とする。

授 業 科 目 の 概 要

(経済学部経済数理学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目	外国語	初修外国語科目	スペイン語演習コミュニケーションⅢ	この授業科目は、「コミュニケーションⅡ」の継続科目として、スペイン語の初級～中級程度の会話能力の養成を目指す。直説法点過去、線過去、現在完了までを範囲とし、過去の描写も含め、日常生活に必要な表現力や語彙力を修得する。原則としてネイティブスピーカーの教員の指導の下、発音やリスニング、自然な言い回しにも重点を置く。また、ビデオやCD等の視聴を通して世界各地のスペイン語の地理的変異(特に語彙や発音の違い)にも関心を向ける。
		初修外国語科目	スペイン語演習コミュニケーションⅣ	この授業科目は、「コミュニケーションⅢ」の継続科目として、スペイン語の中級程度の会話能力の養成を目指す。直説法の時制全般を範囲とし、過去、現在、未来の出来事について、ある程度まとまった会話ができるようになることを目指す。合わせて、テーマごとに必要な表現や語彙を修得する。原則としてネイティブスピーカーの教員の指導の下、正確な発音や自然な言い回し、会話をスムーズにする様々な表現やジェスチャーにも注目していく。同時に、ビデオ等の視聴を通してスペイン語圏の人々の価値観に対する理解を深める。
全学共通科目	外国語	初修外国語科目	スペイン語演習コミュニケーションⅤ	この授業科目は、「コミュニケーションⅣ」の継続科目として、スペイン語の中級～上級程度の会話能力の養成を目指す。接続法までを範囲とし、依頼、願望、仮定、婉曲等のやや複雑な表現も織り込んで会話ができるようになることを目指す。原則としてネイティブスピーカーの教員の指導の下、正確な発音や自然な言い回し、インフォーマルな場面とフォーマルな場面における表現の違い等を学ぶ。同時に、ビデオ等の視聴を通してスペイン語圏の人々の会話でのマナーに対する理解を深める。
全学共通科目	外国語	初修外国語科目	中国語演習コミュニケーションⅠ	この授業科目は、中国語の入門レベルの会話能力の養成を目指す。ピンイン、声調、基本語順を中心に、基本文型を用いたパターン練習を重ねることにより、様々な日常会話に対応できる力を身に付ける。挨拶、自己紹介ができることを目標とする。原則としてネイティブスピーカーの教員の指導の下、正確な発音およびリスニングの力を身に付ける。同時に、適宜ビデオやCD等の視聴を通して、中国語圏の多様な文化や生活習慣にも慣れ親しむ。
全学共通科目	外国語	初修外国語科目	中国語演習コミュニケーションⅡ	この授業科目は、「コミュニケーションⅠ」の継続科目として、中国語の入門レベルの会話能力の養成を目指す。引き続き、声調感覚の養成を中心に、基本文型を身に付けながら、買い物など旅行の際に必要な表現を話せるようペアやグループで練習を重ねる。原則としてネイティブスピーカーの教員の指導の下、正確な発音およびリスニングの力を伸ばしつつ、ある程度まとまった内容の会話ができるようにする。CDやビデオ等の視聴を通じて中国語圏の多様な文化や生活習慣にも慣れ親しむ。
全学共通科目	外国語	初修外国語科目	中国語演習コミュニケーションⅢ	この授業科目は、「コミュニケーションⅡ」の継続科目として、中国語の初級～中級程度の会話能力の養成を目指す。中華料理店で注文、会計、中国人店員に声掛けができるようペアやグループで練習を重ねる。原則としてネイティブスピーカーの教員の指導の下、発音やリスニング、自然な言い回しにも重点を置く。また、中国語圏の多様な文化や生活習慣にも触れる機会とするため、ビデオやCD等の視聴を通して中国の伝統文化やポップカルチャーにも関心を向ける。

授 業 科 目 の 概 要

(経済学部経済数理学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目	外国語	初修外国語科目 中国語演習コミュニケーションⅣ	この授業科目は、「コミュニケーションⅢ」の継続科目として、中国語の中級程度の会話能力の養成を目指す。身近な場面での活用も視野に入れ、日本に来た中国人観光客に声掛け、案内ができるようペアやグループで練習を重ねる。原則としてネイティブスピーカーの教員の指導の下、正確な発音や自然な言い回し、会話をスムーズにする様々な表現やしぐさにも注目していく。同時に、視聴覚教材を用いて中国語圏の人々の価値観に対する理解を深める。	
		初修外国語科目 中国語演習コミュニケーションⅤ	この授業科目は、「コミュニケーションⅣ」の継続科目として、中国語の中級～上級程度の会話能力の養成を目指す。アパレル業界、飲食店、役所など様々なアルバイト先、就職先において中国人従業員及び中国人客とスムーズにコミュニケーションできる程度の中国語能力を身につけることを目標とする。原則としてネイティブスピーカーの教員の指導の下、正確な発音や自然な言い回しを修得する。同時に、視聴覚教材を用いて中国語圏の人々の価値観に対する理解を深める。	
全学共通科目	外国語	初修外国語科目 韓国語演習コミュニケーションⅠ	この授業科目は、韓国語の初学者を対象に、挨拶、自己紹介などの会話ができることを目標とする。初歩の日常会話でよく使われる基本的な表現を学び、ペアやグループで練習をおこなう。韓国語は日本語と類似点が多いため、より早く実践力を身につけるように繰り返し練習する。韓国語圏の多様な文化や生活習慣にも触れる機会も設けるとともに、原則としてネイティブスピーカーの教員の指導の下、正確な発音を学びながら特定の場面における会話を学習する。	
		初修外国語科目 韓国語演習コミュニケーションⅡ	この授業科目は、「コミュニケーションⅠ」の継続科目として、旅行、買い物ができる程度の会話能力の養成をすることを目標とする。基礎会話と文法を復習しつつペアやグループで繰り返し練習をおこなう。韓国語圏の多様な文化や生活習慣にも触れる機会も設けるとともに、視聴覚教材を用いて特定の場所における定型の会話表現を身に付ける、原則としてネイティブスピーカーの教員の指導の下、正確な発音や自然な言い回しを修得することを旨とする。	
全学共通科目	外国語	初修外国語科目 韓国語演習コミュニケーションⅢ	この授業科目は、「コミュニケーションⅡ」の継続科目として、電話、注文などの状況で話せる程度の会話能力の養成することを目標とする。ペアやグループで練習しながら、日常生活でよく使う表現や語彙を学習する。韓国語圏の多様な文化や生活習慣にも触れる機会も設けるとともに、原則としてネイティブスピーカーの教員の指導の下、正確な発音や自然な言い回しを修得する。視聴覚教材を用いて特定の場所における定型の会話表現を身に付ける。	
		初修外国語科目 韓国語演習コミュニケーションⅣ	この授業科目は、「コミュニケーションⅢ」の継続科目として、要請、招待ができる程度の会話能力の養成することを目標とする。ペアやグループで練習しながら、日常生活でよく使う表現や語彙を学習する。韓国語圏の多様な文化や生活習慣にも触れる機会も設けるとともに、原則としてネイティブスピーカーの教員の指導の下、正確な発音や自然な言い回しを修得する。視聴覚教材を用いて特定の場所における定型の会話表現を身に付ける。	
全学共通科目	外国語	初修外国語科目 韓国語演習コミュニケーションⅤ	この授業科目は、「コミュニケーションⅣ」の継続科目として、発表ができる程度の会話能力の養成することを目標とする。ペアやグループで練習しながら、幅広いテーマの会話に対応できる表現力や語彙力を修得する。韓国語圏の多様な文化や生活習慣にも触れる機会も設けるとともに、原則としてネイティブスピーカーの教員の指導の下、正確な発音や自然な言い回しを修得する。視聴覚教材を用いて特定の場所における定型の会話表現を身に付ける。	

授 業 科 目 の 概 要

(経済学部経済数理学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
全学共通科目	外国語	初修外国語科目	ドイツ語演習言語と文化Ⅰ	この授業科目は、「基礎 AI, AII, BI, BII」での学習をもとに、ドイツ語の初級～中級レベルの文法の修得および総合的な運用力の向上を目標とする。現在形を中心とした基礎文法を復習しながら、未習の文法事項(特に直説法の過去時制、複合時制等)を体系的に学ぶ。ドイツ語圏を扱ったコラムや、手紙、日記等の読み書き、またその発表を通じて、「話す・聞く・書く・読む」能力をさらに高め、より豊かな表現法や語彙を身に付ける。同時に、視聴覚教材の活用を通してドイツ語圏の文化や社会に対する理解を深め、多面的な分析を加えることも目指す。	
		初修外国語科目	ドイツ語演習言語と文化Ⅱ	この授業科目は、「言語と文化Ⅰ」での学習をもとに、ドイツ語の中級レベルの文法の修得および総合的な運用力の向上を目標とする。過去形を含む基礎文法を復習しながら、未習の文法事項(特に直説法の未来時制および従属節や関係節を用いた複文)を体系的に学ぶ。初学者向けの小説、コラム、手紙や物語等の読み書き、またその発表を通じて、「話す・聞く・書く・読む」能力をさらに高め、より豊かな表現法や語彙を身に付ける。同時に、視聴覚教材の活用を通してドイツ語圏の文化や社会に対する理解を深め、多面的な分析を加えることも目指す。	
		初修外国語科目	ドイツ語演習言語と文化Ⅲ	この授業科目は、「言語と文化Ⅱ」での学習をもとに、ドイツ語の中級～上級レベルの文法の修得および総合的な運用力の向上を目標とする。直説法を中心に基礎文法を復習しながら、未習の文法事項(特に接続法現在、命令法)を体系的に学ぶ。少しずつ生の素材(新聞、小説、エッセイ等)の講読に取り組み、感想文の作成や発表を通じて、「話す・聞く・書く・読む」能力をさらに高め、より豊かな表現法や語彙を身に付ける。同時に、視聴覚教材の活用を通してドイツ語圏の文化や社会に対する理解を深め、多面的な分析を加えることも目指す。	
		初修外国語科目	ドイツ語演習言語と文化Ⅳ	この授業科目は、「言語と文化Ⅲ」での学習をもとに、ドイツ語の上級レベルの文法の修得および総合的な運用力の向上を目標とする。直説法全般を復習しながら、接続法の時制を一通りマスターし、文法を体系的に修得することを目指す。小説等のまとまった分量の講読にもチャレンジし、簡単なレポートの作成や発表を通じて、「話す・聞く・書く・読む」能力をさらに高め、より豊かな表現法や語彙を身に付ける。同時に、視聴覚教材の活用を通してドイツ語圏の文化や社会に対する理解を深め、多面的な分析を加えることも目指す。	
全学共通科目	外国語	初修外国語科目	フランス語演習言語と文化Ⅰ	この授業科目は、「基礎 AI, AII, BI, BII」での学習を受け、フランス語の初級～中級レベルの文法の修得および総合的な運用力の向上を目標とする。基礎文法を復習しながら、未習の文法事項を体系的に学ぶ。簡単な文章の読み書きやディスカッションを通じて、「話す・聞く・書く・読む」能力をさらに高め、より豊かな表現法や語彙を身に付ける。同時に、講読や視聴覚教材の活用を通してフランス語圏の文化や社会に対する理解を深め、多面的な分析を加えることも目指す。	
		初修外国語科目	フランス語演習言語と文化Ⅱ	この授業科目は、「言語と文化Ⅰ」での学習を受け、フランス語の中級レベルの文法の修得および総合的な運用力の向上を目標とする。基礎文法を復習しながら、未習の文法事項を体系的に学ぶ。簡単な文章の読み書きやディスカッションを通じて、「話す・聞く・書く・読む」能力をさらに高め、より豊かな表現法や語彙を身に付ける。同時に、講読や視聴覚教材の活用を通してフランス語圏の文化や社会に対する理解を深め、多面的な分析を加えることも目指す。	

授 業 科 目 の 概 要

(経済学部経済数理学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目	外国語	初修外国語科目	フランス語演習言語と文化 III	この授業科目は、「言語と文化 II」での学習を受け、フランス語の中級～上級レベルの文法の修得および総合的な運用力の向上を目標とする。基礎文法を復習しながら、未習の文法事項を体系的に学ぶ。ややまとまった分量の文章の読み書きやディスカッションを通じて、「話す・聞く・書く・読む」能力をさらに高め、より豊かな表現法や語彙を身に付ける。同時に、講読や視聴覚教材の活用を通してフランス語圏の文化や社会に対する理解を深め、多面的な分析を加えることも目指す。
		初修外国語科目	フランス語演習言語と文化 IV	この授業科目は、「言語と文化 III」での学習を受け、フランス語の上級レベルの文法の修得および総合的な運用力の向上を目標とする。基礎文法を復習しながら、未習の文法事項を体系的に学ぶ。ややまとまった分量の文章の読み書きやディスカッションを通じて、「話す・聞く・書く・読む」能力をさらに高め、より豊かな表現法や語彙を身に付ける。同時に、講読や視聴覚教材の活用を通してフランス語圏の文化や社会に対する理解を深め、多面的な分析を加えることも目指す。
全学共通科目	外国語	初修外国語科目	スペイン語演習言語と文化 I	この授業科目は、「基礎 AI, AII, BI, BII」での学習をもとに、スペイン語の初級～中級レベルの文法の修得および総合的な運用力の向上を目標とする。現在形を中心とした基礎文法を復習しながら、未習の文法事項（特に直説法の過去時制、複合時制等）を体系的に学ぶ。スペイン語圏を扱ったコラムや、手紙、日記等の読み書き、またその発表を通じて、「話す・聞く・書く・読む」能力をさらに高め、より豊かな表現法や語彙を身に付ける。同時に、視聴覚教材の活用を通してスペイン語圏の文化や社会に対する理解を深め、多面的な分析を加えることも目指す。
		初修外国語科目	スペイン語演習言語と文化 II	この授業科目は、「言語と文化 I」での学習をもとに、スペイン語の中級レベルの文法の修得および総合的な運用力の向上を目標とする。過去形を含む基礎文法を復習しながら、未習の文法事項（特に直説法の未来時制および従属節や関係節を用いた複文）を体系的に学ぶ。初学者向けの小説、コラム、手紙や物語等の読み書き、またその発表を通じて、「話す・聞く・書く・読む」能力をさらに高め、より豊かな表現法や語彙を身に付ける。同時に、視聴覚教材の活用を通してスペイン語圏の文化や社会に対する理解を深め、多面的な分析を加えることも目指す。
全学共通科目	外国語	初修外国語科目	スペイン語演習言語と文化 III	この授業科目は、「言語と文化 II」での学習をもとに、スペイン語の中級～上級レベルの文法の修得および総合的な運用力の向上を目標とする。直説法を中心に基礎文法を復習しながら、未習の文法事項（特に接続法現在、命令法）を体系的に学ぶ。少しずつ生の素材（新聞、小説、エッセイ等）の講読に取り組み、感想文の作成や発表を通じて、「話す・聞く・書く・読む」能力をさらに高め、より豊かな表現法や語彙を身に付ける。同時に、視聴覚教材の活用を通してスペイン語圏の文化や社会に対する理解を深め、多面的な分析を加えることも目指す。
		初修外国語科目	スペイン語演習言語と文化 IV	この授業科目は、「言語と文化 III」での学習をもとに、スペイン語の上級レベルの文法の修得および総合的な運用力の向上を目標とする。直説法全般を復習しながら、接続法の時制を一通りマスターし、文法を体系的に修得することを目指す。小説等のまとまった分量の講読にもチャレンジし、簡単なレポートの作成や発表を通じて、「話す・聞く・書く・読む」能力をさらに高め、より豊かな表現法や語彙を身に付ける。同時に、視聴覚教材の活用を通してスペイン語圏の文化や社会に対する理解を深め、多面的な分析を加えることも目指す。

授 業 科 目 の 概 要

(経済学部経済数理学科)

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目	外国語	初修外国語科目	中国語演習言語と文化Ⅰ	この授業科目は、「基礎 AI, AII, BI, BII」での学習をもとに、中国語の初級～中級レベルの文法の復習および総合的な運用力の向上を主要な目標とする。これまでに学習した基礎的な文法事項を復習しながら、未習の文法事項、特に方向補語、様態補語、結果補語等を学ぶ。さらに言語以外の内容、たとえば中国語圏の文化を扱ったコラムや、手紙等の読み書き、またその発表を通じて、「話す・聞く・書く・読む」能力をさらに高め、より豊かな表現法や語彙、文化的な内容を含んだ中国語能力を身に付ける。同時に、視聴覚教材の活用を通して中国語圏の文化や社会に対する理解を深め、多面的な視座から中国語圏を捉えることも目指す。	
		初修外国語科目	中国語演習言語と文化Ⅱ	この授業科目は、「言語と文化Ⅰ」での学習をもとに、中国語の初級～中級レベルの文法の定着および総合的な運用力の向上を主要な目標とする。これまでに学習した基礎文法を復習しながら、未習の文法事項、特に複合方向補語、可能補語等を学ぶ。さらに言語以外の内容、たとえば中国語圏の文化を扱ったコラムや、新聞等の読み書き、またその発表を通じて、「話す・聞く・書く・読む」能力をさらに高め、より豊かな表現法や語彙、文化的な内容を含んだ中国語能力を身に付ける。同時に、視聴覚教材の活用を通して中国語圏の文化や社会に対する理解を深め、多面的な視座から中国語圏を捉えることも目指す。	
全学共通科目	外国語	初修外国語科目	中国語演習言語と文化Ⅲ	この授業科目は、「言語と文化Ⅱ」での学習をもとに、中国語の中級～上級レベルの文法の修得および総合的な運用力の向上を目標とする。これまでに学習した文法事項を復習しながら、未習の文法事項だけでなく、文語的な表現、たとえば諺のような成語や故事成語を体系的に学ぶ。特にオーセンティックな教材(新聞、小説、エッセイ、コラム等)の講読に取り組み、簡単な作文や発表を通じて、「話す・聞く・書く・読む」能力をさらに高め、より豊かな表現法や語彙を身に付ける。同時に、視聴覚教材の活用を通して中国語圏の文化や社会にも目を向け、多面的な視座から中国語圏を捉えることも目指す。	
		初修外国語科目	中国語演習言語と文化Ⅳ	この授業科目は、「言語と文化Ⅲ」での学習をもとに、中国語の上級レベルの文法の修得および総合的な運用力の向上を目標とする。これまでの学習事項を復習しながら、基本的な文法事項を一通りマスターすることを目指す。簡単な小説、新聞等の講読にも挑戦し、レポートの作成や発表を通じて、「話す・聞く・書く・読む」能力をさらに高め、より豊かな表現法や語彙を身に付ける。中国語において諺のような成語や故事成語は極めて重要となるため、文語的表現の能力を身につけることも視野に置く。同時に、視聴覚教材の活用を通して中国語圏の文化や社会に対する理解を深め、多面的な分析を加えることも目指す。	
全学共通科目	外国語	初修外国語科目	韓国語演習言語と文化Ⅰ	この授業科目は、「基礎 AI, AII, BI, BII」での学習を受け、韓国語の準中級レベルの文法の修得および読む・書く・話す・聞くという言語の基本的な機能を総合的に運用できる力を向上させることを目標とする。基礎文法を復習しながら、より高いレベルの文法を体系的に学ぶ。韓国の文化や社会に関する視聴覚教材などを活用することで、多様な文章の表現を学習するとともに多面的な分析を加えることを目指す。これにより、韓国語圏の多様な文化や生活習慣についても理解を深める。	

授 業 科 目 の 概 要

(経済学部経済数理学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目	外国語	初修外国語科目	韓国語演習言語と文化Ⅱ	この授業科目は、「言語と文化Ⅰ」での学習を受け、韓国語の中級レベルの文法の修得および読む・書く・話す・聞くという言語の基本的な機能を総合的に運用できる力を向上させることを目標とする。基礎文法を復習しながら、より高いレベルの文法を体系的に学ぶ。韓国の文化や社会に関する視聴覚教材などを活用することで、多様な文章の表現を学習するとともに多面的な分析を加えることを目指す。これにより、韓国語圏の多様な文化や生活習慣についても理解を深める。
		初修外国語科目	韓国語演習言語と文化Ⅲ	この授業科目は、「言語と文化Ⅱ」での学習を受け、韓国語の準上級レベルの文法の修得および読む・書く・話す・聞くという言語の基本的な機能を総合的に運用できる力を向上させることを目標とする。基礎文法を復習しながら、より高いレベルの文法を体系的に学ぶ。韓国の文化や社会に関する視聴覚教材などを活用することで、多様な文章の表現を学習するとともに多面的な分析を加えることを目指す。これにより、韓国語圏の多様な文化や生活習慣についても理解を深める。
全学共通科目	外国語	初修外国語科目	韓国語演習言語と文化Ⅳ	この授業科目は、「言語と文化Ⅲ」での学習を受け、韓国語の上級レベルの文法の修得および読む・書く・話す・聞くという言語の基本的な機能を総合的に運用できる力を向上させることを目標とする。基礎文法を復習しながら、より高いレベルの文法を体系的に学ぶ。韓国の文化や社会に関する視聴覚教材などを活用することで、多様な文章の表現を学習するとともに多面的な分析を加えることを目指す。これにより、韓国語圏の多様な文化や生活習慣についても理解を深める。
全学共通科目	外国語	初修外国語科目	ドイツ語演習検定対策Ⅰ	この授業科目は、ドイツ語のこれまでの学習を踏まえて、検定試験の受験を目指す学生を対象とする。ドイツ語技能検定および Goethe zertifikat を範囲とするが、特にドイツ語技能検定 4 級、Goethe zertifikat A1 程度のレベルの復習から始め、各自に合った目標設定をおこなった後、検定試験の特徴と傾向を分析し、目標レベルの合格に必要な実力を付ける。長文読解、聞き取り、面接等に対応できるよう様々な応用練習に取り組み、出題傾向に慣れていく。適宜、模擬試験もおこない実際の試験に備える。
全学共通科目	外国語	初修外国語科目	ドイツ語演習検定対策Ⅱ	この授業科目は、ドイツ語のこれまでの学習を踏まえて、検定試験の受験を目指す学生を対象とする。ドイツ語技能検定および Goethe zertifikat を範囲とするが、特にドイツ語技能検定 3 級、Goethe zertifikat A1~A2 程度のレベルの復習から始め、各自に合った目標設定をおこなった後、検定試験との特徴と傾向を分析し、目標レベルの合格に必要な実力を付ける。長文読解、聞き取り、面接等に対応できるよう様々な応用練習に取り組み、出題傾向に慣れていく。適宜、模擬試験もおこない実際の試験に備える。
全学共通科目	外国語	初修外国語科目	ドイツ語演習検定対策Ⅲ	この授業科目は、ドイツ語のこれまでの学習を踏まえて、検定試験の受験を目指す学生を対象とする。ドイツ語技能検定および Goethe zertifikat を範囲とするが、特にドイツ語技能検定準 2 級程度、Goethe zertifikat A2 程度のレベルの文法を復習しながら、各自に合った目標設定をおこなった後、検定試験の特徴と傾向を分析し、目標レベルの合格に必要な実力を付ける。長文読解、聞き取り、面接等に対応できるよう様々な応用練習に取り組み、出題傾向に慣れていく。適宜、模擬試験もおこない実際の試験に備える。

授 業 科 目 の 概 要

(経済学部経済数理学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
全学共通科目	外国語	初修外国語科目	ドイツ語演習検定対策Ⅳ	この授業科目は、ドイツ語のこれまでの学習を踏まえて、検定試験の受験を目指す学生を対象とする。ドイツ語技能検定および Goethe zertifikat を範囲とするが、特にドイツ語技能検定 2 級程度、Goethe zertifikat B1 程度のレベルの文法を復習しながら、各自に合った目標設定をおこなった後、検定試験の特徴と傾向を分析し、目標レベルの合格に必要な実力を付ける。長文読解、聞き取り、面接等に対応できるよう様々な応用練習に取り組み、出題傾向に慣れていく。適宜、模擬試験もおこない実際の試験に備える。	
		初修外国語科目	フランス語演習検定対策Ⅰ	この授業科目は、フランス語のこれまでの学習を踏まえて、初級～中級レベルの検定試験の受験を目指す学生を対象とする。各自に合った目標設定をおこなった後、検定試験の特徴と傾向を分析し、目標レベルの合格に必要な実力を付ける。そのために前提となる文法を復習しながら、過去に出題された問題等を解いて出題傾向に慣れていく。長文読解、聞き取り、面接等に対応できるよう様々な応用練習に取り組み。適宜、模擬試験もおこない実際の試験に備える。	
全学共通科目	外国語	初修外国語科目	フランス語演習検定対策Ⅱ	この授業科目は、フランス語のこれまでの学習を踏まえて、中級レベルの検定試験の受験を目指す学生を対象とする。各自に合った目標設定をおこなった後、検定試験との特徴と傾向を分析し、目標レベルの合格に必要な実力を付ける。そのために前提となる文法を復習しながら、過去に出題された問題等を解いて出題傾向に慣れていく。長文読解、聞き取り、面接等に対応できるよう様々な応用練習に取り組み。適宜、模擬試験もおこない実際の試験に備える。	
		初修外国語科目	フランス語演習検定対策Ⅲ	この授業科目は、フランス語のこれまでの学習を踏まえて、中級～上級レベルの検定試験の受験を目指す学生を対象とする。各自に合った目標設定をおこなった後、検定試験の特徴と傾向を分析し、目標レベルの合格に必要な実力を付ける。そのために前提となる文法を復習しながら、過去に出題された問題等を解いて出題傾向に慣れていく。長文読解、聞き取り、面接等に対応できるよう様々な応用練習に取り組み。適宜、模擬試験もおこない実際の試験に備える。	
全学共通科目	外国語	初修外国語科目	フランス語演習検定対策Ⅳ	この授業科目は、フランス語のこれまでの学習を踏まえて、上級レベルの検定試験の受験を目指す学生を対象とする。各自に合った目標設定をおこなった後、検定試験の特徴と傾向を分析し、目標レベルの合格に必要な実力を付ける。そのために前提となる文法を復習しながら、過去に出題された問題等を解いて出題傾向に慣れていく。長文読解、聞き取り、面接等に対応できるよう様々な応用練習に取り組み。適宜、模擬試験もおこない実際の試験に備える。	
全学共通科目	外国語	初修外国語科目	スペイン語演習検定対策Ⅰ	この授業科目は、スペイン語のこれまでの学習を踏まえて、検定試験の受験を目指す学生を対象とする。スペイン語技能検定および DELE の全レベルを範囲とするが、特にスペイン語技能検定 6～5 級、DELE A1 程度のレベルの復習から始め、各自に合った目標設定をおこなった後、検定試験の特徴と傾向を分析し、目標レベルの合格に必要な実力を付ける。長文読解、聞き取り、面接等に対応できるよう様々な応用練習に取り組み、出題傾向に慣れていく。適宜、模擬試験もおこない実際の試験に備える。	

授 業 科 目 の 概 要

(経済学部経済数理学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目	外国語	初修外国語科目	スペイン語演習検定対策Ⅱ	この授業科目は、スペイン語のこれまでの学習を踏まえて、検定試験の受験を目指す学生を対象とする。スペイン語技能検定および DELE の全レベルを範囲とするが、特にスペイン語技能検定 4 級程度、DELE A2 程度のレベルの文法を復習しながら、各自に合った目標設定をおこなった後、検定試験との特徴と傾向を分析し、目標レベルの合格に必要な実力を付ける。長文読解、聞き取り、面接等に対応できるよう様々な応用練習に取り組み、出題傾向に慣れていく。適宜、模擬試験もおこない実際の試験に備える。
		初修外国語科目	スペイン語演習検定対策Ⅲ	この授業科目は、スペイン語のこれまでの学習を踏まえて、検定試験の受験を目指す学生を対象とする。スペイン語技能検定および DELE の全レベルを範囲とするが、特にスペイン語技能検定 3 級程度、DELE B1 程度のレベルの文法を復習しながら、各自に合った目標設定をおこなった後、検定試験の特徴と傾向を分析し、目標レベルの合格に必要な実力を付ける。長文読解、聞き取り、面接等に対応できるよう様々な応用練習に取り組み、出題傾向に慣れていく。適宜、模擬試験もおこない実際の試験に備える。
全学共通科目	外国語	初修外国語科目	スペイン語演習検定対策Ⅳ	この授業科目は、スペイン語のこれまでの学習を踏まえて、検定試験の受験を目指す学生を対象とする。スペイン語技能検定および DELE の全レベルを範囲とするが、特にスペイン語技能検定 3 級以上、DELE B1 以上を目指せるレベルの文法を復習しながら、各自に合った目標設定をおこなった後、検定試験の特徴と傾向を分析し、目標レベルの合格に必要な実力を付ける。長文読解、聞き取り、面接等に対応できるよう様々な応用練習に取り組み、出題傾向に慣れていく。適宜、模擬試験もおこない実際の試験に備える。
全学共通科目	外国語	初修外国語科目	中国語演習検定対策Ⅰ	この授業科目は、中国語のこれまでの学習を踏まえて、検定試験の受験を目指す学生を対象とする。中国語検定試験準 4 級をターゲットにし、6 月または 11 月に行われる中国語検定準 4 級に合格できるよう目標設定をおこなった後、検定試験の特徴と傾向を分析し、目標レベルの合格に必要な実力を付ける。長文読解、聞き取りに対応できるよう様々な過去試験問題を含めた応用練習に取り組み、出題傾向に慣れていく。適宜、模擬試験もおこない実際の試験に備える。
全学共通科目	外国語	初修外国語科目	中国語演習検定対策Ⅱ	この授業科目は、中国語のこれまでの学習を踏まえて、検定試験の受験を目指す学生を対象とする。中国語検定試験 4 級をターゲットにし、11 月または 3 月に行われる中国語検定 4 級に合格できるよう目標設定をおこなった後、検定試験の特徴と傾向を分析し、目標レベルの合格に必要な実力を付ける。長文読解、聞き取り等に対応できるよう様々な過去試験問題を含めた応用練習に取り組み、出題傾向に慣れていく。適宜、模擬試験もおこない実際の試験に備える。
全学共通科目	外国語	初修外国語科目	中国語演習検定対策Ⅲ	この授業科目は、中国語のこれまでの学習を踏まえて、検定試験の受験を目指す学生を対象とする。中国語検定試験の全レベルを範囲とするが、特に中国語検定 3 級のレベルの文法を復習しながら、各自に合った目標設定をおこなった後、検定試験の特徴と傾向を分析し、目標レベルの合格に必要な実力を付ける。長文読解、聞き取り等に対応できるよう様々な過去試験問題を含めた応用練習に取り組み、出題傾向に慣れていく。適宜、模擬試験もおこない実際の試験に備える。

授 業 科 目 の 概 要

(経済学部経済数理学科)

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目	外国語	初修外国語科目	中国語演習検定対策Ⅳ	この授業科目は、中国語のこれまでの学習を踏まえて、検定試験の受験を目指す学生を対象とする。中国語検定試験の全レベルを範囲とするが、特に中国語検定3級～2級のレベルの文法を復習しながら、各自に合った目標設定をおこなった後、検定試験の特徴と傾向を分析し、目標レベルの合格に必要な実力を付ける。長文読解、聞き取り等に対応できるよう様々な過去試験問題を含めた応用練習に取り組み、出題傾向に慣れていく。適宜、模擬試験もおこない実際の試験に備える。	
		初修外国語科目	韓国語演習検定対策Ⅰ	この授業科目は、準中級レベルの検定試験の受験を目指す学生を対象とする。各自に合った検定試験の目標を設定し、これまでの試験問題の特徴と傾向を分析するとともに目標レベルの合格に必要な韓国語の実力を身に付ける。そのため、既習の文法を復習しながら、過去に出題された問題などを解いて出題傾向に慣れていく。読解、聞き取り、慣用句の表現、日本語と異なる表現などに対応できるよう様々な応用練習に取り組む。適宜、模擬試験もおこない実際の試験に備える。	
全学共通科目	外国語	初修外国語科目	韓国語演習検定対策Ⅱ	この授業科目は、中級レベルの検定試験の受験を目指す学生を対象とする。各自に合った検定試験の目標を設定し、これまでの試験問題の特徴と傾向を分析するとともに目標レベルの合格に必要な韓国語の実力を身に付ける。そのため、既習の文法を復習しながら、過去に出題された問題などを解いて出題傾向に慣れていく。読解、聞き取り、慣用句の表現、日本語と異なる表現などに対応できるよう様々な応用練習に取り組む。適宜、模擬試験もおこない実際の試験に備える。	
		初修外国語科目	韓国語演習検定対策Ⅲ	この授業科目は、準上級レベルの検定試験の受験を目指す学生を対象とする。各自に合った検定試験の目標を設定し、これまでの試験問題の特徴と傾向を分析するとともに目標レベルの合格に必要な韓国語の実力を身に付ける。そのため、既習の文法を復習しながら、過去に出題された問題などを解いて出題傾向に慣れていく。読解、聞き取り、慣用句の表現、日本語と異なる表現などに対応できるよう様々な応用練習に取り組む。適宜、模擬試験もおこない実際の試験に備える。	
全学共通科目	外国語	初修外国語科目	韓国語演習検定対策Ⅳ	この授業科目は、上級レベルの検定試験の受験を目指す学生を対象とする。各自に合った検定試験の目標を設定し、これまでの試験問題の特徴と傾向を分析するとともに目標レベルの合格に必要な韓国語の実力を身に付ける。そのため、既習の文法を復習しながら、過去に出題された問題などを解いて出題傾向に慣れていく。読解、聞き取り、慣用句の表現、日本語と異なる表現などに対応できるよう様々な応用練習に取り組む。適宜、模擬試験もおこない実際の試験に備える。	
		初修外国語科目	ドイツ語演習プレゼンテーションⅠ	この授業科目は、初級～中級ドイツ語の運用能力をもとに、プレゼンテーションができるようになることを目指す。長期留学等での異文化交流も視野に入れ、日本の文化や社会について正確な表現で紹介する能力および、ドイツ語圏の文化や社会について客観的に分析し、発展的・生産的に対話する能力を養成する。そのために前提となる文法を復習しつつ、プレゼンテーションに必要な表現や語彙を学び、個人やグループで発表を完成させていく。また、発表や質疑応答、議論等の技術も身に付ける。	

授 業 科 目 の 概 要

(経済学部経済数理学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目	外国語	初修外国語科目	ドイツ語演習プレゼンテーションⅡ	この授業科目は、中級～上級ドイツ語の運用能力をもとに、プレゼンテーションができるようになることを目指す。外国と関わる仕事やボランティア等、実社会での活用も視野に入れ、自分の専門分野、仕事等を正確に説明する能力および、その分野についてドイツ語圏の人びとと発展的・生産的に対話する能力を養成する。そのために前提となる文法を復習しつつ、プレゼンテーションに必要な表現や語彙を学び、個人やグループで発表を完成させていく。また、発表や質疑応答、議論等の技術も身に付ける。
		初修外国語科目	フランス語演習プレゼンテーションⅠ	この授業科目は、これまでに身に付けたフランス語の運用能力をもとに簡単なプレゼンテーションができるようになることを目指す。自国の文化や他の言語圏の文化について客観的かつ批判的な知識を獲得しながら、それを正確に表現する能力とともに発展的・生産的に対話する能力を養成する。そのために前提となる文法を復習しつつ、プレゼンテーションに必要な表現や語彙を学び、個人やグループで発表を完成させていく。また、発表や質疑応答、議論等の技術も身に付ける。
全学共通科目	外国語	初修外国語科目	フランス語演習プレゼンテーションⅡ	この授業科目は、これまでに身に付けたフランス語の運用能力をもとにやや大きめのプレゼンテーションができるようになることを目指す。自国の文化や他の言語圏の文化について客観的かつ批判的な知識を獲得しながら、それを正確に表現する能力とともに発展的・生産的に対話する能力を養成する。そのために前提となる文法を復習しつつ、プレゼンテーションに必要な表現や語彙を学び、個人やグループで発表を完成させていく。また、発表や質疑応答、議論等の技術も身に付ける。
		初修外国語科目	スペイン語演習プレゼンテーションⅠ	この授業科目は、これまでのスペイン語学習(初級～中級)を総合的に活用し、プレゼンテーションができるようになることを目指す。留学等での異文化交流も視野に入れ、日本の文化や社会について正確な表現で紹介する能力および、スペイン語圏の文化や社会について客観的に分析し、発展的・生産的に対話する能力を養成する。そのために前提となる文法を復習しつつ、プレゼンテーションに必要な表現や語彙を学び、個人やグループで発表を完成させていく。また、発表や質疑応答、討論等の技術も身に付ける。
全学共通科目	外国語	初修外国語科目	スペイン語演習プレゼンテーションⅡ	この授業科目は、これまでのスペイン語学習(中級～上級)を総合的に活用し、プレゼンテーションができるようになることを目指す。外国と関わる仕事やボランティア等、実社会での活用も視野に入れ、自分の専門分野、仕事等を正確に説明する能力および、その分野についてスペイン語圏の人びとと発展的・生産的に対話する能力を養成する。そのために前提となる文法を復習しつつ、プレゼンテーションに必要な表現や語彙を学び、個人やグループで発表を完成させていく。また、発表や質疑応答、討論等の技術も身に付ける。
		初修外国語科目	中国語演習プレゼンテーションⅠ	この授業科目は、初級～中級中国語の運用能力を基礎に中国語でプレゼンテーションができるようになることを目指す。日本国内での異文化交流や留学先での授業も視野に入れ、身の回りのことや中国語圏の文化や社会について発表できる能力および日本の文化、社会について積極的に発信する能力を養成する。よって、これまでに学習した文法事項を復習しつつ、プレゼンテーションに必要な表現や語彙を学び、個人やグループで発表に挑戦する。特にプレゼンテーションでも利用可能な文語的表現も身に付ける。

授 業 科 目 の 概 要

(経済学部経済数理学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目	外国語	初修外国語科目	中国語演習プレゼンテーションⅡ	この授業科目は、中級～上級中国語の運用能力をもとに、中国語プレゼンテーションができるようになることを目指す。外国と関わる仕事やボランティア等の実社会での活用も視野に入れ、自分の専門分野、仕事等を正確に説明する能力および、その分野について中国語圏の人びとと発展的・生産的に対話する能力を養成する。そのために必要な文法事項を復習しつつ、プレゼンテーションに必要な表現や語彙を学び、質疑応答、議論の技術も身に付ける。これに加えて、特に文語的表現の習得にも力を入れる。
		初修外国語科目	韓国語演習プレゼンテーションⅠ	この授業科目は、簡単なプレゼンテーションができる程度の語学力を養成することを目標とする。自国の文化や他の言語圏の文化について客観的かつ批判的な知識を獲得しながら、自分の考えや知識をより正確な韓国語で表現する能力を身につける。また、発展的・生産的に韓国語で対話できるようにする。そのために、前提となる文法と慣用句などを復習しつつ、プレゼンテーションに必要な表現や語彙を学び、個人やグループで発表を完成させていく。また、発表や質疑応答、議論等の技術も身に付ける。
全学共通科目	外国語	初修外国語科目	韓国語演習プレゼンテーションⅡ	この授業科目は、高度なプレゼンテーションができる程度の語学力を養成することを目標とする。自国の文化や他の言語圏の文化について客観的かつ批判的な知識を獲得しながら、自分の考えや知識をより正確な韓国語で表現する能力を身につける。また、発展的・生産的に韓国語で対話できるようにする。そのために、前提となる文法と慣用句などを復習しつつ、プレゼンテーションに必要な表現や語彙を学び、個人やグループで発表を完成させていく。また、発表や質疑応答、議論等の技術も身に付ける。
全学共通科目	外国語	初修外国語科目	世界の言語（ロシア語Ⅰ）	この授業科目は、初学者を対象に、ロシア語圏の基本的な文化や価値観に触れるための基礎的語学力の養成を目的とする。発音の仕組み、文字と発音の関係、基本的な文法構造および文章の構造に関する知識の修得を目指す。同時に、ロシア語圏の文化や生活習慣に触れながら、基礎的な語彙や表現を導入する。また、口頭練習・筆記練習を通して話す・聞く・書く・読むの四技能をバランスよく伸ばす。簡単な文章読解や易しい単語を使った会話練習を実際におこなうことで、言語への理解を深めていく。
全学共通科目	外国語	初修外国語科目	世界の言語（ロシア語Ⅱ）	この授業科目は、Ⅰに引き続き、ロシア語の基礎的語学力の養成を目的とする。Ⅰで学んだ発音の仕組み、文字と発音の関係、基本的な文法や文章構造に関する知識を復習しながら、未習の文法事項、基本的な語彙および表現を修得することを目指す。同時にコミュニケーションに欠かせない言語の背景的な知識も学ぶ。また、口頭練習・筆記練習を通して話す・聞く・書く・読むの四技能をバランスよく伸ばす。簡単な文章読解や易しい単語を使った会話練習を実際におこなうことで、言語への理解を深めていく。
全学共通科目	外国語	初修外国語科目	世界の言語（タイ語Ⅰ）	この授業科目は、初学者を対象に、タイ語圏の基本的な文化や価値観に触れるための基礎的語学力の養成を目的とする。発音の仕組み、文字と発音の関係、基本的な文法構造および文章の構造に関する知識の修得を目指す。同時に、タイ語圏の文化や生活習慣に触れながら、基礎的な語彙や表現を導入する。また、口頭練習・筆記練習を通して話す・聞く・書く・読むの四技能をバランスよく伸ばす。簡単な文章読解や易しい単語を使った会話練習を実際におこなうことで、言語への理解を深めていく。

授 業 科 目 の 概 要

(経済学部経済数理学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目	外国語	初修外国語科目	世界の言語 (タイ語Ⅱ)	この授業科目は、Iに引き続き、タイ語の基礎的語学力の養成を目的とする。Iで学んだ発音の仕組み、文字と発音の関係、基本的な文法や文章構造に関する知識を復習しながら、未習の文法事項、基本的語彙および表現を修得することを目指す。同時にコミュニケーションに欠かせない言語の背景的な知識も学ぶ。また、口頭練習・筆記練習を通して話す・聞く・書く・読むの四技能をバランスよく伸ばす。簡単な文章読解や易しい単語を使った会話練習を実際におこなうことで、言語への理解を深めていく。
		初修外国語科目	世界の言語 (イタリア語Ⅰ)	この授業科目は、初学者を対象に、イタリア語圏の基本的な文化や価値観に触れるための基礎的語学力の養成を目的とする。発音の仕組み、文字と発音の関係、基本的な文法構造および文章の構造に関する知識の修得を目指す。同時に、イタリア語圏の文化や生活習慣に触れながら、基礎的な語彙や表現を導入する。また、口頭練習・筆記練習を通して話す・聞く・書く・読むの四技能をバランスよく伸ばす。簡単な文章読解や易しい単語を使った会話練習を実際におこなうことで、言語への理解を深めていく。
全学共通科目	外国語	初修外国語科目	世界の言語 (イタリア語Ⅱ)	この授業科目は、Iに引き続き、イタリア語の基礎的語学力の養成を目的とする。Iで学んだ発音の仕組み、文字と発音の関係、基本的な文法や文章構造に関する知識を復習しながら、未習の文法事項、基本的語彙および表現を修得することを目指す。同時にコミュニケーションに欠かせない言語の背景的な知識も学ぶ。また、口頭練習・筆記練習を通して話す・聞く・書く・読むの四技能をバランスよく伸ばす。簡単な文章読解や易しい単語を使った会話練習を実際におこなうことで、言語への理解を深めていく。
全学共通科目	技能	日本語力科目	実践日本語表現	この授業科目は、大学生活・社会生活に必要な不可欠な文章作成力・語彙力を身につける科目である。具体的には、(1)日本語の文章にはさまざまなスタイルがあることを理解した上で、それぞれのスタイルにとって適切な文章を書けるようになること、(2)高度な日本語を読解し、また表現する上で必要な語彙力を身につけること、の2点を目標とする。各受講生の抱える文章表現上の問題点が解消できるよう、少人数の演習形式で行う。目標(1)を達成すべく、隔週以上の頻度で、受講生は課題の文章を作成、担当教員は提出された文章を次回までに添削して返却する。また、目標(2)を達成すべく、指定テキストに基づく語彙テストなどを行う。
全学共通科目	技能	日本語力科目	実践話し方入門	この授業科目は、「話し言葉としての日本語」の特徴や、コミュニケーションにおける聞く力の重要性を理解し、相手に伝わるように話す力を身につける科目である。少人数で、講義と実習を織り交ぜながら進める。実習としては、1分間程度のスピーチのほか、発声・滑舌・音読の練習などを行う。授業ではまず、話し手だけでなく聴き手にとっても興味深い内容を、すっきりとした構成にあてはめて、わかりやすい言葉ではきはきと話せるようになることを目指す。また、自分の内面を見つめて言語化したり、外からの情報を取捨選択し整理して伝えたりするなど、「内」と「外」をバランスよく話材にできるような習慣をつける。さらに、論理的に説明できる力や表現力をも身につけていく。
全学共通科目	技能	日本語力科目	日本語表現講義	この授業科目は、日本語表現の諸ルールと文章作成上の留意点を学ぶ科目である。講義形式によるが、ほぼ毎回、語彙テストまたは課題提出があり、実践的に学ぶことができる。扱う内容は、敬語・敬意表現の使い方、主語と述語の関係や修飾語と被修飾語の関係といった文の構造、文章要約のポイント、手紙・履歴書・事務的文書・意見文といった各種文書の作成法など。これらを学ぶことにより、大学生や社会人に必要不可欠な文章作成力・読解力・コミュニケーション力を身につける。

授 業 科 目 の 概 要

(経済学部経済数理学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目	技能 日本語力科目	実践漢字講座	この授業科目は、実生活で役立つ漢字能力を高めるため、講義によって漢字に関する基礎知識を身につけるとともに、漢字を書く訓練も行う科目である。授業では、漢字の成り立ちの分類、部首や読みの注意点、「常用漢字表」と「送り仮名の付け方」等に関する解説を行い、現代表記のきまりを理解してもらう。これらの知識を身につけながら、毎時間、漢字練習を行う。解説と実習によって、全ての常用漢字を正しく読み、書くことができるようになることを一つの目標とする。	
全学共通科目	技能 日本語力科目	語彙・読解講座	この授業科目は、語彙力および読解力を養う科目である。具体的には、語彙・読解力検定2級程度の力をつけることを目標とする。授業は、講義と実習を織り交ぜながら進める。講義では、身近なトピックを取り上げ、それに関連する語彙を学びながら理解を深めることを目指す。社会常識を身につけつつ、言葉にかんする感覚を磨いていく。実習では、上記トピックにかんする読解問題に取り組むことで、講義で学んだ関連語彙の定着をはかるとともに、読解力を涵養する。	
全学共通科目	技能 日本語力科目	古典に学ぶ日本語表現	この授業科目は、江戸時代以前の多様な文章を取りあげ、受講者にさまざまなワークを課すことにより、書く力と読む力を鍛える科目である。授業は少人数で、講義と実習を織り交ぜながら進める。日本語の表現は、古代から脈々と受け継がれつつ、多様な変容を遂げてきた。その分厚い積み重ねの上に現代の日本語表現がある。「個体発生は系統発生を繰り返す」ように、受講生は能動的学修を通して、さまざまな時代の多様な日本語表現を体験し内在化することにより、豊かな日本語力・表現力の獲得を目指す。	
全学共通科目	技能 日本語力科目	実用文書の作り方・情報の伝え方	この授業科目は、客観的な情報を的確に伝達する情報コミュニケーションスキルを身につける科目である。大学生活において作成が求められるレポート・エントリーシート・卒業論文、企業やその他の組織に入ってから日常的に作成することになるビジネス文書や技術文書を、わかりやすく読みやすい形で作成する基本スキルを習得すること、そうした文書を企画設計する上での基本的な考え方を身につけること、を目標とする。授業は講義形式によるが、演習を織り交ぜながら進める。	
全学共通科目	技能 日本語力科目	テーマ別日本語表現（文芸をたのしむ）	この授業科目は、創作を行う科目である。好きな本や作家、映画や演劇などについて語りあうことからはじめ、各自が創作したものを発表、互いに感想を述べあうことにより、文学が友達のように感じられる、またはその第一歩を踏み出すことを目指す。授業は演習形式で行うが、「エッセイを読む」、「文学、演劇、映画へのアプローチ」といったテーマの講義を挟んでいく。創作は、短い小説や短歌、現代詩などはもちろん、エッセイや書評でも可とする。	
全学共通科目	技能 日本語力科目	テーマ別日本語表現（成蹊俳句教室）	この授業科目は、俳句を実際に作り、作品を互いに鑑賞しあうことを通して、完成度を高めていく科目である。表現と鑑賞は、俳句に限らず創作の両輪である。実作者として他者の作品に向き合い、表現力を高めることを目指す。授業は少人数の演習形式で行われ、主に、①吟行、②句会、③ディベート、④鑑賞文、から組み立てられる。④鑑賞文の作成と講評は1回のみであるが、①キャンパスを歩いて俳句を作る吟行、作品を鑑賞しあう②句会と③ディベートは、2～3セット行う。間に講義をはさみながら、第1ラウンド→第2ラウンド→第3ラウンド、という具合に進んでいく。	

授 業 科 目 の 概 要

(経済学部経済数理学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目	技能 日本語力科目	テーマ別日本語表現 (源氏物語を読む)	この授業科目は、『源氏物語』の極限的に研ぎ澄まされた文章表現を学ぶことにより、文章表現の豊かな可能性を知り、言葉に敏感になることを目指す科目である。あわせて、教養の一つとして、『源氏物語』の概要の理解も目指す。授業は講義形式で進めるが、随時、課題を投げかけ、受講者に考えてもらう。毎回の授業では、『源氏物語』の一～三場面を取り上げ、悪文、会話、敬語、内心語、和歌、視点、語り手などの文章表現に注目しながら、丁寧に読んでいく。	
全学共通科目	技能 日本語力科目	テーマ別日本語表現 (文章表現を磨く)	この授業科目は、ある程度の文章表現力のある学生を対象として、より高度なレベルで文章表現を磨くための科目である。授業は少人数で、講義を織り交ぜつつ、演習形式で行う。受講生の提出作文を無記名で全員に配布、互いに意見を言い、教員が批評・評価する。こうした合評会、および添削指導を通して、明確なだけでなく味わいのある文章を書くためのトレーニングを行う。また随時、名文鑑賞を行い、プロの書き手の用いている日本語表現のテクニックと発想法を学ぶとともに、読解力を伸ばす。	
全学共通科目	技能 日本語力科目	テーマ別日本語表現 (話し方を磨く)	この授業科目は、話す力を鍛える科目である。「実践話し方入門」が初級編とすると、上級編にあたる。「実践話し方入門」を受講した学生からの、話し方を継続的に学び一層の向上を目指したいので上級編を設置してほしい、という要望をもとに誕生した科目である。「実践話し方入門」と同様に、少人数で、講義と実習を織り交ぜながら進める。相手の話を傾聴する体験を通じて多様な価値観を学ぶとともに、周囲に配慮しながらも自身の主張を積極的に発信していく姿勢を身につける。また、聴衆や場に相応しい言葉遣いや効果的な声の出し方、さらには話の内容を豊かにするための着想力やストーリー構築力も実践を重ねることで磨いていく。	
全学共通科目	技能 キャリア教育科目	キャリアプランニング	この授業科目は、大学生として自己と社会を認識し、大学生活や進路選択に向けて有意義な行動計画 (プランニング) を立てられるようになることを目的としている。そのために、進路・雇用・企業に関する基礎知識を学び、自己分析手法を修得し、併せて、キャリア形成の基本的な要素を理解することができるような講義内容になっている。現代の社会が求める「社会人基礎力」、ワークライフバランスと「働き方改革」、キャリアデザイン概念、そして日本の産業構造の現状など、今日的なテーマに触れながらキャリア形成についての理解を深めていく導入型キャリア教育の授業を行う。	
全学共通科目	技能 キャリア教育科目	ビジネストレーニングセミナー	この授業科目は、他者と協力しながら目標を掲げ、それに向かってチームで成果を出す能力を実践的に修得することを目的としている。知識や情報を得てもそれを活かさなければ有意義な学びとは言えない。大学での学び方は様々な方法があり、この授業ではその知識や情報を活かし、コミュニケーション能力を身に付けながら目標に向けて進んで行く。チームと一緒に「考える力」と「協力する力」を身につけると共に、学ぶ楽しさを知ることを目指した授業内容となっている。実際に企業の担当者から、企業や社会が抱える課題を与えていただき、「主体的な学び」を目的にコミュニケーションを強化しながらチームで課題解決に取り組み、解決提案の発表とフィードバックを受けるプロセスを通じて、実践的な経験と知識を修得していく。	

授 業 科 目 の 概 要

(経済学部経済数理学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目	技能	キャリア教育科目	キャリアセミナー	
		キャリア教育科目	この授業科目は、少人数のグループワークを通じて密度の濃い討論を行い、進路選択に関する学生の意識の覚醒を図ることを目的とする演習形式の授業である。一方では、自己分析・自己表現等の心理学的な背景を有するキャリア教育の視座から、グループワークを通じて自分の持ち味（強味・知識・情報）に気付き・発揮し・伸ばしていくような授業要素がある。他方、業界動向や人材育成などの経営学的な背景を有する社会理解の視座から、社会や企業にアプローチすることを通じて社会・企業への自己の関わり（働く場・活かす場）を発見するような授業要素もある。	
全学共通科目	技能	キャリア教育科目	グローバルキャリアセミナー	
		キャリア教育科目	この授業科目は、グローバル環境で働くことの意義・方法・課題などを学ぶことを目的としている。近年ますます注目される「グローバル」の意義、そしてそのグローバルな環境で働くことの実態について、実際にグローバル環境で働くゲスト講師からお話を伺いながら学んでいく。また、将来グローバル環境で働くためには、どのようなキャリアの選択肢があるかを知り、自分の将来像を描いたり、そのために必要なことを学んだりしながら、大学生生活で自己成長するための行動計画を検討していく。この授業では、グループワークを通じて情報収集や情報共有を行い、知識を増やしたり、情報収集力、情報分析力を高めるとともに、グローバル環境で必ず求められる思考力、コミュニケーション力をディスカッションやプレゼンテーションなどのワークを通じて高めていく。	
全学共通科目	技能	キャリア教育科目	キャリア発展講義	
		キャリア教育科目	この授業科目は、キャリア教育に関するさまざまなテーマごとに深く掘り下げて学修することを目的としている。各科目においては、自己分析や業界・企業研究などのキャリア形成の基盤となる中心的テーマに関する発展的な知識や技能の修得に加えて、雇用の仕組みやライフプランニングなど働く人に不可欠なテーマや、ワークライフバランスやキャリア形成の国際化・情報化など社会的な変革に関する適時的なテーマをそれぞれ講義展開していく。	
全学共通科目	技能	キャリア教育科目	日本企業の現状と展望	
		キャリア教育科目	この授業科目は、現代の日本の様々な業界や、代表的あるいは特徴的な企業について、現状を把握し将来を展望することを目的としている。まずは、各業界で活躍する実務家講師が、業界の構造や業務内容、雇用状況などの現状を講義する。そして、実務家と学生とが議論しながら、業界の将来像や企業の戦略などについて展望していく。こうした授業進行を専任教員がコーディネートする、オムニバス形式の授業である。民間企業を志望する学生は、情報を収集し分析する能力を身に付けて、それぞれのキャリア形成の中で業界・企業の現状を把握し、将来を展望することができるようになる。	共同
全学共通科目	技能	キャリア教育科目	インターンシップ準備講座	
		キャリア教育科目	この授業科目は、「インターンシップ実習」の前提科目であり、民間企業や公共部門等でインターンシップ実習を行うことを志望する学生が、円滑に実習取り組めるように事前指導を行うことを目的としている。組織の仕組み・業務内容・ビジネス習慣などについての基礎知識を講義によって学ぶ一方で、インターンシップ実習で重視されるグループ討論やグループワークを多く取り入れ、実習の実践的な準備を行う。こうした学修を通じて、インターンシップ実習に取り組む意義を理解し、実習に必要とされる知識や技能を修得することができる。	

授 業 科 目 の 概 要

(経済学部経済数理学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目	技能	インターンシップ実習	この授業科目は、民間企業、公共部門等で行うインターンシップ実習のための科目である。インターンシップ実習には、主体的な職業選択や職業意識の涵養に加えて、大学で学ぶ専門知識と現実社会との繋がりを体験的に理解し、新たな学習意欲が生じるという意義がある。これらの意義に応じた一定の要件をみたすインターンシップ実習を行った者が、実習後のレポート作成、成果発表等の事後的な指導を受けることによって単位を修得することが可能となる。	
	キャリア教育科目			
全学共通科目	技能	発展インターンシップ準備講座	この授業科目は、成蹊大学が協力企業と産学連携で行う MBT (Marunouchi Business Training) の「発展インターンシップ実習」の前提科目であり、協力企業でインターンシップ実習を行うことを志望する学生が、円滑に実習取り組めるように事前準備を行うことを目的としている。問題解決能力、プレゼンテーション力、マナーの育成など実習に対する実践的な準備を行うとともに、協力企業から与えられた課題に対してグループワークで解決策の提案を作成し、当該企業関係者の前でのプレゼン、ディスカッションも行う。こうした学修を通じて、インターンシップ実習に取り組む意義を理解し、実習に必要とされる知識や技能を修得することができる。	
	キャリア教育科目			
全学共通科目	技能	発展インターンシップ実習	この授業科目は成蹊大学が協力企業と産学連携で行う MBT (Marunouchi Business Training) において、「発展インターンシップ準備講座」を受講した学生が実際に協力企業でインターンシップを行い、主体的な職業選択や職業意識の涵養に加えて、大学で学ぶ専門知識と現実社会との繋がりを体験的に理解し、新たな学習意欲を生ませることを目的とした科目である。実習の成果はプレゼンテーションで発表し、そのうち選抜された者は協力企業が一堂に会す成果発表会で発表することで、準備講座からの学びにより学生個々が成長を実感するプログラムとなっている。	
	キャリア教育科目			
全学共通科目	技能	情報基礎	この授業科目は、情報化社会の一員として重要な情報倫理についての理解を深めた上で、大学での学習や成果発表の手段として必要不可欠である情報基盤技術の習得を目指す。具体的には、インターネットを通じての情報収集や情報交換、ワードプロセッサによる文書作成、表計算ソフトによる簡単な計算やデータの集計、プレゼンテーションソフトによる発表資料の作成などの基本的な技能を、講義とコンピュータを用いた実習により習得する。	
	情報基盤科目			
全学共通科目	技能	情報活用A	この授業科目は、情報発信の2つの手段である WWW とプレゼンテーションの基本を理解し、実際に実行する力を身に付けることを目的とする。WWW による情報発信 (Web サイトの作成、公開) においては、HTML の基本から、Web サイトの企画、Web ページ、サイトの作成、Web サーバへのアップロードまでを、講義と実習を通じて学ぶ。プレゼンテーション技法 (PowerPoint によるスライド作成、発表) においては、プレゼンテーションの企画、構成、視覚化のポイント、発表技法など、プレゼンテーション技術を総括的に学び、「伝える」のではなく「伝える」プレゼンテーションを目指す。	
	情報基盤科目			

授 業 科 目 の 概 要

(経済学部経済数理学科)

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目	技能	情報基盤科目	情報活用B	この授業科目は、MS-Officeのうち、社会に出てから業務で特に必要とされるWordやExcel、PowerPointの実践的な活用法と、著作権に配慮した成果物の作成を学修し、ここで習得したスキルを大学生活や社会において実践できるようになる事を目的とする。MS-Wordにおいては、見出しや差し込み印刷、図形描画といった機能を学び、MS-Excelにおいては、Vlookup、記録マクロなどの機能を使いこなし、業務でのデータ処理に活用できるようになることを目指す。MS-PowerPointにおいては、動画やBGMを活用した自動プレゼンテーションの作成を習得する。さらに基礎的な画像処理の方法と著作権、バリアフリーなどに配慮した成果物の作成ができるようになることを目標とする。	
			情報活用C	この授業科目は、すでに学んだパソコン基礎の技能をさらに充実させることを目的とする。ワープロソフトの習熟に的を絞り、通常仕事を行う上で必要とされる日本語入力速度を初めに達成し、次に社外・社内宛てのビジネス文書の作成を学び、さらに技術のみならずパソコンに関連する知識や情報倫理も学ぶ。日本語ワープロ習得後、現在では当然のように必要とされる英文ワープロ技能も英文ビジネスレターやレジュメの作成を通して学ぶ。	
全学共通科目	技能	情報基盤科目	情報活用D	この授業科目は、Microsoft WordとExcelの実践的な技術を身につけることを目的とする。そのために、Microsoftが認定する国際資格である、MOS (Microsoft Office Specialist) スペシャリストレベルの取得を目指す。MOSはMicrosoft Officeに習熟していることを客観的に示す資格であり、就職やキャリアアップの際に有利に働くと考えられる。「パソコンが使える」レベルより、ワンランク上の技術を得ようとしている学生や、国際的な資格の取得をめざす学生のニーズに応えることを想定している。	
全学共通科目	技能	情報基盤科目	情報活用E	この授業科目は、Microsoft Excel操作を自動化するプログラムをVBA (Visual Basic for Applications) というプログラミング言語を用いて作成するスキルの習得を目的としている。Excel VBAの基本的な概念や用語、VBAで作成されたプログラムの処理内容を理解し、繰り返し処理や条件分岐処理を含めてExcel操作を自動化するプログラムの作成することを目標とする。課題プログラムの作成を通じて、アルゴリズムの構築ができる論理的思考を身につけるとともに、Excel操作そのものについてもより深く理解することを目指す。	
全学共通科目	技能	情報基盤科目	情報活用F	この授業科目は、チームワークに必要な能力を育成することを目指している。チームワークとは、さまざまな分野の人が集まってチームをつくり、それぞれの能力を生かした活動により、問題を解決したり、新しい物を創造したりする活動である。例えば医療の世界では、内科医や外科医、麻酔科医や精神科医や看護師などが連携して行う治療をチーム医療と呼ぶ。このようなチームワークで成果を出すには、コミュニケーション能力、ディスカッション能力、意思決定能力、ファシリテーション能力など、さまざまな汎用的な能力が必要になる。これらの能力の育成には、知識だけでなく、実践が必要となるため、授業では基本的に講義を行わず、講義に必要な内容は、学生が教室外において事前準備学修してから授業に参加することになる。また、リフレクションシートの作成や最終課題など、授業外の活動も必須である。そのため、主体的に学習することを望まない学生は履修できない。	

授 業 科 目 の 概 要

(経済学部経済数理学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
全学共通科目	技能	健康・スポーツ科目	健康・スポーツ演習A	この授業科目は、自己の探究および集団での協働に、身体活動を切り口としてアプローチする。すべてのクラスにおいて体組成や体力の測定データを用いた科学的分析をおこない、自己の身体への気づきを高めるとともに、健康の維持増進に向けた運動・スポーツ実践と自己マネジメントの方法論を修得する。また、競技種目の特性を活かした多様なグループ学習および受講生間のコミュニケーションを重視した集団マネジメントの活動を通じて、経験の有無や技能・体力のレベルを問わずすべての参加者が運動・スポーツの達成感や楽しみを享受する場をつくるための方法論を、スポーツ科学の知見とともに修得する。上記の中でも特に、安全管理をベースとしたマネジメントについて、方法および評価と修正の視点を重点的に学修する。以上の学修内容は、運動・スポーツの実践領域にとどまらず、大学での多様な学修や生活に好影響をもたらすよう構成されている。	
			健康・スポーツ演習B	この授業科目は、自己の探究および集団での協働に、身体活動を切り口としてアプローチする。すべてのクラスにおいて体組成や体力の測定データを用いた科学的分析をおこない、自己の身体への気づきを高めるとともに、健康の維持増進に向けた運動・スポーツ実践と自己マネジメントの方法論を修得する。また、競技種目の特性を活かした多様なグループ学習および受講生間のコミュニケーションを重視した集団マネジメントの活動を通じて、経験の有無や技能・体力のレベルを問わずすべての参加者が運動・スポーツの達成感や楽しみを享受する場をつくるための方法論を、スポーツ科学の知見とともに修得する。上記の中でも特に、各種目の基本的な技術やマナーおよびそれらの文化的背景について、重点的に学修する。以上の学修内容は、運動・スポーツの実践領域にとどまらず、大学での多様な学修や生活に好影響をもたらすよう構成されている。	
全学共通科目	技能	健康・スポーツ科目	スポーツと科学	この授業科目は、「健康・スポーツ演習」で修得した内容を発展させ、特にスポーツ・パフォーマンス向上の観点からスポーツ科学分野の学術的知見を取り上げる。科学技術の発展は、今日のスポーツを考える上で切り離せないものとなっているが、具体的にはどのように関わってくるのだろうか。また、スポーツ・パフォーマンスを構成する要素はスキル、フィットネス、モチベーションといわれ、日本でも古来「心技体」が重視される。さらに近年では、戦術・戦略が注目されてきた。こうした知識はどのようにスポーツ・パフォーマンスに反映されるのだろうか。講義ではこれらの問いを軸にして、科学に基づいたトレーニングやコンディショニングについての理解を深めていく。	
全学共通科目	技能	健康・スポーツ科目	健康と科学	この授業科目は、「健康・スポーツ演習」で修得した内容を発展させ、特に大学生活と身体と心の健康維持増進の観点から、健康科学分野の学術的知見を取り上げる。現在社会において、日本人の死因として上位にあるのは、悪性腫瘍、心疾患、脳血管疾患である。これらはいずれも生活習慣病であり、日頃のライフスタイルがこれらの疾患の発症と大きく関わっている。こうした認識にもとづき、講義では、大学生活における身体と心の健康を考える。生活習慣病、感染症、身体の免疫機能、食生活、喫煙、飲酒、ストレス、ダイエット、睡眠などをテーマとし、具体的な事例やデータを用いながら問題にアプローチしていく。	

授 業 科 目 の 概 要

(経済学部経済数理学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目	技能	健康・スポーツ科目	スポーツと文化	この授業科目は、「健康・スポーツ演習」で修得した内容を発展させ、特にスポーツの文化的意義の観点からスポーツ科学分野の学術的知見を取り上げる。共通ルールによる身体活動を通じて、世界中の多様な人びとが互いに高め合い、通じ合えるのはスポーツの特質であるが、国や地域によってスポーツ文化の受容や解釈あり方は多様かつ複雑でもある。また、スポーツは、歴史的にさまざまな側面において変化をくり返しており、現在もまた変化のただ中にあるといえる。以上の認識にもとづき、授業では多様な時代や地域における運動・スポーツの具体的な事例や議論を紹介し、そこに見られる文化的特質や課題について考えていく。
		健康・スポーツ科目	スポーツと社会	この授業科目は、「健康・スポーツ演習」で修得した内容を発展させ、特にスポーツの社会的経済的位置づけや機能の観点からスポーツ科学分野の学術的知見を取り上げる。人とスポーツとのかわりには、「する・みる・ささえる」という様々な側面がある。そしてそれぞれにおいて、スポーツとのかわりを支える社会的支援や経済活動が必要となる。授業では、日本社会を中心として、スポーツを「する・みる・ささえる」仕組みが社会・経済的のどのようになり立っているのか、そこにどのような課題があるのかということ、具体的な事例を紹介しながら考えていく。
全学共通科目	教養基礎	人文学	哲学の基礎	この授業科目は、西洋哲学の歴史を概観し、大きな世界観・全体像の中で育まれてきた哲学上重要な基本概念の理解を促す科目である。代表的な哲学者やその考え方を学習し、混沌とした現代社会の中で何かしらの基本となる考え方が発見できる、あるいは、今日のわれわれが現代社会のうちにどのような問題を見て取らなければならないか発見できるという哲学的な思索を行うことができるようになることを目的とする。
全学共通科目	教養基礎	人文学	倫理学の基礎	この授業科目は、「良いもの」「正しいもの」「美しいもの」などの人間の価値判断は何を根拠に形成されているのか、また、人は何をよりどころに生きるのか、といった問題に実践哲学の観点からアプローチしてきた倫理学の体系を概観し、代表的な考え方を理解し、学生自身が現代社会の倫理的な問題(生命倫理、環境倫理、メディア倫理等)に対して倫理的思考を行えるようになることを目的とする。
全学共通科目	教養基礎	人文学	現代社会と哲学	この授業科目は、時代や文明の矛盾に挑んだ近現代の哲学者の考え方を通して、学生自身が現代という時代を哲学的に深く見つめ直す機会を提供することを目的とする。「哲学の基礎」の延長上に主として20世紀の代表的な哲学者を取り上げ、彼らがアイデンティティの問題、大衆社会の問題、官僚制の問題などの近現代社会の問題をどのようにみつめてきたのかといった学習を手掛かりとして、これから21世紀の日本社会と向き合う学生がどのような思索を行えばよいかを学生自身に問いかけていく。
全学共通科目	教養基礎	人文学	現代社会と倫理学	この授業科目は、規範の根拠について考える学問分野であり、その根本にある人間はいかにあるべきか、いかに生きるべきかという問いに対して、近・現代の日本の思想家の文章を読解することを通じて、歴史を先導した人物達の思想を学びながら、現代社会で暮らす「人の一生」をめぐる私達の問題を考える。

授 業 科 目 の 概 要

(経済学部経済数理学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目	教養基礎	人文学	文学への招待	この授業科目は、文学を専門にしない学生のための文学入門であり、実際の作品の読解を通じて、文学に触れる方法、楽しみ方を身につけていく。授業担当者によって、西洋の近代文学、日本の古典、日本の現代文学など、取り上げる素材はさまざまであるが、1) 文学作品の読解を通して、さまざまな時代の社会や制度のなかで、人間がおかれた状況を理解できること、2) 多様な文化に触れ、思想的な問いかけも行いつつ相互理解を深められること、3) 文学が提起する問題提起をもとに、新たな世界の可能性に向けて自己の意見を発信できることを共通の到達目標とする。
		人文学	芸術への招待	この授業科目では、音楽もしくは美術を対象に、芸術の基礎理論とさまざまな表現手法、様式・形式を概説するとともに、それらの歴史を概観し、代表的な作家や作品がどのように創造されてきたのかを講義する。これらを通じ、芸術作品は宗教、思想、時代背景などさまざまな人間の文化と相互作用を持って生み出されたことを理解し、芸術をその背景を考えながら、より深く鑑賞する姿勢を身につけられることを到達目標とする。音楽のクラスでは18～19世紀の西洋芸術音楽(クラシック)、美術のクラスでは19～20世紀の西洋近代美術をそれぞれ対象とする。
全学共通科目	教養基礎	人文学	カルチュラル・スタディーズ	この授業科目は、大衆文学、映像、ポップミュージック、ファッション、アニメなどといった主として「大衆文化」(ポピュラー・カルチャー)を主たる対象として、私たちの日常生活との関わりのなかで「文化」をさまざまな理論や概念、方法論を用いて批判的・多角的に理解・考察していく研究領域であるカルチュラル・スタディーズと、社会学、文化人類学、メディア論などの理論を用いて日常生活に見られる現象を分析していく。
全学共通科目	教養基礎	人文学	心理学の基礎	この授業科目は、データや事実をもとにして、こころの性質や働きを科学的に探究する学問である心理学の各研究領域(知覚・記憶・言語と思考・学習・社会)において最も基礎となる事柄を概説するとともに、心理学の最先端の研究を紹介することによって、心理学が、日常生活にもたらした知見を明らかにする。心理学への期待と関心をもつ受講生に、基礎心理学の基本的な考え方や知識をわかりやすく講義する。心理学の基本的な知識や考え方を身につけ、自己理解および他者理解のために、心理学の知識を活用できるようになること、また、その限定性を知ることの到達目標とする。
全学共通科目	教養基礎	人文学	自己理解の心理学	この授業科目は、だれにでも起こり得るこころの問題に対し、臨床心理学の知見から、大学生の発達課題、青年期にみられる精神医学的問題、大学生の過去とこれから(発達臨床心理学)の3点を盛り込んで講義する。青年期を生きる大学生が、自分の心を通して振り返り考えさせつつ、こころの成長、健康なこころ、他者に共感できる人間関係を身につけた大人として、社会の構成員となるための基礎づくりをねらいとする。
全学共通科目	教養基礎	人文学	教育原理	この授業科目は、教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想について学ぶことを通じて、これからの教育を担っていく教師としての基礎的な資質能力として以下の力を身に付けることをテーマとしており、教育構想や実践における教育思想の重要性を理解し、学校教育の背景にある教育思想や歴史を説明でき、自身の教育体験を相対化し、これからの教育について自分なりに考えることができることを到達目標としている。新しい教育や、よりよい教育を構想し実践していくためには、これまでどのような教育が行われてきたのかをよく知る必要がある。そこで、教育とは誰のために、何を、どのように行うことが良いのかということ、歴史や思想の基本的知識、教育における今日的課題に基づきながら、学生自らが毎時考えを深めていくことを内容としている。

授 業 科 目 の 概 要

(経済学部経済数理学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
全学共通科目	教養基礎	人文学	教育心理学	この授業科目は、幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、基礎的な知識を身につけ、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解することをテーマとしている。幼児、児童及び生徒の心身の発達に対する外的及び内的要因の相互作用、発達に関する代表的理論を踏まえた発達の概念及び教育における発達理解の意義の理解、乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達についての具体的な内容の理解、様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論の基礎の理解、主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方についての発達の特徴と関連付けた理解、幼児、児童及び生徒の心身の発達を踏まえて主体的な学習活動を支える指導の基礎となる考え方の理解、を到達目標とする。発達し学ぶ主体である子どもについて理解する。自身のこれまでの発達、学習の振り返りも行う。	
		社会科学	政治学の基礎	この授業科目では、政治学の基本的な概念や理論、現代日本の政治制度とその問題点、国際政治の現状について学ぶ。民主主義の歴史、権力分立、政治制度、官僚制、政党制、マスメディアと政治、日本の政治、選挙制度、地方自治、国際政治などを主な内容とする。政治学の基礎的な理論や概念を理解することで、最終的には、政治をめぐって自分なりの課題を発見し、主体的に判断することの出来る市民的教養を身につけることを目標としている。	
全学共通科目	教養基礎	社会科学	社会学と現代	この授業科目は、社会学の基本的枠組みを学ぶ。社会学とは、個人の認識のなかに、他者との相互作用のなかに、人々の集団のなかに、社会の存在を複眼的にみだし、探求していく営みである。本科目は現代の世界における社会学的問題を概観し、それが同時代的に私たちの身の回りにどのような形で存在するかを考える。これを通じて、諸問題にたいする社会学的な捉え方、および社会学理論を学び、その射程について理解を深める。	
全学共通科目	教養基礎	社会科学	日本国憲法	この授業科目は、日本国憲法を概観し、憲法上の諸問題について学生自身が考えていくための端緒を提供することを目的とする。平和主義、自由と平等、基本的人権、日本の統治機構など憲法上重要な概念を網羅的に取り扱うが、なるべく具体的な事件や判例などの学習を通して、学生が自分自身で考えていくための憲法上のテーマを提供する。1) 日本国憲法の個々の条文に記載された内容に関する知識を修得する、2) 憲法とは国家権力を制限し広く人権を保障する法であるという本質について説明できる、の2点を到達目標とする。	
全学共通科目	教養基礎	社会科学	市民生活と法A	この授業科目は、市民生活において、いかなる法律が適用されているのか、実際に紛争が発生した場合に、どのような法律のルールが適用されて解決が図られるのか、具体的な事案を取り上げながら、民法を中心に概説する科目である。「A」ではまず刑法と比較しながら民法の特徴や民事裁判について理解した後、物権、債権に関する主要な条文や法的概念(契約など)の理解を促していく。なるべく分かりやすい事例の説明を盛り込みながら授業を進める。	
全学共通科目	教養基礎	社会科学	市民生活と法B	この授業科目は、市民生活において、いかなる法律が適用されているのか、実際に紛争が発生した場合に、どのような法律のルールが適用されて解決が図られるのか、具体的な事案を取り上げながら、民法を中心に概説する科目である。「B」では、NHKの受信料問題、欠陥住宅問題、消費者金融の過払い金問題、マンション紛争、相続紛争など、具体的なケーススタディをもとに民法の考え方について学んでいく。なるべく分かりやすい事例の説明を盛り込みながら授業を進める。	

授 業 科 目 の 概 要

(経済学部経済数理学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
全学共通科目	教養基礎	社会科学	現代のマスメディア	この授業科目は、現代社会を語る上で欠かすことのできないマスメディアの現状と問題点を考察していく。わたしたちは、日々マスメディアによって発信される膨大な情報にさらされており、わたしたちは一見バラバラに存在しているかのように見えても、実は情報を共有することで相互に結びついている。本講義科目は、こうした社会学的視点からマスメディアを考察するとともに、急速に発展してきたソーシャルネットワークの展望についても扱う。	
		社会科学	社会心理学入門	この授業科目は、社会心理学の基礎的な知識について紹介する。社会心理学とは、人間の感じ方や考え方、行動について、他者との関係の中で理解することを目指し、科学的に研究する学問である。本講義ではとくに社会的な影響によって作り出された心理状態が個人を拘束していくありさま、および人間の心理が社会的に波及していくときのメカニズムなどについて扱うこととし、具体的な事例などをひきながら、社会心理学の射程を理解することを目的とする。	
全学共通科目	教養基礎	社会科学	企業と社会	本授業科目は、社会の中で企業の役割を理解できるようになることを目的とし、経営学の基礎的な知識について学びながら、社会における企業の役割や意義、働く場としての企業について考える力を身に付けることをめざす。具体的には、(1)社会の中で企業の役割について説明できること、(2)経営学の基礎的な概念を説明できること、(3)実際の企業の事例を書籍、新聞、インターネット等から情報収集することができることをめざす。	
全学共通科目	教養基礎	社会科学	学校と社会	この授業科目は、教育の社会的な役割、近代学校制度の成立と発展の歴史、その中でも、特に学校教育と社会との相互関係及び学校と地域との連携、学校安全について学修することをテーマとし、学生の「社会理解」と「向社会性」を促すことにも意を配り、卒業後の就職支援のための「キャリアガイダンス」の観点を加えて講義を行う。社会と学校教育との相互の関連について理解することができること、近代公教育制度の特徴とその後の発展の歴史を理解することができること、学校と地域との連携の意義とその実践事例を理解することができること、学校安全に関わる意識・知識の必要性を理解することができることを到達目標とする。	
全学共通科目	教養基礎	社会科学	近現代日本史A	この授業科目は、現代の日本社会と日本の国際関係を考える基礎として、日本近現代史を学ぶ科目である。「A」で問題にするのは、19世紀半ばから20世紀初頭にかけての日本の近代化過程における国際関係のなかでの位置である。日本の近代化が、開国というヨーロッパとの関係において始まったことにまず着目して、そのことによって日本の近代化がどのような内容をもつようになったのか、さらに中国・朝鮮というアジアの国々との関係が日本の近代化にどのような影響を与えたのかを学んでいく。	
全学共通科目	教養基礎	社会科学	近現代日本史B	この授業科目は、現代の日本社会と日本の国際関係を考える基礎として、日本近現代史を学ぶ科目である。「B」では、20世紀前半の日本史を学ぶ。20世紀前半の50年間は、日露戦争、第一次世界大戦、満州事変、日中戦争、アジア太平洋戦争と続き、戦争の時代といつてよいであろう。なぜ日本は、中国さらにはアメリカをはじめとする連合国と戦争するに至ったのか、他の選択肢はなかったのかを考えると、注目すべきは、第一次大戦から満州事変の十数年間の日本は、基本的には国際平和を求める協調外交の時代だったことである。なぜ戦争に至ったかは、なぜ協調外交を生かすことができなかったのかという問題でもある。	

授 業 科 目 の 概 要

(経済学部経済数理学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目	教養基礎	社会科学	現代社会の地理	
			この授業科目は、世界の南北格差、一国内における人口や産業の一極集中、一つの大都市内における社会的なモザイクなど、地球規模あるいは国際的な諸課題や、国外もしくは国内の地域課題について、地理(学)的な視点から理解を促す科目である。講義にあたっては、ローカルな地域にかかわる諸課題を理解するためには、グローバルな事象との相互作用に着目する必要があること、また、世界各地で生じている類似した課題でもその要因や過程には共通点とともに差異があることを認識させることに配慮する。	
全学共通科目	教養基礎	自然科学	物質の究極像	
			この授業科目は、いくつかのトピックスをとりあげて、物理学の歩みと基本的な考え方、方法を学ぶ。物質は何でできているのだろうか、物質を包んでいる宇宙は何からできているのだろうか、また、我々の住んでいる宇宙はいつ出現したのだろうか、こうした古典的な疑問に対する答えが、この30年間に実証的に得られてきた。こうしたことを理解するために、物質の素というものがそもそも何なのかという問題に立ち返って、物理学的な観点からレビューを行う。	
全学共通科目	教養基礎	自然科学	人間と進化	
			この授業科目は、生物人類学、すなわち生物学的観点に立って人間を探究するものである。本講義では、まず、生物としてのヒトの特徴、すなわち人体の諸システム(運動、エネルギー、物流・調節、防御、情報等)を学び、ヒトの個体発生、人類の起源と進化といった順に授業を展開する。科学の究極の目的は自分自身を知ることであり、本科目でも、生物としての人間、すなわちヒトとはどのようなものか学ぶことによって、「自らを知ろう」という知的作業につなぐことが目標である。	
全学共通科目	教養基礎	自然科学	脳科学と心	
			この授業科目は、脳の動きを脳画像によって見ることができるよう飛躍的に発展している脳科学において、記憶や思考、感情などの心理学が扱ってきた心の諸側面について、あるいは、精神疾患・発達障害・認知症などの脳の病気のメカニズムを明らかにする研究など、最新の脳科学の研究成果をもとに、心と脳との関係を考えていく。脳神経科学の基礎的な知識を習得するとともに、それがわれわれの生活や社会にどんな影響を及ぼすかを考察する能力を身につけることを目標とする。	
全学共通科目	教養基礎	自然科学	天文学入門	共同
			この授業科目は、もっとも古い学問のひとつであり、また、20世紀後半以来急速な進展を見せた学問でもある天文学について、人工衛星などの飛翔体技術や電波・赤外線・X線などさまざまな波長域での観測手段次々と発見される新しい現象をとりあげながら、私たちの住む地球からはじまり、太陽系、銀河系そして遠方銀河までが、どのように観測され、研究されてきたのか、宇宙の構造を空間スケールを変えながら概観し、また、私たちの住む地球や太陽系を含めて、時間とともにどのように進化してきたのかを概説する。	
全学共通科目	教養基礎	自然科学	薬はなぜ効くか	
			この授業科目は、病気の治療、予防に、そして診断に用いられ、人の健康の維持に無くてはならない薬について、歴史的な薬の始まり、最近の科学の発達・医学の急速な進歩のなかで多岐にわたる開発、かつ、作用の多様化、治療面の効果と副作用、結核菌などの病原細菌、ガン細胞にも薬に対する耐性とといった点を中心に、薬の種類、作用機序(薬はなぜ効くか)、薬剤耐性(薬はなぜ効かなくなるか)など、”薬”全般について講義するものである。受講生が薬について正しい知識を取得し、それが健康的な生活の一助となることを目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要

(経済学部経済数理学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目	教養基礎	自然科学	身の回りの科学	この授業科目は、科学について学ぶ機会の少ない文系学部の学生を対象に、サイエンスのエッセンスを伝えることを目指すものである。科学技術は、現代の人間生活の基本的な衣食住に深く関わっているのみならず、人間が限りなく豊かに生きてゆくことを力強く支えるものでもある。半導体を中心とする物質科学やデジタル技術等の具体的な科学技術の概観を通じて、科学技術のあるべき姿を考察し、その発展を正しく理解し、場合によっては、それに協力できる現代に生きる社会人を養成することを目的とする。
	教養基礎	自然科学	科学史	この授業科目は、「科学」が歴史のなかで果たしてきた役割とその哲学的な意義について検討する。仙台の科学や科学技術では、専門細分化が高度に進み、全貌を捉えることが難しくなっている。それゆえに人間社会に対して科学がどのような役割を果たすべきであるのかを考える機会はどうしても少なくなっている。本科目の履修を通じて、知識の客観性をめぐる真相その他、科学に関する諸問題を、自ら哲学的に捉え直せるようになることを目標とする。
全学共通科目	教養基礎	自然科学	科学技術の発展と歴史	この授業科目は、18世紀後半にはじまる産業革命以降のヨーロッパの科学技術に関するいくつかのエピソードを取り上げながら、科学と技術とが相互に影響を及ぼしあいながらそれぞれどのように発展してきたのかを具体的に論じる。科学技術の歴史的発展過程に関する講義を通して、科学技術と社会・経済・政治などとの関係、また科学技術の発展構造や方法に関する理解を深めることが授業の目標である。
全学共通科目	教養基礎	自然科学	サイエンス・トピックス (熱と光の科学)	この授業科目では、身近な現象から熱と光に関わるものを取りあげ、現象を理解すると同時に、さまざまなレベルでの「なぜ」について講義形式で考える。数式の使用は最小限にとどめ、文系の学生でも納得できるようなアプローチで解説する。熱については、温度と熱、エネルギーの保存法則、温度と分子、エントロピー、などの項目を取り上げ、物質の原子論的な観点を強調する。光の現象は波としての性質に注目して、虹、構造色、偏光、などの項目を取り上げる。また、光の粒子としての性質についても言及する。
全学共通科目	教養基礎	自然科学	サイエンス・トピックス (物質の科学)	この授業科目は、身の回りで、また体の中で、多くの元素がどのように組み合わせられて、そしてどのような性質を示すようになっているかを学ぶ。また、この講義ではさまざまな物質の例を通して、科学的な直感を身につけることをも目的としている。さまざまな科学情報が氾濫する現代において、その中から正しいと思われるものを取捨選択する能力を身につけることを目標とする。
全学共通科目	教養基礎	自然科学	サイエンス・トピックス (数の世界)	この授業科目では、微積分をはじめとする解析学などの高度な数学を用いない「初等整数論」についての入門的講義を行い、数の世界のもつ不思議さや美しさの一端を紹介する。一方で、この一見「役に立たない」整数論も近年、現代の通信技術において不可欠な暗号理論に応用されることがわかってきた。講義の後半では、RSA暗号、エルガマル暗号といわれる暗号を中心にその仕組みを解説する。
全学共通科目	教養基礎	自然科学	サイエンス・トピックス (生命の科学)	この授業科目は、身体、行動や考え方、その基となる脳の構造などさまざまなところに違いのある男女の生物学的な違いを概観し、生命科学の考え方の理解を促す。具体的には、性の定義、性の進化、様々な動物の性、身体的性差の発達メカニズム、行動の性差、脳の性差、子育てと脳、など。男女の生物学的な差異について学ぶことで、違いと類似点を理解する。ひいては男女共同参画社会の実現において不可欠な異性の理解と尊重という態度を養うこともめざす。

授 業 科 目 の 概 要

(経済学部経済数理学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
全学共通科目	教養基礎	自然科学	サイエンス・トピックス (文系のための数学)	この授業科目では、「数理の話題」と「集合・論理の話題」とを取り上げる。たとえば、価格の計算の中で、かけ算・わり算の意味を見直すところから始める。同じ式の中では、かけ算をたし算よりも先に計算する理由が納得できる。それだけではなく、簡単な連立方程式であれば、暗算でも解を求めることができるようになる。他方、ヒトが問題を考えるときには「まったくそう」「大体そう」のようにゆらぎがある。脳は本来論理的でないのかも知れない。しかし、あいまいな表現の引き起こすトラブルは少なくない。このような事情を踏まえて、数学の規則で命題の内容を論理的に判断する方法も身につける。数理の話題と集合・論理の話題との橋渡しとして、高校までとちがった方法で確率・統計の考え方を振り返る。	
		自然科学	サイエンス・トピックス (文系のための科学実験)	この授業科目は、科学実験を通じて科学的思考を促す演習科目である。日常生活の中での見慣れた現象をとりあげて、自ら実験や工作することを中心に進め、科学をより身近なものとして感じられるようになることをねらいとしている。具体的には、身の回りの現象を題材にして、自らの手で実験をし、確かめることで、科学に対して積極的に向き合う姿勢を醸成するとともに、実験結果を整理した上で、人に伝えることができるよう育むことを目標としている。	
全学共通科目	持続社会探究	環境・地域	地球と環境	この授業科目では、太陽系や地球環境のしくみを、地球科学的な視点から基礎的な事項を中心に学び、46億年前から現在までの間に、地球がどのような変化をとげてきたか、そして生物はその変化の中でどのように発生・進化してきたのかについて、理解を深めることを目的とする。具体的には、①地球の歴史と人類出現と近代化以降の急激な環境変化、および各種の地球環境問題とそれに対する国際的な動向について説明ができること、②身近な自然環境の見どころを理解し、自然に対する興味を維持・増進することができること、③健全な自然を後世へ伝承する大切さを理解し、これからの世界がどう進むべきかを、自らが考えることができることを目標とする。	
		環境・地域	気象と地球環境	この授業科目は、気象・気候および地球環境問題を理解するために、身近な大気現象から、気象災害、地球規模で発生する現象や地球温暖化問題などをトピックとして取り上げ、気象学と気候学の基礎的な事項の理解を中心に学習する。具体的には、①大気現象を物理的なメカニズムから理解し、説明できるようになること、②気象にとどまらず身近な環境に興味を持ち、さらに災害に備える意識を個々に持つこと、③地球規模で進む温暖化対策の国際的な動向について説明ができることを目標とする。	
全学共通科目	持続社会探究	環境・地域	自然環境と文明	この授業科目は、過去の自然環境と文明に起こった変化がどのように関連していたのかを考え、さらに現代文明とこれからの地球環境のあり方を考えていく。これまで地球の自然環境が複雑なシステムがバランスをとりながら、うまく循環してきたものの、人間が文明的な活動を始めた時から、人間は環境に様々な影響を与え、近年はそのバランスが崩れ、様々な環境問題が生じている。このことをふまえ、本授業では現代文明がもたらした環境変化を理解することから始め、また世界の気候変動史を学んだ上で、農耕と文明、森林と文明、火山噴火と文明、歴史時代の気候と文明といったトピックスを扱う。	

授 業 科 目 の 概 要

(経済学部経済数理学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目	持続社会探究	環境・地域	日本列島の歴史と災害	この授業科目は、日本列島が形成されたプロセスについて理解した上で、そのプロセスゆえの災害上のリスクについて考える。近年のウラン-鉛年代学の進歩により、これまで形成年代が不明だった地質体の位置づけが明らかになったことで約 6 億年にわたる日本列島形成史のデファクト・スタンダードが生まれつつある。こうした現状を踏まえて、本授業では最新の研究を踏まえた日本列島の特徴を多くの画像で理解し、その恩恵と表裏一体で発生する災害について考察することを目標とする。
			日本の国土と社会	この授業科目は、グローバル化の進展によって、地球上で進行する地域秩序の再編、それに伴い変貌する地域の社会経済や人びとの暮らしの在り方を概観する。具体的には日本を対象にして、日本の産業活動の空間的構成の変容を講義するとともに、日本の地帯構成を念頭においた上で、標識的な地域の事例を踏まえつつ、それぞれの地帯における地域変容や地域問題の理解へとつなげていく。また、あわせて、地理学的なフレームワークや地図がグラフ類の表現法を学んでいく。
全学共通科目	持続社会探究	環境・地域	外国の自然と社会 A	この授業科目では、EU 諸国およびアメリカ合衆国などの先進諸国における諸国土と社会について地誌学的見地から概説する。まず、対象地域における自然環境の多様性を踏まえた上で諸国土の成り立ちについて理解する。その上で、言語・民族・慣習の多様性、国民国家形成と国民統合のメカニズム、産業化と都市化の軌跡、EU、NAFTA 等の経済統合とそれに伴う社会経済的諸課題、域内経済格差とそれを是正するための地域経済政策について考えていく。
全学共通科目	持続社会探究	環境・地域	外国の自然と社会 B	この授業科目では、モンスーンアジアの諸国土と社会について地誌学的な見地から概説する。東・東南アジア諸国における外資導入に基づく輸出指向工業化政策の進展によって、アジアは世界経済において大きな役割を担うようになってきている。その中で、アジアの諸地域は、急激な地域変容と社会変動を経験している。本科目では、グローバルな秩序の下に再編しつつあるアジア諸国を対象に、その空間像を理解させるとともに、具体的な事例を挙げつつ、アジアにおいて生起している地域変容および地域問題の理解へと結びつけたい。
全学共通科目	持続社会探究	環境・地域	地域づくり論	この授業科目は、地域づくりを念頭においた地域調査の方法と地域活性化のための実際的な方法について考える。地域経済・地域社会の活性化の方法は、社会の変化に応じて変化するが、雇用の確保、人口の安定、社会・生活条件の整備から始まることに変わりはない。雇用、人口、生活の 3 つの視点に注目した地域づくりの調査方法と地域活性化の内容を考えていきたい。検討する地域としては、被災地域、大都市地域、地方圏都市地域、人口減少地域の 4 つを取り上げる。
全学共通科目	持続社会探究	環境・地域	環境科学トピックス (生命と環境)	この授業科目では、生命の進化と環境への適応について、生物の視覚と体色の進化を中心に学習する。まず、生物と進化、光と色などの基礎的な知識を習得したうえで、物が見えるしくみや生物の体色について様々な事例をとりあげて理解を深める。具体的には、① 生命の進化、適応について理解し、説明できるようになること、② 光、色の特性と環境を理解し、説明できるようになること、そして③生物の形質についての論理的考察ができることをめざす。

授 業 科 目 の 概 要

(経済学部経済数理学科)

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目	持続社会探究	環境・地域	環境科学トピックス (食料と環境)	この授業科目は、人類が生存するために最も必要な食料および食料生産環境について、安心・安全な食料や健康・衛生環境と関連付けながら、グローバルな視点から理解を深めることを目的とする。具体的には、①世界や日本における環境問題について基本的な知識を習得すること、②白書や国際機関の報告書をもとに、現代の日本および世界の食料生産と需給状況を読み取り、説明できるようになること、③安心・安全な食料の確保に向けた取り組みについて、自らが考えることができることをめざす。	
全学共通科目	持続社会探究	国際理解	戦後の日本と世界	この授業科目は、第2次世界大戦後の日本と世界の歴史を学ぶことで、国際化の時代に相応しい素養の一つを身につけ、あわせて専門科目学習の基盤を作ってもらおうことを狙いとしている。特徴は日本史、世界史 (大学では西洋史、東洋史) という区分をせず一体のものとして、大きな歴史の転換点となった戦後について、国内政治史、国際情勢 (国際政治と現代思想) をはじめとして概説する。ビデオ教材を用い、映像によって理解をリアルなものにするようにする。	
全学共通科目	持続社会探究	国際理解	近現代のアジア A	この授業科目では、アヘン戦争の時期から 20 世紀初頭までの中国と朝鮮半島を中心としたアジアの歴史を学ぶ。東アジアの国々は 19 世紀の半ばに、ヨーロッパによって不平等条約を押しつけられて開国を求められ、自由貿易体制に組み込まれ、植民地化の危機のなかで近代化をすすめていった。日清戦争・日露戦争を通して、東アジアの日本、中国、朝鮮は大きな岐路をむかえ、その立場を変えていった。東アジアの近代化の歴史を学ぶことは、東アジアの国際関係のみならず日本の近代化のあり方を理解する上で必須の事柄である。	
全学共通科目	持続社会探究	国際理解	近現代のアジア B	この授業科目では、20 世紀初頭から 1950 年代までの中国と朝鮮半島を中心としたアジアの歴史を学ぶ。現在の東アジアの国際関係の直接の原点は、第二次世界大戦以降の中国の国共内戦、朝鮮戦争というアジアの熱戦による、社会主義中国と朝鮮半島の分断国家という枠組みの形成にある。その歴史的前提は、日本の朝鮮の植民地支配と中国に対する侵略戦争である。こうした歴史を学ぶことは、東アジアの国際関係を理解する上で必須の事柄である。	
全学共通科目	持続社会探究	国際理解	近現代の欧米 A	この授業科目は、現代世界を理解するうえで重要な近現代のヨーロッパ諸国とアメリカ合衆国の歴史にかんする基本的素養を身につけ、専門科目学習の基礎をつくってもらおうことをめざす。とくに、新大陸への入植、18 世紀末のアメリカとフランスの市民革命から、産業資本主義の成立を経て、19 世紀後半の帝国主義時代までのヨーロッパ (特にフランス、ドイツ、ロシア) とアメリカ合衆国をたどるなかで、現代世界の諸問題を歴史的に理解することを学ぶ。	
全学共通科目	持続社会探究	国際理解	近現代の欧米 B	この授業科目は、現代世界を理解するうえで重要な近現代のヨーロッパ諸国とアメリカ合衆国の歴史にかんする基本的素養を身につけ、専門科目学習の基礎をつくってもらおうことをめざす。本講義ではとくに、19 世紀末の帝国主義時代から 20 世紀後半の第二次世界大戦までの時代までのヨーロッパの歴史の歴史を、ウィーン体制の成立と崩壊、アメリカ南北戦争、国民国家の建設、アメリカ西部開拓、帝国主義と第一次世界大戦、ヴェルサイユ体制、世界恐慌とファシズムといったトピックでたどるなかで、現代世界の諸問題を歴史的に理解することを学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要

(経済学部経済数理学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目	持続社会探究 国際理解	中東地域史	この授業科目は、現在においても、過去にさかのぼってみても、つねに国際政治、国際経済、そして文化交流の一大焦点でありつづけてきた中東地域に関し、中東地域の「いま」を理解するためには、この地域の過去（歴史）を知らねばならないという観点から、「イスラーム史」の確認から始めて、それを批判的に検討しながら「いま」に通用する中東地域史の理解をめざすことを到達目標とする。	
全学共通科目	持続社会探究 国際理解	現代の国際政治	この授業科目は、国際関係の主に政治的側面についての基礎知識を学ぶことを目的とする。世界は再び激動の時代を迎えつつある。中国をはじめとする新興国の台頭など、プレグジットに揺れる欧州、アメリカにおけるトランプ政権成立、目まぐるしく動き続けている。どうして戦争は起こるのだろうか、正しい戦争はあるのだろうか、国連があるのになぜ世界は平和にならないのだろうか、グローバルゼーションの深化は国際関係をどのように変容させたのだろうか、情報革命は私たちの国際社会へのかかわり方をどのように変えているのだろうか、グローバル化の中で各国の内政はなぜ不安定化するのだろうか、こうした課題に対し、本講義では、理論と歴史の両面から考えていく。	
全学共通科目	持続社会探究 国際理解	グローバル経済論	この授業科目は、国際関係の主に経済的側面についての基礎知識を学ぶことを目的とする。日本経済は1990年代に急激なグローバル化の只中におかれるようになり、国民経済の枠を超えて国際経済のなかで自国経済をみつめる必要がこれまで以上に大きくなった。本講義では、現代的グローバル化というものがどういう特質をもつものなのかを理解した上で、リカードの比較生産費説をはじめとする自由貿易を推進する諸思想にふれ、ブレトンウッズ体制の形成と崩壊といった制度的側面の変遷を追う。また、直接投資と多国籍企業の理論と実際を学び、世界経済の3極化とさまざまな国際的な経済連携協定の意義と役割について考えていく。	
全学共通科目	持続社会探究 国際理解	国際文化交流論	この授業科目では、グローバル時代における日本の進路を考える一環として、国際文化交流の意義と現状を概観する。本講義では、国際文化交流の歴史的展開、各種交流の具体例、ジャンルや担い手別の特徴などを広く紹介するとともに、日本の代表的国際文化交流実施機関である国際交流基金の事業例などを見ながら、交流の目的、実施上の留意点、評価など、文化交流の要点を詳しく検討する。その過程で、文化の本質について考察するとともに、新しい価値観の創造、外交や「国益」との関係などを考える。	
全学共通科目	持続社会探究 国際理解	異文化理解トピックス（ドイツ語圏）	この授業科目は、ドイツ語圏の文化、社会、歴史、生活習慣や風習、地域ごとの特色（言語、歴史、風習、祭り、芸術、食文化等）に対する理解を深めることを目標とする。文化の多様性や文化の形成過程等を理解し、日本の状況と比較しながら、グローバル社会における多文化共生のあり方を考える。同時に、外国の文化や社会の様相、および日本との共通点・相違点について、客観的に考察する力を身に付ける。さらに、課題等を通じて、必要な資料を収集・整理し、自分なりの視点で分析する力も養う。	
全学共通科目	持続社会探究 国際理解	異文化理解トピックス（フランス語圏）	この授業科目は、フランス語圏の文化、社会、歴史、生活習慣や風習、地域ごとの特色（言語、歴史、風習、祭り、芸術、食文化等）に対する理解を深めることを目標とする。文化の多様性や文化の形成過程等を理解し、日本の状況と比較しながら、グローバル社会における多文化共生のあり方を考える。同時に、外国の文化や社会の様相、および日本との共通点・相違点について、客観的に考察する力を身に付ける。さらに、課題等を通じて、必要な資料を収集・整理し、自分なりの視点で分析する力も養う。	

授 業 科 目 の 概 要

(経済学部経済数理学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目	持続社会探究	異文化理解トピックス (スペイン語圏)	この授業科目は、スペイン語圏の文化、社会、歴史、生活習慣や風習、地域ごとの特色 (言語、歴史、風習、祭り、芸術、食文化等) に対する理解を深めることを目標とする。文化の多様性や文化の形成過程等を理解し、日本の状況と比較しながら、グローバル社会における多文化共生のあり方を考える。同時に、外国の文化や社会の様相、および日本との共通点・相違点について、客観的に考察する力を身に付ける。さらに、課題等を通じて、必要な資料を収集・整理し、自分なりの視点で分析する力も養う。	
	国際理解			
全学共通科目	持続社会探究	異文化理解トピックス (中国語圏)	この授業科目は、中国語圏の文化、社会、歴史、生活習慣や風習、地域ごとの特色 (言語、歴史、風習、祭り、芸術、食文化等) に対する理解を深めることを目標とする。文化の多様性や文化の形成過程等を理解し、日本の状況と比較しながら、グローバル社会における多文化共生のあり方を考える。同時に、外国の文化や社会の様相、および日本との共通点・相違点について、客観的に考察する力を身に付ける。さらに、課題等を通じて、必要な資料を収集・整理し、自分なりの視点で分析する力も養う。	
	国際理解			
全学共通科目	持続社会探究	異文化理解トピックス (韓国語圏)	この授業科目は、韓国語圏の文化、社会、歴史、生活習慣や風習、地域ごとの特色 (言語、歴史、風習、祭り、芸術、食文化等) に対する理解を深めることを目標とする。文化の多様性や文化の形成過程等を理解し、日本の状況と比較しながら、グローバル社会における多文化共生のあり方を考える。同時に、外国の文化や社会の様相、および日本との共通点・相違点について、客観的に考察する力を身に付ける。さらに、課題等を通じて、必要な資料を収集・整理し、自分なりの視点で分析する力も養う。	
	国際理解			
全学共通科目	持続社会探究	異文化理解トピックス (イスラーム世界)	この授業科目は、イスラーム世界の文化、社会、歴史、生活習慣や風習、地域ごとの特色 (言語、歴史、風習、祭り、芸術、食文化等) に対する理解を深めることを目標とする。イスラーム世界は、1300年を超える長い歴史を有し、21世紀に入ってそれは旧大陸から地球全域にまで広がり、重要性はますます増している。イスラームは宗教というよりも、多民族・多文化が入り混じった世の中で人々がいかに共存のためのネットワークを構築してきたか、その方法を示す処方箋であるとの理解が必要になる。	
	国際理解			
全学共通科目	持続社会探究	裁判と社会	この授業科目は、日本や諸外国の裁判制度の概要を理解し、それが社会に及ぼしている影響を考察することを目的とする講義である。裁判員制度の創設により、法律の専門家ではない一般の市民も裁判に関わる可能性が生じている。裁判員制度は重大な刑事事件のみを対象とするものであるが、現代社会における法の役割の高まり (さらに、セクハラ訴訟や知的財産権をめぐる訴訟など、企業が裁判に巻き込まれるケースの増加) をも考えるならば、社会人になろうとするすべての学生は、広く民事・刑事の両分野の裁判について一定の知識を持っていることが必要であることを認識してもらうことが目標である。	
	人権・共生			
全学共通科目	持続社会探究	生命倫理と法	この授業科目は、安楽死や人工妊娠中絶などの伝統的な問題だけでなく、遺伝子工学や医療技術の進歩によって、遺伝子検査と個別化医療の普及に伴う患者の「データ化」、ES細胞を用いた研究に特有の倫理的問題など、生命倫理に関する問題の急増、それをめぐる立場の対立といった現代社会の状況を踏まえ、法的にこれらの問題に対してどのように取り組んでいけばよいかを学生自身に考えさせることを目的とする講義である。現行法の解釈やこれからの法的枠組みの整備の方向性などについて、なるべく多くの具体的な事例を通して考えていく。	
	人権・共生			

授 業 科 目 の 概 要

(経済学部経済数理学科)

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目	持続社会探究	人権・共生	地域福祉論	この授業科目は、社会福祉と地域福祉の相違性と関連性を知り、「地域福祉とは何か」を解明していく。わが国の社会福祉は、21世紀を目指して大きな転換期を迎え、制度改革が次々と打ち出され、これら改革の方向性を示す共通のキーワードは、「ノーマライゼーション」である。地域福祉の理念は、人々が住みなれた地域で生きがいや豊かな生活を保障することであり、国、自治体、地域住民が協働して改革していく必要があることを認識していく。	
全学共通科目	持続社会探究	人権・共生	人権とジェンダー	この授業科目は、女性も男性も、そして、多様なジェンダー・アイデンティティやセクシュアリティを持つすべての人々が、自由に自分らしく生きられる社会とは、ということを入権の視点を重視しながら考えて行く。私たちが「当たり前」だと思いがちな現代日本のジェンダーのあり方は、世界の国々や日本の過去のそれと比較するならば決して「当たり前」ではなく、日本のジェンダー・ギャップ指数は130カ国中98位である(2008年)であることも認識していく必要がある。	
全学共通科目	持続社会探究	人権・共生	こころの健康と臨床	この授業科目は、臨床心理学の知見から、福祉・教育・医療などのヒューマンサービスにかかわる活動(仕事)や対人的なボランティア活動などを視野に入れた、人への支援活動に必要な心理学的な知識とスキルを学ぶことを目的とする。具体的には、臨床心理専門活動の実際(スクールカウンセリング、災害・犯罪・虐待などの被害者支援、高齢者やHIV感染者への援助、子育て支援など)を紹介し、心理アセスメントと心理療法・コミュニティアプローチについて講じる。	
全学共通科目	持続社会探究	人権・共生	老人福祉論	この授業科目は、国、地方自治体、あるいは地域住民の意識や活動などによって大きく左右される高齢者福祉の制度化や質のレベル、高齢社会から超高齢社会への進展が高齢者福祉に及ぼす影響、福祉国家スウェーデンの高齢者像と国・自治体の政策の変遷、近く超高齢社会を迎える日本の現状と今後の展望、新しい自立支援・促進型福祉のあり方などを論じ、国、地方自治体、民間組織、地域住民が担うべき役割など、今後の課題を考察する。	
全学共通科目	持続社会探究	人権・共生	福祉社会に生きる	この授業科目は、法や制度が整っているか否かによって判断できるものではなく、社会を構成する国民の意識の相違によって左右されるものであるとされる福祉社会について、憲法で保障される権利と社会福祉関連法、人口問題と福祉、福祉と国民の連帯、福祉の町づくりなど、わが国の福祉の現状や国民の意識に内在する様々な問題点の認識、福祉社会のモデルとなるスウェーデンの福祉理念と制度の国民浸透度について紹介し、「福祉社会」の構築意識を培う。	
全学共通科目	持続社会探究	人権・共生	特別支援教育概論	この授業科目は、様々な教育的ニーズを持つ子供たちを理解し、適切な支援をおこなうために必要な知識を身につけることをテーマとし、インクルーシブ教育の理念とともに、特別支援教育の制度や関わる法令について理解し、発達障害を含む特別の支援を必要とする児童生徒の発達過程や特性を理解し、支援の方法を具体的に例示することができること、発達障害を含む特別の支援を必要とする児童生徒の教育課程を理解し、個別の指導計画の作成や関係者および関係機関との連携のあり方について理解すること、外国籍(母語が日本語ではない)や貧困、愛着などの教育的ニーズを抱える子供の理解と支援について理解することを目指す。知識的な事柄の他、具体的な実践例の紹介も併せて行う。	

授 業 科 目 の 概 要

(経済学部経済数理学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目	持続社会探究 人権・共生	共生社会トピックス (アートと社会)	この授業科目は、アートのもつ美的価値に加えて、近年重視されているその社会的・経済的価値についても多角的に分析し、現代社会におけるアートの位置づけや意義を明らかにしていく。特に、「アーティスト」と、アートを「見る人」(観客、愛好家、市民など)の間に立ち、アートと一般の人々を「つなぐ人」(サポーター、マネージャー、プランナーなど)に焦点を当て、彼ら「つなぎ手」たちが、地域や企業のなかでどのような活動を展開しているのかを探る。	
全学共通科目	持続社会探究 人権・共生	共生社会トピックス (日本女性史)	この授業科目は、政治の中の女性の役割をテーマとする。とくに、古代から幕末まで、天皇および為政者の意思が伝達される過程を学び、そこで女性がどのように位置づけられ役割を果たしたのかを、現存する各種史料に基づいて考察する。これまで、官僚機構や為政者の意思の伝達は、男性官僚の職務として考えられる場合が多かった。その通説的理解の是非を検討していきたい。また、政治機構は社会のあり方を反映したものである。このため、政治史のみならず社会のありようと変化についても学んでいきたい。	
全学共通科目	持続社会探究 実践	成蹊を知る	この授業科目は、自校史に関わる科目として、成蹊学園はどのようにして誕生しどのような経緯をたどって現在の姿になったのか、本学園の歴史を紐解きながら成蹊のアイデンティティについて考える。教育史における中村春二の業績、岩崎小彌太が成蹊において果たした役割、吉祥寺移転後の浅野校長の教育理念、第二次世界大戦後の成蹊、成蹊から育った著名な人々、成蹊大学の現状などについて講義を行っていく。あわせて、成蹊学園の教育史におけるESD(持続可能な開発のための教育)の意義について考えていく。	
全学共通科目	持続社会探究 実践	情報保障とボランティア	この授業科目は、近年増加する大学に学ぶ障がい学生が多くが、授業をはじめ学生生活のさまざまな面で困難を感じている「情報取得」について、この困難を軽減するための「情報保障」の考え方、現在、成蹊大学を含むいくつかの大学で行われている「情報保障」の障がいごとの実例(聴覚障がいを持つ人に対して行われるノートテイク、手話、視覚障がいを持つ人に対して行われる点字テキスト)をあげながら、当該学生が授業に積極的に参加していくために必要な情報保障、支援方法を具体的に学ぶ。	
全学共通科目	持続社会探究 実践	野外自然教育論	この授業科目は、多くの人が自然を感じ、それを共有するための方法について考察し、実践することを目標とする。現代において、「自然災害に立ち向かう」という表現に見られるように、人間と自然を対置しようという意識は強い、しかし、本来、人間や人間社会も宇宙や地球のシステムの一部に内包されているものである。屋内の人工的な環境の中では、人間が自然のシステムの一部であることは分かりにくい、都市部でも野外に出ることで、少しの工夫で自然のシステムを実感することができるようにする。	
全学共通科目	持続社会探究 実践	地元学実践演習	この授業科目では、地域を理解する＝地域の実態を把握するための手法を演習方式で学ぶことを目的とする。地域を知ることは、社会の一員として、その地域の課題に気づき、解決のため行動したり、環境や災害などの観点から、持続可能な地域づくりに関わりをもつ主体になるためにも必要である。そこでこの授業では、地域の実態を把握するためのさまざまな手法(＝地域調査の手法)を、わたしたちが生活する身近な地域や他の地域における、まちづくり、地域資源プロデュース、コミュニティ防災等を題材として具体的に学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要

(経済学部経済数理学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目	持続社会探究	実践	武蔵野地域研究	
			この授業科目は、成蹊大学の位置する武蔵野市やその周辺地域の地域社会の成り立ちについて、複数のゲストスピーカーによる講演を交えて講義する科目である。まずは地域概要を理解することから始め、商店街、公的機関、NPO、コミュニティ組織などの関係者の講演によって、当該地域の地域課題を理解し、課題解決に向けてどのような取り組みが行われてきたかについて、学んでいく。授業担当者、ゲストスピーカー、受講者の間での積極的なディスカッションによって、深い理解を促していく。	
全学共通科目	持続社会探究	実践	武蔵野市寄附講座	
			この授業科目は、包括的な連携協定を結んでいる武蔵野市から運営経費の補助を受けて開講する科目である。本学で設置している各学部の回り持ちで、担当となった学部が、当該学部の取り上げる専門領域、地域的または社会的トピックを取り上げてテーマを定め、本学教員をはじめ、外部からの有識者等をゲストスピーカーとして招いて講義をおこなう。このことにより、自分の専門領域、領域外にかかわらず、現代の地域課題、社会課題を涵養するものとなる。	
全学共通科目	持続社会探究	実践	大学生活と相互理解	共同
			この授業科目は、青年期に生じるさまざまな悩みや課題について、あるいは大学生活で直面する可能性のある危機的な問題に対して、心理的メカニズムを理解するとともに、他人事であるとの認識を超えて向かい合い考えていく科目である。主として大学における学びの意義とアイデンティティ形成、親・友人との関係のとらえ直し、大学生とカルト問題、性の問題、犯罪の問題、依存症（携帯・ゲーム等）、精神医学的な問題、自殺予防、ひきこもり等を取り上げ、これらを通して、良識ある社会人としての人格の陶冶を目的とする。	
全学共通科目	持続社会探究	実践	成蹊グローバルセミナーA	
			この授業科目は、異文化コミュニケーションを目的として、海外からの留学生と日本人学生がともに学ぶ科目である。この授業で行うさまざまな活動で自分のコミュニケーション能力を高め、自己の能力を客観的に観察する力を養う。「A」では、チームワークを作る活動、ファシリテーター体験、ビジネス・コミュニケーション・ゲーム、プロジェクト・ワーク等より内容を構成し、最後の回では各自で作成したポートフォリオをもとにしたショート・プレゼンテーションを行う。	
全学共通科目	持続社会探究	実践	成蹊グローバルセミナーB	
			この授業科目は異文化コミュニケーションを目的として、海外からの留学生と日本人学生がともに学ぶ科目である。この授業で行うさまざまな活動で自分のコミュニケーション能力を高め、自己の能力を客観的に観察する力を養う。「B」では、チームワークを作る活動、言語コミュニケーション活動、フェアトレードを考えるための活動、プロジェクト・ワーク等より内容を構成し、最後の回では各自で作成したポートフォリオをもとにしたショート・プレゼンテーションを行う。	
全学共通科目	持続社会探究	実践	武蔵野地域連携セミナー	
			この授業科目は、武蔵野市との包括的連携協定に基づいて、市役所をはじめとする武蔵野市内の各主体との連携によって、武蔵野市とその周辺地域における地域資源の発見、地域課題とその解決策の探究などを、演習方式で学ぶものである。取り上げるテーマとしては、インバウンドツーリズムの推進のための観光資源の提示、市街地における緑視率向上の方策の探究、武蔵野市の友好都市との交流方策の模索とその実践など、さまざまな主題が考えられる。	

授 業 科 目 の 概 要			
(経済学部経済数理学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	ゼミナール科目	基礎ゼミナール	この授業科目は、大学での学びために必要な基本的な方法を演習形式で学ぶものである。取り扱われる具体的なテーマは担当する教員ごとに異なるが、それらはすべて現代社会で発生する問題にかかわるものであり、経済学を幅広く学んでいくために必要な視座となるものである。授業では、教員が提示するテーマに対し学生自らが問題意識を高めて課題を発見し、仮説を立て、データを収集、検討し、自らの意見と結論を発表していく。仮説の立て方をはじめ、データ収集の方法、発表の手順、議論の仕方、レジュメやレポートの書き方なども指導していく。
専門科目	ゼミナール科目	プログラミング演習	この授業科目は、プログラミングとはどのような作業であるのかという説明から始めて、基本的なアルゴリズムをプログラムとして実装できるようになることを目的とする。また、さまざまな現実的な問題を解くことも目的とする。データ解析には多くの手間と時間がかかるが、少々のプログラミングの知識を使うことによって、劇的に時間を短縮できることがある。プログラミングをするためのプログラミング言語には様々なものがあるが、本授業ではオープンソースの統計処理言語(環境)を用いることにする。
専門科目	ゼミナール科目	理論・計量ワークショップ	この授業科目は、「ミクロ経済学 I/II/III」, 「マクロ経済学 I/II/III」あるいは「計量経済学 I/II/III」において別に定める基準以上の成績を修めた学生を対象として、各科目についてそれぞれ公務員試験や経済学検定, あるいは大学院入試問題, もしくは海外の大学における同様の授業科目で扱われている宿題等から演習問題・課題を取り寄せ, それら課題を使った演習を行い, これらの科目に対するさらなる理解を促す機会を提供するものである。
専門科目	ゼミナール科目	計量実践ワークショップ	この授業科目は、「計量経済学 I」「同 II」「同 III」を修めた学生を対象とし「卒業研究」で高度な回帰分析の手法を使った実証研究を行う予定の学生に向けて開講されるものである。統計的な実証研究を行うためには一定のプロセスを踏むことが求められる。この授業科目は、その基本的なプロセスを理解することを目的としている。具体的には、リサーチ・クエスチョンの設定方法、データの収集方法、計量分析の方法、実証分析のまとめ方などについて学習する。
専門科目	ゼミナール科目	経済学ワークショップ	この授業科目は、早期卒業制度における演習科目である。経済の幅広い課題の中から、履修者の力量と興味に合った個別のテーマを見つけて課題を探究する。第1に、基礎的な文献と公表されているデータ等を確認しつつ、関連文献でテーマについての理解を深める。第2に、途中経過としての発表会を行い、他の参加者よりコメントを受けつつ研究を発展させていく。全体を通して、継続的に研究を進展させることを目指し、質と量ともに早期卒業者としてふさわしい研究の最終成果物を提出するものとする。
専門科目	ゼミナール科目	上級ゼミナール I	この授業科目は、経済学に関連する多岐にわたる専門分野のなかから、学生が選択した特定分野についての専門知識を習得することを目標とするものである。現実の社会・経済問題に対する分析・洞察力を深めるために事例研究が積み重ねられ、実地調査を行うこともある。1年次の「基礎ゼミナール」、2年次の「プレゼンテーション演習」を経て磨かれてきた課題発見力、人前でのプレゼンテーション力を生かし、演習形式で発表や議論を通して、学生相互に学び合うものである。

授 業 科 目 の 概 要

(経済学部経済数理学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	ゼミナール科目	上級ゼミナールⅡ	この授業科目は、「上級ゼミナールⅠ」で習得された経済学に関連する専門知識をさらに深めていくものである。それに加え、学生が選択した特定の専門分野の分析・検証を通すことで、より幅広い現実の社会・経済問題に対応していく力を磨くことを目標とするものである。「上級ゼミナールⅠ」同様、演習形式で発表と議論を丹念に繰り返し、ときにグループワークを行いながら学生相互に学び合い、「卒業研究」のために各自、個別のテーマを探求するものである。	
専門科目	ゼミナール科目	卒業研究	この授業科目は、「上級ゼミナールⅠ」「上級ゼミナールⅡ」で習得した知識をより発展させ、演習形式で学生自身が設定した特定専門分野についての研究を深め、最終的に卒業研究としてふさわしい論文等を作り上げていくことを目標とするものである。形式的な制約が多い論文等を作成していくにはそれ相当の集中力と長い時間が必要であるが、「上級ゼミナールⅠ」「上級ゼミナールⅡ」で培ってきた学生相互の学び合いや議論の結果を踏まえながら、経済学部で習得してきた専門知識の総括としての卒業研究を完成させる。	
専門科目	基盤科目 基盤Ⅰ	ミクロ経済学Ⅰ	この授業科目は、ミクロ経済学の全体像を俯瞰するための科目である。前半は、市場の失敗がない完全競争市場を扱う。そこでは需要曲線・供給曲線によって均衡が決まり、そのような均衡での市場取引が社会的な余剰を最大化することを見る。後半は、市場の失敗がある状況を扱う。具体的には、独占・寡占といった不完全競争、外部性や公共財を含む経済、経済主体の間で情報の非対称性があるような状況においては、市場経済だけでは効率的な配分を達成できず、政府による市場への介入が必要となることを説明する。	
専門科目	基盤科目 基盤Ⅰ	マクロ経済学Ⅰ	この授業科目は、マクロ経済学の全体像を俯瞰するための科目である。特に、主要な変数（消費や投資）の決定要因とその変数間の相互作用を分析する基本的な枠組みを扱う。具体的には、SNA（国民経済計算）と物価指数などの経済統計の意義、そこから読み取れる日本経済の特徴を説明する。また、家計・企業・政府による、消費・投資・政府支出の決定など各経済主体の行動原理について説明する。そして、政府や中央銀行による財政・金融政策の効果を分析する枠組みである IS-LM モデルについても説明する。	
専門科目	基盤科目 基盤Ⅰ	計量経済学Ⅰ	この授業科目は、計量経済学の全体像を俯瞰するための科目である。特に、記述統計学と推測統計学の統計的方法の基礎概念と基本的な手法を十分理解し、正確に適用できることを目標とした授業である。第 1 部では統計学的な思考と、平均や標準偏差などの記述統計学を学ぶ。第 2 部では確率変数や確率分布といった確率論の基礎を学ぶ。第 3 部では「平均」にかかわる統計的推論を学習し、母平均の点推定、大数の法則と標本平均の一致性、標本平均の標本分布、平均にかかわる信頼区間と仮説検定などを小標本の場合と大標本の場合にわけて扱う。	
専門科目	基盤科目 基盤Ⅰ	経済数学Ⅰ	この授業科目は、経済学の数理的分析に必要な数学ツールを習得させるための科目である。当科目での構成は、当学科における経済学教育に必要な数学ツールを数学の各分野から取り込んだものとなり、具体的には、以下の通りである。まず、論理と集合について概説する。線形代数の分野からは、行列の演算、逆行列、クラメールの公式などが扱われる。解析の分野からは 1 変数関数の微積分として、指数関数の微分、積・商・合成関数の微分、さらには最適化問題が解説される。また、数列に関して、等差数列、等比数列、数列の和、簡単な漸化式などのトピックスが扱われる。確率論の分野からは、条件付き確率、確率変数、期待値などのトピックスを扱う。	

授 業 科 目 の 概 要

(経済学部経済数理学科)

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	基盤科目	基盤Ⅰ	ミクロ経済学Ⅱ	この授業科目は、「ミクロ経済学Ⅰ」の後続科目である。本科目の主要テーマは、消費者や生産者の需要や供給といった経済行動を彼らの最適化の結果として説明することであり、最適化問題といった数学的テクニックが必要とされる。前半は、消費者の理論である。各消費者が持つ嗜好、および直面する予算制約に応じて、各財の需要量がどのように決定するのを見る。ここでは、代替効果・所得効果といった概念も説明する。後半は、生産者の理論である。生産量を所与として費用がどのように最小化されるのか、また完全競争市場において各企業の利潤最大化により供給量はどのように決まるのを見る。	
専門科目	基盤科目	基盤Ⅰ	マクロ経済学Ⅱ	この授業科目は、「マクロ経済学Ⅰ」の後続科目である。特に、消費、投資、GDP、利子率、物価水準といったマクロ経済を代表する主要な変数の決定要因について個別経済主体の行動原理（ミクロ経済学的な基礎）の観点から説明する。具体的には、家計の消費・貯蓄行動、企業の設備投資行動、資産市場の機能と役割について説明する。そして、経済成長を説明する枠組みであるソローモデルや内生的成長モデルについても説明する。	
専門科目	基盤科目	基盤Ⅰ	計量経済学Ⅱ	この授業科目は、「計量経済学Ⅰ」の後続科目である。本科目の主要テーマは回帰分析である。第1部の単純回帰分析では、最小二乗の原理、OLS推定量の標本分布、信頼区間と仮説検定などを扱う。第2部では重回帰分析の理論を扱う。さらに第3部では重回帰分析の諸問題としてダミー変数、非線形関数による定式化、OLSバイアスの原因として変量誤差、過少定式化問題、同時性、サンプル選択などの諸問題を扱う。	
専門科目	基盤科目	基盤Ⅰ	経済数学Ⅱ	この授業科目は、「経済数学Ⅰ」の後続科目で、経済学の数理的分析に必要な数学ツールを習得させるための科目である。当科目での構成は、当学科における経済学教育に必要な数学ツールを数学の各分野から取り込んだものとなり、具体的には、以下の通りである。線形代数の分野では行列の階級、行列の固有値などのトピックスを扱う。解析の分野からは多変数関数における偏微分、全微分、陰関数定理、さらには制約なし最適化問題や等号制約付き最適化問題を扱う。さらに、差分方程式の解法についても解説する。確率論の分野からは、分布関数、密度関数、代表的な分布などのトピックスを扱う。	
専門科目	基盤科目	基盤Ⅰ	ミクロ経済学Ⅲ	この授業科目は、「ミクロ経済学Ⅰ」「ミクロ経済学Ⅱ」の後続科目である。本科目の主要テーマは、「ミクロ経済学Ⅱ」で見た各消費者の需要行動や各生産者の供給行動により最終的にどのような均衡が訪れるのを見定め、それらに評価を与えることである。授業前半は、市場の失敗がない完全競争市場における部分均衡理論と一般均衡理論を扱う。とりわけ後者では、2人2財交換モデルなどといった限定された枠組みながら、経済学の金字塔と称される厚生経済学の基本定理の成立を見る。授業後半は、市場の失敗とその解決法についての分析である。独占・外部性・公共財などによる非効率性とそれを緩和するための規制の在り方が扱われる。	

授 業 科 目 の 概 要

(経済学部経済数理学科)

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	基盤科目	基盤 I	マクロ経済学Ⅲ	この授業科目は、「マクロ経済学 I」「マクロ経済学 II」の後続科目である。特に、消費、投資、GDP、利率、物価水準といったマクロ経済を代表する主要な変数の決定要因について個別経済主体の行動原理（マイクロ経済学的な基礎）の観点から説明する。具体的には、労働市場がマクロ経済で果たす役割を解説し、短期的な景気循環を分析する枠組みである AD-AS モデルについて説明する。また、そこでの財政・金融政策の意義と限界について説明する。その他、動学的一般均衡モデルや、新しいケインジアン理論といった、近年マクロ経済学分野で重要になっている理論モデルについても説明する。	
専門科目	基盤科目	基盤 I	計量経済学Ⅲ	この授業科目は、「計量経済学 I」「計量経済学 II」の後続科目である。第 1 部では回帰分析をもちいた統計的推論の方法をレビューし、因果推論における回帰分析の問題を整理する。第 2 部では因果推論の方法としてパネルデータによる回帰分析、操作変数法にもとづく推計、DD 推定などを扱う。第 3 部ではロジットモデルやプロビットモデルといった二値選択モデルを扱い、その過程で最尤推定法を導入する。第 4 部では基礎的な時系列解析を扱い、定常過程の概念とその代表的なモデルの紹介、推定方法とそれを使った予測などを扱う。	
専門科目	基盤科目	基盤 I	経済数学Ⅲ	この授業科目は、「経済数学 I」「経済数学 II」の後続科目で、I、II よりも難易度の高い経済学の数理的分析に必要な数学ツールを習得させるための科目である。当科目での構成は、当学科における経済学教育に必要な数学ツールを数学の各分野から取り込んだものとなり、具体的には、以下の通りである。解析の分野からは、まず多変数関数の最適化問題に関して、包絡線定理や不等号制約付き最適化問題といった上級のトピックスを扱う。また、微分方程式の解法と連立微分方程式の解の安定性の議論を扱う。位相数学の分野からは、連続関数、開集合、閉集合、さらには不動点定理について説明を与える。確率論の分野からは、中心極限定理や大数の法則などの基礎理論、およびマルコフ連鎖などの付加的なトピックスを扱う。	
専門科目	基盤科目	基盤 II	ゲーム理論	この授業科目は、経済学分析にとって必須となっているゲーム理論を解説する科目である。ゲーム理論は、大きく協力ゲームと非協力ゲームに大別されるが、本科目では経済学への応用という観点から非協力ゲーム理論のみを扱う。まず、戦略形ゲームを導入し、その下での解概念としてナッシュ均衡を定義する。次に、展開形ゲームを導入し、その下での解概念としてサブゲーム完全均衡を定義する。さらに、情報の不完備性をゲームに導入し、ベイズ・ナッシュ均衡や完全ベイズ均衡といった解概念を定義していく。ゲーム理論そのものの理解だけではなく、様々な経済現象がゲーム理論によって統一的に分析できることを見ていく。	
専門科目	基盤科目	基盤 II	情報の経済学	この授業科目は、経済主体の間で情報の非対称性がある状況での問題について解説するものである。初めに、不確実性の下での経済主体の意思決定の基礎として、期待効用理論が導入される。情報の非対称性が労働契約や保険契約の後で生じる例としてモラルハザードがとりあげられ、リスクシェアリングとインセンティブのトレードオフが説明される。一方、情報の非対称性が労働契約や保険契約の前で既に生じている例として、逆選択がとりあげられる。さらに、逆選択を解決するために生まれるシグナリングやスクリーニングといった仕組みは、新たな問題を引き起こすことを説明する。	

授 業 科 目 の 概 要

(経済学部経済数理学科)

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	基盤科目	基盤Ⅱ	経済発展論	この授業科目は人類の歴史において経済活動の究極の目標である経済発展について学修する講義科目である。産業革命以降の飛躍的な技術革新の成果を全人類が平等に享受しているわけではなく、今日、世界で8億人近くが1日1.9ドル足らずの所得で生計を立てるといふ絶対的貧困状態にあることを認識する必要がある。急成長を遂げた東アジア諸国と、停滞と貧困にあえぐアフリカ諸国との対比は明確である。この講義は「経済発展」という経済学にとっても最も古く、また重要なテーマを理論的・実証的に学ぶことにより、現代の世界経済の直面する諸問題への理解を深めることを目的としている。	
専門科目	基盤科目	基盤Ⅱ	行動経済学	この授業科目は、経済主体が合理的な意思決定を行うことを前提とする新古典派経済学に対し、現実に観察される人間の様々な心理的なバイアスを明示的に考慮する行動経済学について説明する講義形式の科目である。特に、行動経済学で標準的に議論されるトピックを扱う。具体的には、意思決定に際して、ある種の簡便なルールに従うこと(ヒューリスティックス)、確率についての認知が通常想定される期待効用仮説とは異なること(確率荷重関数についての考え方)などを説明する。また、利他性や利己性といったトピックについても解説する。そして、行動経済学の知見を応用し政策を考えるナッジなどについて説明する。	
専門科目	基盤科目	基盤Ⅱ	国際マクロ経済学	この授業科目は、マクロ経済学の応用分野として、国際貿易・国際金融のマクロ経済学的側面(Macroeconomic Aspects of International Trade and Finance)と呼ばれる領域のテーマを扱う講義である。特に、マクロ経済学の貨幣市場の理論を復習しながら、自国と外国との間での相互依存的な国際マクロ経済現象について理論的理解が深まるように紹介する。具体的には、外国為替市場のしくみ、外国為替レートの種類や変動要因、国際収支、対外資産・負債、為替レートや輸出入を含めたマクロモデル、そして、開放体系下での金融政策や財政政策の効果について国際金融市場のメカニズムとともに説明する。	
専門科目	基盤科目	基盤Ⅱ	応用計量経済学	この授業科目は、「中級計量経済学」あるいは「計量経済学Ⅱ」までを受講した学生を対象とし「卒業研究」などでしばしば利用される回帰分析の手法を使った実証研究を行う予定の学生に向けて開講されるものである。統計的な実証研究を行うためには一定のプロセスを踏むことが求められる。この授業科目は、その基本的なプロセスを理解することを目的としている。具体的には、リサーチ・クエスチョンの設定方法、データの収集方法、計量分析の方法、実証論文の書き方などについて学習する。	
専門科目	基盤科目	基盤Ⅱ	人口学	この授業科目は、人口現象の分析手法を紹介しながら、人口統計資料をできるだけ多く提示して世界と日本の人口問題についての理解を深めることをねらいとする。世界的レベルで最も重視しなければならない人口問題は発展途上諸国における人口爆発であり、それは各国の首都付近に人口の多くの割合が集中する過剰都市化を伴っている。国内レベルでの人口問題としては、人口高齢化、少子化、晩婚化・非婚化、過疎化・過密化といった問題が指摘でき、一部の自治体では人口減少によって将来的な財政存続が危ぶまれている。各国の経済成長を分析する際にも人口ボーナス、人口オーナスといった人口学的な背景を理解する必要がある。基礎自治体レベルでの年齢構成を把握することはエリアマーケティングや公共政策を立案する際に不可避である。本講義では、必要最小限の作業実習を伴いながら、こうしたことに対する理解を促していく。	

授 業 科 目 の 概 要

(経済学部経済数理学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	基盤科目 基盤Ⅱ	社会経済地理学	この授業科目は、グローバル化した現代世界の地域課題を理解するとともに、これに関わる社会経済地理学および隣接領域の社会科学の諸概念に対する理解を深める。グローバル化のプロセスは、世界を画一的なものに塗り替えつつも、さまざまなロカリティを表出させ、世界都市やメガシティの形成、一方での経済的に困難な地域の形成などを随伴させている。本講義では、まずは、グローバル化に至るまでの世界経済の諸プロセスを見た上で、多国籍企業による世界の組織化、またグローバル価値連鎖のもとでの世界の地域間関係を明らかにする。その上で、先進資本主義国、新興諸国それぞれでの経済発展の地域的跛行性と地域経済社会の諸相と諸問題を理解する。	
専門科目	基盤科目 基盤Ⅱ	社会学	この授業科目は、社会学的方法論を用いて「社会」を分析し、現代社会の諸相を講義形式で考察していくものである。社会学の二大理論である、「社会」をシステムとしてとらえる社会システム論と「社会」をコミュニケーションの総体としてとらえるコミュニケーション論双方の概念および理論の解説を丹念に行っていく。社会学理論の大前提には、わたしたち人間が「社会」を崩壊することなく、少しでも長く秩序づけられた状態を維持しようとする人間の側からの暗黙の諒解がある。しかし、この人間による諒解により、人間と「社会」をとりまく環境に少なからぬ負荷を与えてもいる。そうした現状を正確に把握するために、社会学的な視座を用いることで浮上する近代社会の解釈、経済現象、多岐に複雑化する現代の社会問題を考察していく。	
専門科目	総合科目 制度・歴史	経済史の基礎	この授業科目は、さまざまな国・地域の経済史を学ぶための基礎的な知識を提供し、もっぱらグローバルな視点から講じる経済史概論である。まず導入として、社会科学の一分野としての経済史に関してその存在理由と研究史を述べる。次に古代から21世紀にいたるまでの世界経済史を、トランスナショナルな枠組み（アジア経済圏、イスラーム経済圏、ヨーロッパ経済圏）での交易の具体的な展開、政治変動に伴う通商環境の変遷、制度（市場・関税・会社組織）の発達というテーマで講じる。また代表的な「世界商品」（砂糖、茶、たばこなどの植民地物産、綿布などの工業製品）の歴史的展開についても個別に講義する。最後に19～21世紀の世界経済秩序について概説する。	
専門科目	総合科目 制度・歴史	数量経済史	この授業科目は、数量経済史を講義するものである。数量経済史とは新しく登場した経済史のことで、分析対象に対してマクロ経済学やミクロ経済学の経済理論を援用し、エコノメトリック・モデルを使って計量的に対象を把握しようとする特徴を持つ。1960年代に創始され、ニュー・エコノミック・ヒストリーとして発展し、人口動態、生産・所得・物価動向、景気変動などについてめざましい成果があげられてきた。本講義では、この数量経済史を、最新の学会成果をふんだんに取り入れながら講義する。この講義では、ノーベル経済学賞を授賞した3人の業績、すなわち、ロバート・フォーゲル、ダグラス・ノース、アンガス・ディートンの研究を、説得的な図表を多用して明解に講義する。	

授 業 科 目 の 概 要

(経済学部経済数理学科)

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	総合科目	制度・歴史	経済学史	この授業科目は、経済学を歴史的に捉えることによって、経済学の体系的理論に対する理解を深めることを目的とする。経済学の教科書に登場するスミスやリカード、ケインズをはじめとする多くの経済学者たちの整然とした諸理論は、彼らが各時代の困難な課題に対して相互に活発な議論を展開し、人間の本性と経済活動および経済的現象について熟慮し、試行錯誤を重ねたことの所産であり、人類の共有財産にほかならない。学生にはこうした過去の経済学者たちの貴重な知見を、親近感をもって受け止めて自らの見識に取り入れて活用することが期待される。各経済理論がもつ歴史的背景と経済学者たちの主張を支える思想的根拠とを提示し、経済学の間味あふれる側面に向き合う機会を提供するこの授業を通じて、学生は現代を考える上でも有益な示唆を得られる。	
専門科目	総合科目	制度・歴史	現代日本経済	この授業科目は、現代の日本経済の現状と課題について講義するものである。日本経済の現状の歴史的経緯を学ぶほか、現在の課題を明確化し、今後の日本経済はどうなっていくのかについての未来展望を行う。この講義では、バブルの発生から崩壊をスタート地点として、長期にわたる不景気を経て、アジア通貨危機やリーマンショックの影響、アベノミクスのパフォーマンス評価まで、日本経済の30年間を豊富なデータをもとに講義する。	
専門科目	総合科目	制度・歴史	社会思想史	この授業科目は、「経済」を人間性ととも論じた経済学者や社会学者の思想、および彼らを取りまく思想の歴史、時代背景などの考察と解説を講義形式で行うものである。個々の人間に着目するだけでは浮上してこない、集団としての全体性や統一性をそなえた「社会」のなかで、「経済」や「経済生活」はどのような意味合いをもつものとしてとらえられてきたのかについて深く考えていく。授業では、可能な限り翻訳された原典も参照しながら、思想家たちの主張を考察していく。古典を単なる古典として読み、理解することだけにとどめることはしない。古典のどの部分が現在のわたしたちの社会理解のために、生かされるのかを徹底的に追求して行く。	
専門科目	総合科目	社会理解	労働法	この授業科目は、労働法の理解を深めることを目標とする。講義では、労働者の募集・採用から始めて、配置転換・出向、人事考課・評価、教育訓練・能力開発、昇進・昇格、福利厚生そして労使関係に至る流れに沿って解説を行う。労働契約法・労働基準法を中心に解説し、労働組合法、労働関係調整法、最低賃金法、職業安定法、労働者災害補償保険法、労働者派遣法、男女雇用機会均等法、高齢者雇用安定法等の法規についても、適宜、解説を加える。労働法の知識は労使いずれにとっても必須の知識である。戦後の日本経済の成長を支えてきた労使協調と言われた労使関係が、労働市場の流動化の中で、変化してきている。日本の経営の特徴と呼ばれる終身雇用制、年功制、企業内労働組合法、現実の企業の中でどう変化してきているのかを、実務と労働法とを関連づけさせて授業を行う。	
専門科目	総合科目	社会理解	企業会計	この授業科目は、企業会計について学ぶ講義形式の科目である。現代の企業は投資家等から資金を募り、投資家等に対して活動成果を報告する必要があり、そのための手法の一つが企業会計である。企業の経営成績や財政状態を知るには、会計情報に関する知識を持つことが不可欠になっている。授業では、組織における企業会計の役割、企業会計の目的、そして会計情報を一連の規則にしたがって作成した財務諸表の読み方を学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要

(経済学部経済数理学科)

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	総合科目	社会理解	社会理解実践講義	この授業科目は、諸分野で活躍している実務経験が豊富な講師が実社会での経験をもとに実践的な内容を講義するものである。この授業では、他の科目を学ぶことで得た知見をどのように現実の問題に適用すれば課題解決につながるのか、といった実践的な内容について、講義担当者が自らの経験をもとに講義し、これを通じて大学での学習をいかに社会問題の解決へ活かすのか、その実践を考察する機会を提供するものである。	
専門科目	総合科目	社会理解	経済実務講義	この授業科目は、実務経験が豊富な講師が国内外での経験を踏まえて実践的な内容を講義し、日本経済や世界経済に対する学生の関心と理解を深め、日々発生する経済事象について学生一人ひとりが独自の意見を持てるようになること、またそれを他者に説明できるようなコミュニケーション力を習得することを目的とした講義形式の科目である。学生には講師との討論等を通じて世界の動向を学び、社会に対する理解を深めることが求められる。	
専門科目	応用発展科目	応用科目	産業組織論A	この授業科目は、市場競争のメカニズムと企業の戦略的行動について学ぶことがテーマである。具体的には、企業が活動を行う産業の市場構造の違いが企業の行動にどのような違いを生じさせるのかを講義を通じて見ていく。競争的な市場で活動している企業と独占的な市場で活動している企業の行動にはどのような違いがあるのか。市場が競争的かどうかというのは、どうやったら分かるのだろうか(市場とは国内市場のことか、国際市場のことか?)。企業が海外でも活動を行う現在では、産業や市場をどの範囲でとらえたらよいかを考える。	
専門科目	応用発展科目	応用科目	産業組織論B	この授業科目は、市場構造や政策と企業の戦略的行動の関係について学ぶことがテーマである。具体的には、市場集中度やカルテル、M&Aなどのテーマを通じて、企業の成長戦略や競争を促進するための規制と企業活動の国際化に対応した規制の流れを学ぶ。また、企業と消費者の間には製品に対する情報の格差がある。企業は自分たちの販売する商品の良さをどうやって消費者に伝えようとするのか。情報が完全でない場合、消費者はどのような政策によって保護されるのか。不必要な規制が緩和されると、どのような効果をもたらされるのかなどを、講義を通じて学習していく。	
専門科目	応用発展科目	応用科目	国際経済学A	この授業科目は、国際経済学を理論・データ面双方から学習するものである。国際経済学の理論に対し、現実の国際貿易・資本取引がどのように推移しているのか、そしてそれは各国通商政策、通貨政策、貿易協定により影響を受けているのか否かを確認し、理解を深める。理論面では、リカードの定理、ヘクシャー・オリーンの定理などをもとに貿易政策のあり方を検証する。データ面では、日本企業の貿易取引、直接投資を通じた進出状況などについて講義を進めることとする。	
専門科目	応用発展科目	応用科目	国際経済学B	この授業科目は、ミクロ経済学・国際経済学の理論を土台として、現実の日本企業、外国企業がどのような国際戦略を展開しているのかを事例を踏まえながら解説するものである。自動車産業ではトヨタ vs. フォルクスワーゲン、医薬品産業では武田薬品 vs. ファイザー製薬など、電子産業ではソニー vs. サムスン電子など、具体的な企業のM&A戦略、国際販売戦略、研究開発イノベーションの動向を学ぶことで、ミクロ経済学・国際経済学の理論と実際について学習する。	

授 業 科 目 の 概 要

(経済学部経済数理学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	応用発展科目 応用科目	組織の経済学	この授業科目は、企業という組織の内部に焦点をあてて、経済学的視点から分析することが目的である。民営化、企業の合併・買収、従業員の報酬制度、取締役会制度や監査制度など、新聞には経済組織に関する記事が毎日のように載っている。これらの現象をばらばらにみるのではなく、統一的な経済学の視点から捉えることが組織の経済学の目的である。企業組織内のモチベーション（動機付け）、企業間関係と契約、企業の資本構成とインセンティブ、組織のデザインなど、従来は経営学で扱われてきた対象を、経済学的手法を用いて分析する。	
専門科目	応用発展科目 応用科目	法と経済	この授業科目は、法律や規制がわれわれの行動にどのような影響を与えるのか、またどのような法律や規制が社会的に望ましいかを考えることをテーマとする。企業も消費者も決められたルールのもとで、利潤や効用最大化を目的として意思決定をし、行動している。そのルールというのが、我々の社会では法律や規制である。ルールが変われば、企業や消費者の行動も変わる。本講義では、「法と経済」の基礎的分析手法である経済学的思考の基礎を学ぶ。また、「法と経済」の分野で取り扱われるさまざまなトピックスについて、経済学の観点から検討する。	
専門科目	応用発展科目 応用科目	労働経済学	この授業科目は、ミクロ経済学を応用することで労働者と企業の行動、労働市場の機能、そして政府の役割など、労働経済学の理論と労働市場の現状と課題について講義するものである。労働需要と労働供給、労働市場の均衡、賃金の決定理論、教育訓練と人的資本理論、昇進、労働移動（転職・再就職）、雇用と失業、労働時間、定年制度などのトピックスを通じて、理論と労働経済に関する統計指標の理解をめざす。また、現在の労働市場における課題として、若年失業者、非正規労働者、女性労働やワークライフバランス、高齢者就業などのトピックスを取り上げ、その現状と政策動向について解説する。	
専門科目	応用発展科目 応用科目	金融論A	この授業科目は、現代経済における金融取引の基本的な役割を説明する講義形式の科目である。特に、金融取引の基本的役割を理解することや、資金循環統計をもとに日本経済の特徴を金融面から理解するのに役立つようなトピックスを扱う。具体的には、複雑な金融システムを資金需要、資金供給からなる単一の資金市場に単純化する貸付資金市場のモデルを用い、家計、企業、政府、海外の資金取引の相互依存関係を説明する。そこで、政府による巨額の財政赤字、日本銀行による非伝統的金融政策、企業の資金需要の低下、巨額の対外純資産の保有と言った日本経済の金融面での特徴について解説する。	
専門科目	応用発展科目 応用科目	金融論B	この授業科目は、現代経済における金融システムの基本的な機能を説明する講義形式の科目である。特に、金融取引のもつ異時点間の資源配分機能やリスクの配分機能に注目し、金融システムを構成する金融市場、金融機関の意義・役割を理解するのに役立つようなトピックスを扱う。具体的には、銀行を中心とする金融システムと金融市場を中心とする金融システムについて説明し、それぞれの下での家計の資産形成、企業の資金調達行動がどのような特徴を持つのかを説明する。また、戦前から現在にいたるまでの日本の金融システムの歴史的変遷についても説明し、日本の金融システムの将来像について考える。	

授 業 科 目 の 概 要

(経済学部経済数理学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	応用発展科目	ファイナンスA	この授業科目は、現代ファイナンス理論を資金循環勘定、銀行システムの構造、証券市場、ポートフォリオ理論の4つの観点から学習するものである。日本経済の資金循環の構造を理解した上で、その中で銀行システムが果たす役割、証券市場がもたらす影響を学び、企業、家計、機関投資家がどのような投資を実施すべきであるのかについても学習する。ファイナンス理論を学習する過程では、証券アナリスト等が重視する財務指標、株価指標などへの理解を深めることとする。	
専門科目	応用発展科目	ファイナンスB	この授業科目は、コーポレートファイナンス理論を学ぶことで、企業の活動についての理解を深めるものである。企業の生産活動、設備投資、研究開発投資に際する資金調達活動が、実際の損益計算書、貸借対照表にどのように計上されているのかを学び、また資本の所有構造がこうした経済活動にいかなる影響をもたらすのかを併せて学習する。日次株価データを用い、企業価値の算出方法を学んだ上で、今日の企業経営において、いかなる財務戦略が企業価値最大化をもたらすのかも、同時に解説する。	
専門科目	応用発展科目	国際金融論	この授業科目は、マクロ経済学や金融論の応用分野として、国際金融の現状、制度、及び、理論の領域を扱う講義である。世界全体としては、複数の通貨が流通しており、このことから生じる「通貨と通貨の交換性」、「外国為替制度」、「為替レート変動」、及び、「国際資本移動」などが主たるテーマとなる。また、外国為替制度の歴史的展開、中央銀行の政策、国際金融市場、金融危機とその波及、及び、国際金融機関の役割などについて制度的・理論的な検討を踏まえつつ現代的な国際金融の課題を紹介する。	
専門科目	応用発展科目	財政学A	この授業科目は、わが国の制度や政策との関連で「財政」の役割と仕組みを解説し、あわせて今日の主要な財政問題に関する議論を展望し整理する。政府の経済的役割とその実行のための手段手法の理解、わが国の財政の制度としくみの理解、さまざまな課税および公債発行が民間の経済活動に及ぼす作用の理解、およびわが国の財政の現状の理解を踏まえて、今日の財政問題とその解決策を主体的に考えるための基礎力の修得を目指すものである。	
専門科目	応用発展科目	財政学B	この授業科目は、経済学の視点から、地方財政の現状と課題について考える。わが国は財政的にも長らく中央集権的な国家であり続けたが、バブルの崩壊以降、にわかに分権論議が高まり、都市・地方が今後どのように変わっていくか不透明な部分が多い。この授業は、都市・地方が抱える課題（財政悪化、グローバル化、高齢化など）を踏まえ、これからの地方財政のあり方を主体的に考えるための基礎力の習得を目指す。取り扱うテーマは地方政府の役割と財政制度、自治体運営と財政、地方税体系と改革、政府間財政関係、地方債、NPM（ニューパブリックマネジメント）などである。	
専門科目	応用発展科目	公共経済学	この授業科目は、効率性と公平性という観点から市場経済における政府（公共部門を含む）の役割について学ぶことを目的とする。市場が効率的である（無駄のない状態を実現する）ためにはどのような条件が必要か。どのような状況において政府の介入は正当化されるのか。政府が市場に介入するとしてもっとも効果的な方法はどのようなものか。政府がとる政策はインセンティブや行動にどのような影響を及ぼすのか。こうした疑問に答えるべく基礎的なミクロ経済学のツールを体系的、網羅的に学びながら、公共政策の分析・評価をするための素地を養う。	

授 業 科 目 の 概 要

(経済学部経済数理学科)

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	応用発展科目	応用科目	都市経済学	この授業科目は、土地市場と住宅市場を中心に都市における様々な問題を経済学の立場から分析することを目的としている。土地や住宅は、通常の財とは異なり、消費財と投資財の性質を併せ持ち、空間というディメンションを持つ異質な財サービスである。土地・住宅市場がどのように機能するのか、他の財サービス市場と比較しながら分析を試みる。また、土地・住宅問題だけではなく交通混雑、ゴミ問題、教育問題、都市財政といった都市が抱える諸問題は、市場の失敗のひとつである外部性の問題として捉えることができる。これらの分析を通して様々な都市問題を主体的に考えるための基礎力の習得を目指す。	
専門科目	応用発展科目	応用科目	教育経済学	この授業科目は、個人が教育を受けるメリットや、教育が社会・経済に与える影響について、経済学の分析手法を用いて説明する講義形式の科目である。まず、基礎的な理論である人的資本論とシグナリング理論を説明し、高等教育機関の存在意義について検討する。次に、政府が教育政策を行う意義について説明し、日本における教育制度と財政の仕組み、および少子高齢化社会における教育財政の課題について解説する。そして、教育が経済成長や所得格差に与えるマクロ的影響を考察する。	
専門科目	応用発展科目	応用科目	環境経済学A	この授業科目は、環境問題とその解決策について経済理論の観点から論じるものである。環境問題と経済活動とを切り離すことはできず、その解決には環境だけでなく経済的な側面も考慮する必要がある。講義の前半は環境経済学の基礎理論として、外部性と外部性下の余剰分析を紹介する。さらに基礎理論を踏まえて、代表的な環境政策とその効果について論じる。講義の後半は、情報の非対称性など、より具体的・現実的な経済状況を想定し、そのような経済でも有効な環境政策のデザインについて紹介する。	
専門科目	応用発展科目	発展科目	Advanced Microeconomics I	この授業科目は、「ミクロ経済学 I」「同 II」「同 III」の後続科目である。I、II、IIIの学習を通して培ったミクロ経済学への理解を基礎として、世界標準の英語教科書を使った学部上級あるいは大学院初年度レベルの講義を行う。授業前半は消費者理論を扱う。効用関数の存在、間接効用関数と需要関数、支出関数と条件付き需要関数、スルツキー分解などが重要なトピックスとなる。授業後半は生産者理論を扱う。生産可能性集合、利潤関数と供給関数、費用関数と要素需要関数、短期と長期の関係などが重要なトピックスとなる。	
専門科目	応用発展科目	発展科目	Advanced Macroeconomics I	この授業科目は、「マクロ経済学 I」「同 II」「同 III」の後続科目である。I、II、IIIの学習を通して培ったマクロ経済学への理解を基礎として、世界標準の英語教科書を使った学部上級あるいは大学院初年度レベルの講義を行う。特に、経済成長理論とその応用やミクロ経済学的基礎付けをもったマクロ経済学について説明する。具体的に扱うトピックスは、Measuring the Macro economy / A Model of Production / The Solow Growth Model / Growth and Ideas / The Labor Market, Wages, and Unemployment / Inflation / Consumption / Investment などである。	
専門科目	応用発展科目	発展科目	Advanced Econometrics I	この授業科目は、「計量経済学 I」「同 II」「同 III」の後続科目である。I、II、IIIの学習を通して培った計量経済学への理解を基礎として、世界標準の英語教科書を使った学部上級あるいは大学院初年度レベルの講義を行う。クロスセクションデータを対象として、回帰モデルと最小二乗法による推定、回帰係数の検定、カテゴリー変数の取り扱い、予測の構築、および多重共線性、誤差項の問題、定式化検定、変量誤差の問題など回帰分析の諸問題とそれらへの対処方法を学習する。	

授 業 科 目 の 概 要

(経済学部経済数理学科)

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	応用発展科目	発展科目	Advanced Microeconomics II	この授業科目は、「Advanced Microeconomics I」の後続科目であり、Iと同様に、ミクロ経済学に関する世界標準の英語教科書を使った学部上級あるいは大学院初年度レベルの講義を行う。授業前半は均衡理論を扱う。部分均衡理論を手始めに、交換経済における一般均衡理論、生産を含む経済での一般均衡理論を扱い、十分に一般化された状況において厚生経済学の基本定理を数学的に証明する。授業後半はゲーム理論を数学的に厳密に適用しながら、寡占市場や公共財の自発的供給モデルなど、市場の失敗が生じる状況を分析する。	
専門科目	応用発展科目	発展科目	Advanced Macroeconomics II	この授業科目は、「Advanced Macroeconomics I」の後続科目であり、Iと同様に、マクロ経済学に関する世界標準の英語教科書を使った学部上級あるいは大学院初年度レベルの講義を行う。授業前半は均衡理論を扱う。特に、短期の景気循環や金融危機とその政策的対応について説明する。具体的に扱うトピックスは、The Great Recession / Stabilization Policy and the AS-AD Framework / The Great Recession and the Short-Run Model / The Government and the Macro economy などである。	
専門科目	応用発展科目	発展科目	Advanced Econometrics II	この授業科目は、「Advanced Econometrics I」の後続科目であり、Iと同様に、計量経済学に関する世界標準の英語教科書を使った学部上級あるいは大学院初年度レベルの講義を行う。授業前半は均衡理論を扱う。分析するデータの種類を時系列データやパネルデータへも拡張し、また推定方法として操作変数法や最尤法を扱う。具体的には基礎的な時系列解析の手法、基礎的なパネルデータ分析の手法、内生性の問題と操作変数法による対処方法、被説明変数がカテゴリー変数の場合の分析方法、サンプル選択の問題などを学習する。	

授 業 科 目 の 概 要				
(経済学部経済数理学科)				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	広域基礎科目	日本史概論Ⅰ	この授業科目は、旧石器時代から江戸時代までの前近代日本史を対象とし、旧石器、縄文時代、弥生時代の特徴、古墳時代、奈良時代、平安時代、鎌倉時代、室町時代、戦国時代、江戸時代の各時代の政権や幕府の構造とその変化をめぐる政治の動きと社会と経済の変動、文化のあり方の歴史の流れのポイントを認識し、その歴史認識の基礎になっている史(資)料の取り扱い方を理解し、受講生が自ら学習を深めていけるようにすることを目標としている。	
専門科目	広域基礎科目	日本史概論Ⅱ	この授業科目は、幕末から現代までの近現代日本史を対象とし、幕末、明治時代、大正時代、昭和から現代までの政治の動きと社会と経済の変動、文化のあり方の歴史の流れのポイントを、世界の歴史の動きとの関連で認識し、その歴史認識の基礎になっている史(資)料の取り扱い方を理解し、受講生が自ら学習を深めていけるようにすることを目標としている。	
専門科目	広域基礎科目	世界史概論Ⅰ	この授業科目は、前近代世界史の基本的な流れを理解し、「古代文明・古代帝国と地域世界の形成」「中央ユーラシアの発展と東アジアの再編」「唐宋変革」と「中央ユーラシア型国家」の時代」「ユーラシア西方の変動と新しい地域世界の成立」「海陸の交流とモンゴル帝国」「モンゴル帝国とアフロ・ユーラシアの「グローバル化」「明を中心とする国際秩序」「後期帝政期中国の文化」「西アジア・南アジアの近世帝国」「ルネサンスと西ヨーロッパ「近代」の胎動」「ヨーロッパ人の世界進出と「近代世界システム」の形成」「銀と火器による東アジアの激動」「東アジア諸国の「鎖国」「アジア伝統社会の成熟」について、受講生が内容をまとめることで、それぞれの時代のそれぞれの地域の歴史を簡単に説明でき、歴史的に考える力を身につけることを目標とする。	
専門科目	広域基礎科目	世界史概論Ⅱ	この授業科目は、近現代世界史の基本的な流れを理解し、「イギリスとフランスの覇権争奪」「イギリスの工業化」「環大西洋革命の展開」「「パクス・ブリタニカ」の成立」「欧米の国民国家建設と工業化」「近代化と大衆社会の萌芽」「イスラーム世界の苦悩」「南アジアの植民地化」「東南アジアの植民地時代」「東アジアの衝撃と模索」「アジア間貿易」とアジアの工業化」「帝国主義と第一次世界大戦」「アジアのナショナリズム」「戦間期」の繁栄と世界恐慌」「第二次世界大戦とアジア太平洋戦争」「戦後の国際秩序と「冷戦」「熱戦」「脱植民地化と新興国の国民国家建設」「平和共存」と高度経済成長」「ベトナム戦争とアメリカの覇権の動揺」「中ソ対立と社会主義の行き詰まり」「新自由主義と冷戦の終結」「開発と民主化」「イスラームの復興と挑戦」「グローバル化と反グローバル化」について、受講生が内容をまとめることで、それぞれの時代のそれぞれの地域の歴史を簡単に説明でき、歴史的に考える力を身につけることを目標とする。	
専門科目	広域基礎科目	人文地理学	人文地理学は人間活動の空間的諸相に関わる学問分野である。本授業科目は、教職課程の受講者に人文地理学の見方・考え方を身につけてもらうことを狙いとする。今日の人文地理学の研究対象、またアプローチは多様性に満ちているが、本科目は、地図の種類と活用法を学んだ上で、とくに景観的視点、空間構造視点を理解するために、集落・都市地理学、人口地理学、農業地理学といった系統地理学の各分野における古典的アプローチを中心に概説する。本講義を通じて、人文地理学を構成する各々の研究分野の初歩的な諸概念を理解するとともに、多様な地図資料等を用いて、また自ら作成することによって、景観・空間構造といった視点から地表上の諸事象を理解できることを目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要

(経済学部経済数理学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	広域基礎科目	自然地理学	自然地理学は、地形、気候、植生、土壌、生物などの自然環境について、形成のメカニズムやその空間的分布の特徴、時間的変化について、理解を深めていく学問である。本科目では、自然地理学の基礎的な知識とそれに関連する時事問題や自然災害などの応用的な知識を取得することを目指す。具体的には、地球上で起こっている様々な時空間スケールの環境変化や問題、自然災害などに関連した映像や写真、図表をもとに、自然環境にとどまらず、人間との相互関係について理解を深められるように解説し、自然地理に関する様々な主題図やグラフ、GIS を利用した読図をもとに、自然と人間の相互作用の空間分布や時間変化の特徴を読み取る地理的技能を身に付けることを目標とする。	
専門科目	広域基礎科目	地誌学	本授業科目では、地誌学の基本的調査方法と分析方法について学ぶ。地誌学は、中学校社会の地理的分野や高校地理の主内容を構成するものあり、学習指導要領では、日本の各地方地誌と世界の各地域の地誌を動的に把握するように指導されている。この講義では、地誌を網羅的に学ぶのではなく地誌学の基本的調査・分析方法を理解することを念頭において、日本地誌と世界地誌のそれぞれについて地理的スケールを変えながら複数の事例を取りあげて具体的に地域の特徴を検討する。あわせて、主題図の作成や人口統計等のグラフ化等によって、身近な地域を地誌学的に考察する方法を学ぶ。これらを通じて、地理的見方・考え方を理解するとともに、教育現場での指導に最低限必要な地理的技能を身につけることを目標とする。	
専門科目	広域基礎科目	現代の政治学	本科目は、政治学の基礎を政治思想から政治過程まで、地方自治から国際政治まで幅広く学ぶことを目標としている。「民主政治の起源」、「民主政治の変容」、「福祉と政治」、「民主政治のさまざまな仕組み」、「選挙」、「議会と政党」、「政策過程と官僚・利益集団」、「世論とマスメディア」、「地方自治」、「グローバル化」、「民主政治の現在」、「権威主義と民主化」を各授業のテーマとし、理論的な部分と歴史的な部分と現状分析的な部分とが組み合わせられて展開することによって、日本と世界の現代政治を理解する基本的な用語(概念)と考え方を総合的に理解できるようにする。	
	教職課程の大学が独自に設定する科目	教職特論演習Ⅰ	この授業科目は、これまで履修・修得してきた教職科目を振り返り、丹念な確認によって不足や欠落を補い、「教職教養」と呼ばれる内容の総括的な、深い学び直しをする科目である。これは、「教師になる」ことを目指して学ぶ者にとって、採用者や学校現場のニーズに適切に対応し、教師への道を拓くための基礎的準備ともなる。「十分な知識と力量」「豊かな教養力」「人間と関わり・交わる卓越した力」だけではなく、「桃李成蹊の人」である教師となるため、志を同じにする仲間との対話や議論を通して、課題解決を図ることを中心に取り組む。	
	教職課程の大学が独自に設定する科目	教職特論演習Ⅱ	この授業科目は、これまでに、免許状取得要件となる教職科目の殆どを履修・修得し、教育実習を控える段階で、「教職教養」と呼ばれる内容を改めて総括する科目である。単なる知識の記憶再生に留まるのではなく、教育の本質に迫るものとする。これは、採用者や教育現場のニーズに適切に対応するとともに、それぞれの志望に合わせて、教師への道を実際に拓くことに直結する。教師に求められる資質・力量に加え、「桃李成蹊の人」としての教師を目指し、明日からの教育実践を支え得る土壌としての「知」を固めるために、同じ志を抱く仲間との学び合いの場とする。また、前年度からの成長・深化を確認しつつ、教育課題を演習的に探究し、調べ・考えた内容を、限られた時間と紙幅を活用して適切な論述ができる力の鍛錬・熟成にも力を注ぐ。	

授 業 科 目 の 概 要

(経済学部経済数理学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教職課程の 大学が独自に 設定する科目	学校経営と学校図書館	この授業科目は、情報社会において図書館が果たすべき機能、殊に社会教育及び学校教育という枠組みの中で、如何にして人の知的探求心に応えてゆくかを、多様な観点から考察することをテーマとする。授業では、図書館の起源より現在までの、社会的機能・位置付けの時系列的変遷と地理的相違を学習し、歴史的・地理的な必然性を理解する。次に、現在図書館が置かれている状況-教育・文化・技術-を知り、それが内包するあるいはその外延的な矛盾点・問題点を理解する。その上で、人類の知的所産としての著作物及び文化施設としての図書館を、どのように未来へ継承すべきかを考察します。書館史・資料文化・図書館運営・教育的機能を理解するための基礎知識と、応用力を身につけることを到達目標とする。	
教職課程の 大学が独自に 設定する科目	学校図書館メディアの構成	この授業科目は、学校図書館で収集、受入している資料(学校図書館メディア)について、資料の選択、収集、組織化(目標作成、件名付与、分類記号付与)、蔵書構築・評価等を取り上げ、講義と演習で理解を図っていく科目である。情報メディア(資料)の収集では、すべての資料を集めることはできないので選択が必要になり、その際に資料の評価や資料収集方針について学んで行く。その組織化では、図書館で収集した資料を利用者がスムーズに利用できるように、どのように資料を書架上に並べ、そして取り出しているのか、そのための仕組みはどのようにになっているのか、どのような道具(規則)が使われ、全国どこにいても情報メディアを同じ分類記号を用いて書架上で利用できるのか、どのように標準化が図られているのか等を、演習を通して理解を図っていく。その集積としての蔵書では、その構築プロセスや評価法について学んでいく。	
教職課程の 大学が独自に 設定する科目	学習指導と学校図書館	この授業科目は、学校図書館を運営するうえで必要な技能を修得し、学習支援・自学能力を育成するための効果的かつ効率的な図書館利用指導への応用を実践的に身につける科目である。第一段階として、図書分類・図書目録の原理を理解し、多様な資料への応用を実践する。第二段階として、受講生自身が授業計画を立て、その為に必要な資料の体系的な選書を行うことで、図書分類・図書目録の効果的利用の指導方法を考える。第三段階として、資料の所属、所在調査、内容調査、書誌事項調査、事実事項調査等、およそ考えられる範囲での多様な参考調査を行う。それによって、図書館における資料の使い分け、資料・情報の効果的収集方法と提示方法等、学習期に習得すべき情報スキルの指導方法を実践的に考察する。	
教職課程の 大学が 独自に設定する 科目	読書と豊かな人間性	この授業科目は、私たちの身近にある文章を「読む」ということは、どのような行為なのか、「読む」という行為の楽しみは、どのような経緯をたどって、私たち読者にもたらされるのかなど、読書の原点である「読む」ことの内実について学び、文章を読み解く楽しみの再発見を目指す科目である。さらに、読書周辺の楽しみ方として、文学散歩について学ぶ。実際に文学散歩を体験すると共に、任意の作品を選んで文学散歩の企画立案を行う。加えて、メディア・リテラシーについても学び、情報を批判的に取捨選択していく力を育てる指導について考える。	

授 業 科 目 の 概 要

(経済学部経済数理学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教職課程の大学が独自に設定する科目	情報メディアの活用	この授業科目は、学校図書館で選択・収集、受入、整理、蓄積、そして利用に供している多様な種類の情報メディア(図書館資料)の特性を解説、さらに実際にこれらの図書館資料の検索を通して学んで行く科目である。情報メディア(図書館資料)を対象としている『日本目録規則』1987年版改定3版が、2018年には新しい版になり、これらの情報メディア(図書館資料)の変化と共にその利用の在り方も変化を受けてきている。特に、速報性のある情報メディアの新聞や雑誌の利用の形が現在進行形のかたちで変化が起きている。視聴覚資料においても、LPレコードやカセットテープが若い世代に新鮮なものとして見直されたり、映画がネット配信されたりもしている。図書館もこれらの変化の動向をチェックしながら、また意見交換も取り入れながら情報メディア(図書館資料)の特徴を考察する。	
教職の教科及び教職に関する科目	教職論	この授業科目は、教育職員免許状取得のために必要な「教職の意義及び教員の役割・職務内容」に関する内容を行う科目である。我が国における今日の学校教育及び教職の社会的意義を理解し、公教育の目的とその担い手である教員の存在意義を理解し、進路選択に向け、他の職業との比較を通して、教職の職業的特徴を理解していることを到達目標とする。教職の意義や教員の役割について概説し、教職への意欲や適性等について受講者が多角的に考察する機会を提供し、進路選択の過程を支援する。また、教員の職務内容等について、具体的実践的に理解できるように簡単な演習やグループ討議などを行い、受講者が当事者としてのイメージをもてるようにする。	
教職の教科及び教職に関する科目	教育課程論	この授業科目は、教育職員免許状取得のために必要な「教育課程の意義および編成の方法」に関する内容を行う科目である。教育課程(カリキュラム)とは、「学校における子どもの学習体験の総体」とも言える。それは、子どもの学習体験をどうデザインするかということでもある。教育課程(カリキュラム)を、教科・科目の時間数や単位数の配分などに矮小化しがちだが、知識基盤社会、グローバル化、ICT化が進む中では、前例や常識に囚われず、本源的に探究しなければならない。目的の明確化、内容の策定だけではなく、実践と評価も統合したカリキュラム・マネジメントの視点が不可欠となる。そのため教育課程編成の大綱的基準である「学習指導要領」を熟知した上で、教育課程(カリキュラム)デザインの意義と思想、方法を獲得し、創造の担い手となる力を養う。	
教職の教科及び教職に関する科目	道徳教育の指導法	この授業科目は、教育職員免許状取得のために必要な「道徳の理論及び指導法」に関する内容を行う科目である。今日の学校教育は多くの課題を背負っており、その中心とも言える重要な課題は「心の教育」である。「いじめ防止対策推進法」施行から時間を経ても、相変わらず「いじめ」は後を絶たない状況である。この「心の教育」は道徳だけでなく、学校教育すべてにおいて、更には家庭や地域との連携において行われるものである。これからその核となるのが「特別の教科 道徳」である。道徳教育の本質・意義を理解し、教師としてどのように実践するべきなのか、具体的に考究していく科目である。	

授 業 科 目 の 概 要

(経済学部経済数理学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教職の教科及び教職に関する科目	総合的な学習の時間の指導法	この授業科目は、教育職員免許状取得のために必要な「総合的な学修の時間の指導法」に関する内容を行う科目である。変化の激しい社会に対応して、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てることをねらいとする科目である。従って、思考力・判断力・表現力等が求められる「知識基盤社会」の時代において、ますます重要な役割を果たすものとなる。上記の内容を、教科を超えて必要となる資質・能力の育成の観点から理解していること、さらに学習指導要領における総合的な学習の時間の目標並びに各学校において目標及び内容を定める際の考え方や留意点を理解していることが求められる。	
教職の教科及び教職に関する科目	特別活動の指導法	この授業科目は、教育職員免許状取得のために必要な「特別活動の指導法」に関する内容を行う科目である。教育課程（カリキュラム）の中に「特別活動」という領域が設けられているが、生徒を初め一般的には馴染みの薄いものとなっている。ともすれば「特別なもの＝余分なもの」と見られたりもする。しかし、学校は集団で学び・生活する場ですから、「豊かな人間関係の形成」「集団の意思決定と社会参画」及び「自己実現」の学びの場として、特別活動は極めて重要である。中学校・高等学校学習指導要領による「学級活動（中）・ホームルーム活動（高）」「生徒会活動」「学校行事」の3領域それぞれの歴史的背景を踏まえ、意義・実践・課題を理解し、教科指導・生徒指導・キャリア教育などとの関連、家庭や地域との連携を考えながら、指導のあり方を学んでいく。	
教職の教科及び教職に関する科目	教育方法論	この授業科目は、教育職員免許状取得のために必要な「教育の方法及び技術」に関する内容を行う科目である。本学教職課程の理念のうち、教職に関する深い教養と教育的技能の養成を目指し、学習指導要領等をふまえた教育の方法と技術について学習することを目的とする。豊富な実践事例を示し、これからの社会で求められる資質・能力の育成を可能とする多様な教育方法(授業デザイン、学習指導方法、ICTを含む教材作成、および評価方法等)についての基礎理論を学ぶ。併せて、それらの基礎理論を身につけて受講生自身の教育実践に適用できるように実践的な演習を行い、理解や思考の深化を目指す。	
教職の教科及び教職に関する科目	生徒・進路指導論	この授業科目は、教育職員免許状取得のために必要な「生徒指導」「進路指導及びキャリア教育」に関する理論と方法を学ぶ科目である。生徒指導とは、生徒一人ひとりの学校生活や発達上の問題の解決や、将来の希望の実現を指導・援助する学校教育サービスの一つである。本科目では、『生徒指導提要』や学校教育サービスの理論と技法の研究を主たる目的とする学問である「学校心理学」に基づき、中学生・高校生を対象とした生徒指導について考える(進路指導及びキャリア教育を含む)。具体的には、前半では現在の中学生・高校生の実態および教育上の課題を理解し、「学校心理学」を基盤とした生徒指導の在り方(心理教育的援助サービスのモデル)を学ぶ。後半では、具体的な生徒指導に関する事例を取り上げ、これらの課題の解決のために、教師はどのような生徒指導や進路指導及びキャリア教育を展開することが望ましいかを演習を通して学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要

(経済学部経済数理学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教職の教科及び教職に関する科目	教育相談	この授業科目は、教育職員免許状取得のために必要な「教育相談」に関する理論と方法を学ぶ科目である。教育相談とは、生徒それぞれの発達に即して、望ましい人間関係を育て、生活によく適応させ、自己理解を深めさせ、人格の成長への援助を図ることを目的とした教育活動である。いじめ・不登校・発達障害・非行など教育場面における問題は複雑かつ深刻化している。教師として、教育相談およびカウンセリングについて理解を深め、生徒理解に必要な心理学的知識と実践的な相談技術を習得することは必須である。したがって、1) 教育相談の意義と理論を理解する、2) さまざまな課題に関する基本的事項と具体的な教育相談の進め方を理解する、3) 教育相談を進める際に必要な基礎的知識(カウンセリングに関する基礎的事柄を含む)を理解する、4) 教育相談の組織的な取り組みや連携の必要性を理解する。以上四点をの到達目標とする。	
教職の教科及び教職に関する科目	教育実習論	この授業科目は、教育実習前にあたって、教育実習の意義と課題の確認を行い、教師という立場に必要な基礎知識を充実し、発声・話し方の音声コミュニケーション能力、板書・プリントづくりの文字媒体の作成能力のレベルを向上させ、教育実習に対する不安の解消を図り、誠実に取り組む必要性を認識し、教育実習に取り組む責任感、実習生としての立場の自覚とその心構えを養い、教育実習の実効をあげようとする意欲を育むことを授業内容とする。来年の教育実習に向け、事前に身に付けておくべき基礎的基本的知識・技能を修得し、教育実習の意義と課題の確認をすることができること、教育実習において、教師という立場で必要な基礎知識を充実させることができること、発声・話し方の音声コミュニケーション能力、板書・プリントづくりの文字媒体の作成能力のレベルを向上させることを到達目標とする。	
教職の教科及び教職に関する科目	教育実習(中・高)	この授業科目は、教育実習に取り組む必修科目である。教育実習に行く意義と課題を明確にし、その取り組む内容の確認を行う。その内容とは、教育実習中におけるすべての活動の常識も含めて、教科指導の実践力まで、丁寧に実施する。その後、教育実習が行われ、その研究授業については大学教員を派遣する。教育実習から戻ってくると事後学習において、その振り返りをする。教育実習における観察、自らの教育実践の成果と事前から設定していた研究課題についての省察を行う。なお、「教育実習(中・高)」は、中学校の教育職員免許状または中学校および高等学校の免許状を取得しようとする学生向けで、中学または高校での教育実習を3週間(120時間)以上行うこととする。	
教職の教科及び教職に関する科目	教育実習(高)	この授業科目は、4年次において教育実習に取り組む必修科目である。教育実習に行く意義と課題を明確にし、その取り組む内容の確認を行う。その内容とは、教育実習中におけるすべての活動の常識も含めて、教科指導の実践力まで、丁寧に実施する。その後、5月から11月にかけて教育実習が行われ、その研究授業については大学教員を派遣する。教育実習から戻ってくると事後学習において、その振り返りをする。教育実習における観察、自らの教育実践の成果と事前から設定していた研究課題についての省察を行う。なお、「教育実習(高)」は、高等学校の教育職員免許状のみを取得しようとする学生向けで、高校(または中学校)での教育実習を2週間(60時間)以上行うこととする。	

授 業 科 目 の 概 要

(経済学部経済数理学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教職の教科及び教職に関する科目	教職実践演習 (中・高)	この授業科目は、教職課程の科目の履修を終え、教育実習を行った者が、その集大成として理想とする教師像とこれまでの学びを振り返る科目である。教育実習を通して考察した教員の機能と資質、教員としての自己の力量・資質を省察し、充足すべき課題を明確化する。教職の意義と責任、対人関係能力、生徒理解と生徒支援、学級経営、教科の指導力など各領域にわたる実践的能力を自覚し基礎固めを行う。到達目標は、教員として求められる資質、 1. 使命感や責任感、教育的愛情 2. 社会性や対人関係能力 3. 生徒理解や学級経営の能力 4. 教科の指導力を習得したことが確認できることである。履修履歴の確認とこれまでの学びおよび教育実習の振り返りによる各自の目標の設定や討議を通して、最低のレベルとして不十分な力量は何か、課題の再把握をする。その上で、4つの領域に基づき、教員として必要な資質の確認と不足についての補充をグループによる討議、事例の検討、指導案の作成などを通して実践的に行う	
教職の教科及び教職に関する科目	社会科教育法A	この授業科目は、受講生全員が学習指導案を作成して模擬授業をおこない、中学社会科について、学習指導案づくりと授業をおこなう力量を養うことをテーマとし、中学社会科の内容を理解し、教材研究をおこなって授業内容・授業目標を理解把握でき、授業研究にもとづき学習指導案を作成し、学習指導案にもとづいて的確な模擬授業ができることを到達目標とする。授業は、中学社会科の内容、教材研究の方法、学習指導案作成の授業研究の方法、授業を行う上で留意しなければならない点について講義をし、その後学生の模擬授業を行う。学生の模擬授業については、教材研究、授業研究について、随時指導する。模擬授業について、各時間内に講評・検討する。	
教職の教科及び教職に関する科目	社会科教育法B	この授業科目は、中学校社会科の模擬授業を行う。「中学校学習指導要領解説 社会編」を精読し、その理解に基づいて履修者全員が学習指導案を作成、模擬授業を行う。模擬授業担当者は、単元計画及び本時計画としての指導案、板書計画、授業ノート、授業資料を準備する。模擬授業担当者以外の者は生徒役を担いながら、授業構成や時間配分、評価の観点と活動の一致、発問や板書の的確さ等、授業内容の検討と別様の方法について考え提案する。模擬授業担当者は、自身の模擬授業へのコメントや他の参加者の模擬授業参観に基づいて、よりよい授業構想をし、学習指導案を再度練り直す。	
教職の教科及び教職に関する科目	社会科・地理歴史科教育法	この授業科目は、中学社会科・高校地理歴史科の歴史をたどり、学習指導要領の内容について理解し、学力及び授業法をめぐる議論を取り上げ、社会科・地理歴史科教育の内容、課題を考えることを第一のテーマとする。そのことを踏まえて、学習指導のあり方を理解し、教材研究と授業連展開の研究の意味と内容を理解し、学習指導案を作ることを授業の第二のテーマとする。中学社会科、高校地理歴史科の授業にむけて、中学社会科・高校地理歴史科の学習指導要領と学習内容を理解し、学力と授業法について自らの意見を論述できる、社会科地理歴史科の学習指導案を作成できることを到達目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要

(経済学部経済数理学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教職に関する科目 教職の教科及び	社会科・公民科教育法	この授業科目は、中学校社会科及び高校公共科の学習指導要領の目標及び内容の理解に基づいて、授業構想をする。社会科・公民科教育法の授業では、中学校社会科（公民領域）の学習指導案と高校公民科の学習指導案を作成する。そのために、中学校社会科及び高校公民科の学習指導要領の精読、各出版社から出版されている教科書の読み比べ、既習事項の確認として前段階の学校種の教科書内容の整理、単元の知識の展開と本時の位置づけの確認、板書計画、ワークシート、パワーポイントなどデジタル授業資料の作成を行う。また、グループによる模擬授業を行う。	
教職に関する科目 教職の教科及び	公民科教育法	この授業科目は、高等学校公共科の模擬授業を行う。「高等学校学習指導要領解説（公共）編」を精読し、その理解に基づいて履修者全員が学習指導案を作成、模擬授業を行う。模擬授業担当者は、単元計画及び本時計画としての指導案、板書計画、授業ノート、授業資料を準備する。模擬授業担当者以外の者は生徒役を担いながら、授業構成や時間配分、評価の観点と活動の一致、発問や板書の的確さ等、授業内容の検討と別様の方法について考え提案する。模擬授業担当者は、自身の模擬授業へのコメントや他の参加者の模擬授業参観に基づいて、よりよい授業構想をし、学習指導案を再度練り直す。	

授 業 科 目 の 概 要					
(経済学部現代経済学科)					
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
全学共通科目	外国語	英語科目	College English (Listening & Speaking) I	この授業科目は、会話相手と円滑なコミュニケーションを取るために、相手の言うことを正確に聞き取って理解する力、そして相手の言うことを踏まえて自分が伝えたいことを伝えられるようになる力(発信する力)を鍛えることを目的とする。まずは、日常会話を正確に聞き取れるようになるために、ボキャブラリー増強を含むリスニングの訓練を集中的に行う。その後、習熟度に応じて、より高度なリスニングのスキルを身につけることを目指す。さらに、徐々に話す練習も取り入れていき、日常会話で用いる言い回しなどを学ぶ。	
		英語科目	College English (Reading & Writing) I	この授業科目は、英文を読む・書くことの楽しさを感じることができるようになるために、英文読解力を身につけ、自分の意見などを英語で表現できるようになることを目標とする。リーディングでは易しいと感じられるレベルの英文をたくさん読むことに加え、さまざまなトピックに関する英文にもチャレンジすることで、英文を読むことは必ずしも逐語訳をすることではないことを理解し、英文読解力を段階的に伸ばす。さらにインプットした英語を定着させるために、読んだ内容に対する自分の考えや感じたことを英語で書くなど、習熟度に応じてさまざまなライティングのアクティビティを行う。	
全学共通科目	外国語	英語科目	College English (Listening & Speaking) II	この授業科目は、College English Listening & Speaking I である程度英語の音に慣れていることを前提に、より高度で、かつ多岐にわたるトピックを扱い、円滑なコミュニケーションが取れるようにリスニング力、およびスピーキング力(発信力)を養うことを目的とする。まずは特定の場面を想定した練習を行うことで、場面に応じた適切なスピーキングスキルを身につける。さらに、習熟度に応じて、様々なシチュエーションに対応し、より自由に話せるような表現力とボキャブラリーの増強を図る。	
全学共通科目	外国語	英語科目	College English (Reading & Writing) II	この授業科目は、英文を読む・書くことの楽しさを感じることができるようになるために、College English Reading and Writing I で養ったリーディング力及びライティング力をさらに伸ばすことを目標とする。リーディングでは、より多岐にわたるジャンルやトピックの英文にチャレンジし、目的に応じた読み方を身につけながらボキャブラリーの増強も図る。さらにインプットした英語を自分でも使いこなせるようになるために、テキストの要約などさまざまなテーマ・形式のライティングを通して表現の幅をさらに広げていく。	
全学共通科目	外国語	英語科目	Intensive English I	この授業科目は、グローバル社会に通用するコミュニケーション能力および異文化理解能力の育成を目指す。まず毎日25分間の英会話が可能なおんライン英会話サービスを授業内外で利用し、個人のレベルとニーズに合わせて主に会話能力(リスニング・スピーキングのスキル)を伸ばしていく。その際、その土台となる語彙・文法知識もトピックに合わせて定着を図っていく。さらに、多様なトピックについて話し合いながら異なる視点への理解を深め、同時に自分の考えをより客観的、論理的に表現できるように批判的思考力を養う。	

授 業 科 目 の 概 要

(経済学部現代経済学科)

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目	外国語	英語科目	Intensive English II	この授業科目は、Intensive English I に引き続き、グローバル社会に通用するコミュニケーション能力および異文化理解能力の育成を目指す。I と同様に会話能力（リスニング・スピーキングのスキル）のさらなる向上を図る。また、語彙・文法知識についてもトピックに合わせつつ、より幅広く、アカデミックな内容に焦点を当てていく。 さらに、多様なトピックについて話し合いながら異なる視点への理解を深め、同時に自分の考えをより説得力を持って発信できるように批判的思考力を養う。	
		英語科目	College English (Integrated Skills) I	この授業科目は、リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングの4技能統合型授業であり、1年次に身につけた英語のスキルとストラテジーをさらに応用し、英語での受信能力と発信能力をバランスよく鍛えることを目標とする。社会・文化・歴史・教育・自然科学など、多岐にわたるテーマを通して異文化理解を深め、様々な問題について多角的な視点から取り組み、議論に参加できるような英語運用能力を身につけることを目指す。	
全学共通科目	外国語	英語科目	College English (Integrated Skills) II	この授業科目は、リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングの4技能統合型授業であり、College English (Integrated Skills) I で身につけた英語のスキルとストラテジーをさらに伸ばし、英語での受信能力と発信能力をバランスよく鍛えることを目標とする。社会・文化・歴史・教育・自然科学など、多岐にわたるテーマを通して異文化理解を深め、様々な問題について多角的な視点から取り組み、議論に参加できるような英語運用能力を身につけることを目指す。	
		英語科目	TOEFL Preparation Introduction	この授業科目は、将来留学を希望する学生や英語力を向上させたい学生のための TOEFL の入門授業である。原則として TOEIC400 点以上（または英検準2級・3級）程度の英語力がある学生を対象とする。TOEFL のテスト形式を理解し、それに則って、各セクション（リスニング、リーディング、スピーキング、ライティング）の実践的な指導を行いながら、アカデミックな内容を英語で理解し、発信できる基礎力、それを支える語彙力をつけ、4技能の総合的な英語力の向上に努める。	
全学共通科目	外国語	英語科目	TOEFL Preparation Intermediate	この授業科目は、将来留学を希望する学生や、高度な英語力を身につけたい学生のための TOEFL 受験対策の授業である。原則として TOEIC470 点以上（または英検準2級・2級）程度の英語力がある学生を対象とする。TOEFL のテスト形式に則り、各セクション（リスニング、文法、リーディング）の実践的な指導を行いながら、Introduction より高度でアカデミックな内容を英語で理解できるようにすることを目指して、語彙力強化も行き、総合的な英語力の向上に努める。	
		英語科目	TOEIC Preparation Introduction	この授業科目は、主に TOEIC400 点以上の学生を対象として、英語の基礎力をつけ、TOEIC スコアの向上を図る科目である。TOEIC のテスト形式に慣れることを第一に、各セクション（リスニングおよびリーディング）の実践的指導を、コンピュータや情報通信ネットワークを活用した指導を交えて行う。ただし、スコアアップのみならず、受講者それぞれが自律した英語学習法を確立し、受講後も英語力を伸ばせるよう指導する。	

授 業 科 目 の 概 要

(経済学部現代経済学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目	外国語 英語科目	TOEIC Preparation Intermediate	この授業科目は、主に TOEIC470 点以上の学生を対象とする。TOEIC スコアを向上させより高い英語力を身につけたい学生のために、TOEIC のテスト形式を理解していることをふまえて、各セクション (リスニングおよびリーディング) の指導を、Introduction よりも実践的に、コンピュータや情報通信ネットワークを活用した指導を交えて行う。ただし、スコアアップのみならず、受講者それぞれが自律した英語学習法を確立し、受講後も英語力を伸ばせるよう指導する。	
全学共通科目	外国語 英語科目	IELTS Preparation Introduction	この授業科目は、英語力を身につけ、将来留学を希望する学生のための IELTS 受験にあたっての入門科目である。原則として TOEIC400 点以上相当の英語力がある学生を対象とし、学部留学で必要とされる IELTS スコアを取得するための学習に習熟することを目指す。履修終了後も自学自修ができるスキルを身につけることを目指す。IELTS の問題に合わせて作成された教材を利用する。授業内でリーディング・リスニング・ライティング・スピーキングの活動をバランス良く取り入れながら、IELTS の問題の性質を理解するとともに、履修者同士の会話のセッションなどを通じて実用的な英語運用力の向上 (特に、留学時や海外渡航時に役立つ英語力の向上) を目指す。今後の英語学習方法についても指導を行う。	
全学共通科目	外国語 英語科目	IELTS Preparation Intermediate	この授業科目は、留学を希望する学生や、高度な英語力を身につけたい学生のための IELTS 受験準備、および会話力をはじめとする英語力向上のための授業である。原則として TOEIC470 点以上相当の英語力がある学生を対象とし、学部留学で必要とされる IELTS スコアを取得し、履修終了後も自学自修ができるスキルを身につけることを目指す。IELTS の問題に合わせて作成された教材を利用する。授業内でリーディング・リスニング・ライティング・スピーキングの活動をバランス良く取り入れながら、Introduction において理解した IELTS の問題の性質をふまえ、より高いスコアが取れるようになることを目指すと同時に、履修者同士の会話のセッションなども取り入れて、留学先で役立つ実用的な英語運用力向上を目指す。	
全学共通科目	外国語 英語科目	基礎からのコミュニケーション英文法	この授業科目は、自分が伝えたいことを確実に伝えられるようになる為に、英語のルールにかなった表現を効果的に用いる力(ちから)、つまり「文法を使える力」の習得を目的とする。文法書を片手に文法を学ぶのではなく、コミュニケーションの場面で必要となる英語のルールを、実践を通じて学ぶ。高校までに学んだ文法事項の知識を最大限に活用しながらグループワークやペアワークに挑戦し、基礎的な文法の知識を定着させるとともに「聴く・話す・読む・書く」の4技能を伸ばし、自信を持ってコミュニケーションに臨める姿勢を養う。	
全学共通科目	外国語 英語科目	自分でデザインする英語学習	この授業科目は、様々な英語学習方法を実践し、その学習効果を理解しながら自分の学習スタイルに適した学習方法を探求することを目的とする。また、段階的目標 (短期・中期・長期) を設定し、実績に応じて計画の見直しや軌道修正を行うことも学ぶ。学生一人ひとりが今までの自分の学習スタイルを見つめ直し、より効果的なスタイルを考え、英語学習を継続するコツを見つける。授業外でも楽しみながら英語に触れる時間をできるだけ多く持たせ、自主的な取り組みを促す。	

授 業 科 目 の 概 要

(経済学部現代経済学科)

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目	外国語	英語科目	英語発音トレーニング	この授業科目は、英語の発音をより良くしたい、留学前に発音を良くしておきたい、あるいは英語を使った仕事に就きたいのでよりよい発音を身につけたい、というような学生の要望に対応する授業である。単純な反復練習のみを繰り返し行う訓練をするだけでなく、日本語と比較しながら英語の発音について体系的に学び、「なぜ難しいのか」「何をどうすれば発音がより良くなるのか」について考えながら、英語発音の習得と上達を目指す。	
		英語科目	英語読解トレーニング	この授業科目は、アカデミックな英文の精読演習(Intensive Reading)を通じて、高度な英文読解力を養うことを目的とし、特に大学生が自らの知的関心の対象についてより深く学ぶために必要となる学術性や専門性の高い英文を読む力を伸ばしていく。英語圏の高校生・大学1,2年生が使用する教科書や、知的関心の高い一般読者向けの読み物などから、大学生の好奇心を刺激する様々なトピックを選び、文構造やテキスト構成の解析を通して、英語による高度な議論の内容を正解に把握する力を養う。	
全学共通科目	外国語	英語科目	Presentation Skills Basic	この授業科目は、学生のプレゼンテーションスキルを伸ばし、効果的にコミュニケーションを取れる(特に英語による)ようになることを目指す。プレゼンテーションに便利な語彙や言い回しを学び、流暢に使えるようにすると共に、グループでプレゼンテーションの練習をして自信をつけていく。また、グループメンバーのサポートを得てクラスの前で発表する機会も多く設ける。扱うトピックはインフォーマルなものを主とし、学生自身が各自の興味に沿って選ぶものとする。	
全学共通科目	外国語	英語科目	Discussion Skills Basic	この授業科目は、ディスカッションスキルを学ぶことで、より効果的な(特に英語による)コミュニケーション力を養うことを目的とする。具体的には、ディスカッションに必要な語彙や句を学習し、自分のものとして使えるように練習を行う。学生は、自信を持って話せるトピックを自ら選び、堅苦しくない雰囲気の中でディスカッションを行う。本科目の履修を通して、学生は自分の意見を自信を持って主張し、議論に参加することを目標とする。	
全学共通科目	外国語	英語科目	Writing Skills (Paragraph)	この授業科目は、与えられたテーマについてまとまりのあるわかりやすいパラグラフ(段落)が書けるようになることが目標である。論理的なパラグラフを書くためには、モデルとなるパラグラフを読むことでパラグラフの構成を理解し、ライティングのルールや効果的な表現方法を学ぶことも大切である。書く前のアウトライン、原稿の作成に加え、教員からのフィードバックとピアレビューを繰り返し、それを基に推敲を重ねることでより良いパラグラフの書き方のプロセスも習得する。	
全学共通科目	外国語	英語科目	Presentation Skills Intermediate	この授業科目は、学生のプレゼンテーションスキルを伸ばし、効果的にコミュニケーションを取れる(特に英語による)ようになることを目指す。学生はより高度なプレゼンのストラテジー(例:視覚資料を効果的に使用する、計画通りに時間を守る、内容を聴衆に合わせる)を学ぶ。プレゼンテーションは個人で行うが、クラスメイトからのサポートやフィードバックも受ける。また、プレゼンのトピックはビジネス、アカデミック、ニュースのような時事的なものまで幅広く扱う。	

授 業 科 目 の 概 要

(経済学部現代経済学科)

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目	外国語	英語科目	Discussion Skills Intermediate	この授業科目は、ディスカッションスキルを学ぶことで、より効果的な(特に英語による)コミュニケーション力を養うことを目的とする。具体的には、ディスカッションに必要なテクニクやストラテジーを学習し、中断、反論、小グループのディスカッションのリードの仕方などを適切に行う方法を学ぶ。トピックは、ビジネス会議、アカデミックセミナー、政治討議など様々なコンテキストを含むものから選ぶ。本科目の履修を通して、学生は様々なコンテキストやトピックにおけるディスカッションに参加し、リードできるようにすることを目標とする。	
		英語科目	Writing Skills (Essay)	この授業科目は、Writing Skills (Paragraph)で学んだパラグラフライティングの基礎を基に、論理的なエッセイが書けるようになることが目標である。論理的なエッセイを書くためには、モデルとなるエッセイを読むことで効果的な文章構成を学び、引用の仕方や自分の意見を明確に且つ説得力を持たせるための手法など、より高度なライティングスキルを身につけることが大切である。Writing Skills (Paragraph)同様、書く前のアウトライン、原稿の作成に加え、教員からのフィードバックとクラスメイトとのピアレビューを繰り返し、それを基に推敲を重ねることでより良いエッセイの書き方のプロセスも習得する。	
全学共通科目	外国語	英語科目	多読で学ぶ英語と文化	この科目は、今よりも英語力を大きく伸ばしたい、そしてそれを楽しく無理なく達成できる学習法があるのならばぜひともやりたいと思う人のためのものである。おそらくほとんどの人が、これまでに触れてきた英語をはるかに上回る量の英文を読むことになるであろう。それによって英語を、日本語を介することなく自然に英語のまま理解できるようにすることを目指す。それを無理なく達成するために、最初はスラスラと読める易しい絵本から始め、そのスピードを保ったまま徐々にレベルの高い本を読んでいく。また、さまざまなジャンルの本を読むことによって英語圏の文化や社会に関する知識が増えていくため、英語に対する理解も深まることになる。最終的には、英語にとことん慣れ親しみ、日常的に英語に触れることを習慣にしてもらいたい。	
全学共通科目	外国語	英語科目	映画で学ぶ英語と文化	この授業科目は、映画を通じて英語とともに映画の中で体験できる英語圏の文化やものの考え方、ならびに文化としての様々なジャンルの映画自体について学ぶことを目標とする。映画を原語で学ぶことは、学生にとっては未体験の部分が大きい。俗語から専門語まで様々な世代や立場の人が様々なシチュエーションで話すよりリアルな英語を学ぶためにも、映画は大変良い教材である。映画を素材に英語を学ぶことで、リスニング力・語彙力が鍛えられるだけでなく、授業内で様々な話題を取り上げてのプレゼンテーションやディスカッションを展開することで、映画作品に反映された文化的・歴史的・社会的な問題を学ぶ機会とする。	
全学共通科目	外国語	英語科目	ドラマで学ぶ英語と文化	この授業科目は、テレビドラマを通じて英語とともにドラマの中で体験できる英語圏の文化やものの考え方、ならびに文化としての様々なジャンルのドラマ自体について学ぶことを目標とする。ドラマを原語で学ぶことは、学生にとっては未体験の部分が大きい。俗語から専門語まで様々な世代や立場の人が様々なシチュエーションで話すよりリアルな英語を学ぶためにも、ドラマは大変良い教材である。テレビドラマを素材に英語を学ぶことで、リスニング力・語彙力が鍛えられるだけでなく、授業内で様々な話題を取り上げてのプレゼンテーションやディスカッションを展開することで、ドラマ作品に反映された文化的・歴史的・社会的な問題を学ぶ機会とする。	

授 業 科 目 の 概 要

(経済学部現代経済学科)

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目	外国語	英語科目	歌で学ぶ英語と文化	この授業科目は、英語の歌を通して英語とともに歌詞やそのメッセージに映し出された英語圏の文化や思想、ならびに文化としての様々なジャンルの洋楽について学ぶことを目標とする。洋楽と称される広いジャンルを含む英語の歌は、英語の音やリズム、英語の語彙や英語圏の人々のものの考え方など、英語圏の言語や文化に関しての優れた教材である。さまざまなジャンルの英語の歌を取り上げ、実際に歌詞を聞き取りながらその意味や背景を考え、歌詞に出てくる英語の表現の意味やニュアンスに対する理解を深めるとともに、英語のリズムや音声に対する理解も深める。また、授業内で様々な話題を取り上げてのプレゼンテーションやディスカッションを展開することで、歌にこめられた文化的・歴史的・社会的な問題を学ぶ機会とする。	
		英語科目	メディアで学ぶ英語と文化	この授業科目は、国内外の様々な英語メディアで発信される、幅広い種類のメッセージを扱うことで、英語とともに英語圏の文化的・社会的側面について学ぶことを目標とする。メディアが多様化する現在、英語での情報収集や英語で表現されたメッセージを読み解く力はますます重要となっている。新聞、テレビといった従来のメディアのみならず、インターネット上のニュース、さらには SNS のような媒体で発信される情報を読み解く力を育成し、教科書には出てこない、今の時代を映し出す旬の話題やそれを表現する言い回しなどを学ぶ。また、そうした情報を通じて、国際関係(世界各国のつながりやかけひき)、および日本の政治・経済の仕組みや問題点などを理解し、さらにインターネットを含むメディアにあふれる情報の中から正しい情報を選別する力を養い、将来も役立つメディアリテラシーを高める機会とする。	
全学共通科目	外国語	英語科目	キャリアのための英語と文化	この授業科目は、社会人として必要とされる英語のスキルを幅広く扱うものである。職場ではどのような英語のスキルが必要か、想像することが難しい学生たちに対し、英文メールの書き方、英文履歴書の書き方、英語でのビジネスプレゼンテーションやディスカッション、図表の書き方/説明の仕方、関心のある業種・企業の事業内容の英語での説明など、多岐にわたるビジネス関連の英語の具体的な例と文化的背景を学ぶ機会を提供することで、学生への就職への意欲と成功にもつなげることを目指す。	
全学共通科目	外国語	英語科目	TOEFL Preparation Advanced I	この授業科目は、TOEFL Preparation Introduction, Intermediate のレベルより高いスコアの取得、高度な英語力を身につけたい学生のための TOEFL 受験準備のための授業である。原則として TOEIC550 点以上相当の英語力がある学生を対象とし、学部留学で必要とされる TOEFL スコアを取得することを目指す。TOEFL のテスト形式に則って、各セクション(リスニング、文法、リーディング)の実践的な指導を行い、スキル向上を図る。また、ハイレベルな文献等を理解できるようにすることを目指して、さらなる語彙力強化も行いながら、4技能の総合的な英語力の向上に努める。	
全学共通科目	外国語	英語科目	TOEFL Preparation Advanced II	この授業科目は、TOEFL Preparation Advanced I に引き続き、さらに高度な英語力を身につけたい学生のための TOEFL 受験準備のための授業である。原則として TOEIC550 点以上相当の英語力がある学生を対象とし、学部留学に十分な TOEFL スコアを取得することを目指す。TOEFL のテスト形式に則って、各セクション(リスニング、文法、リーディング)の実践的な指導を行い、スキル向上に努める。また、高度でアカデミックな内容を英語で正しく理解できるようにすることを目指して、さらなる語彙力強化も行いながら、社会人として必要な4技能の総合的な英語力を身につける。	

授 業 科 目 の 概 要

(経済学部現代経済学科)

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目	外国語	英語科目	IELTS Preparation Advanced I	この授業科目は、IELTS Preparation Introduction, Intermediate のレベルより高いスコアの取得、高度な英語力を身につけたい学生のための IELTS 受験準備と英語力向上のための授業である。原則として TOEIC550 点以上相当の英語力がある学生を対象とし、学部留学が必要とされる IELTS スコアを取得することを目指す。IELTS のテスト形式に則って、各セクション（リーディング・リスニング・ライティング・スピーキング）の実践的な指導を行い、各スキルの向上を図る。特に、留学先での日常生活・学生生活・授業参加に必要なコミュニケーション能力の向上を目指して、さらなる語彙力強化も行いながら、実用的な英語運用力の向上に努める。	
			IELTS Preparation Advanced II	この授業科目は、IELTS Preparation Advanced I に引き続き、さらに高度な英語力を身につけたい学生のための IELTS 受験準備と英語力向上のための授業である。原則として TOEIC550 点以上相当の英語力がある学生を対象とし、学部留学に十分な IELTS スコアを取得することを目指す。IELTS のテスト形式に則って、各セクションの実践的な指導を行い、各スキルのさらなる向上を図る。特に、留学先での日常生活・学生生活・授業参加に必要な(理解力も含めた)コミュニケーション能力の向上を目指して、さらなる語彙力強化も行いながら、実用的な英語運用力の向上に努める。	
全学共通科目	外国語	英語科目	TOEIC Preparation Advanced	この授業科目は、主に TOEIC550 点以上の学生を対象とする。更に高度な英語力を身につけたい学生のために、TOEIC のテスト形式を理解していることを前提に、正確な英語の理解に重点をおきながら、各セクション（リスニングおよびリーディング）の指導を実践的に行う。コンピュータや情報通信ネットワークの活用を交えながら指導する。ただし、スコアアップのみならず、受講者それぞれが自律した英語学習法を確立し、受講後も英語力を伸ばせるよう指導する	
全学共通科目	外国語	英語科目	Media English	この授業科目では、時事問題ニュースを主な題材として、国内外の現況や社会的テーマについて英語で理解し、発信できる能力を養う。米国 ABC World News, TIME, Newsweek などアメリカを中心とする海外の主要なメディアが発信するニュースを聞き、または読み、メディアで使用される特徴的な英語に慣れる訓練を行う。またこのような情報源から得られた内容について客観的な批評ができるようにメディアリテラシーを身につけ、批判的能力を養う。そして、自らも口頭または文章で時事問題に関する意見が述べられるようになることを目指す。	
全学共通科目	外国語	英語科目	Academic Listening	この授業科目は、英語 4 技能のうち、リスニング力を鍛える授業である。リスニングのコツを学び、様々な英語を聞いてその要旨や必要な情報を聴き取るスキルを身につける。特に留学先で講義を受けることを見据え、アカデミックな講義内容を聴き取るためのストラテジーや効果的なノートの取り方などについて実践的に学んでいく。さらには、TED などを適宜活用して、世界トップレベルの優れた講義に実際に触れることで、教養知識を深めることがねらいである。	
全学共通科目	外国語	英語科目	Cross Cultural Communication Skills	この授業科目では、異なる文化を有する人々とのコミュニケーションを円滑に行うスキルを学ぶ。ステレオタイプ、アイデンティティ・価値観の相違、言語・非言語コミュニケーション、カルチャーショックといった異文化交流の主要なテーマや問題点を学び、自文化と他文化を客観的に見つめる術を身につける。さらにはロールプレイなど実践的なアクティビティーを通して異文化適応能力を高める。また、世界における多様な文化に関する知識を深めることもこの科目のねらいである。	

授 業 科 目 の 概 要

(経済学部現代経済学科)

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目	外国語	英語科目	Discussion & Presentation	この授業科目は、英語4技能のうち、スピーキング力を鍛える授業である。とりわけ英語によるディスカッションやプレゼンテーション能力を伸ばすことを目的とする。ディスカッションでは、アカデミックな議論において頻繁に使われる定型表現などを学び、実際にディスカッションをこなして実践力をつけていく。プレゼンテーションについては、基本構造、頻出表現、効果的なプレゼンテーションの仕方を学びつつ、自らもプレゼンテーションを行うことで発表力を養っていく。	
		英語科目	English for the Workplace	この授業科目は、グローバル化が進む世界の中で将来のキャリアにおいても役に立つ実践的なスキルを取得することを目的とする。メールを書く、アポをとる、履歴書やカバーレターを書く、面接を受ける、などといったフォーマルな場面やビジネスの場で必要とされる英語を学びながら、それぞれの強みや弱点について振り返り、今後のキャリアについて考える契機とする。その際、特に国際的なキャリアについても考えていく。	
全学共通科目	外国語	英語科目	Essay Writing	この授業科目は、英語4技能のうち、ライティング力を鍛える授業である。英語のエッセイ(小論文)の書き方を学び、自分の考えを英語で論理的に提示できるようにすることを目的とする。パラグラフの基本構造や書き方を復習しつつ、より長い小論文に取り組み、適切なトピックの選び方、アウトラインの作成、目的に合ったパラグラフの構成(比較、例示、説得、原因と結果など)や内容に合う文体(スタイル)、校正の仕方などを学ぶ。	
		英語科目	Intensive Reading	この授業科目は、英語4技能のうち、リーディング力を鍛える授業である。様々なリーディングのストラテジーなどを学び、アカデミックな内容の英文を読み込む力を身につける。論文や専門書など、実際に高度な内容の英文に取り組むと同時に、大量のリーディング課題を読みこなすコツを学ぶ。自分の専門分野の文献を実際に読んで、英語で専門知識を増やしていくことも、この科目のねらいである。	
全学共通科目	外国語	英語科目	World Englishes	この授業科目は、グローバル社会における英語の多様性を理解し、アメリカ英語またはイギリス英語のみを基準とするのではなく、世界で使われている様々な英語に適応できる力を身につけることを目的とする。具体的には、イギリス、アメリカに加えアジア、ヨーロッパの国々をいくつか取り上げ、各英語方言の特徴について文献や映像音声資料などから学ぶと同時に、各国の言語事情や社会文化的背景についても理解を深めていく。さらには他国の事情を学ぶことで日本における英語学習についても理解を深める。なお、実践的に英語の多様性に親しむため、可能な範囲でゲストスピーカーを迎え、生の交流を体験する。	
		初修外国語科目	ドイツ語基礎A I	この授業科目は、初学者を対象に、ドイツ語圏(ドイツ・オーストリア・スイス)のさまざまな文化や多様な価値観に触れるために、初級ドイツ文法の基礎知識(話す・聞く・読む・書く)の習得および基本的な運用能力の養成を目的とする。このドイツ語基礎AIの授業では、主に文法の基礎的な内容に関する知識の修得し、発音やアクセントのルール、格変化、動詞の人称変化などを中心にドイツ語に特有の文法的特徴を押さえ、文の構造を理解できるようになることを目指す。また、ドイツ語圏の文化や生活習慣に触れながら基礎的な語彙や表現を身につける。並行して履修する「基礎BI」での実践練習に対応できる言語運用能力を養うとともに、次学期に履修する「基礎AII」に向けて発音や語形変化に慣れ親しむ。	

授 業 科 目 の 概 要

(経済学部現代経済学科)

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目	外国語	初修外国語科目	ドイツ語基礎B I	この授業科目は、ドイツ語での会話・筆記・読解練習に重点を置き、「基礎 AI」で学習した基本的な文法事項の習熟と定着化を図るとともに、様々な日常生活のテーマを中心に、平易なドイツ語を聞く、読む、書く、話す練習を行い、基本的なコミュニケーション能力を養成することを目的とする。口頭練習を通してより自然な発音を身に付け、日常生活の様々な場面で必要な表現や、言語の背景的な知識も学びながら、話す・聞く・書く・読むの四技能をバランスよく伸ばす。それに平行して一つのヨーロッパの異文化を知り、新しい世界や考え方に会い、その面白さ楽しさを味わいながら手紙やメール等の作成や、ペアやグループでの会話を実際におこなうことで、実践的な力を高めていく。	
			フランス語基礎A I	この授業科目は、初学者を対象に、主にフランス語の文法の修得を通してフランス語圏の基本文化や価値観に触れること目的とする。日本語と異なる発音に留意しながら、ほぼ厳格に定められた発音の規則にまず慣れることから始めて、日常生活でも頻度の高い基本的な文法に関する知識の修得を目指しながら、フランス語圏の対人関係における基本的な約束事や独自の生活習慣に触れるための、基礎的な語彙を身に付けて表現力を養う。同時に履修する「基礎 BI」でのより実践的な場面を想定した表現練習に対応できるように文法構造の正確な理解に基づく言語運用能力を高めるとともに、次学期に履修する「基礎 AII」での学習に備えて、言語の文法的な特徴を理解する。	
全学共通科目	外国語	初修外国語科目	フランス語基礎B I	この授業科目は、日常生活でよく使用されるフランス語の表現を修得するための科目である。主に口頭による練習や、場面を設定しての役割に基づいて対話力を深めることを目指す。基本的な表現を学ぶうえで、「基礎 AI」で学習した基本的な文法事項の習熟とそれを具体的に運用する力を伸ばすことを目指す。コミュニケーション能力の修得には、その文化の特殊性や日常生活での具体的な対人関係を考慮することが重要であり、それぞれの言語表現の文化的・社会的な背景についての知識も必要となる。そのうえで話す・聞く・書く・読むの四技能を相乗的に伸ばすことを目指す。日常的によく目にするような簡単な文章の読解や、利用頻度の高い単語や表現を使った会話練習を実際におこなうことで、対話能力を高めていく。	
			スペイン語基礎A I	この授業科目は、初学者を対象に、スペイン語圏の基本的な文化や価値観に触れるための基礎的語学力の養成を目的とする。発音やアクセントの仕組み、文字と発音の関係、名詞等の性数変化や直説法現在形の活用を中心にスペイン語に特有の文法的特徴を押さえ、文の構造を理解できるようになることを目指す。また、スペイン語圏の文化や生活習慣に触れながら基礎的な語彙や表現を身に付ける。並行して履修する「基礎 BI」での実践練習に対応できる言語運用能力を養うとともに、次学期に履修する「基礎 AII」に向けて発音や語形変化に慣れ親しむ。	
全学共通科目	外国語	初修外国語科目	スペイン語基礎B I	この授業科目は、スペイン語での会話・筆記・読解練習に重点を置き、「基礎 AI」で学習した基本的な文法事項(名詞等の性数変化、現在形の活用)の習熟と定着化を図るとともに、あいさつや自己紹介を始めとした基本的なコミュニケーション能力を養成することを目的とする。口頭練習を通してより自然な発音を身に付け、日常生活の様々な場面で必要な表現や、言語の背景的な知識も学びながら、話す・聞く・書く・読むの四技能をバランスよく伸ばす。手紙やメール等の作成や、ペアやグループでの会話を実際におこなうことで、実践的な力を高めていく。	

授 業 科 目 の 概 要

(経済学部現代経済学科)

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目	外国語	初修外国語科目	中国語基礎A I	この授業科目は、初学者を対象に、中国語圏の基本的な文化や価値観に触れるための基礎的語学力の養成を目的とする。中国語の発音の仕組み、ピンインと四声、簡体字、基本語順などを押さえ、声調感覚の養成と文の構造を理解できるようになることを目指す。また、中国語圏の文化や生活習慣に触れながら基礎的な語彙や表現を身に付ける。並行して履修する「基礎 BI」での実践練習に対応できる言語運用能力を養うとともに、次学期に履修する「基礎 AII」に向けて発音の基礎を徹底的に身につけていく。	
		初修外国語科目	中国語基礎B I	この授業科目は、中国語での会話練習に重点を置き、「基礎 AI」で学習した基本的な文法事項の習熟と定着化を図るとともに、基本的なコミュニケーション能力を養成することを目的とする。大量な発音練習を通してより自然な発音を身に付け、日常生活の様々な場面で必要な表現や、言語の背景的な知識も学びながら、話す・聞く・書く・読むの四技能をバランスよく伸ばす。基本文型に沿った短文の作成や、ペアやグループでの会話を実際におこなうことで、実践的な力を高めていく。	
全学共通科目	外国語	初修外国語科目	韓国語基礎A I	この授業科目は、初学者を対象にする。韓国語の文字と発音の仕組み、基本的な文法と文章の仕組みを学習することを目標とする。「基礎 BI」と並行して行う授業で、「基礎 BI」での実践練習に対応できる言語運用能力を養う。また、韓国語への理解を深めるために日本語と韓国語を比較するとともに、韓国語圏の文化・歴史・社会などの知識にも触れる。次学期に履修する「基礎 AII」での学習に備えて、韓国語の基礎的な特徴を概観的に理解する。	
		初修外国語科目	韓国語基礎B I	この授業科目は、韓国語の基本的な文法事項の習熟と定着化を図るとともに、基礎的な韓国語の語学力の養成することを目標とする。「基礎 AI」で学習した基本的な文法事項と語彙を用いて練習する。具体的には、簡単な文章読解や作文、学習した単語を使った会話を練習することで、コミュニケーションに欠かせない言語の背景的な知識も学びながら話す・聞く・書く・読むという四技能をバランスよく伸ばすことを目指し、韓国語への理解を深めていく。	
全学共通科目	外国語	初修外国語科目	ドイツ語基礎A II	この授業科目は、「基礎 AI」に引き続き、動詞の直説法過去、完了形、受動態、接続法を中心にドイツ語の基礎的語学力の養成を目的とする。「基礎 AI」で学んだ発音の仕組み、格変化、動詞の人称変化等を復習しながら、未習の文法事項や日常生活に必要な基本的語彙および表現を修得することを目指す。並行して履修する「基礎 BII」での実践練習に対応できる言語運用能力を養うとともに、学習を通してドイツ語圏の文化や社会に対する関心を深め、次の段階の学習につなげる。	
		初修外国語科目	ドイツ語基礎B II	この授業科目は、「基礎 BI」に引き続き、ドイツ語の基本文法をベースに会話・筆記・読解練習をおこなうことで、ドイツ語の自然な表現を身に付けることを目的とする。「基礎 AII」で学習した動詞を中心とする基本的な文法事項の習熟を図るとともに、日常生活に必要な語彙・表現を用いてコミュニケーション能力に磨きをかける。視聴覚教材やインターネットのニュースなどの時事的な情報等を通じて言語の背景的な知識も学びながら、話す・聞く・書く・読むの四技能をバランスよく伸ばすことを目指す。ペアやグループでの練習を通して言語に慣れ親しみ、次の段階の学習につなげる。	

授 業 科 目 の 概 要

(経済学部現代経済学科)

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目	外国語	初修外国語科目	フランス語基礎A II	この授業科目は、「基礎 AI」に引き続き、文法の観点からみたフランス語の基礎的語学力の養成を目的とする。「基礎 AI」で学んだ発音の規則や、基本的な文法や文章構造に関する知識を復習しながら、未習の文法事項、基本的語彙および表現を修得することを目指す。並行して履修する「基礎 BII」でのコミュニケーション能力の実践的な活用に対応できるように、正確な文法の理解をさらに深めていくとともに、フランス語圏の文化や社会に対する理解を、他の文化との比較対象なども交えながら深めていき、より高度な語学力を修得するための基本的なステップとしての重要な科目と位置付けられる。	
		初修外国語科目	フランス語基礎B II	この授業科目は、「基礎 BI」に引き続き、日常生活での表現能力や対話能力を高めるためにフランス語の口頭練習を中心としながら基本的なフランス語の表現を修得することを目指す。「基礎 AII」で学習した基本的な文法事項の習熟と定着化を図るとともに、基本的なコミュニケーション能力に加えて、自己の意見表明や、他者の表現に対する様々なリアクションの取り方なども含めて、対人関係を豊かにするための会話能力を育成する。コミュニケーションに欠かせない文化的、社会的な背景についても学びながら、話す・聞く・書く・読むの四技能を相互に高めていくことを目指す。日常生活での会話の基礎をなす主要メディアの文章表現などにもある程度親しみながら、より知的な文章の読解能力も習得しつつ、豊富な会話練習を通して言語と文化に慣れ親しみ、次のステップの学習につなげる。	
全学共通科目	外国語	初修外国語科目	スペイン語基礎A II	この授業科目は、「基礎 AI」に引き続き、動詞の直説法現在形を中心にスペイン語の基礎的語学力の養成を目的とする。「基礎 AI」で学んだ発音の仕組み、名詞等の性数変化、ser / estar 動詞の用法、規則活用等を復習しながら、未習の文法事項、特に不規則活用の動詞や gustar 型動詞、再帰動詞、日常生活に必要な基本的語彙および表現を修得することを目指す。並行して履修する「基礎 BII」での実践練習に対応できる言語運用能力を養うとともに、学習を通してスペイン語圏の文化や社会に対する関心を深め、次の段階の学習につなげる。	
		初修外国語科目	スペイン語基礎B II	この授業科目は、「基礎 BI」に引き続き、スペイン語の基本文法をベースに会話・筆記・読解練習をおこなうことで、スペイン語の自然な表現を身に付けることを目的とする。「基礎 AII」で学習した動詞の現在形および様々な応用表現 (gustar 型動詞、再帰動詞等) を中心とする基本的な文法事項の習熟を図るとともに、日常生活に必要な語彙・表現を用いてコミュニケーション能力に磨きをかける。視聴覚教材等を通じて言語の背景的な知識も学びながら、話す・聞く・書く・読むの四技能をバランスよく伸ばすことを目指す。ペアやグループでの練習を通して言語に慣れ親しみ、次の段階の学習につなげる。	
全学共通科目	外国語	初修外国語科目	中国語基礎A II	この授業科目は、「基礎 AI」に引き続き、声調感覚の養成と基本文型の習得を目的とする。「基礎 AI」で学んだピンインと声調、動詞述語文、形容詞述語文、助動詞「想」、数詞、助数詞等を復習しながら、未習の文法事項、「有」 / 「在」、完了と変化の「了」、前置詞等日常生活で必要な基本的語彙および表現を修得することを目指す。並行して履修する「基礎 BII」での実践練習に対応できる言語運用能力を養うとともに、学習を通して中国語圏の文化や社会に対する関心を深め、次の段階の学習につなげる。	

授 業 科 目 の 概 要

(経済学部現代経済学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
全学共通科目	外国語	初修外国語科目	中国語基礎B II	この授業科目は、「基礎 BI」に引き続き、中国語の基本文法をベースに会話練習をおこなうことで、中国語の自然な表現を身に付けることを目的とする。「基礎 AII」で学習した基本文型の習熟を図るとともに、日常生活に必要な語彙・表現を用いてコミュニケーション能力に磨きをかける。視聴覚教材等を通じて言語の背景的な知識も学びながら、話す・聞く・書く・読むの四技能をバランスよく伸ばすことを目指す。ペアやグループでの練習を通して言語に慣れ親しみ、次の段階の学習につなげる。	
		初修外国語科目	韓国語基礎A II	この授業科目は、「基礎 AI」に引き続き、韓国語の文法と文章の仕組み、より自然な韓国語の表現を学習することを目標とする。並行して履修する「基礎 BII」での実践練習に対応できる言語運用能力を養う。具体的には、韓国語の語尾変化と不規則変化を作文と会話の練習を通じて定着させる。より自然な表現を身につけるために、視聴覚教材を用いて韓国語圏の文化や社会に対する理解を深める。次の段階として用意されている演習科目での継続学習につなげる。	
全学共通科目	外国語	初修外国語科目	韓国語基礎B II	この授業科目は、「基礎 BI」に引き続き、「基礎 AII」で学習した文法事項と語彙を用いてより自然な表現を身につけることを目標とする。基本的な文法事項の習熟と定着化を図るとともに、基本的なコミュニケーション能力を養成する。具体的には、韓国で使われている表現を中心に学習するとともに、視聴覚教材を用いて表現の差異を学び、韓国語への理解も深めていく。ある程度まとまった文章読解や作文、会話練習を通して韓国語に慣れ親しみ、次の段階の学習につなげる。	
全学共通科目	外国語	初修外国語科目	ドイツ語演習コミュニケーション I	この授業科目は、ドイツ語の入門レベルの会話能力の養成を目指す。格変化や人称変化の活用練習を中心に、ヨーロッパ共通言語参照枠の A1~A2 レベルの名詞、形容詞等の基本語彙を用いて様々な日常会話に対応できる力を身に付ける。家庭、交友、学校、余暇、旅行等、場面ごとに必要な表現を実際に使えるようにペアやグループで練習をおこない、正確な発音およびリスニングの力を身に付ける。同時に、適宜インターネットや視聴覚教材の視聴を通して、ドイツ語圏の多様な文化や生活習慣にも慣れ親しむ。	
全学共通科目	外国語	初修外国語科目	ドイツ語演習コミュニケーション II	この授業科目は、「コミュニケーション I」の継続科目として、ドイツ語の入門レベルの会話能力の養成を目指す。引き続き、格変化や人称変化の活用練習を中心に、様々な場面を想定してペアやグループで練習をおこなう。正確な発音およびリスニングの力を伸ばしつつ、ある程度まとまった内容の会話ができるようにする。インターネットや視聴覚教材の視聴を通して、ドイツ語圏の文化に触れるとともに、少しずつ自然なドイツ語のスピードにも慣れる機会とする。	
全学共通科目	外国語	初修外国語科目	ドイツ語演習コミュニケーション III	この授業科目は、「コミュニケーション II」の継続科目として、ドイツ語のヨーロッパ共通言語参照枠の A2~B1 レベルの会話能力の養成を目指す。学習する文法の範囲としては、直説法過去、完了形、受動態、接続法までとし、日常生活に必要な表現力や語彙力を修得する。また発音やリスニング、自然な言い回しにも重点を置く。さらに、インターネットや視聴覚教材の視聴を通して、政治・経済に関するテーマや文化に関するテーマ、あるいはドイツの地域的な違いなどにも関心を向ける。	

授 業 科 目 の 概 要

(経済学部現代経済学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
全学共通科目	外国語	初修外国語科目	ドイツ語演習コミュニケーションⅣ	この授業科目は、「コミュニケーションⅢ」の継続科目として、ドイツ語のヨーロッパ共通言語参照枠の A2~B1 レベルの会話能力の養成を目指す。直説法過去、完了形、受動態、接続法までを範囲とし、過去、現在、未来の出来事について、ある程度まとまった会話ができるようになることを目指す。合わせて、テーマごとに必要な表現や語彙を修得する。正確な発音や自然な言い回し、会話をスムーズにする様々な表現やしぐさにも注目していく。同時に、インターネットや視聴覚教材の視聴を通して、ドイツ語圏の人々の価値観に対する理解を深める。	
		初修外国語科目	ドイツ語演習コミュニケーションⅤ	この授業科目は、「コミュニケーションⅣ」の継続科目として、ドイツ語のヨーロッパ共通言語参照枠の B1 レベルの会話能力の養成を目指す。接続法までを範囲とし、依頼、願望、仮定、婉曲等やや複雑な表現も織り込んで会話ができるようになることを目指す。正確な発音や自然な言い回し、インフォーマルな場面とフォーマルな場面における表現の違い等を学ぶ。同時に、インターネットや視聴覚教材の視聴を通して、ドイツ語圏の人々の会話でのマナーに対する理解を深める。	
全学共通科目	外国語	初修外国語科目	フランス語演習コミュニケーションⅠ	この授業科目は、フランス語の初学者を対象に、ごく入門程度の会話能力の養成を目指す。初歩の日常会話でよく使われる基本的な表現に重点をおき、実際に使えるようにペアやグループで練習をおこなう。原則としてネイティブスピーカーの教員の指導の下、正確な発音を学びながら、特定の場面における定型の会話表現の運用を身に付ける。同時に、フランス語圏の多様な文化や生活習慣にも触れる機会とするため、適宜ビデオや CD 等の視聴を通して理解を深める。	
		初修外国語科目	フランス語演習コミュニケーションⅡ	この授業科目は、「コミュニケーションⅠ」の継続科目として、フランス語の初級程度の会話能力の養成を目指す。旅行等で使える基本的な表現に重点をおき、基礎会話を復習しつつペアやグループで練習をおこなう。原則としてネイティブスピーカーの教員の指導の下、正確な発音を学びながら、特定の場面における定型の会話表現の運用を身に付ける。同時に、フランス語圏の多様な文化や生活習慣にも触れる機会とするため、適宜ビデオや CD 等の視聴を通して理解を深める。	
全学共通科目	外国語	初修外国語科目	フランス語演習コミュニケーションⅢ	この授業科目は、「コミュニケーションⅡ」の継続科目として、フランス語の初級～中級程度の会話能力の養成を目指す。ペアやグループで練習しながら、日常生活で不自由しない程度の表現力や語彙力を修得する。原則としてネイティブスピーカーの教員の指導の下、正確な発音や自然な言い回し、特定の場面における定型の会話表現の運用を身に付ける。同時に、フランス語圏の多様な文化や生活習慣にも触れる機会とするため、適宜ビデオや CD 等の視聴を通して理解を深める。	
		初修外国語科目	フランス語演習コミュニケーションⅣ	この授業科目は、「コミュニケーションⅢ」の継続科目として、フランス語の中級程度の会話能力の養成を目指す。ペアやグループで練習しながら、日常生活で不自由しない程度の表現力や語彙力を修得する。原則としてネイティブスピーカーの教員の指導の下、正確な発音や自然な言い回し、特定の場面における定型の会話表現の運用を身に付ける。同時に、フランス語圏の多様な文化や生活習慣にも触れる機会とするため、適宜ビデオや CD 等の視聴を通して理解を深める。	

授 業 科 目 の 概 要

(経済学部現代経済学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
全学共通科目	外国語	初修外国語科目	フランス語演習コミュニケーションV	この授業科目は、「コミュニケーションIV」の継続科目として、フランス語の中級～上級程度の会話能力の養成を目指す。ペアやグループで練習しながら、幅広いテーマの会話に対応できる表現力や語彙力を修得する。原則としてネイティブスピーカーの教員の指導の下、正確な発音や自然な言い回し、特定の場面における定型の会話表現の運用を身に付ける。同時に、フランス語圏の多様な文化や生活習慣にも触れる機会とするため、適宜ビデオやCD等の視聴を通して理解を深める。	
	外国語	初修外国語科目	スペイン語演習コミュニケーションI	この授業科目は、スペイン語の入門レベルの会話能力の養成を目指す。動詞 <i>ser / estar</i> 、規則活用の直説法現在形を中心に、名詞、形容詞等の基本語彙を用いて様々な日常会話に対応できる力を身に付ける。家庭、交友、学校、余暇、旅行等、場面ごとに必要な表現を実際に使えるようにペアやグループで練習をおこなう。原則としてネイティブスピーカーの教員の指導の下、正確な発音およびリスニングの力を身に付ける。同時に、適宜ビデオやCD等の視聴を通して、スペイン語圏の多様な文化や生活習慣にも慣れ親しむ。	
全学共通科目	外国語	初修外国語科目	スペイン語演習コミュニケーションII	この授業科目は、「コミュニケーションI」の継続科目として、スペイン語の入門レベルの会話能力の養成を目指す。引き続き、直説法現在形の練習を中心に基本語彙を身に付けながら、様々な場面を想定してペアやグループで練習をおこなう。原則としてネイティブスピーカーの教員の指導の下、正確な発音およびリスニングの力を伸ばしつつ、ある程度まとまった内容の会話ができるようにする。CDやビデオ等の視聴を通じてスペイン語圏の文化に触れるとともに、少しずつ自然なスペイン語のスピードにも慣れる機会とする。	
	外国語	初修外国語科目	スペイン語演習コミュニケーションIII	この授業科目は、「コミュニケーションII」の継続科目として、スペイン語の初級～中級程度の会話能力の養成を目指す。直説法点過去、線過去、現在完了までを範囲とし、過去の描写も含め、日常生活に必要な表現力や語彙力を修得する。原則としてネイティブスピーカーの教員の指導の下、発音やリスニング、自然な言い回しにも重点を置く。また、ビデオやCD等の視聴を通して世界各地のスペイン語の地理的変異(特に語彙や発音の違い)にも関心を向ける。	
全学共通科目	外国語	初修外国語科目	スペイン語演習コミュニケーションIV	この授業科目は、「コミュニケーションIII」の継続科目として、スペイン語の中級程度の会話能力の養成を目指す。直説法の時制全般を範囲とし、過去、現在、未来の出来事について、ある程度まとまった会話ができるようになることを目指す。合わせて、テーマごとに必要な表現や語彙を修得する。原則としてネイティブスピーカーの教員の指導の下、正確な発音や自然な言い回し、会話をスムーズにする様々な表現やジェスチャーにも注目していく。同時に、ビデオ等の視聴を通してスペイン語圏の人々の価値観に対する理解を深める。	
	外国語	初修外国語科目	スペイン語演習コミュニケーションV	この授業科目は、「コミュニケーションIV」の継続科目として、スペイン語の中級～上級程度の会話能力の養成を目指す。接続法までを範囲とし、依頼、願望、仮定、婉曲等のやや複雑な表現も織り込んで会話ができるようになることを目指す。原則としてネイティブスピーカーの教員の指導の下、正確な発音や自然な言い回し、インフォーマルな場面とフォーマルな場面における表現の違い等を学ぶ。同時に、ビデオ等の視聴を通してスペイン語圏の人々の会話でのマナーに対する理解を深める。	

授 業 科 目 の 概 要

(経済学部現代経済学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目	外国語	初修外国語科目 中国語演習コミュニケーションⅠ	この授業科目は、中国語の入門レベルの会話能力の養成を目指す。ピンイン、声調、基本語順を中心に、基本文型を用いたパターン練習を重ねることにより、様々な日常会話に対応できる力を身に付ける。挨拶、自己紹介ができることを目標とする。原則としてネイティブスピーカーの教員の指導の下、正確な発音およびリスニングの力を身に付ける。同時に、適宜ビデオや CD 等の視聴を通して、中国語圏の多様な文化や生活習慣にも慣れ親しむ。	
		初修外国語科目 中国語演習コミュニケーションⅡ	この授業科目は、「コミュニケーションⅠ」の継続科目として、中国語の入門レベルの会話能力の養成を目指す。引き続き、声調感覚の養成を中心に、基本文型を身に付けながら、買い物など旅行の際に必要な表現を話せるようペアやグループで練習を重ねる。原則としてネイティブスピーカーの教員の指導の下、正確な発音およびリスニングの力を伸ばしつつ、ある程度まとまった内容の会話ができるようにする。CD やビデオ等の視聴を通じて中国語圏の多様な文化や生活習慣にも慣れ親しむ。	
全学共通科目	外国語	初修外国語科目 中国語演習コミュニケーションⅢ	この授業科目は、「コミュニケーションⅡ」の継続科目として、中国語の初級～中級程度の会話能力の養成を目指す。中華料理店で注文、会計、中国人店員に声掛けができるようペアやグループで練習を重ねる。原則としてネイティブスピーカーの教員の指導の下、発音やリスニング、自然な言い回しにも重点を置く。また、中国語圏の多様な文化や生活習慣にも触れる機会とするため、ビデオや CD 等の視聴を通して中国の伝統文化やポップカルチャーにも関心を向ける。	
		初修外国語科目 中国語演習コミュニケーションⅣ	この授業科目は、「コミュニケーションⅢ」の継続科目として、中国語の中級程度の会話能力の養成を目指す。身近な場面での活用も視野に入れ、日本に来た中国人観光客に声掛け、案内ができるようペアやグループで練習を重ねる。原則としてネイティブスピーカーの教員の指導の下、正確な発音や自然な言い回し、会話をスムーズにする様々な表現やしぐさにも注目していく。同時に、視聴覚教材を用いて中国語圏の人々の価値観に対する理解を深める。	
全学共通科目	外国語	初修外国語科目 中国語演習コミュニケーションⅤ	この授業科目は、「コミュニケーションⅣ」の継続科目として、中国語の中級～上級程度の会話能力の養成を目指す。アパレル業界、飲食店、役所など様々なアルバイト先、就職先において中国人従業員及び中国人客とスムーズにコミュニケーションできる程度の中国語能力を身につけることを目標とする。原則としてネイティブスピーカーの教員の指導の下、正確な発音や自然な言い回しを修得する。同時に、視聴覚教材を用いて中国語圏の人々の価値観に対する理解を深める。	
		初修外国語科目 韓国語演習コミュニケーションⅠ	この授業科目は、韓国語の初学者を対象に、挨拶、自己紹介などの会話ができることを目標とする。初歩の日常会話でよく使われる基本的な表現を学び、ペアやグループで練習をおこなう。韓国語は日本語と類似点が多いため、より早く実践力を身につけるように繰り返し練習する。韓国語圏の多様な文化や生活習慣にも触れる機会も設けるとともに、原則としてネイティブスピーカーの教員の指導の下、正確な発音を学びながら特定の場面における会話を学習する。	
全学共通科目	外国語	初修外国語科目 韓国語演習コミュニケーションⅡ	この授業科目は、「コミュニケーションⅠ」の継続科目として、旅行、買い物ができる程度の会話能力の養成をすることを目標とする。基礎会話と文法を復習しつつペアやグループで繰り返し練習をおこなう。韓国語圏の多様な文化や生活習慣にも触れる機会も設けるとともに、視聴覚教材を用いて特定の場所における定型の会話表現を身に付ける、原則としてネイティブスピーカーの教員の指導の下、正確な発音や自然な言い回しを修得することを旨とする。	

授 業 科 目 の 概 要

(経済学部現代経済学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目	外国語	初修外国語科目 韓国語演習コミュニケーションⅢ	この授業科目は、「コミュニケーションⅡ」の継続科目として、電話、注文などの状況で話せる程度の会話能力の養成することを目標とする。ペアやグループで練習しながら、日常生活でよく使う表現や語彙を学習する。韓国語圏の多様な文化や生活習慣にも触れる機会も設けるとともに、原則としてネイティブスピーカーの教員の指導の下、正確な発音や自然な言い回しを修得する。視聴覚教材を用いて特定の場所における定型の会話表現を身に付ける。	
		初修外国語科目 韓国語演習コミュニケーションⅣ	この授業科目は、「コミュニケーションⅢ」の継続科目として、要請、招待ができる程度の会話能力の養成することを目標とする。ペアやグループで練習しながら、日常生活でよく使う表現や語彙を学習する。韓国語圏の多様な文化や生活習慣にも触れる機会も設けるとともに、原則としてネイティブスピーカーの教員の指導の下、正確な発音や自然な言い回しを修得する。視聴覚教材を用いて特定の場所における定型の会話表現を身に付ける。	
		初修外国語科目 韓国語演習コミュニケーションⅤ	この授業科目は、「コミュニケーションⅣ」の継続科目として、発表ができる程度の会話能力の養成することを目標とする。ペアやグループで練習しながら、幅広いテーマの会話に対応できる表現力や語彙力を修得する。韓国語圏の多様な文化や生活習慣にも触れる機会も設けるとともに、原則としてネイティブスピーカーの教員の指導の下、正確な発音や自然な言い回しを修得する。視聴覚教材を用いて特定の場所における定型の会話表現を身に付ける。	
全学共通科目	外国語	初修外国語科目 ドイツ語演習言語と文化Ⅰ	この授業科目は、「基礎 AI, AII, BI, BII」での学習をもとに、ドイツ語の初級～中級レベルの文法の修得および総合的な運用力の向上を目標とする。現在形を中心とした基礎文法を復習しながら、未習の文法事項（特に直説法の過去時制、複合時制等）を体系的に学ぶ。ドイツ語圏を扱ったコラムや、手紙、日記等の読み書き、またその発表を通じて、「話す・聞く・書く・読む」能力をさらに高め、より豊かな表現法や語彙を身に付ける。同時に、視聴覚教材の活用を通してドイツ語圏の文化や社会に対する理解を深め、多面的な分析を加えることも目指す。	
全学共通科目	外国語	初修外国語科目 ドイツ語演習言語と文化Ⅱ	この授業科目は、「言語と文化Ⅰ」での学習をもとに、ドイツ語の中級レベルの文法の修得および総合的な運用力の向上を目標とする。過去形を含む基礎文法を復習しながら、未習の文法事項（特に直説法の未来時制および従属節や関係節を用いた複文）を体系的に学ぶ。初学者向けの小説、コラム、手紙や物語等の読み書き、またその発表を通じて、「話す・聞く・書く・読む」能力をさらに高め、より豊かな表現法や語彙を身に付ける。同時に、視聴覚教材の活用を通してドイツ語圏の文化や社会に対する理解を深め、多面的な分析を加えることも目指す。	
全学共通科目	外国語	初修外国語科目 ドイツ語演習言語と文化Ⅲ	この授業科目は、「言語と文化Ⅱ」での学習をもとに、ドイツ語の中級～上級レベルの文法の修得および総合的な運用力の向上を目標とする。直説法を中心に基礎文法を復習しながら、未習の文法事項（特に接続法現在、命令法）を体系的に学ぶ。少しずつ生の素材（新聞、小説、エッセイ等）の講読に取り組み、感想文の作成や発表を通じて、「話す・聞く・書く・読む」能力をさらに高め、より豊かな表現法や語彙を身に付ける。同時に、視聴覚教材の活用を通してドイツ語圏の文化や社会に対する理解を深め、多面的な分析を加えることも目指す。	

授 業 科 目 の 概 要

(経済学部現代経済学科)

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目	外国語	初修外国語科目	ドイツ語演習言語と文化Ⅳ	この授業科目は、「言語と文化Ⅲ」での学習をもとに、ドイツ語の上級レベルの文法の修得および総合的な運用力の向上を目標とする。直説法全般を復習しながら、接続法の時制を一通りマスターし、文法を体系的に修得することを目指す。小説等のまとまった分量の講読にもチャレンジし、簡単なレポートの作成や発表を通じて、「話す・聞く・書く・読む」能力をさらに高め、より豊かな表現法や語彙を身に付ける。同時に、視聴覚教材の活用を通してドイツ語圏の文化や社会に対する理解を深め、多面的な分析を加えることも目指す。	
		初修外国語科目	フランス語演習言語と文化Ⅰ	この授業科目は、「基礎 AI, AII, BI, BII」での学習を受け、フランス語の初級～中級レベルの文法の修得および総合的な運用力の向上を目標とする。基礎文法を復習しながら、未習の文法事項を体系的に学ぶ。簡単な文章の読み書きやディスカッションを通じて、「話す・聞く・書く・読む」能力をさらに高め、より豊かな表現法や語彙を身に付ける。同時に、講読や視聴覚教材の活用を通してフランス語圏の文化や社会に対する理解を深め、多面的な分析を加えることも目指す。	
全学共通科目	外国語	初修外国語科目	フランス語演習言語と文化Ⅱ	この授業科目は、「言語と文化Ⅰ」での学習を受け、フランス語の中級レベルの文法の修得および総合的な運用力の向上を目標とする。基礎文法を復習しながら、未習の文法事項を体系的に学ぶ。簡単な文章の読み書きやディスカッションを通じて、「話す・聞く・書く・読む」能力をさらに高め、より豊かな表現法や語彙を身に付ける。同時に、講読や視聴覚教材の活用を通してフランス語圏の文化や社会に対する理解を深め、多面的な分析を加えることも目指す。	
全学共通科目	外国語	初修外国語科目	フランス語演習言語と文化Ⅲ	この授業科目は、「言語と文化Ⅱ」での学習を受け、フランス語の中級～上級レベルの文法の修得および総合的な運用力の向上を目標とする。基礎文法を復習しながら、未習の文法事項を体系的に学ぶ。ややまとまった分量の文章の読み書きやディスカッションを通じて、「話す・聞く・書く・読む」能力をさらに高め、より豊かな表現法や語彙を身に付ける。同時に、講読や視聴覚教材の活用を通してフランス語圏の文化や社会に対する理解を深め、多面的な分析を加えることも目指す。	
全学共通科目	外国語	初修外国語科目	フランス語演習言語と文化Ⅳ	この授業科目は、「言語と文化Ⅲ」での学習を受け、フランス語の上級レベルの文法の修得および総合的な運用力の向上を目標とする。基礎文法を復習しながら、未習の文法事項を体系的に学ぶ。ややまとまった分量の文章の読み書きやディスカッションを通じて、「話す・聞く・書く・読む」能力をさらに高め、より豊かな表現法や語彙を身に付ける。同時に、講読や視聴覚教材の活用を通してフランス語圏の文化や社会に対する理解を深め、多面的な分析を加えることも目指す。	
全学共通科目	外国語	初修外国語科目	スペイン語演習言語と文化Ⅰ	この授業科目は、「基礎 AI, AII, BI, BII」での学習をもとに、スペイン語の初級～中級レベルの文法の修得および総合的な運用力の向上を目標とする。現在形を中心とした基礎文法を復習しながら、未習の文法事項(特に直説法の過去時制、複合時制等)を体系的に学ぶ。スペイン語圏を扱ったコラムや、手紙、日記等の読み書き、またその発表を通じて、「話す・聞く・書く・読む」能力をさらに高め、より豊かな表現法や語彙を身に付ける。同時に、視聴覚教材の活用を通してスペイン語圏の文化や社会に対する理解を深め、多面的な分析を加えることも目指す。	

授 業 科 目 の 概 要

(経済学部現代経済学科)

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目	外国語	初修外国語科目	スペイン語演習言語と文化 II	この授業科目は、「言語と文化 I」での学習をもとに、スペイン語の中級レベルの文法の修得および総合的な運用力の向上を目標とする。過去形を含む基礎文法を復習しながら、未習の文法事項(特に直説法の未来時制および従属節や関係節を用いた複文)を体系的に学ぶ。初学者向けの小説、コラム、手紙や物語等の読み書き、またその発表を通じて、「話す・聞く・書く・読む」能力をさらに高め、より豊かな表現法や語彙を身に付ける。同時に、視聴覚教材の活用を通してスペイン語圏の文化や社会に対する理解を深め、多面的な分析を加えることも目指す。	
		初修外国語科目	スペイン語演習言語と文化 III	この授業科目は、「言語と文化 II」での学習をもとに、スペイン語の中級～上級レベルの文法の修得および総合的な運用力の向上を目標とする。直説法を中心に基礎文法を復習しながら、未習の文法事項(特に接続法現在、命令法)を体系的に学ぶ。少しずつ生の素材(新聞、小説、エッセイ等)の講読に取り組み、感想文の作成や発表を通じて、「話す・聞く・書く・読む」能力をさらに高め、より豊かな表現法や語彙を身に付ける。同時に、視聴覚教材の活用を通してスペイン語圏の文化や社会に対する理解を深め、多面的な分析を加えることも目指す。	
全学共通科目	外国語	初修外国語科目	スペイン語演習言語と文化 IV	この授業科目は、「言語と文化 III」での学習をもとに、スペイン語の上級レベルの文法の修得および総合的な運用力の向上を目標とする。直説法全般を復習しながら、接続法の時制を一通りマスターし、文法を体系的に修得することを目指す。小説等のまとまった分量の講読にもチャレンジし、簡単なレポートの作成や発表を通じて、「話す・聞く・書く・読む」能力をさらに高め、より豊かな表現法や語彙を身に付ける。同時に、視聴覚教材の活用を通してスペイン語圏の文化や社会に対する理解を深め、多面的な分析を加えることも目指す。	
全学共通科目	外国語	初修外国語科目	中国語演習言語と文化 I	この授業科目は、「基礎 AI, AII, BI, BII」での学習をもとに、中国語の初級～中級レベルの文法の復習および総合的な運用力の向上を主要な目標とする。これまでに学習した基礎的な文法事項を復習しながら、未習の文法事項、特に方向補語、様態補語、結果補語等を学ぶ。さらに言語以外の内容、たとえば中国語圏の文化を扱ったコラムや、手紙等の読み書き、またその発表を通じて、「話す・聞く・書く・読む」能力をさらに高め、より豊かな表現法や語彙、文化的な内容を含んだ中国語能力を身に付ける。同時に、視聴覚教材の活用を通して中国語圏の文化や社会に対する理解を深め、多面的な視座から中国語圏を捉えることも目指す。	
全学共通科目	外国語	初修外国語科目	中国語演習言語と文化 II	この授業科目は、「言語と文化 I」での学習をもとに、中国語の初級～中級レベルの文法の定着および総合的な運用力の向上を主要な目標とする。これまでに学習した基礎文法を復習しながら、未習の文法事項、特に複合方向補語、可能補語等を学ぶ。さらに言語以外の内容、たとえば中国語圏の文化を扱ったコラムや、新聞等の読み書き、またその発表を通じて、「話す・聞く・書く・読む」能力をさらに高め、より豊かな表現法や語彙、文化的な内容を含んだ中国語能力を身に付ける。同時に、視聴覚教材の活用を通して中国語圏の文化や社会に対する理解を深め、多面的な視座から中国語圏を捉えることも目指す。	

授 業 科 目 の 概 要

(経済学部現代経済学科)

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目	外国語	初修外国語科目	中国語演習言語と文化Ⅲ	この授業科目は、「言語と文化Ⅱ」での学習をもとに、中国語の中級～上級レベルの文法の修得および総合的な運用力の向上を目標とする。これまでに学習した文法事項を復習しながら、未習の文法事項だけでなく、文語的な表現、たとえば諺のような成語や故事成語を体系的に学ぶ。特にオーセンティックな教材(新聞、小説、エッセイ、コラム等)の講読に取り組み、簡単な作文や発表を通じて、「話す・聞く・書く・読む」能力をさらに高め、より豊かな表現法や語彙を身に付ける。同時に、視聴覚教材の活用を通して中国語圏の文化や社会にも目を向け、多面的な視座から中国語圏を捉えることも目指す。	
		初修外国語科目	中国語演習言語と文化Ⅳ	この授業科目は、「言語と文化Ⅲ」での学習をもとに、中国語の上級レベルの文法の修得および総合的な運用力の向上を目標とする。これまでに学習事項を復習しながら、基本的な文法事項を一通りマスターすることを目指す。簡単な小説、新聞等の講読にも挑戦し、レポートの作成や発表を通じて、「話す・聞く・書く・読む」能力をさらに高め、より豊かな表現法や語彙を身に付ける。中国語において諺のような成語や故事成語は極めて重要となるため、文語的表現の能力を身につけることも視野に置く。同時に、視聴覚教材の活用を通して中国語圏の文化や社会に対する理解を深め、多面的な分析を加えることも目指す。	
全学共通科目	外国語	初修外国語科目	韓国語演習言語と文化Ⅰ	この授業科目は、「基礎 AI, AII, BI, BII」での学習を受け、韓国語の準中級レベルの文法の修得および読む・書く・話す・聞くという言語の基本的な機能を総合的に運用できる力を向上させることを目標とする。基礎文法を復習しながら、より高いレベルの文法を体系的に学ぶ。韓国の文化や社会に関する視聴覚教材などを活用することで、多様な文章の表現を学習するとともに多面的な分析を加えることを目指す。これにより、韓国語圏の多様な文化や生活習慣についても理解を深める。	
全学共通科目	外国語	初修外国語科目	韓国語演習言語と文化Ⅱ	この授業科目は、「言語と文化Ⅰ」での学習を受け、韓国語の中級レベルの文法の修得および読む・書く・話す・聞くという言語の基本的な機能を総合的に運用できる力を向上させることを目標とする。基礎文法を復習しながら、より高いレベルの文法を体系的に学ぶ。韓国の文化や社会に関する視聴覚教材などを活用することで、多様な文章の表現を学習するとともに多面的な分析を加えることを目指す。これにより、韓国語圏の多様な文化や生活習慣についても理解を深める。	
全学共通科目	外国語	初修外国語科目	韓国語演習言語と文化Ⅲ	この授業科目は、「言語と文化Ⅱ」での学習を受け、韓国語の準上級レベルの文法の修得および読む・書く・話す・聞くという言語の基本的な機能を総合的に運用できる力を向上させることを目標とする。基礎文法を復習しながら、より高いレベルの文法を体系的に学ぶ。韓国の文化や社会に関する視聴覚教材などを活用することで、多様な文章の表現を学習するとともに多面的な分析を加えることを目指す。これにより、韓国語圏の多様な文化や生活習慣についても理解を深める。	
全学共通科目	外国語	初修外国語科目	韓国語演習言語と文化Ⅳ	この授業科目は、「言語と文化Ⅲ」での学習を受け、韓国語の上級レベルの文法の修得および読む・書く・話す・聞くという言語の基本的な機能を総合的に運用できる力を向上させることを目標とする。基礎文法を復習しながら、より高いレベルの文法を体系的に学ぶ。韓国の文化や社会に関する視聴覚教材などを活用することで、多様な文章の表現を学習するとともに多面的な分析を加えることを目指す。これにより、韓国語圏の多様な文化や生活習慣についても理解を深める。	

授 業 科 目 の 概 要

(経済学部現代経済学科)

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目	外国語	初修外国語科目	ドイツ語演習検定対策Ⅰ	この授業科目は、ドイツ語のこれまでの学習を踏まえて、検定試験の受験を目指す学生を対象とする。ドイツ語技能検定および Goethe zertifikat を範囲とするが、特にドイツ語技能検定 4 級、Goethe zertifikat A1 程度のレベルの復習から始め、各自に合った目標設定をおこなった後、検定試験の特徴と傾向を分析し、目標レベルの合格に必要な実力を付ける。長文読解、聞き取り、面接等に対応できるよう様々な応用練習に取り組み、出題傾向に慣れていく。適宜、模擬試験もおこない実際の試験に備える。	
		初修外国語科目	ドイツ語演習検定対策Ⅱ	この授業科目は、ドイツ語のこれまでの学習を踏まえて、検定試験の受験を目指す学生を対象とする。ドイツ語技能検定および Goethe zertifikat を範囲とするが、特にドイツ語技能検定 3 級、Goethe zertifikat A1~A2 程度のレベルの復習から始め、各自に合った目標設定をおこなった後、検定試験との特徴と傾向を分析し、目標レベルの合格に必要な実力を付ける。長文読解、聞き取り、面接等に対応できるよう様々な応用練習に取り組み、出題傾向に慣れていく。適宜、模擬試験もおこない実際の試験に備える。	
全学共通科目	外国語	初修外国語科目	ドイツ語演習検定対策Ⅲ	この授業科目は、ドイツ語のこれまでの学習を踏まえて、検定試験の受験を目指す学生を対象とする。ドイツ語技能検定および Goethe zertifikat を範囲とするが、特にドイツ語技能検定準 2 級程度、Goethe zertifikat A2 程度のレベルの文法を復習しながら、各自に合った目標設定をおこなった後、検定試験の特徴と傾向を分析し、目標レベルの合格に必要な実力を付ける。長文読解、聞き取り、面接等に対応できるよう様々な応用練習に取り組み、出題傾向に慣れていく。適宜、模擬試験もおこない実際の試験に備える。	
		初修外国語科目	ドイツ語演習検定対策Ⅳ	この授業科目は、ドイツ語のこれまでの学習を踏まえて、検定試験の受験を目指す学生を対象とする。ドイツ語技能検定および Goethe zertifikat を範囲とするが、特にドイツ語技能検定 2 級程度、Goethe zertifikat B1 程度のレベルの文法を復習しながら、各自に合った目標設定をおこなった後、検定試験の特徴と傾向を分析し、目標レベルの合格に必要な実力を付ける。長文読解、聞き取り、面接等に対応できるよう様々な応用練習に取り組み、出題傾向に慣れていく。適宜、模擬試験もおこない実際の試験に備える。	
全学共通科目	外国語	初修外国語科目	フランス語演習検定対策Ⅰ	この授業科目は、フランス語のこれまでの学習を踏まえて、初級～中級レベルの検定試験の受験を目指す学生を対象とする。各自に合った目標設定をおこなった後、検定試験の特徴と傾向を分析し、目標レベルの合格に必要な実力を付ける。そのために前提となる文法を復習しながら、過去に出題された問題等を解いて出題傾向に慣れていく。長文読解、聞き取り、面接等に対応できるよう様々な応用練習に取り組み。適宜、模擬試験もおこない実際の試験に備える。	
		初修外国語科目	フランス語演習検定対策Ⅱ	この授業科目は、フランス語のこれまでの学習を踏まえて、中級レベルの検定試験の受験を目指す学生を対象とする。各自に合った目標設定をおこなった後、検定試験との特徴と傾向を分析し、目標レベルの合格に必要な実力を付ける。そのために前提となる文法を復習しながら、過去に出題された問題等を解いて出題傾向に慣れていく。長文読解、聞き取り、面接等に対応できるよう様々な応用練習に取り組み。適宜、模擬試験もおこない実際の試験に備える。	

授 業 科 目 の 概 要

(経済学部現代経済学科)

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目	外国語	初修外国語科目	フランス語演習検定対策Ⅲ	この授業科目は、フランス語のこれまでの学習を踏まえて、中級～上級レベルの検定試験の受験を目指す学生を対象とする。各自に合った目標設定をおこなった後、検定試験の特徴と傾向を分析し、目標レベルの合格に必要な実力を付ける。そのために前提となる文法を復習しながら、過去に出題された問題等を解いて出題傾向に慣れていく。長文読解、聞き取り、面接等に対応できるよう様々な応用練習に取り組む。適宜、模擬試験もおこない実際の試験に備える。	
		初修外国語科目	フランス語演習検定対策Ⅳ	この授業科目は、フランス語のこれまでの学習を踏まえて、上級レベルの検定試験の受験を目指す学生を対象とする。各自に合った目標設定をおこなった後、検定試験の特徴と傾向を分析し、目標レベルの合格に必要な実力を付ける。そのために前提となる文法を復習しながら、過去に出題された問題等を解いて出題傾向に慣れていく。長文読解、聞き取り、面接等に対応できるよう様々な応用練習に取り組む。適宜、模擬試験もおこない実際の試験に備える。	
全学共通科目	外国語	初修外国語科目	スペイン語演習検定対策Ⅰ	この授業科目は、スペイン語のこれまでの学習を踏まえて、検定試験の受験を目指す学生を対象とする。スペイン語技能検定および DELE の全レベルを範囲とするが、特にスペイン語技能検定 6～5 級、DELE A1 程度のレベルの復習から始め、各自に合った目標設定をおこなった後、検定試験の特徴と傾向を分析し、目標レベルの合格に必要な実力を付ける。長文読解、聞き取り、面接等に対応できるよう様々な応用練習に取り組み、出題傾向に慣れていく。適宜、模擬試験もおこない実際の試験に備える。	
		初修外国語科目	スペイン語演習検定対策Ⅱ	この授業科目は、スペイン語のこれまでの学習を踏まえて、検定試験の受験を目指す学生を対象とする。スペイン語技能検定および DELE の全レベルを範囲とするが、特にスペイン語技能検定 4 級程度、DELE A2 程度のレベルの文法を復習しながら、各自に合った目標設定をおこなった後、検定試験との特徴と傾向を分析し、目標レベルの合格に必要な実力を付ける。長文読解、聞き取り、面接等に対応できるよう様々な応用練習に取り組み、出題傾向に慣れていく。適宜、模擬試験もおこない実際の試験に備える。	
全学共通科目	外国語	初修外国語科目	スペイン語演習検定対策Ⅲ	この授業科目は、スペイン語のこれまでの学習を踏まえて、検定試験の受験を目指す学生を対象とする。スペイン語技能検定および DELE の全レベルを範囲とするが、特にスペイン語技能検定 3 級程度、DELE B1 程度のレベルの文法を復習しながら、各自に合った目標設定をおこなった後、検定試験の特徴と傾向を分析し、目標レベルの合格に必要な実力を付ける。長文読解、聞き取り、面接等に対応できるよう様々な応用練習に取り組み、出題傾向に慣れていく。適宜、模擬試験もおこない実際の試験に備える。	
		初修外国語科目	スペイン語演習検定対策Ⅳ	この授業科目は、スペイン語のこれまでの学習を踏まえて、検定試験の受験を目指す学生を対象とする。スペイン語技能検定および DELE の全レベルを範囲とするが、特にスペイン語技能検定 3 級以上、DELE B1 以上を目指せるレベルの文法を復習しながら、各自に合った目標設定をおこなった後、検定試験の特徴と傾向を分析し、目標レベルの合格に必要な実力を付ける。長文読解、聞き取り、面接等に対応できるよう様々な応用練習に取り組み、出題傾向に慣れていく。適宜、模擬試験もおこない実際の試験に備える。	

授 業 科 目 の 概 要

(経済学部現代経済学科)

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目	外国語	初修外国語科目	中国語演習検定対策Ⅰ	この授業科目は、中国語のこれまでの学習を踏まえて、検定試験の受験を目指す学生を対象とする。中国語検定試験準4級をターゲットにし、6月または11月に行われる中国語検定準4級に合格できるよう目標設定をおこなった後、検定試験の特徴と傾向を分析し、目標レベルの合格に必要な実力を付ける。長文読解、聞き取りに対応できるよう様々な過去試験問題を含めた応用練習に取り組み、出題傾向に慣れていく。適宜、模擬試験もおこない実際の試験に備える。	
		初修外国語科目	中国語演習検定対策Ⅱ	この授業科目は、中国語のこれまでの学習を踏まえて、検定試験の受験を目指す学生を対象とする。中国語検定試験4級をターゲットにし、11月または3月に行われる中国語検定4級に合格できるよう目標設定をおこなった後、検定試験の特徴と傾向を分析し、目標レベルの合格に必要な実力を付ける。長文読解、聞き取り等に対応できるよう様々な過去試験問題を含めた応用練習に取り組み、出題傾向に慣れていく。適宜、模擬試験もおこない実際の試験に備える。	
全学共通科目	外国語	初修外国語科目	中国語演習検定対策Ⅲ	この授業科目は、中国語のこれまでの学習を踏まえて、検定試験の受験を目指す学生を対象とする。中国語検定試験の全レベルを範囲とするが、特に中国語検定3級のレベルの文法を復習しながら、各自に合った目標設定をおこなった後、検定試験の特徴と傾向を分析し、目標レベルの合格に必要な実力を付ける。長文読解、聞き取り等に対応できるよう様々な過去試験問題を含めた応用練習に取り組み、出題傾向に慣れていく。適宜、模擬試験もおこない実際の試験に備える。	
		初修外国語科目	中国語演習検定対策Ⅳ	この授業科目は、中国語のこれまでの学習を踏まえて、検定試験の受験を目指す学生を対象とする。中国語検定試験の全レベルを範囲とするが、特に中国語検定3級～2級のレベルの文法を復習しながら、各自に合った目標設定をおこなった後、検定試験の特徴と傾向を分析し、目標レベルの合格に必要な実力を付ける。長文読解、聞き取り等に対応できるよう様々な過去試験問題を含めた応用練習に取り組み、出題傾向に慣れていく。適宜、模擬試験もおこない実際の試験に備える。	
全学共通科目	外国語	初修外国語科目	韓国語演習検定対策Ⅰ	この授業科目は、準中級レベルの検定試験の受験を目指す学生を対象とする。各自に合った検定試験の目標を設定し、これまでの試験問題の特徴と傾向を分析するとともに目標レベルの合格に必要な韓国語の実力を身に付ける。そのため、既習の文法を復習しながら、過去に出題された問題などを解いて出題傾向に慣れていく。読解、聞き取り、慣用句の表現、日本語と異なる表現などに対応できるよう様々な応用練習に取り組み。適宜、模擬試験もおこない実際の試験に備える。	
		初修外国語科目	韓国語演習検定対策Ⅱ	この授業科目は、中級レベルの検定試験の受験を目指す学生を対象とする。各自に合った検定試験の目標を設定し、これまでの試験問題の特徴と傾向を分析するとともに目標レベルの合格に必要な韓国語の実力を身に付ける。そのため、既習の文法を復習しながら、過去に出題された問題などを解いて出題傾向に慣れていく。読解、聞き取り、慣用句の表現、日本語と異なる表現などに対応できるよう様々な応用練習に取り組み。適宜、模擬試験もおこない実際の試験に備える。	

授 業 科 目 の 概 要

(経済学部現代経済学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
全学共通科目	外国語	初修外国語科目	韓国語演習検定対策Ⅲ	この授業科目は、準上級レベルの検定試験の受験を目指す学生を対象とする。各自に合った検定試験の目標を設定し、これまでの試験問題の特徴と傾向を分析するとともに目標レベルの合格に必要な韓国語の実力を身に付ける。そのため、既習の文法を復習しながら、過去に出題された問題などを解いて出題傾向に慣れていく。読解、聞き取り、慣用句の表現、日本語と異なる表現などに対応できるよう様々な応用練習に取り組む。適宜、模擬試験もおこない実際の試験に備える。	
		初修外国語科目	韓国語演習検定対策Ⅳ	この授業科目は、上級レベルの検定試験の受験を目指す学生を対象とする。各自に合った検定試験の目標を設定し、これまでの試験問題の特徴と傾向を分析するとともに目標レベルの合格に必要な韓国語の実力を身に付ける。そのため、既習の文法を復習しながら、過去に出題された問題などを解いて出題傾向に慣れていく。読解、聞き取り、慣用句の表現、日本語と異なる表現などに対応できるよう様々な応用練習に取り組む。適宜、模擬試験もおこない実際の試験に備える。	
全学共通科目	外国語	初修外国語科目	ドイツ語演習プレゼンテーションⅠ	この授業科目は、初級～中級ドイツ語の運用能力をもとに、プレゼンテーションができるようになることを目指す。長期留学等での異文化交流も視野に入れ、日本の文化や社会について正確な表現で紹介する能力および、ドイツ語圏の文化や社会について客観的に分析し、発展的・生産的に対話する能力を養成する。そのために前提となる文法を復習しつつ、プレゼンテーションに必要な表現や語彙を学び、個人やグループで発表を完成させていく。また、発表や質疑応答、議論等の技術も身に付ける。	
		初修外国語科目	ドイツ語演習プレゼンテーションⅡ	この授業科目は、中級～上級ドイツ語の運用能力をもとに、プレゼンテーションができるようになることを目指す。外国と関わる仕事やボランティア等、実社会での活用も視野に入れ、自分の専門分野、仕事等を正確に説明する能力および、その分野についてドイツ語圏の人びとと発展的・生産的に対話する能力を養成する。そのために前提となる文法を復習しつつ、プレゼンテーションに必要な表現や語彙を学び、個人やグループで発表を完成させていく。また、発表や質疑応答、議論等の技術も身に付ける。	
全学共通科目	外国語	初修外国語科目	フランス語演習プレゼンテーションⅠ	この授業科目は、これまでに身に付けたフランス語の運用能力をもとに簡単なプレゼンテーションができるようになることを目指す。自国の文化や他の言語圏の文化について客観的かつ批判的な知識を獲得しながら、それを正確に表現する能力とともに発展的・生産的に対話する能力を養成する。そのために前提となる文法を復習しつつ、プレゼンテーションに必要な表現や語彙を学び、個人やグループで発表を完成させていく。また、発表や質疑応答、議論等の技術も身に付ける。	
		初修外国語科目	フランス語演習プレゼンテーションⅡ	この授業科目は、これまでに身に付けたフランス語の運用能力をもとにやや大きめのプレゼンテーションができるようになることを目指す。自国の文化や他の言語圏の文化について客観的かつ批判的な知識を獲得しながら、それを正確に表現する能力とともに発展的・生産的に対話する能力を養成する。そのために前提となる文法を復習しつつ、プレゼンテーションに必要な表現や語彙を学び、個人やグループで発表を完成させていく。また、発表や質疑応答、議論等の技術も身に付ける。	

授 業 科 目 の 概 要

(経済学部現代経済学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
全学共通科目	外国語	初修外国語科目	スペイン語演習プレゼンテーションⅠ	この授業科目は、これまでのスペイン語学習(初級～中級)を総合的に活用し、プレゼンテーションができるようになることを目指す。留学等での異文化交流も視野に入れ、日本の文化や社会について正確な表現で紹介する能力および、スペイン語圏の文化や社会について客観的に分析し、発展的・生産的に対話する能力を養成する。そのために前提となる文法を復習しつつ、プレゼンテーションに必要な表現や語彙を学び、個人やグループで発表を完成させていく。また、発表や質疑応答、討論等の技術も身に付ける。	
		初修外国語科目	スペイン語演習プレゼンテーションⅡ	この授業科目は、これまでのスペイン語学習(中級～上級)を総合的に活用し、プレゼンテーションができるようになることを目指す。外国と関わる仕事やボランティア等、実社会での活用も視野に入れ、自分の専門分野、仕事等を正確に説明する能力および、その分野についてスペイン語圏の人びとと発展的・生産的に対話する能力を養成する。そのために前提となる文法を復習しつつ、プレゼンテーションに必要な表現や語彙を学び、個人やグループで発表を完成させていく。また、発表や質疑応答、討論等の技術も身に付ける。	
全学共通科目	外国語	初修外国語科目	中国語演習プレゼンテーションⅠ	この授業科目は、初級～中級中国語の運用能力を基礎に中国語でプレゼンテーションができるようになることを目指す。日本国内での異文化交流や留学先での授業も視野に入れ、身の回りのことや中国語圏の文化や社会について発表できる能力および日本の文化、社会について積極的に発信する能力を養成する。よって、これまでに学習した文法事項を復習しつつ、プレゼンテーションに必要な表現や語彙を学び、個人やグループで発表に挑戦する。特にプレゼンテーションでも利用可能な文語的表現も身に付ける。	
		初修外国語科目	中国語演習プレゼンテーションⅡ	この授業科目は、中級～上級中国語の運用能力をもとに、中国語でプレゼンテーションができるようになることを目指す。外国と関わる仕事やボランティア等の実社会での活用も視野に入れ、自分の専門分野、仕事等を正確に説明する能力および、その分野について中国語圏の人びとと発展的・生産的に対話する能力を養成する。そのために必要な文法事項を復習しつつ、プレゼンテーションに必要な表現や語彙を学び、質疑応答、議論の技術も身に付ける。これに加えて、特に文語的表現の習得にも力を入れる。	
全学共通科目	外国語	初修外国語科目	韓国語演習プレゼンテーションⅠ	この授業科目は、簡単なプレゼンテーションができる程度の語学力を養成することを目標とする。自国の文化や他の言語圏の文化について客観的かつ批判的な知識を獲得しながら、自分の考えや知識をより正確な韓国語で表現する能力を身に付ける。また、発展的・生産的に韓国語で対話できるようにする。そのために、前提となる文法と慣用句などを復習しつつ、プレゼンテーションに必要な表現や語彙を学び、個人やグループで発表を完成させていく。また、発表や質疑応答、議論等の技術も身に付ける。	
		初修外国語科目	韓国語演習プレゼンテーションⅡ	この授業科目は、高度なプレゼンテーションができる程度の語学力を養成することを目標とする。自国の文化や他の言語圏の文化について客観的かつ批判的な知識を獲得しながら、自分の考えや知識をより正確な韓国語で表現する能力を身に付ける。また、発展的・生産的に韓国語で対話できるようにする。そのために、前提となる文法と慣用句などを復習しつつ、プレゼンテーションに必要な表現や語彙を学び、個人やグループで発表を完成させていく。また、発表や質疑応答、議論等の技術も身に付ける。	

授 業 科 目 の 概 要

(経済学部現代経済学科)

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目	外国語	初修外国語科目	世界の言語（ロシア語Ⅰ）	この授業科目は、初学者を対象に、ロシア語圏の基本的な文化や価値観に触れるための基礎的語学力の養成を目的とする。発音の仕組み、文字と発音の関係、基本的な文法構造および文章の構造に関する知識の修得を目指す。同時に、ロシア語圏の文化や生活習慣に触れながら、基礎的な語彙や表現を導入する。また、口頭練習・筆記練習を通して話す・聞く・書く・読むの四技能をバランスよく伸ばす。簡単な文章読解や易しい単語を使った会話練習を実際におこなうことで、言語への理解を深めていく。	
		初修外国語科目	世界の言語（ロシア語Ⅱ）	この授業科目は、Ⅰに引き続き、ロシア語の基礎的語学力の養成を目的とする。Ⅰで学んだ発音の仕組み、文字と発音の関係、基本的な文法や文章構造に関する知識を復習しながら、未習の文法事項、基本的な語彙および表現を修得することを目指す。同時にコミュニケーションに欠かせない言語の背景的な知識も学ぶ。また、口頭練習・筆記練習を通して話す・聞く・書く・読むの四技能をバランスよく伸ばす。簡単な文章読解や易しい単語を使った会話練習を実際におこなうことで、言語への理解を深めていく。	
全学共通科目	外国語	初修外国語科目	世界の言語（タイ語Ⅰ）	この授業科目は、初学者を対象に、タイ語圏の基本的な文化や価値観に触れるための基礎的語学力の養成を目的とする。発音の仕組み、文字と発音の関係、基本的な文法構造および文章の構造に関する知識の修得を目指す。同時に、タイ語圏の文化や生活習慣に触れながら、基礎的な語彙や表現を導入する。また、口頭練習・筆記練習を通して話す・聞く・書く・読むの四技能をバランスよく伸ばす。簡単な文章読解や易しい単語を使った会話練習を実際におこなうことで、言語への理解を深めていく。	
		初修外国語科目	世界の言語（タイ語Ⅱ）	この授業科目は、Ⅰに引き続き、タイ語の基礎的語学力の養成を目的とする。Ⅰで学んだ発音の仕組み、文字と発音の関係、基本的な文法や文章構造に関する知識を復習しながら、未習の文法事項、基本的な語彙および表現を修得することを目指す。同時にコミュニケーションに欠かせない言語の背景的な知識も学ぶ。また、口頭練習・筆記練習を通して話す・聞く・書く・読むの四技能をバランスよく伸ばす。簡単な文章読解や易しい単語を使った会話練習を実際におこなうことで、言語への理解を深めていく。	
全学共通科目	外国語	初修外国語科目	世界の言語（イタリア語Ⅰ）	この授業科目は、初学者を対象に、イタリア語圏の基本的な文化や価値観に触れるための基礎的語学力の養成を目的とする。発音の仕組み、文字と発音の関係、基本的な文法構造および文章の構造に関する知識の修得を目指す。同時に、イタリア語圏の文化や生活習慣に触れながら、基礎的な語彙や表現を導入する。また、口頭練習・筆記練習を通して話す・聞く・書く・読むの四技能をバランスよく伸ばす。簡単な文章読解や易しい単語を使った会話練習を実際におこなうことで、言語への理解を深めていく。	
		初修外国語科目	世界の言語（イタリア語Ⅱ）	この授業科目は、Ⅰに引き続き、イタリア語の基礎的語学力の養成を目的とする。Ⅰで学んだ発音の仕組み、文字と発音の関係、基本的な文法や文章構造に関する知識を復習しながら、未習の文法事項、基本的な語彙および表現を修得することを目指す。同時にコミュニケーションに欠かせない言語の背景的な知識も学ぶ。また、口頭練習・筆記練習を通して話す・聞く・書く・読むの四技能をバランスよく伸ばす。簡単な文章読解や易しい単語を使った会話練習を実際におこなうことで、言語への理解を深めていく。	

授 業 科 目 の 概 要

(経済学部現代経済学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目	技能 日本語力科目	実践日本語表現	この授業科目は、大学生活・社会生活に必要な文章作成力・語彙力を身につける科目である。具体的には、(1) 日本語の文章にはさまざまなスタイルがあることを理解した上で、それぞれのスタイルにとって適切な文章を書けるようになること、(2) 高度な日本語を読解し、また表現する上で必要な語彙力を身につけること、の2点を目標とする。各受講生の抱える文章表現上の問題点が解消できるよう、少人数の演習形式で行う。目標(1)を達成すべく、隔週以上の頻度で、受講生は課題の文章を作成、担当教員は提出された文章を次回までに添削して返却する。また、目標(2)を達成すべく、指定テキストに基づく語彙テストなどを行う。	
全学共通科目	技能 日本語力科目	実践話し方入門	この授業科目は、「話し言葉としての日本語」の特徴や、コミュニケーションにおける聞く力の重要性を理解し、相手に伝わるように話す力を身につける科目である。少人数で、講義と実習を織り交ぜながら進める。実習としては、1分間程度のスピーチのほか、発声・滑舌・音読の練習などを行う。授業ではまず、話し手だけでなく聴き手にとっても興味深い内容を、すっきりとした構成にあてはめて、わかりやすい言葉ではきはきと話せるようになることを目指す。また、自分の内面を見つめて言語化したり、外からの情報を取捨選択し整理して伝えたりするなど、「内」と「外」をバランスよく話材にできるように習慣をつける。さらに、論理的に説明できる力や表現力をも身につけていく。	
全学共通科目	技能 日本語力科目	日本語表現講義	この授業科目は、日本語表現の諸ルールと文章作成上の留意点を学ぶ科目である。講義形式によるが、ほぼ毎回、語彙テストまたは課題提出があり、実践的に学ぶことができる。扱う内容は、敬語・敬意表現の使い方、主語と述語の関係や修飾語と被修飾語の関係といった文の構造、文章要約のポイント、手紙・履歴書・事務的文書・意見文といった各種文書の作成法など。これらを学ぶことにより、大学生や社会人に必要不可欠な文章作成力・読解力・コミュニケーション力を身につける。	
全学共通科目	技能 日本語力科目	実践漢字講座	この授業科目は、実生活で役立つ漢字能力を高めるため、講義によって漢字に関する基礎知識を身につけるとともに、漢字を書く訓練も行う科目である。授業では、漢字の成り立ちの分類、部首や読みの注意点、「常用漢字表」と「送り仮名の付け方」等に関する解説を行い、現代表記のきまりを理解してもらおう。これらの知識を身につけながら、毎時間、漢字練習を行う。解説と実習によって、全ての常用漢字を正しく読み、書くことができるようになることを一つの目標とする。	
全学共通科目	技能 日本語力科目	語彙・読解講座	この授業科目は、語彙力および読解力を養う科目である。具体的には、語彙・読解力検定2級程度の力をつけることを目標とする。授業は、講義と実習を織り交ぜながら進める。講義では、身近なトピックを取り上げ、それに関連する語彙を学びながら理解を深めることを目指す。社会常識を身につけつつ、言葉にかんする感覚を磨いていく。実習では、上記トピックにかんする読解問題に取り組むことで、講義で学んだ関連語彙の定着をはかるとともに、読解力を涵養する。	
全学共通科目	技能 日本語力科目	古典に学ぶ日本語表現	この授業科目は、江戸時代以前の多様な文章を取りあげ、受講者にさまざまなワークを課すことにより、書く力と読む力を鍛える科目である。授業は少人数で、講義と実習を織り交ぜながら進める。日本語の表現は、古代から脈々と受け継がれつつ、多様な変容を遂げてきた。その分厚い積み重ねの上に現代の日本語表現がある。「個体発生は系統発生を繰り返す」ように、受講生は能動的学修を通して、さまざまな時代の多様な日本語表現を体験し内化することにより、豊かな日本語力・表現力の獲得を目指す。	

授 業 科 目 の 概 要

(経済学部現代経済学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目	技能 日本語力科目	実用文書の作り方・情報の伝え方	この授業科目は、客観的な情報を的確に伝達する情報コミュニケーションスキルを身につける科目である。大学生活において作成が求められるレポート・エントリーシート・卒業論文、企業やその他の組織に入ってから日常的に作成することになるビジネス文書や技術文書を、わかりやすく読みやすい形で作成する基本スキルを習得すること、そうした文書を企画設計する上での基本的な考え方を身につけること、を目標とする。授業は講義形式によるが、演習を織り交ぜながら進める。	
全学共通科目	技能 日本語力科目	テーマ別日本語表現（文芸をたのしむ）	この授業科目は、創作を行う科目である。好きな本や作家、映画や演劇などについて語りあうことからはじめ、各自が創作したものを発表、互いに感想を述べあうことにより、文学が友達のように感じられる、またはその第一歩を踏み出すことを目指す。授業は演習形式で行うが、「エッセイを読む」、「文学、演劇、映画へのアプローチ」といったテーマの講義を挟んでいく。創作は、短い小説や短歌、現代詩などはもちろん、エッセイや書評でも可とする。	
全学共通科目	技能 日本語力科目	テーマ別日本語表現（成蹊俳句教室）	この授業科目は、俳句を実際に作り、作品を互いに鑑賞しあうことを通して、完成度を高めていく科目である。表現と鑑賞は、俳句に限らず創作の両輪である。実作者として他者の作品に向き合い、表現力を高めることを目指す。授業は少人数の演習形式で行われ、主に、①吟行、②句会、③ディベート、④鑑賞文、から組み立てられる。④鑑賞文の作成と講評は1回のみであるが、①キャンパスを歩いて俳句を作る吟行、作品を鑑賞しあう②句会と③ディベートは、2～3セット行う。間に講義をはさみながら、第1ラウンド→第2ラウンド→第3ラウンド、という具合に進んでいく。	
全学共通科目	技能 日本語力科目	テーマ別日本語表現（源氏物語を読む）	この授業科目は、『源氏物語』の極限的に研ぎ澄まされた文章表現を学ぶことにより、文章表現の豊かな可能性を知り、言葉に敏感になることを目指す科目である。あわせて、教養の一つとして、『源氏物語』の概要の理解も目指す。授業は講義形式で進めるが、随時、課題を投げかけ、受講者に考えてもらう。毎回の授業では、『源氏物語』の一～三場面を取り上げ、悪文、会話、敬語、内心語、和歌、視点、語り手などの文章表現に注目しながら、丁寧に読んでいく。	
全学共通科目	技能 日本語力科目	テーマ別日本語表現（文章表現を磨く）	この授業科目は、ある程度文章表現力のある学生を対象として、より高度なレベルで文章表現を磨くための科目である。授業は少人数で、講義を織り交ぜつつ、演習形式で行う。受講生の提出作文を無記名で全員に配布、互いに意見を言い、教員が批評・評価する。こうした合評会、および添削指導を通して、明確なだけでなく味わいのある文章を書くためのトレーニングを行う。また随時、名文鑑賞を行い、プロの書き手の用いている日本語表現のテクニックと発想法を学ぶとともに、読解力を伸ばす。	
全学共通科目	技能 日本語力科目	テーマ別日本語表現（話し方を磨く）	この授業科目は、話す力を鍛える科目である。「実践話し方入門」が初級編とすると、上級編にあたる。「実践話し方入門」を受講した学生からの、話し方を継続的に学び一層の向上を目指したいので上級編を設置してほしい、という要望をもとに誕生した科目である。「実践話し方入門」と同様に、少人数で、講義と実習を織り交ぜながら進める。相手の話を傾聴する体験を通じて多様な価値観を学ぶとともに、周囲に配慮しながらも自身の主張を積極的に発信していく姿勢を身につける。また、聴衆や場に相応しい言葉遣いや効果的な声の出し方、さらには話の内容を豊かにするための着想力やストーリー構築力も実践を重ねることで磨いていく。	

授 業 科 目 の 概 要

(経済学部現代経済学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
全学共通科目	技能	キャリア教育科目	キャリアプランニング	この授業科目は、大学生として自己と社会を認識し、大学生生活や進路選択に向けて有意義な行動計画(プランニング)を立てられるようになることを目的としている。そのために、進路・雇用・企業に関する基礎知識を学び、自己分析手法を修得し、併せて、キャリア形成の基本的な要素を理解することができるような講義内容になっている。現代の社会が求める「社会人基礎力」、ワークライフバランスと「働き方改革」、キャリアデザイン概念、そして日本の産業構造の現状など、今日的なテーマに触れながらキャリア形成についての理解を深めていく導入型キャリア教育の授業を行う。	
		キャリア教育科目	ビジネストレainingセミナー	この授業科目は、他者と協力しながら目標を掲げ、それに向かってチームで成果を出す能力を実践的に修得することを目的としている。知識や情報を得てもそれを活かさなければ有意義な学びとは言えない。大学での学び方は様々な方法があり、この授業ではその知識や情報を活かし、コミュニケーション能力を身に付けながら目標に向けて進んで行く。チームで一緒に「考える力」と「協力する力」を身につけると共に、学ぶ楽しさを知ることを目指した授業内容となっている。実際に企業の担当者から、企業や社会が抱える課題を与えていただき、「主体的な学び」を目的にコミュニケーションを強化しながらチームで課題解決に取り組み、解決提案の発表とフィードバックを受けるプロセスを通じて、実践的な経験と知識を修得していく。	
全学共通科目	技能	キャリア教育科目	キャリアセミナー	この授業科目は、少人数のグループワークを通じて密度の濃い討論を行い、進路選択に関する学生の意識の覚醒を図ることを目的とする演習形式の授業である。一方では、自己分析・自己表現等の心理学的な背景を有するキャリア教育の視座から、グループワークを通じて自分の持ち味(強味・知識・情報)に気付き・発揮し・伸ばしていくような授業要素がある。他方、業界動向や人材育成などの経営学的な背景を有する社会理解の視座から、社会や企業にアプローチすることを通じて社会・企業への自己の関わり(働く場・活かす場)を発見するような授業要素もある。	
全学共通科目	技能	キャリア教育科目	グローバルキャリアセミナー	この授業科目は、グローバル環境で働くことの意義・方法・課題などを学ぶことを目的としている。近年ますます注目される「グローバル」の意義、そしてそのグローバルな環境で働くことの実態について、実際にグローバル環境で働くゲスト講師からお話を伺いながら学んでいく。また、将来グローバル環境で働くためには、どのようなキャリアの選択肢があるかを知り、自分の将来像を描いたり、そのために必要なことを学んだりしながら、大学生生活で自己成長するための行動計画を検討していく。この授業では、グループワークを通じて情報収集や情報共有を行い、知識を増やしたり、情報収集力、情報分析力を高めるとともに、グローバル環境で必ず求められる思考力、コミュニケーション力をディスカッションやプレゼンテーションなどのワークを通じて高めていく。	
全学共通科目	技能	キャリア教育科目	キャリア発展講義	この授業科目は、キャリア教育に関するさまざまなテーマごとに深く掘り下げて学修することを目的としている。各科目においては、自己分析や業界・企業研究などのキャリア形成の基盤となる中心的テーマに関する発展的な知識や技能の修得に加えて、雇用の仕組みやライフプランニングなど働く人に不可欠なテーマや、ワークライフバランスやキャリア形成の国際化・情報化など社会的な変革に関する適時的なテーマをそれぞれ講義展開していく。	

授 業 科 目 の 概 要

(経済学部現代経済学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目	技能	キャリア教育科目	日本企業の現状と展望	共同
		この授業科目は、現代の日本の様々な業界や、代表的あるいは特徴的な企業について、現状を把握し将来を展望することを目的としている。まずは、各業界で活躍する実務家講師が、業界の構造や業務内容、雇用状況などの現状を講義する。そして、実務家と学生とが議論しながら、業界の将来像や企業の戦略などについて展望していく。こうした授業進行を専任教員がコーディネートする、オムニバス形式の授業である。民間企業を志望する学生は、情報を収集し分析する能力を身に付けて、それぞれのキャリア形成の中で業界・企業の現状を把握し、将来を展望することができるようになる。		
全学共通科目	技能	キャリア教育科目	インターンシップ準備講座	
		この授業科目は、「インターンシップ実習」の前提科目であり、民間企業や公共部門等でインターンシップ実習を行うことを志望する学生が、円滑に実習取り組めるように事前指導を行うことを目的としている。組織の仕組み・業務内容・ビジネス習慣などについての基礎知識を講義によって学ぶ一方で、インターンシップ実習で重視されるグループ討論やグループワークを多く取り入れ、実習の実践的な準備を行う。こうした学修を通じて、インターンシップ実習に取り組む意義を理解し、実習に必要なとされる知識や技能を修得することができる。		
全学共通科目	技能	キャリア教育科目	インターンシップ実習	
		この授業科目は、民間企業、公共部門等で行うインターンシップ実習のための科目である。インターンシップ実習には、主体的な職業選択や職業意識の涵養に加えて、大学で学ぶ専門知識と現実社会との繋がりを体験的に理解し、新たな学習意欲が生じるという意義がある。これらの意義に応じた一定の要件をみたすインターンシップ実習を行った者が、実習後のレポート作成、成果発表等の事後的な指導を受けることによって単位を修得することが可能となる。		
全学共通科目	技能	キャリア教育科目	発展インターンシップ準備講座	
		この授業科目は、成蹊大学が協力企業と産学連携で行う MBT (Marunouchi Business Training) の「発展インターンシップ実習」の前提科目であり、協力企業でインターンシップ実習を行うことを志望する学生が、円滑に実習取り組めるように事前準備を行うことを目的としている。問題解決能力、プレゼンテーション力、マナーの育成など実習に対する実践的な準備を行うとともに、協力企業から与えられた課題に対してグループワークで解決策の提案を作成し、当該企業関係者の前でのプレゼン、ディスカッションも行う。こうした学修を通じて、インターンシップ実習に取り組む意義を理解し、実習に必要なとされる知識や技能を修得することができる。		
全学共通科目	技能	キャリア教育科目	発展インターンシップ実習	
		この授業科目は成蹊大学が協力企業と産学連携で行う MBT (Marunouchi Business Training) において、「発展インターンシップ準備講座」を受講した学生が実際に協力企業でインターンシップを行い、主体的な職業選択や職業意識の涵養に加えて、大学で学ぶ専門知識と現実社会との繋がりを体験的に理解し、新たな学習意欲を生ませることを目的とした科目である。実習の成果はプレゼンテーションで発表し、そのうち選抜された者は協力企業が一堂に会す成果発表会で発表することで、準備講座からの学びにより学生個々が成長を実感するプログラムとなっている。		

授 業 科 目 の 概 要

(経済学部現代経済学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目	技能 キャリア教育科目	Global Career Design	この授業科目は、将来、グローバル環境で働くことを目指す学生が、どのようなキャリアの選択肢があるかを知り、自分の将来像を描いたり、そのために必要なことを学び成長するための行動計画を考えていく科目である。実際にグローバル環境で働くゲスト講師を招聘して、「グローバル環境で働くとはどのようなことか」を学ぶ。授業ではグループワーク、ディスカッションやプレゼンテーションを通じて、グローバル環境で必ず求められる思考力、コミュニケーション力を高めていく。	
全学共通科目	技能 情報基盤科目	情報基礎	この授業科目は、情報化社会の一員として重要な情報倫理についての理解を深めた上で、大学での学習や成果発表の手段として必要不可欠である情報基盤技術の習得を目指す。具体的には、インターネットを通じての情報収集や情報交換、ワードプロセッサによる文書作成、表計算ソフトによる簡単な計算やデータの集計、プレゼンテーションソフトによる発表資料の作成などの基本的な技能を、講義とコンピュータを用いた実習により習得する。	
全学共通科目	技能 情報基盤科目	情報活用A	この授業科目は、情報発信の2つの手段であるWWWとプレゼンテーションの基本を理解し、実際に実行する力を身に付けることを目的とする。WWWによる情報発信(Webサイトの作成、公開)においては、HTMLの基本から、Webサイトの企画、Webページ、サイトの作成、Webサーバへのアップロードまでを、講義と実習を通じて学ぶ。プレゼンテーション技法(PowerPoint)によるスライド作成、発表)においては、プレゼンテーションの企画、構成、視覚化のポイント、発表技法など、プレゼンテーション技術を総括的に学び、「伝える」のではなく「伝える」プレゼンテーションを目指す。	
全学共通科目	技能 情報基盤科目	情報活用B	この授業科目は、MS-Officeのうち、社会に出てから業務で特に必要とされるWordやExcel、PowerPointの実践的な活用法と、著作権に配慮した成果物の作成を学修し、ここで習得したスキルを大学生活や社会において実践できるようになる事を目的とする。MS-Wordにおいては、見出しや差し込み印刷、図形描画といった機能を学び、MS-Excelにおいては、Vlookup、記録マクロなどの機能を使いこなし、業務でのデータ処理に活用できるようになることを目指す。MS-PowerPointにおいては、動画やBGMを活用した自動プレゼンテーションの作成を習得する。さらに基礎的な画像処理の方法と著作権、バリアフリーなどに配慮した成果物の作成ができるようになることを目標とする。	
全学共通科目	技能 情報基盤科目	情報活用C	この授業科目は、すでに学んだパソコン基礎の技能をさらに充実させることを目的とする。ワープロソフトの習熟に的を絞り、通常仕事を行う上で必要とされる日本語入力速度を初めに達成し、次に社外・社内宛てのビジネス文書の作成を学び、さらに技術のみならずパソコンに関連する知識や情報倫理も学ぶ。日本語ワープロ習得後、現在では当然のように必要とされる英文ワープロ技能も英文ビジネスレターやレジュメの作成を通して学ぶ。	
全学共通科目	技能 情報基盤科目	情報活用D	この授業科目は、Microsoft WordとExcelの実践的な技術を身につけることを目的とする。そのために、Microsoftが認定する国際資格である、MOS(Microsoft Office Specialist)スペシャリストレベルの取得を目指す。MOSはMicrosoft Officeに習熟していることを客観的に示す資格であり、就職やキャリアアップの際に有利に働くと考えられる。「パソコンが使える」レベルより、ワンランク上の技術を得ようとしている学生や、国際的な資格の取得をめざす学生のニーズに応えることを想定している。	

授 業 科 目 の 概 要

(経済学部現代経済学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
全学共通科目	技能	情報基盤科目	情報活用E	この授業科目は、Microsoft Excel 操作を自動化するプログラムを VBA (Visual Basic for Applications) というプログラミング言語を用いて作成するスキルの習得を目的としている。Excel VBA の基本的な概念や用語、VBA で作成されたプログラムの処理内容を理解し、繰り返し処理や条件分岐処理を含めて Excel 操作を自動化するプログラムの作成することを目標とする。課題プログラムの作成を通じて、アルゴリズムの構築ができる論理的思考を身につけるとともに、Excel 操作そのものについてもより深く理解することを旨とする。	
		情報基盤科目	情報活用F	この授業科目は、チームワークに必要な能力を育成することを目指している。チームワークとは、さまざまな分野の人が集まってチームをつくり、それぞれの能力を生かした活動により、問題を解決したり、新しい物を創造したりする活動である。例えば医療の世界では、内科医や外科医、麻酔科医や精神科医や看護師などが連携して行う治療をチーム医療と呼ぶ。このようなチームワークで成果を出すには、コミュニケーション能力、ディスカッション能力、意思決定能力、ファシリテーション能力など、さまざまな汎用的な能力が必要になる。これらの能力の育成には、知識だけでなく、実践が必要となるため、授業では基本的に講義を行わず、講義に必要な内容は、学生が教室外において事前準備学修してから授業に参加することになる。また、リフレクションシートの作成や最終課題など、授業外の活動も必須である。そのため、主体的に学習することを望まない学生は履修できない。	
全学共通科目	技能	健康・スポーツ科目	健康・スポーツ演習A	この授業科目は、自己の探究および集団での協働に、身体活動を切り口としてアプローチする。すべてのクラスにおいて体組成や体力の測定データを用いた科学的分析をおこない、自己の身体への気づきを高めるとともに、健康の維持増進に向けた運動・スポーツ実践と自己マネジメントの方法論を修得する。また、競技種目の特性を活かした多様なグループ学習および受講生間のコミュニケーションを重視した集団マネジメントの活動を通じて、経験の有無や技能・体力のレベルを問わずすべての参加者が運動・スポーツの達成感や楽しみを享受する場をつくるための方法論を、スポーツ科学の知見とともに修得する。上記の中でも特に、安全管理をベースとしたマネジメントについて、方法および評価と修正の視点を重点的に学修する。以上の学修内容は、運動・スポーツの実践領域にとどまらず、大学での多様な学修や生活に好影響をもたらすよう構成されている。	
		健康・スポーツ科目	健康・スポーツ演習B	この授業科目は、自己の探究および集団での協働に、身体活動を切り口としてアプローチする。すべてのクラスにおいて体組成や体力の測定データを用いた科学的分析をおこない、自己の身体への気づきを高めるとともに、健康の維持増進に向けた運動・スポーツ実践と自己マネジメントの方法論を修得する。また、競技種目の特性を活かした多様なグループ学習および受講生間のコミュニケーションを重視した集団マネジメントの活動を通じて、経験の有無や技能・体力のレベルを問わずすべての参加者が運動・スポーツの達成感や楽しみを享受する場をつくるための方法論を、スポーツ科学の知見とともに修得する。上記の中でも特に、各種目の基本的な技術やマナーおよびそれらの文化的背景について、重点的に学修する。以上の学修内容は、運動・スポーツの実践領域にとどまらず、大学での多様な学修や生活に好影響をもたらすよう構成されている。	

授 業 科 目 の 概 要

(経済学部現代経済学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
全学共通科目	技能	健康・スポーツ科目	スポーツと科学	この授業科目は、「健康・スポーツ演習」で修得した内容を発展させ、特にスポーツ・パフォーマンス向上の観点からスポーツ科学分野の学術的知見を取り上げる。科学技術の発展は、今日のスポーツを考える上で切り離せないものとなっているが、具体的にはどのように関わってくるのだろうか。また、スポーツ・パフォーマンスを構成する要素はスキル、フィットネス、モチベーションといわれ、日本でも古来「心技体」が重視される。さらに近年では、戦術・戦略が目玉されてきた。こうした知識はどのようにスポーツ・パフォーマンスに反映されるのだろうか。講義ではこれらの問いを軸にして、科学に基づいたトレーニングやコンディショニングについての理解を深めていく。	
		健康・スポーツ科目	健康と科学	この授業科目は、「健康・スポーツ演習」で修得した内容を発展させ、特に大学生生活と身体と心の健康維持増進の観点から、健康科学分野の学術的知見を取り上げる。現在社会において、日本人の死因として上位にあるのは、悪性腫瘍、心疾患、脳血管疾患である。これらはいずれも生活習慣病であり、日頃のライフスタイルがこれらの疾患の発症と大きく関わっている。こうした認識にもとづき、講義では、大学生生活における身体と心の健康を考える。生活習慣病、感染症、身体の免疫機能、食生活、喫煙、飲酒、ストレス、ダイエット、睡眠などをテーマとし、具体的な事例やデータを用いながら問題にアプローチしていく。	
全学共通科目	技能	健康・スポーツ科目	スポーツと文化	この授業科目は、「健康・スポーツ演習」で修得した内容を発展させ、特にスポーツの文化的意義の観点からスポーツ科学分野の学術的知見を取り上げる。共通ルールによる身体活動を通じて、世界中の多様な人びとが互いに高め合い、通じ合えるのはスポーツの特質であるが、国や地域によってスポーツ文化の受容や解釈あり方は多様かつ複雑でもある。また、スポーツは、歴史的にさまざまな側面において変化をくり返しており、現在もまた変化のただ中にあるといえる。以上の認識にもとづき、授業では多様な時代や地域における運動・スポーツの具体的な事例や議論を紹介し、そこに見られる文化的特質や課題について考えていく。	
		健康・スポーツ科目	スポーツと社会	この授業科目は、「健康・スポーツ演習」で修得した内容を発展させ、特にスポーツの社会的経済的位置づけや機能の観点からスポーツ科学分野の学術的知見を取り上げる。人とスポーツとのかかわりには、「する・みる・ささえる」という様々な側面がある。そしてそれぞれにおいて、スポーツとのかかわりを支える社会的支援や経済活動が必要となる。授業では、日本社会を中心として、スポーツを「する・みる・ささえる」仕組みが社会・経済的にどのように成り立っているのか、そこにどのような課題があるのかということ、具体的な事例を紹介しながら考えていく。	
全学共通科目	教養基礎	人文学	哲学の基礎	この授業科目は、西洋哲学の歴史を概観し、大きな世界観・全体像の中で育まれてきた哲学上重要な基本概念の理解を促す科目である。代表的な哲学者やその考え方を学習し、混沌とした現代社会の中で何かしらの基本となる考え方が発見できる、あるいは、今日のわれわれが現代社会のうちどのような問題を見て取らなければならないか発見できるという哲学的な思索を行うことができるようになることを目的とする。	
全学共通科目	教養基礎	人文学	倫理学の基礎	この授業科目は、「良いもの」「正しいもの」「美しいもの」などの人間の価値判断は何を根拠に形成されているのか、また、人は何をよりどころに生きるのか、といった問題に実践哲学の観点からアプローチしてきた倫理学の体系を概観し、代表的な考え方を理解し、学生自身が現代社会の倫理的な問題(生命倫理、環境倫理、メディア倫理等)に対して倫理的思考を行えるようになることを目的とする。	

授 業 科 目 の 概 要

(経済学部現代経済学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目	教養基礎 人文学	現代社会と哲学	この授業科目は、時代や文明の矛盾に挑んだ近現代の哲学者の考え方を通して、学生自身が現代という時代を哲学的に深く見つけ直す機会を提供することを目的とする。「哲学の基礎」の延長上に主として20世紀の代表的な哲学者を取り上げ、彼らがアイデンティティの問題、大衆社会の問題、官僚制の問題などの近現代社会の問題をどのようにみつけてきたのかといった学習を手掛かりとして、これから21世紀の日本社会と向き合う学生がどのような思索を行えばよいかを学生自身に問いかけていく。	
全学共通科目	教養基礎 人文学	現代社会と倫理学	この授業科目は、規範の根拠について考える学問分野であり、その根本にある人間はいかにあるべきか、いかに生きるべきかという問いに対して、近・現代の日本の思想家の文章を読解することを通じて、歴史を先導した人物達の思想を学びながら、現代社会で暮らす「人の一生」をめぐる私達の問題を考える。	
全学共通科目	教養基礎 人文学	文学への招待	この授業科目は、文学を専門にしない学生のための文学入門であり、実際の作品の読解を通じて、文学に触れる方法、楽しみ方を身につけていく。授業担当者によって、西洋の近代文学、日本の古典、日本の現代文学など、取り上げる素材はさまざまであるが、1) 文学作品の読解を通して、さまざまな時代の社会や制度のなかで、人間がおかれた状況を理解できること、2) 多様な文化に触れ、思想的な問いかけも行いつつ相互理解を深められること、3) 文学が提起する問題提起をもとに、新たな世界の可能性に向けて自己の意見を発信できることを共通の到達目標とする。	
全学共通科目	教養基礎 人文学	芸術への招待	この授業科目では、音楽もしくは美術を対象に、芸術の基礎理論とさまざまな表現手法、様式・形式を概説するとともに、それらの歴史を概観し、代表的な作家や作品がどのように創造されてきたのかを講義する。これらを通じ、芸術作品は宗教、思想、時代背景などさまざまな人間の文化と相互作用を持って生み出されたことを理解し、芸術をその背景を考えながら、より深く鑑賞する姿勢を身につけられることを到達目標とする。音楽のクラスでは18～19世紀の西洋芸術音楽(クラシック)、美術のクラスでは19～20世紀の西洋近代美術をそれぞれ対象とする。	
全学共通科目	教養基礎 人文学	カルチュラル・スタディーズ	この授業科目は、大衆文学、映像、ポップミュージック、ファッション、アニメなどといった主として「大衆文化」(ポピュラー・カルチャー)を主たる対象として、私たちの日常生活との関わりの中で「文化」をさまざまな理論や概念、方法論を用いて批判的・多角的に理解・考察していく研究領域であるカルチュラル・スタディーズと、社会学、文化人類学、メディア論などの理論を用いて日常生活に見られる現象を分析していく。	
全学共通科目	教養基礎 人文学	心理学の基礎	この授業科目は、データや事実をもとにして、こころの性質や働きを科学的に探究する学問である心理学の各研究領域(知覚・記憶・言語と思考・学習・社会)において最も基礎となる事柄を概説するとともに、心理学の最先端の研究を紹介することによって、心理学が、日常生活にもたらした知見を明らかにする。心理学への期待と関心をもつ受講生に、基礎心理学の基本的な考え方や知識をわかりやすく講義する。心理学の基本的な知識や考え方を身につけ、自己理解および他者理解のために、心理学の知識を活用できるようになること、また、その限定性を知ることの到達目標とする。	
全学共通科目	教養基礎 人文学	自己理解の心理学	この授業科目は、だれにでも起こり得るこころの問題に対し、臨床心理学の知見から、大学生の発達課題、青年期にみられる精神医学的問題、大学生の過去とこれから(発達臨床心理学)の3点を盛り込んで講義する。青年期を生きる大学生が、自分の心を通して振り返り考えさせつつ、こころの成長、健康なこころ、他者に共感できる人間関係を身につけた大人として、社会の構成員となるための基礎づくりをねらいとする。	

授 業 科 目 の 概 要

(経済学部現代経済学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
全学共通科目	教養基礎	人文学	教育原理	この授業科目は、教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想について学ぶことを通して、これからの教育を担っていく教師としての基礎的な資質能力として以下の力を身に付けることをテーマとしており、教育構想や実践における教育思想の重要性を理解し、学校教育の背景にある教育思想や歴史を説明でき、自身の教育体験を相対化し、これからの教育について自分なりに考えることができることを到達目標としている。新しい教育や、よりよい教育を構想し実践していくためには、これまでどのような教育が行われてきたのかをよく知る必要がある。そこで、教育とは誰のために、何を、どのように行うことが良いのかということ、歴史や思想の基本的知識、教育における今日的課題に基づきながら、学生自らが毎時考えを深めていくことを内容としている。	
		人文学	教育心理学	この授業科目は、幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、基礎的な知識を身につけ、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解することをテーマとしている。幼児、児童及び生徒の心身の発達に対する外的及び内的要因の相互作用、発達に関する代表的理論を踏まえた発達の概念及び教育における発達理解の意義の理解、乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達についての具体的な内容の理解、様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論の基礎の理解、主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方についての発達の特徴と関連付けた理解、幼児、児童及び生徒の心身の発達を踏まえて主体的な学習活動を支える指導の基礎となる考え方の理解、を到達目標とする。発達し学ぶ主体である子どもについて理解する。自身のこれまでの発達、学習の振り返りも行う。	
全学共通科目	教養基礎	社会科学	政治学の基礎	この授業科目では、政治学の基本的な概念や理論、現代日本の政治制度とその問題点、国際政治の現状について学ぶ。民主主義の歴史、権力分立、政治制度、官僚制、政党制、マスメディアと政治、日本の政治、選挙制度、地方自治、国際政治などを主な内容とする。政治学の基礎的な理論や概念を理解することで、最終的には、政治をめぐって自分なりの課題を発見し、主体的に判断することの出来る市民的教養を身につけることを目標としている。	
全学共通科目	教養基礎	社会科学	社会学と現代	この授業科目は、社会学の基本的枠組みを学ぶ。社会学とは、個人の認識のなかに、他者との相互作用のなかに、人々の集団のなかに、社会の存在を複眼的にみだし、探求していく営みである。本科目は現代の世界における社会的問題を概観し、それが同時代的に私たちの身の回りにどのような形で存在するかを考える。これを通じて、諸問題にたいする社会的な捉え方、および社会学理論を学び、その射程について理解を深める。	
全学共通科目	教養基礎	社会科学	日本国憲法	この授業科目は、日本国憲法を概観し、憲法上の諸問題について学生自身が考えていくための端緒を提供することを目的とする。平和主義、自由と平等、基本的人権、日本の統治機構など憲法上重要な概念を網羅的に取り扱うが、なるべく具体的な事件や判例などの学習を通して、学生が自分自身で考えていくための憲法上のテーマを提供する。1) 日本国憲法の個々の条文に記載された内容に関する知識を修得する、2) 憲法とは国家権力を制限し広く人権を保障する法であるという本質について説明できる、の2点を到達目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要

(経済学部現代経済学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
全学共通科目	教養基礎	社会科学	市民生活と法A	この授業科目は、市民生活において、いかなる法律が適用されているのか、実際に紛争が発生した場合に、どのような法律のルールが適用されて解決が図られるのか、具体的な事案を取り上げながら、民法を中心に概説する科目である。「A」ではまず刑法と比較しながら民法の特徴や民事裁判について理解した後、物権、債権に関する主要な条文や法的概念(契約など)の理解を促していく。なるべく分かりやすい事例の説明を盛り込みながら授業を進める。	
	教養基礎	社会科学	市民生活と法B	この授業科目は、市民生活において、いかなる法律が適用されているのか、実際に紛争が発生した場合に、どのような法律のルールが適用されて解決が図られるのか、具体的な事案を取り上げながら、民法を中心に概説する科目である。「B」では、NHKの受信料問題、欠陥住宅問題、消費者金融の過払い金問題、マンション紛争、相続紛争など、具体的なケーススタディをもとに民法の考え方について学んでいく。なるべく分かりやすい事例の説明を盛り込みながら授業を進める。	
全学共通科目	教養基礎	社会科学	現代のマスメディア	この授業科目は、現代社会を語る上で欠かすことのできないマスメディアの現状と問題点を考察していく。わたしたちは、日々マスメディアによって発信される膨大な情報にさらされており、わたしたちは一見バラバラに存在しているかのように見えても、実は情報を共有することで相互に結びついている。本講義科目は、こうした社会的視点からマスメディアを考察するとともに、急速に発展してきたソーシャルネットワークの展望についても扱う。	
全学共通科目	教養基礎	社会科学	社会心理学入門	この授業科目は、社会心理学の基礎的な知識について紹介する。社会心理学とは、人間の感じ方や考え方、行動について、他者との関係の中で理解することを目指し、科学的に研究する学問である。本講義ではとくに社会的な影響によって作り出された心理状態が個人を拘束していくありさま、および人間の心理が社会的に波及していくときのメカニズムなどについて扱うこととし、具体的な事例などをひきながら、社会心理学の射程を理解することを目的とする。	
全学共通科目	教養基礎	社会科学	企業と社会	本授業科目は、社会の中で企業の役割を理解できるようになることを目的とし、経営学の基礎的な知識について学びながら、社会における企業の役割や意義、働く場としての企業について考える力を身に付けることをめざす。具体的には、(1)社会の中で企業の役割について説明できること、(2)経営学の基礎的な概念を説明できること、(3)実際の企業の事例を書籍、新聞、インターネット等から情報収集することができることをめざす。	
全学共通科目	教養基礎	社会科学	学校と社会	この授業科目は、教育の社会的な役割、近代学校制度の成立と発展の歴史、その中でも、特に学校教育と社会との相互関係及び学校と地域との連携、学校安全について学修することをテーマとし、学生の「社会理解」と「向社会性」を促すことにも意を配り、卒業後の就職支援のための「キャリアガイダンス」の観点を加えて講義を行う。社会と学校教育との相互の関連について理解することができること、近代公教育制度の特徴とその後の発展の歴史を理解することができること、学校と地域との連携の意義とその実践事例を理解することができること、学校安全に関わる意識・知識の必要性を理解することができることを到達目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要

(経済学部現代経済学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目	教養基礎	社会科学	近現代日本史A	この授業科目は、現代の日本社会と日本の国際関係を考える基礎として、日本近現代史を学ぶ科目である。「A」で問題にするのは、19世紀半ばから20世紀初頭にかけての日本の近代化過程における国際関係のなかでの位置である。日本の近代化が、開国というヨーロッパとの関係において始まったことにまず着目して、そのことによって日本の近代化がどのような内容をもつようになったのか、さらに中国・朝鮮というアジアの国々との関係が日本の近代化にどのような影響を与えたのかを学んでいく。
		社会科学	近現代日本史B	この授業科目は、現代の日本社会と日本の国際関係を考える基礎として、日本近現代史を学ぶ科目である。「B」では、20世紀前半の日本史を学ぶ。20世紀前半の50年間は、日露戦争、第一次世界大戦、満州事変、日中戦争、アジア太平洋戦争と続き、戦争の時代といつてよいであろう。なぜ日本は、中国さらにはアメリカをはじめとする連合国と戦争するに至ったのか、他の選択肢はなかったのかを考えるとき、注目すべきは、第一次大戦から満州事変の十数年間の日本は、基本的には国際平和を求める協調外交の時代だったことである。なぜ戦争に至ったかは、なぜ協調外交を生かすことができなかったのかという問題でもある。
全学共通科目	教養基礎	社会科学	現代社会の地理	この授業科目は、世界の南北格差、一国内における人口や産業の一極集中、一つの大都市内における社会的なモザイクなど、地球規模あるいは国際的な諸課題や、国外もしくは国内の地域課題については、地理(学)的な視点から理解を促す科目である。講義にあたっては、ローカルな地域にかかわる諸課題を理解するためには、グローバルな事象との相互作用に着目する必要があること、また、世界各地で生じている類似した課題でもその要因や過程には共通点とともに差異があることを認識させることに配慮する。
全学共通科目	教養基礎	自然科学	物質の究極像	この授業科目は、いくつかのトピックスをとりあげて、物理学の歩みと基本的な考え方、方法を学ぶ。物質は何でできているのだろうか、物質を包んでいる宇宙は何からできているのだろうか、また、我々の住んでいる宇宙はいつ出現したのだろうか、こうした古典的な疑問に対する答えが、この30年間に実証的に得られてきた。こうしたことを理解するために、物質の素というものがそもそも何なのかという問題に立ち返って、物理学的な観点からレビューを行う。
全学共通科目	教養基礎	自然科学	人間と進化	この授業科目は、生物人類学、すなわち生物学的観点に立って人間を探究するものである。本講義では、まず、生物としてのヒトの特徴、すなわち人体の諸システム(運動、エネルギー、物流・調節、防御、情報等)を学び、ヒトの個体発生、人類の起源と進化といった順に授業を展開する。科学の究極の目的は自分自身を知ることであり、本科目でも、生物としての人間、すなわちヒトとはどのようなのか学ぶことによって、「自らを知ろう」という知的作業につなぐことが目標である。
全学共通科目	教養基礎	自然科学	脳科学と心	この授業科目は、脳の動きを脳画像によって見ることができるよう飛躍的に発展している脳科学において、記憶や思考、感情などの心理学が扱ってきた心の諸側面について、あるいは、精神疾患・発達障害・認知症などの脳の病気のメカニズムを明らかにする研究など、最新の脳科学の研究成果をもとに、心と脳との関係を考えていく。脳神経科学の基礎的な知識を習得するとともに、それがわれわれの生活や社会にどんな影響を及ぼすかを考察する能力を身につけることを目標とする。

授 業 科 目 の 概 要

(経済学部現代経済学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
全学共通科目	教養基礎	自然科学	天文学入門	この授業科目は、もっとも古い学問のひとつであり、また、20世紀後半以来急速な進展を見せた学問でもある天文学について、人工衛星などの飛翔体技術や電波・赤外線・X線などさまざまな波長域での観測手段次々と発見される新しい現象をとりあげながら、私たちの住む地球からはじまり、太陽系、銀河系そして遠方銀河までが、どのように観測され、研究されてきたのか、宇宙の構造を空間スケールを変えながら概観し、また、私たちの住む地球や太陽系を含めて、時間とともにどのように進化してきたのかを概説する。	共同
		自然科学	薬はなぜ効くか	この授業科目は、病気の治療、予防に、そして診断に用いられ、人の健康の維持に無くてはならない薬について、歴史的な薬の始まり、最近の科学の発達・医学の急速な進歩のなかで多岐にわたる開発、かつ、作用の多様化、治療面の効果と副作用、結核菌などの病原細菌、ガン細胞にも薬に対する耐性とといった点を中心に、薬の種類、作用機序（薬はなぜ効くか）、薬剤耐性（薬はなぜ効かなくなるか）など、”薬”全般について講義するものである。受講生が薬について正しい知識を取得し、それが健康的な生活の一助となることを目標とする。	
全学共通科目	教養基礎	自然科学	身の回りの科学	この授業科目は、科学について学ぶ機会の少ない文系学部の学生を対象に、サイエンスのエッセンスを伝えることを目指すものである。科学技術は、現代の人間生活の基本的な衣食住に深く関わっているのみならず、人間が限りなく豊かに生きてゆくことを力強く支えるものでもある。半導体を中心とする物質科学やデジタル技術等の具体的な科学技術の概観を通じて、科学技術のあるべき姿を考察し、その発展を正しく理解し、場合によっては、それに協力できる現代に生きる社会人を養成することを目的とする。	
全学共通科目	教養基礎	自然科学	科学史	この授業科目は、「科学」が歴史のなかで果たしてきた役割とその哲学的な意義について検討する。仙台の科学や科学技術では、専門細分化が高度に進み、全貌を捉えることが難しくなっている。それゆえに人間社会に対して科学がどのような役割を果たすべきであるのかを考える機会はどうしても少なくなっている。本科目の履修を通じて、知識の客観性をめぐる真相その他、科学に関する諸問題を、自ら哲学的に捉え直せるようになることを目標とする。	
全学共通科目	教養基礎	自然科学	科学技術の発展と歴史	この授業科目は、18世紀後半にはじまる産業革命以降のヨーロッパの科学技術に関するいくつかのエピソードを取り上げながら、科学と技術とが相互に影響を及ぼしあいながらそれぞれどのように発展してきたのかを具体的に論じる。科学技術の歴史的発展過程に関する講義を通して、科学技術と社会・経済・政治などとの関係、また科学技術の発展構造や方法に関する理解を深めることが授業の目標である。	
全学共通科目	教養基礎	自然科学	サイエンス・トピックス (熱と光の科学)	この授業科目では、身近な現象から熱と光に関わるものをとりあげ、現象を理解すると同時に、さまざまなレベルでの「なぜ」について講義形式で考える。数式の使用は最小限にとどめ、文系の学生でも納得できるようなアプローチで解説する。熱については、温度と熱、エネルギーの保存法則、温度と分子、エントロピー、などの項目を取り上げ、物質の原子論的な観点を強調する。光の現象は波としての性質に注目して、虹、構造色、偏光、などの項目を取り上げる。また、光の粒子としての性質についても言及する。	
全学共通科目	教養基礎	自然科学	サイエンス・トピックス (物質の科学)	この授業科目は、身の回りで、また体の中で、多くの元素がどのように組み合わせられて、そしてどのような性質を示すようになっていくかを学ぶ。また、この講義ではさまざまな物質の例を通して、科学的な直感を身につけることをも目的としている。さまざまな科学情報が氾濫する現代において、その中から正しいと思われるものを取捨選択する能力を身につけることを目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要

(経済学部現代経済学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
全学共通科目	教養基礎	自然科学	サイエンス・トピックス (数の世界)	この授業科目では、微積分をはじめとする解析学などの高度な数学を用いない「初等整数論」についての入門的講義を行い、数の世界のもつ不思議さや美しさの一端を紹介する。一方で、この一見「役に立たない」整数論も近年、現代の通信技術において不可欠な暗号理論に応用されることがわかってきた。講義の後半では、RSA暗号、エルガマル暗号といわれる暗号を中心にその仕組みを解説する。	
		自然科学	サイエンス・トピックス (生命の科学)	この授業科目は、身体、行動や考え方、その基となる脳の構造などさまざまなところに違いのある男女の生物学的な違いを概観し、生命科学の考え方の理解を促す。具体的には、性の定義、性の進化、様々な動物の性、身体的性差の発達メカニズム、行動の性差、脳の性差、子育てと脳、など。男女の生物学的な差異について学ぶことで、違いと類似点を理解する。ひいては男女共同参画社会の実現において不可欠な異性の理解と尊重という態度を養うこともめざす。	
全学共通科目	教養基礎	自然科学	サイエンス・トピックス (文系のための数学)	この授業科目では、「数理の話題」と「集合・論理の話題」とを取り上げる。たとえば、価格の計算の中で、かけ算・わり算の意味を見直すところから始める。同じ式の中では、かけ算をたし算よりも先に計算する理由が納得できる。それだけではなく、簡単な連立方程式であれば、暗算でも解を求めることができるようになる。他方、ヒトが問題を考えるときには「まったくそう」「大体そう」のようにゆらぎがある。脳は本来論理的でないのかも知れない。しかし、あいまいな表現の引き起こすトラブルは少なくない。このような事情を踏まえて、数学の規則で命題の内容を論理的に判断する方法も身につける。数理の話題と集合・論理の話題との橋渡しとして、高校までとちがった方法で確率・統計の考え方を振り返る。	
		自然科学	サイエンス・トピックス (文系のための科学実験)	この授業科目は、科学実験を通じて科学的思考を促す演習科目である。日常生活の中での見慣れた現象をとりあげて、自ら実験や工作することを中心に進め、科学をより身近なものとして感じられるようになることをねらいとしている。具体的には、身の回りの現象を題材にして、自らの手で実験をし、確かめることで、科学に対して積極的に向き合う姿勢を醸成するとともに、実験結果を整理した上で、人に伝えることができるよう育むことを目標としている。	
全学共通科目	持続社会探究	環境・地域	地球と環境	この授業科目では、太陽系や地球環境のしくみを、地球科学的な視点から基礎的な事項を中心に学び、46億年前から現在までの間に、地球がどのような変化をとげてきたか、そして生物はその変化の中でどのように発生・進化してきたのかについて、理解を深めることを目的とする。具体的には、①地球の歴史と人類出現と近代化以降の急激な環境変化、および各種の地球環境問題とそれに対する国際的な動向について説明ができること、②身近な自然環境のどこを理解し、自然に対する興味を維持・増進することができること、③健全な自然を後世へ伝承する大切さを理解し、これからの世界がどう進むべきかを、自らが考えることができることを目標とする。	
		環境・地域	気象と地球環境	この授業科目は、気象・気候および地球環境問題を理解するために、身近な大気現象から、気象災害、地球規模で発生する現象や地球温暖化問題などをトピックとして取り上げ、気象学と気候学の基礎的な事項の理解を中心に学習する。具体的には、①大気現象を物理的なメカニズムから理解し、説明できるようになること、②気象にとどまらず身近な環境に興味を持ち、さらに災害に備える意識を個々に持つこと、③地球規模で進む温暖化対策の国際的な動向について説明ができることを目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要

(経済学部現代経済学科)

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目	持続社会探究	環境・地域	自然環境と文明	この授業科目は、過去の自然環境と文明に起こった変化がどのように関連していたのかを考え、さらに現代文明とこれからの地球環境のあり方を考えていく。これまで地球の自然環境が複雑なシステムがバランスをとりながら、うまく循環してきたものの、人間が文明的な活動を始めた時から、人間は環境に様々な影響を与え、近年はそのバランスが崩れ、様々な環境問題が生じている。このことをふまえ、本授業では現代文明がもたらした環境変化を理解することから始め、また世界の気候変動史を学んだ上で、農耕と文明、森林と文明、火山噴火と文明、歴史時代の気候と文明といったトピックスを扱う。	
			日本列島の歴史と災害	この授業科目は、日本列島が形成されたプロセスについて理解した上で、そのプロセスゆえの災害上のリスクについて考える。近年のウラン-鉛年代学の進歩により、これまで形成年代が不明だった地質体の位置づけが明らかになったことで約 6 億年にわたる日本列島形成史のデファクト・スタンダードが生まれつつある。こうした現状を踏まえて、本授業では最新の研究を踏まえた日本列島の特徴を多くの画像で理解し、その恩恵と表裏一体で発生する災害について考察することを目標とする。	
全学共通科目	持続社会探究	環境・地域	日本の国土と社会	この授業科目は、グローバル化の進展によって、地球上で進行する地域秩序の再編、それに伴い変貌する地域の社会経済や人びとの暮らしの在り方を概観する。具体的には日本を対象にして、日本の産業活動の空間的構成の変容を講義するとともに、日本の地帯構成を念頭においた上で、標識的な地域の事例を踏まえつつ、それぞれの地帯における地域変容や地域問題の理解へとつなげていく。また、あわせて、地理学的なフレームワークや地図がグラフ類の表現法を学んでいく。	
全学共通科目	持続社会探究	環境・地域	外国の自然と社会 A	この授業科目では、EU 諸国およびアメリカ合衆国などの先進諸国における諸国土と社会について地誌学的見地から概説する。まず、対象地域における自然環境の多様性を踏まえた上で諸国土の成り立ちについて理解する。その上で、言語・民族・慣習の多様性、国民国家形成と国民統合のメカニズム、産業化と都市化の軌跡、EU、NAFTA 等の経済統合とそれに伴う社会経済的諸課題、域内経済格差とそれを是正するための地域経済政策について考えていく。	
全学共通科目	持続社会探究	環境・地域	外国の自然と社会 B	この授業科目では、モンスーンアジアの諸国土と社会について地誌学的な見地から概説する。東・東南アジア諸国における外資導入に基づく輸出指向工業化政策の進展によって、アジアは世界経済において大きな役割を担うようになってきている。その中で、アジアの諸地域は、急激な地域変容と社会変動を経験している。本科目では、グローバルな秩序の下に再編しつつあるアジア諸国を対象に、その空間像を理解させるとともに、具体的な事例を挙げつつ、アジアにおいて生起している地域変容および地域問題の理解へと結びつけたい。	
全学共通科目	持続社会探究	環境・地域	地域づくり論	この授業科目は、地域づくりを念頭においた地域調査の方法と地域活性化のための実際的な方法について考える。地域経済・地域社会の活性化の方法は、社会の変化に応じて変化するが、雇用の確保、人口の安定、社会・生活条件の整備から始まることに変わりはない。雇用、人口、生活の 3 つの視点に注目した地域づくりの調査方法と地域活性化の内容を考えていきたい。検討する地域としては、被災地域、大都市地域、地方圏都市地域、人口減少地域の 4 つを取り上げる。	

授 業 科 目 の 概 要

(経済学部現代経済学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目	持続社会探究 環境・地域	環境科学トピックス (生命と環境)	この授業科目では、生命の進化と環境への適応について、生物の視覚と体色の進化を中心に学習する。まず、生物と進化、光と色などの基礎的な知識を習得したうえで、物が見えるしくみや生物の体色について様々な事例をとりあげて理解を深める。具体的には、①生命の進化、適応について理解し、説明できるようになること、②光、色の特性と環境を理解し、説明できるようになること、そして③生物の形質についての論理的考察ができることをめざす。	
全学共通科目	持続社会探究 環境・地域	環境科学トピックス (食料と環境)	この授業科目は、人類が生存するために最も必要な食料および食料生産環境について、安心・安全な食料や健康・衛生環境と関連付けながら、グローバルな視点から理解を深めることを目的とする。具体的には、①世界や日本における環境問題について基本的な知識を習得すること、②白書や国際機関の報告書をもとに、現代の日本および世界の食料生産と需給状況を読み取り、説明できるようになること、③安心・安全な食料の確保に向けた取り組みについて、自らが考えることができることをめざす。	
全学共通科目	持続社会探究 国際理解	戦後の日本と世界	この授業科目は、第2次世界大戦後の日本と世界の歴史を学ぶことで、国際化の時代に相応しい素養の一つを身につけ、あわせて専門科目学習の基盤を作ってもらいたいことを狙いとしている。特徴は日本史、世界史(大学では西洋史、東洋史)という区分をせず一体のものとして、大きな歴史の転換点となった戦後について、国内政治史、国際情勢(国際政治と現代思想)をはじめとして概説する。ビデオ教材を用い、映像によって理解をリアルなものにするようにする。	
全学共通科目	持続社会探究 国際理解	近現代のアジアA	この授業科目では、アヘン戦争の時期から20世紀初頭までの中国と朝鮮半島を中心としたアジアの歴史を学ぶ。東アジアの国々は19世紀の半ばに、ヨーロッパによって不平等条約を押しつけられて開国を求められ、自由貿易体制に組み込まれ、植民地化の危機のなかで近代化をすすめていった。日清戦争・日露戦争を通して、東アジアの日本、中国、朝鮮は大きな岐路をむかえ、その立場を変えていった。東アジアの近代化の歴史を学ぶことは、東アジアの国際関係のみならず日本の近代化のあり方を理解する上で必須の事柄である。	
全学共通科目	持続社会探究 国際理解	近現代のアジアB	この授業科目では、20世紀初頭から1950年代までの中国と朝鮮半島を中心としたアジアの歴史を学ぶ。現在の東アジアの国際関係の直接の原点は、第二次世界大戦以降の中国の国共内戦、朝鮮戦争というアジアの熱戦による、社会主義中国と朝鮮半島の分断国家という枠組みの形成にある。その歴史的前提は、日本の朝鮮の植民地支配と中国に対する侵略戦争である。こうした歴史を学ぶことは、東アジアの国際関係を理解する上で必須の事柄である。	
全学共通科目	持続社会探究 国際理解	近現代の欧米A	この授業科目は、現代世界を理解するうえで重要な近現代のヨーロッパ諸国とアメリカ合衆国の歴史にかんする基本的素養を身につけ、専門科目学習の基礎をつくってもらいたいことをめざす。とくに、新大陸への入植、18世紀末のアメリカとフランスの市民革命から、産業資本主義の成立を経て、19世紀後半の帝国主義時代までのヨーロッパ(特にフランス、ドイツ、ロシア)とアメリカ合衆国をたどるなかで、現代世界の諸問題を歴史的に理解することを学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要

(経済学部現代経済学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目	持続社会探究 国際理解	近現代の欧米B	この授業科目は、現代世界を理解するうえで重要な近現代のヨーロッパ諸国とアメリカ合衆国の歴史にかんする基本的素養を身につけ、専門科目学習の基礎をつくってもらうことをめざす。本講義ではとくに、19世紀末の帝国主義時代から20世紀後半の第二次世界大戦までの時代までのヨーロッパの歴史の歴史を、ウィーン体制の成立と崩壊、アメリカ南北戦争、国民国家の建設、アメリカ西部開拓、帝国主義と第一次世界大戦、ヴェルサイユ体制、世界恐慌とファシズムといったトピックでたどるなかで、現代世界の諸問題を歴史的に理解することを学ぶ。	
全学共通科目	持続社会探究 国際理解	中東地域史	この授業科目は、現在においても、過去にさかのぼってみても、つねに国際政治、国際経済、そして文化交流の一大焦点でありつづけてきた中東地域に関し、中東地域の「いま」を理解するためには、この地域の過去（歴史）を知らねばならないという観点から、「イスラム史」の確認から始めて、それを批判的に検討しながら「いま」に適用する中東地域史の理解をめざすことを到達目標とする。	
全学共通科目	持続社会探究 国際理解	現代の国際政治	この授業科目は、国際関係の主に政治的側面についての基礎知識を学ぶことを目的とする。世界は再び激動の時代を迎えつつある。中国をはじめとする新興国の台頭など、ブレグジットに揺れる欧州、アメリカにおけるトランプ政権成立、目まぐるしく動き続けている。どうして戦争は起こるのだろうか、正しい戦争はあるのだろうか、国連があるのになぜ世界は平和にならないのだろうか、グローバルゼーションの深化は国際関係をどのように変容させたのだろうか、情報革命は私たちの国際社会へのかかわり方をどのように変えているのだろうか、グローバル化の中で各国の内政はなぜ不安定化するのだろうか、こうした課題に対し、本講義では、理論と歴史の両面から考えていく。	
全学共通科目	持続社会探究 国際理解	グローバル経済論	この授業科目は、国際関係の主に経済的側面についての基礎知識を学ぶことを目的とする。日本経済は1990年代に急激なグローバル化の只中におかれるようになり、国民経済の枠を超えて国際経済のなかで自国経済をみつめる必要がこれまで以上に大きくなった。本講義では、現代的グローバル化というものがどのような特質をもつものなのかを理解した上で、リカードの比較生産費説をはじめとする自由貿易を推進する諸思想にふれ、ブレトンウッズ体制の形成と崩壊といった制度的側面の変遷を追う。また、直接投資と多国籍企業の理論と実際を学び、世界経済の3極化とさまざまな国際的な経済連携協定の意義と役割について考えていく。	
全学共通科目	持続社会探究 国際理解	国際文化交流論	この授業科目では、グローバル時代における日本の進路を考える一環として、国際文化交流の意義と現状を概観する。本講義では、国際文化交流の歴史的展開、各種交流の具体例、ジャンルや担い手別の特徴などを広く紹介するとともに、日本の代表的国際文化交流実施機関である国際交流基金の事業例などを見ながら、交流の目的、実施上の留意点、評価など、文化交流の要点を詳しく検討する。その過程で、文化の本質について考察するとともに、新しい価値観の創造、外交や「国益」との関係などを考える。	
全学共通科目	持続社会探究 国際理解	異文化理解トピックス（ドイツ語圏）	この授業科目は、ドイツ語圏の文化、社会、歴史、生活習慣や風習、地域ごとの特色（言語、歴史、風習、祭り、芸術、食文化等）に対する理解を深めることを目標とする。文化の多様性や文化の形成過程等を理解し、日本の状況と比較しながら、グローバル社会における多文化共生のあり方を考える。同時に、外国の文化や社会の様相、および日本との共通点・相違点について、客観的に考察する力を身に付ける。さらに、課題等を通じて、必要な資料を収集・整理し、自分なりの視点で分析する力も養う。	

授 業 科 目 の 概 要

(経済学部現代経済学科)

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目	持続社会探究	国際理解	異文化理解トピックス (フランス語圏)	この授業科目は、フランス語圏の文化、社会、歴史、生活習慣や風習、地域ごとの特色 (言語、歴史、風習、祭り、芸術、食文化等) に対する理解を深めることを目標とする。文化の多様性や文化の形成過程等を理解し、日本の状況と比較しながら、グローバル社会における多文化共生のあり方を考える。同時に、外国の文化や社会の様相、および日本との共通点・相違点について、客観的に考察する力を身に付ける。さらに、課題等を通じて、必要な資料を収集・整理し、自分なりの視点で分析する力も養う。	
		国際理解	異文化理解トピックス (スペイン語圏)	この授業科目は、スペイン語圏の文化、社会、歴史、生活習慣や風習、地域ごとの特色 (言語、歴史、風習、祭り、芸術、食文化等) に対する理解を深めることを目標とする。文化の多様性や文化の形成過程等を理解し、日本の状況と比較しながら、グローバル社会における多文化共生のあり方を考える。同時に、外国の文化や社会の様相、および日本との共通点・相違点について、客観的に考察する力を身に付ける。さらに、課題等を通じて、必要な資料を収集・整理し、自分なりの視点で分析する力も養う。	
全学共通科目	持続社会探究	国際理解	異文化理解トピックス (中国語圏)	この授業科目は、中国語圏の文化、社会、歴史、生活習慣や風習、地域ごとの特色 (言語、歴史、風習、祭り、芸術、食文化等) に対する理解を深めることを目標とする。文化の多様性や文化の形成過程等を理解し、日本の状況と比較しながら、グローバル社会における多文化共生のあり方を考える。同時に、外国の文化や社会の様相、および日本との共通点・相違点について、客観的に考察する力を身に付ける。さらに、課題等を通じて、必要な資料を収集・整理し、自分なりの視点で分析する力も養う。	
		国際理解	異文化理解トピックス (韓国語圏)	この授業科目は、韓国語圏の文化、社会、歴史、生活習慣や風習、地域ごとの特色 (言語、歴史、風習、祭り、芸術、食文化等) に対する理解を深めることを目標とする。文化の多様性や文化の形成過程等を理解し、日本の状況と比較しながら、グローバル社会における多文化共生のあり方を考える。同時に、外国の文化や社会の様相、および日本との共通点・相違点について、客観的に考察する力を身に付ける。さらに、課題等を通じて、必要な資料を収集・整理し、自分なりの視点で分析する力も養う。	
全学共通科目	持続社会探究	国際理解	異文化理解トピックス (イスラーム世界)	この授業科目は、イスラーム世界の文化、社会、歴史、生活習慣や風習、地域ごとの特色 (言語、歴史、風習、祭り、芸術、食文化等) に対する理解を深めることを目標とする。イスラーム世界は、1300年を超える長い歴史を有し、21世紀に入ってそれは旧大陸から地球全域にまで広がり、重要性はますます増している。イスラームは宗教というよりも、多民族・多文化が入り混じった世の中で人々がいかに共存のためのネットワークを構築してきたか、その方法を示す処方箋であるとの理解が必要になる。	
全学共通科目	持続社会探究	人権・共生	裁判と社会	この授業科目は、日本や諸外国の裁判制度の概要を理解し、それが社会に及ぼしている影響を考察することを目的とする講義である。裁判員制度の創設により、法律の専門家ではない一般の市民も裁判に関わる可能性が生じている。裁判員制度は重大な刑事事件のみを対象とするものであるが、現代社会における法の役割の高まり (さらに、セクハラ訴訟や知的財産権をめぐる訴訟など、企業が裁判に巻き込まれるケースの増加) をも考えるならば、社会人になろうとするすべての学生は、広く民事・刑事の両分野の裁判について一定の知識を持っていることが必要であることを認識してもらうことが目標である。	

授 業 科 目 の 概 要

(経済学部現代経済学科)

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目	持続社会探究	人権・共生	生命倫理と法	この授業科目は、安楽死や人工妊娠中絶などの伝統的な問題だけでなく、遺伝子工学や医療技術の進歩によって、遺伝子検査と個別化医療の普及に伴う患者の「データ化」、ES 細胞を用いた研究に特有の倫理的問題など、生命倫理に関する問題の急増、それをめぐる立場の対立といった現代社会の状況を踏まえ、法的にこれらの問題に対してどのように取り組んでいけばよいかを学生自身に考えさせることを目的とする講義である。現行法の解釈やこれからの法的枠組みの整備の方向性などについて、なるべく多くの具体的な事例を通して考えていく。	
全学共通科目	持続社会探究	人権・共生	地域福祉論	この授業科目は、社会福祉と地域福祉の相違性と関連性を知り、「地域福祉とは何か」を解明していく。わが国の社会福祉は、21 世紀を目指して大きな転換期を迎え、制度改革が次々と打ち出され、これら改革の方向性を示す共通のキーワードは、「ノーマライゼーション」である。地域福祉の理念は、人々が住みなれた地域で生きがいをもつより豊かな生活を保障することであり、国、自治体、地域住民が協働して改革していく必要があることを認識していく。	
全学共通科目	持続社会探究	人権・共生	人権とジェンダー	この授業科目は、女性も男性も、そして、多様なジェンダー・アイデンティティやセクシュアリティを持つすべての人々が、自由に自分らしく生きられる社会とは、ということを入権の視点を重視しながら考えて行く。私たちが「当たり前」だと思いがちな現代日本のジェンダーのあり方は、世界の国々や日本の過去のそれと比較するならば決して「当たり前」ではなく、日本のジェンダー・ギャップ指数は 130 カ国中 98 位である (2008 年) であることも認識していくことが必要である。	
全学共通科目	持続社会探究	人権・共生	こころの健康と臨床	この授業科目は、臨床心理学の知見から、福祉・教育・医療などのヒューマンサービスにかかわる活動(仕事)や対人的なボランティア活動などを視野に入れた、人への支援活動に必要な心理学的な知識とスキルを学ぶことを目的とする。具体的には、臨床心理専門活動の実際(スクールカウンセリング、災害・犯罪・虐待などの被害者支援、高齢者や HIV 感染者への援助、子育て支援など)を紹介し、心理アセスメントと心理療法・コミュニティアプローチについて講じる。	
全学共通科目	持続社会探究	人権・共生	老人福祉論	この授業科目は、国、地方自治体、あるいは地域住民の意識や活動などによって大きく左右される高齢者福祉の制度化や質のレベル、高齢社会から超高齢社会への進展が高齢者福祉に及ぼす影響、福祉国家スウェーデンの高齢者像と国・自治体の政策の変遷、近く超高齢社会を迎える日本の現状と今後の展望、新しい自立支援・促進型福祉のあり方などを論じ、国、地方自治体、民間組織、地域住民が担うべき役割など、今後の課題を考察する。	
全学共通科目	持続社会探究	人権・共生	福祉社会に生きる	この授業科目は、法や制度が整っているか否かによって判断できるものではなく、社会を構成する国民の意識の相違によって左右されるものであるとされる福祉社会について、憲法で保障される権利と社会福祉関連法、人口問題と福祉、福祉と国民の連帯、福祉の町づくりなど、わが国の福祉の現状や国民の意識に内在する様々な問題点の認識、福祉社会のモデルとなるスウェーデンの福祉理念と制度の国民浸透度について紹介し、「福祉社会」の構築意識を培う。	

授 業 科 目 の 概 要

(経済学部現代経済学科)

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目	持続社会探究	人権・共生	特別支援教育概論	この授業科目は、様々な教育的ニーズを持つ子供たちを理解し、適切な支援をおこなうために必要な知識を身につけることをテーマとし、インクルーシブ教育の理念とともに、特別支援教育の制度や関わる法令について理解し、発達障害を含む特別の支援を必要とする児童生徒の発達過程や特性を理解し、支援の方法を具体的に例示することができること、発達障害を含む特別の支援を必要とする児童生徒の教育課程を理解し、個別の指導計画の作成や関係者および関係機関との連携のあり方について理解すること、外国籍（母語が日本語ではない）や貧困、愛着などの教育的ニーズを抱える子供の理解と支援について理解することを目標とする。知識的な事柄の他、具体的な実践例の紹介も併せて行う。	
		人権・共生	共生社会トピックス（アートと社会）	この授業科目は、アートのもつ美的価値に加えて、近年重視されているその社会的・経済的価値についても多角的に分析し、現代社会におけるアートの位置づけや意義を明らかにしていく。特に、「アーティスト」と、アートを「見る人」（観客、愛好家、市民など）の間に立ち、アートと一般の人々を「つなぐ人」（サポーター、マネージャー、プランナーなど）に焦点を当て、彼ら「つなぎ手」たちが、地域や企業のなかでどのような活動を展開しているのかを探る。	
全学共通科目	持続社会探究	人権・共生	共生社会トピックス（日本女性史）	この授業科目は、政治の中の女性の役割をテーマとする。とくに、古代から幕末まで、天皇および為政者の意思が伝達される過程を学び、そこで女性がどのように位置づけられ役割を果たしたのかを、現存する各種史料に基づいて考察する。これまで、官僚機構や為政者の意思の伝達は、男性官僚の職務として考えられる場合が多かった。その通説的理解の是非を検討していきたい。また、政治機構は社会のあり方を反映したものである。このため、政治史のみならず社会のありようと変化についても学んでいきたい。	
全学共通科目	持続社会探究	実践	成蹊を知る	この授業科目は、自校史に関わる科目として、成蹊学園はどのようにして誕生しどのような経緯をたどって現在の姿になったのか、本学園の歴史を紐解きながら成蹊のアイデンティティについて考える。教育史における中村春二の業績、岩崎小彌太が成蹊において果たした役割、吉祥寺移転後の浅野校長の教育理念、第二次世界大戦後の成蹊、成蹊から育った著名な人々、成蹊大学の現状などについて講義を行っていく。あわせて、成蹊学園の教育史におけるESD（持続可能な開発のための教育）の意義について考えていく。	
全学共通科目	持続社会探究	実践	情報保障とボランティア	この授業科目は、近年増加する大学に学ぶ障がい学生の多くが、授業をはじめ学生生活のさまざまな面で困難を感じている「情報取得」について、この困難を軽減するための「情報保障」の考え方、現在、成蹊大学を含むいくつかの大学で行われている「情報保障」の障がいごとの実例（聴覚障がいを持つ人に対して行われるノートテイク、手話、視覚障がいを持つ人に対して行われる点字テキスト）をあげながら、当該学生が授業に積極的に参加していくために必要な情報保障、支援方法を具体的に学ぶ。	
全学共通科目	持続社会探究	実践	野外自然教育論	この授業科目は、多くの人が自然を感じ、それを共有するための方法について考察し、実践することを目標とする。現代において、「自然災害に立ち向かう」という表現に見られるように、人間と自然を対置しようという意識は強い、しかし、本来、人間や人間社会も宇宙や地球のシステムの一部に内包されているものである。屋内の人工的な環境の中では、人間が自然のシステムの一部であることは分かりにくい、都市部でも野外に出ることで、少しの工夫で自然のシステムを実感することができるようにする。	

授 業 科 目 の 概 要

(経済学部現代経済学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目	持続社会探究	実践	地元学実践演習	
			この授業科目では、地域を理解する＝地域の実態を把握するための手法を演習方式で学ぶことを目的とする。地域を知ることが、社会の一員として、その地域の課題に気づき、解決のため行動したり、環境や災害などの観点から、持続可能な地域づくりに関わりをもつ主体になるためにも必要である。そこでこの授業では、地域の実態を把握するためのさまざまな手法(＝地域調査の手法)を、わたしたちが生活する身近な地域や他の地域における、まちづくり、地域資源プロデュース、コミュニティ防災等を題材として具体的に学ぶ。	
全学共通科目	持続社会探究	実践	武蔵野地域研究	
			この授業科目は、成蹊大学の位置する武蔵野市やその周辺地域の地域社会の成り立ちについて、複数のゲストスピーカーによる講演を交えて講義する科目である。まずは地域概要を理解することから始め、商店街、公的機関、NPO、コミュニティ組織などの関係者の講演によって、当該地域の地域課題を理解し、課題解決に向けてどのような取り組みが行われてきたかについて、学んでいく。授業担当者、ゲストスピーカー、受講者の間での積極的なディスカッションによって、深い理解を促していく。	
全学共通科目	持続社会探究	実践	武蔵野市寄附講座	
			この授業科目は、包括的な連携協定を結んでいる武蔵野市から運営経費の補助を受けて開講する科目である。本学で設置している各学部の回り持ちで、担当となった学部が、当該学部の取り上げる専門領域、地域的または社会的トピックを取り上げてテーマを定め、本学教員をはじめ、外部からの有識者等をゲストスピーカーとして招いて講義をおこなう。このことにより、自分の専門領域、領域外にかかわらず、現代の地域課題、社会課題を涵養するものとなる。	
全学共通科目	持続社会探究	実践	大学生活と相互理解	共同
			この授業科目は、青年期に生じるさまざまな悩みや課題について、あるいは大学生活で直面する可能性のある危機的な問題に対して、心理的メカニズムを理解するとともに、他人事であるとの認識を超えて向かい合い考えていく科目である。主として大学における学びの意義とアイデンティティ形成、親・友人との関係のとらえ直し、大学生とカルト問題、性の問題、犯罪の問題、依存症(携帯・ゲーム等)、精神医学的な問題、自殺予防、ひきこもり等を取り上げ、これらを通して、良識ある社会人としての人格の陶冶を目的とする。	
全学共通科目	持続社会探究	実践	成蹊グローバルセミナーA	
			この授業科目は、異文化コミュニケーションを目的として、海外からの留学生と日本人学生がともに学ぶ科目である。この授業で行うさまざまな活動で自分のコミュニケーション能力を高め、自己の能力を客観的に観察する力を養う。「A」では、チームワークを作る活動、ファシリテーター体験、ビジネス・コミュニケーション・ゲーム、プロジェクト・ワーク等より内容を構成し、最後の回では各自で作成したポートフォリオをもとにしたショート・プレゼンテーションを行う。	
全学共通科目	持続社会探究	実践	成蹊グローバルセミナーB	
			この授業科目は異文化コミュニケーションを目的として、海外からの留学生と日本人学生がともに学ぶ科目である。この授業で行うさまざまな活動で自分のコミュニケーション能力を高め、自己の能力を客観的に観察する力を養う。「B」では、チームワークを作る活動、言語コミュニケーション活動、フェアトレードを考えるための活動、プロジェクト・ワーク等より内容を構成し、最後の回では各自で作成したポートフォリオをもとにしたショート・プレゼンテーションを行う。	

授 業 科 目 の 概 要

(経済学部現代経済学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目	持続社会探究 実践	武蔵野地域連携セミナー	この授業科目は、武蔵野市との包括的連携協定に基づいて、市役所をはじめとする武蔵野市内の各主体との連携によって、武蔵野市とその周辺地域における地域資源の発見、地域課題とその解決策の探究などを、演習方式で学ぶものである。取り上げるテーマとしては、インバウンドツーリズムの推進のための観光資源の提示、市街地における緑視率向上の方策の探究、武蔵野市の友好都市との交流方策の模索とその実践など、さまざまな主題が考えられる。	
全学共通科目	持続社会探究 実践	Global Studies Seminar I (Academic Study Abroad Preparation)	この授業科目は、1年次夏期に参加する短期留学のための準備講座であると同時に、大学生として国内外で必要となる基礎的な学習スキルを身につける役割を持つ。講義の受ける際の注意点、ディスカッションに参加する意義など海外の大学で大学生に求められる基本的な心構えについても学んでいく。さらに留学先の文化（歴史・社会事情、習慣など）から、教育制度、安全管理や生活上注意すべき点まで、現地の事情についての知識を身につけることで、外国での生活、学習に対する不安を払拭するとともに、留学による学習効果を最大限にするようにする。	
全学共通科目	持続社会探究 実践	Global Studies Seminar II (Global Citizenship)	この授業科目は、国境の枠を超えて平和的で持続可能な社会を維持するため、グローバル市民として必要な基礎知識・態度を育成することを目的とする。「グローバル社会」とはいったい何を意味するのか、単なる「国際社会」とはどう異なるのか、という問いについて様々な角度（環境、言語、人種、民族、宗教、経済、政治）から考える。このことによって、グローバルな思考を醸成する。	
全学共通科目	持続社会探究 実践	Global Studies Seminar III (Japanese Culture)	この授業科目は、グローバル社会において、多様な背景を持つ人々との相互理解を促進するため、自国の文化や社会事情などについての発信力を身につけることを目的とする。自国の文化は、身近であるがゆえにかえって説明できないことが多々あるが、著名な日本文化論や、海外と比較した日本の姿などを通して、日本の文化・社会の特性についてより客観的に見つめ直し、理解を深める。さらに、それを海外に向けて英語で発信できる力を身につけていく。	

授 業 科 目 の 概 要			
(経済学部現代経済学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	ゼミナール科目	基礎ゼミナール	この授業科目は、大学での学びために必要な基本的な方法を演習形式で学ぶものである。取り扱われる具体的なテーマは担当する教員ごとに異なるが、それらはすべて現代社会で発生する問題にかかわるものであり、経済学を幅広く学んでいくために必要な視座となるものである。授業では、教員が提示するテーマに対し学生自らが問題意識を高めて課題を発見し、仮説を立て、データを収集、検討し、自らの意見と結論を発表していく。仮説の立て方をはじめ、データ収集の方法、発表の手順、議論の仕方、レジュメやレポートの書き方なども指導していく。
専門科目	ゼミナール科目	プレゼンテーション演習	この授業科目は、実践的なプレゼンテーションの方法を演習形式で学ぶものである。自らが調査し、結論段階までとりまとめた発表を他者に対して説得力をもって提示していくためには、パワーポイントをはじめとするソフトを効果的に使い、見やすくわかりやすく、かつ魅せるプレゼンテーションが欠かせない。授業では、こうした実践的なプレゼンテーション技術を磨きながら効果的な資料作成を積み重ねていくことに加え、人前での効果的な話し方、発表のコツなども指導していく。
専門科目	ゼミナール科目	上級ゼミナールⅠ	この授業科目は、経済学に関連する多岐にわたる専門分野のなかから、学生が選択した特定分野についての専門知識を習得することを目標とするものである。現実の社会・経済問題に対する分析・洞察力を深めるために事例研究が積み重ねられ、実地調査を行うこともある。1年次の「基礎ゼミナール」、2年次の「プレゼンテーション演習」を経て磨かれてきた課題発見力、人前でのプレゼンテーション力を生かし、演習形式で発表や議論を通して、学生相互に学び合うものである。
専門科目	ゼミナール科目	上級ゼミナールⅡ	この授業科目は、「上級ゼミナールⅠ」で習得された経済学に関連する専門知識をさらに深めていくものである。それに加え、学生が選択した特定の専門分野の分析・検証を通すことで、より幅広い現実の社会・経済問題に対応していく力を磨くことを目標とするものである。「上級ゼミナールⅠ」同様、演習形式で発表と議論を丹念に繰り返し、ときにグループワークを行いながら学生相互に学び合い、「卒業研究」のために各自、個別のテーマを探求するものである。
専門科目	ゼミナール科目	経済学ワークショップ	この授業科目は、早期卒業制度における演習科目である。経済の幅広い課題の中から、履修者の力量と興味に合った個別のテーマを見つけて課題を探究する。第1に、基礎的な文献と公表されているデータ等を確認しつつ、関連文献でテーマについての理解を深める。第2に、途中経過としての発表会を行い、他の参加者よりコメントを受けつつ研究を発展させていく。全体を通して、継続的に研究を進展させることを目指し、質と量ともに早期卒業者としてふさわしい研究の最終成果物を提出するものとする。
専門科目	ゼミナール科目	卒業研究	この授業科目は、「上級ゼミナールⅠ」「上級ゼミナールⅡ」で習得した知識をより発展させ、演習形式で学生独自が設定した特定専門分野についての研究を深め、最終的に卒業研究としてふさわしい論文等を作り上げていくことを目標とするものである。形式的な制約が多い論文等を作成していくにはそれ相当の集中力と長い時間が必要であるが、「上級ゼミナールⅠ」「上級ゼミナールⅡ」で培ってきた学生相互の学び合いや議論の結果を踏まえながら、経済学部で習得してきた専門知識の総括としての卒業研究を完成させる。

授 業 科 目 の 概 要

(経済学部現代経済学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門科目	サステナビリティ研究科目	地域コミュニティ経済科目	フィールドワークの技法	この授業科目は、現地調査で観察やインタビューを行うために必要な技法を、基礎から実践まで修得することを目的とした講義形式の科目である。社会または社会集団における経済的事象を実証的にとらえるための社会調査法の一つとして、フィールドワーク（現地調査）がある。社会的、経済的事象には、問題が複雑で表面化していないものも多く、その場合、現場に出かけ様々なステークホルダーの行動等を観察し情報を共有することによって、第三者の立場から問題の所在と要因を知ることができる。本科目では、まず調査の企画、設計について講義で学び、その後、学内外の場で実際にインタビューや観察を行い、得られた情報から経済学の仮説に基づいて要因を明らかにすることで、主体的な課題解決のプロセスを学修する。	
	サステナビリティ研究科目	地域コミュニティ経済科目	社会調査の技法	この授業科目は、コミュニティ経済科目の講義形式で行われる科目である。社会または社会集団における経済的事象を実証的にとらえるための手法として社会調査がある。この講義では、社会調査の主要な方法のひとつであるアンケート調査について、調査倫理にもとづいて調査の企画、設計、実施、結果分析の一連のプロセスを理解し技法の修得を目指す。実際に行われた資料やデータを批判的に検討し、調査項目から経済学に基づく仮説の設定、仮説に基づく結果の分析、設計における統計的信頼性の確保、などを疑似体験することで、履修者が自ら主体的に課題解決のプロセスを実施するための実践力を修得する。	
専門科目	サステナビリティ研究科目	地域コミュニティ経済科目	地域研究法	この授業科目は、インドアワークによる地域研究、もしくはフィールドワークに基づく地域研究の予察的な作業としての地域分析に必要な統計図表作成のための知識やスキルを演習方式で身に付けることを目的とする。まずは、公的統計のうち基幹統計の種類と性質、日本標準産業分類や職業分類の体系、地域統計単位とそのコーディング、グラフ類の種類と作成法などの基本事項を理解した上で、特定の都道府県における市町村別統計（もしくは小地域統計）を準備し、年齢階級別人口構成図やコーホート法などの地域人口分析、立地係数や修正ウィーバー法、シフトウェア分析、B/N 分析、小売業吸引係数などの地域産業構造の分析、Web 上の簡易 GIS (jSTAT MAP など) を用いたマッピングなどを実践していく。	
専門科目	サステナビリティ研究科目	地域コミュニティ経済科目	情報分析ゼミナール（産業連関分析）	この授業科目は、産業連関分析を実際のデータを PC で操作しながら演習形式で学ぶものである。産業連関分析の基礎となる産業連関表は、一経済の投入構造と産出構造を一覧にしたもので、まず、この授業では、この産業連関表から経済構造を読み取ることから始める。つづいて、この産業連関表に基づいて投入係数行列を計算し、競争輸入型逆行列を求めて、経済波及効果を計算することに進む。この授業では、一貫して、実際の産業連関表に基づき、いかにして産業連関分析を応用し、経済波及効果を求めるかの修得を目指す。	
専門科目	サステナビリティ研究科目	地域コミュニティ経済科目	実践ゼミナールA	この授業科目は、コミュニティ経済科目の演習形式である。学科の教育の特色の一つである、社会との連携によって現実の課題を解決する目的で、産官学連携プロジェクト型授業として運営する。民間企業、自治体、NPO などの団体または他大学等の教育機関と連携し、彼らが抱える現実の課題の提示を受け、授業担当者の指導の下で履修者が主体的に調査、企画立案などを行い、解決策や提案を発表する。提案団体の協力で提案を実現する場合もある。課題の説明や団体との意見交換、グループ内でのディスカッションや現状把握のための現地調査などを、適時実施する。	

授 業 科 目 の 概 要

(経済学部現代経済学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	サステナビリティ研究科目 地域コミュニティ経済科目	実践ゼミナールB	この授業科目は、持続可能な地域経済社会づくりに対する問題意識と実践的思考力を身につけるために、演習形式で実施するものである。国内の基礎自治体では、高齢者福祉、環境負荷の低減、地域資源を生かした産業づくりなど、さまざま取り組みを行っており、地域の現場に出向き、具体的な地域課題・行政課題を理解し問題意識を高め、それらの課題に対する解決策をいかに講じるべきかを考えることは、重要な学修機会である。本授業においては、学内での事前指導を演習形式で行った後に、長期休暇中に国内の特定地域を訪問して宿泊を伴ったフィールドワークを実施して、見学、観察調査、インタビュー調査に基づいて討議を行う。宿泊研修後にはレポートの提出を求め、それに対する振り返りの機会を設ける。	
専門科目	サステナビリティ研究科目 地域コミュニティ経済科目	コミュニティ研究ゼミナール	この授業科目は、現代社会における「コミュニティ」のあり方、その意味と必要性を具体的な事例をもとに演習形式で考察していくものである。国家であれ、小さな地域であれ、「想像の共同体」であれ、人間が集団というまとまりで生き、集団そのものを存続維持させていくことを必要としていることはいままでもない。この授業科目では、社会科学の隣接領域における最新の知見も視野に収めながら、「コミュニティ」を考察していくことで現代社会の問題点が浮上りてきてしまう現実を学生に認識させ、「コミュニティ」とは何なのかについて追求していく。	
専門科目	サステナビリティ研究科目 地域コミュニティ経済科目	GISゼミナール	この授業科目は、近年デジタル化が進む地理情報を（コンピュータで）系統的に処理・表示・分析し、自然環境や人間活動の空間的な分布の特徴や変化を明らかにする「GIS（Geographical Information Science）：地理情報科学」について、基礎的な概念や技能を学ぶものである。具体的には、社会の様々な分野で整備されているGISデータにはどのようなものがあり、どのように作成されるのかを理解して、学生それぞれが目的に応じたデータを取得する。次に、GISデータを適切に数値処理してGISソフトウェア上で分布図を描画し、そこから空間的特徴を読み取ることを目指す。さらに、GISソフトウェアを使用したより高度な統計分析を含めた時空間解析にもとづいて、自然・人文現象の時空間的特徴を抽出し、考察を深めるスキルを身につけることを目標とする。	
専門科目	サステナビリティ研究科目 グローバル経済科目	エリア・スタディーズA	この授業科目は、民主主義や人権、福祉、平和構築などにおいて模範的理念を提示してきたヨーロッパが直面する危機について歴史的背景も視野に入れつつ理解することを目指す。まず各地域の主要な文化的特徴の成立過程に着目しつつ個別の国家や民族がどのようにして統一体として形成されてきたのか、他方でそれらの諸国家や国民がどのように競合・共存する空間を形成してきたのか、という問いを基点に、それに併行してヨーロッパの外部との様々な関係のあり方について非ヨーロッパ世界との文化的、宗教的差異も考慮に入れつつ現在の危機の理解を深める。こうした理解の深化によって、現在多様なレベルで幾つもの分断や分裂が錯綜するヨーロッパの置かれた危機的な状況を逆に新たな共存空間を生み出すための転機と捉え返すことができるための知的・実践的理解の育成が図られることになる。	

授 業 科 目 の 概 要

(経済学部現代経済学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	サステナビリティ研究科目 グローバル経済科目	エリア・スタディーズB	この授業科目は、東南アジア諸国、北東アジア諸国、南アジア諸国の歴史、マクロ経済、政治システム、国内産業について学習する。具体的には、インドネシア、マレーシア、タイ、フィリピン、中国、香港、台湾、韓国、北朝鮮、インドなどについて、国家の成り立ちや歴史、経済発展の仕組み、貿易取引、国内政治動向、外交関係を扱う。米中貿易摩擦、北朝鮮問題など、近年、注目されるトピックとその背景および経緯も授業の中で取り上げる。	
専門科目	サステナビリティ研究科目 グローバル経済科目	文化と経済（欧米世界）	この授業科目は、欧米世界における文化と経済について講義形式で考察していくものである。欧米世界における「文化」を考える場合、「文化」を担う人間集団や社会のおかれてきた歴史も併せて考察していく必要がある。またその「文化」が発生して伝播し、広がりを持ちながら発展、変遷していく歴史的過程においては、その「文化」に「経済的価値」が付加されることで、伝播、発展や変遷の速度が増すことが多くみられる。たとえば、アメリカ社会におけるジャズがその典型的な事例である。本来、黒人奴隷たちの自由への渴望がブルースという形態を経てジャズへ進化したとされているが、その自然発生的な音楽形式も、やがては資本主義の枠組みの中に取り込まれていった。授業では、こうしたジャズのような「文化」を例に取り上げながら、幅広い観点から文化と経済を考えていく。	
専門科目	サステナビリティ研究科目 グローバル経済科目	国際理解ゼミナール	この授業科目は、国際化社会についての理解を深め、国際人について考える演習科目である。海外との接点が増えつつある今日、留学したい、海外で仕事がしたい、あるいは世界を見てみたい等の希望を持つ者も多いと思われる。海外で生きるために必要とされるのは異文化と共存できるだけの柔軟性と精神的なタフさ、よい意味での自己主張の強さと日本人としてのアイデンティティの確立である。この授業は海外文化や社会に関心のある学生を対象に、海外と関わってゆくには何が必要かについて演習形式で学ぶ。この授業は単なる留学ガイドのような海外情報を提供するものではなく、国際社会と向き合うための多角的な視点・思考法を養うことを目的としている。	
専門科目	サステナビリティ研究科目 グローバル経済科目	Special Lectures on International Communications	この授業科目は、日本人が外国人とコミュニケーションを円滑かつ深くおこなっていく場合に必要になる知識を習得するための講義である。外国人とのコミュニケーションは、単に英語が上手く話せるということだけでは不十分である。表面的な日常会話のレベルを脱し、豊かな内容を相手に伝えていくためには、その豊かな内容そのものを知らなければならない。この授業では、外国人の関心の高い能や狂言や歌舞伎、KAWAII というサブカルチャー、日本の美、おもてなし文化、日本映画といった深いコミュニケーションをとるための知識を、適宜ゲストスピーカーの講演を挟みながら解説していく。	
専門科目	サステナビリティ研究科目 グローバル経済科目	Special Lecture on Global Economy	この授業科目は、日本企業の国際展開について、ミクロ経済学の規模の経済、企業の費用構造、貿易取引の理論的枠組みを用い、産業ごとに学習する。本授業では、自動車産業、電子産業、医薬品産業、銀行業、石油化学産業などを取り上げ、経営パフォーマンスと貿易取引をはじめとする国際展開の関係について解説する。さらに経営環境と株価の関係および各種財務指標と時価総額の関係についても学習し、経営、株価、マクロ経済、の3者の関係を中心に解説する。	

授 業 科 目 の 概 要

(経済学部現代経済学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	サステナビリティ研究科目 グローバル経済科目	グローバル特殊講義 (国際労働市場)	この授業科目は、国際労働市場について理論的・実証的視点から解説を与えるものである。日本では、人口減少と、それに伴う労働力人口の不足が深刻になっている。急速な技術革新と労働力不足に対応するため、働き方改革と外国人労働者の活用が叫ばれている。この授業では、日本の雇用慣行や外国人労働者受入政策を諸外国と比較しながら、雇用システムの違いをもたらすものはなにか、どうすれば技術革新に対応した新しい働き方ができるのか、その根源を歴史的経緯や法制度を含めて学修する。	
専門科目	サステナビリティ研究科目 グローバル経済科目	グローバル特殊講義 (統計でまなぶ世界経済)	この授業科目は、世界経済の状況をマクロ経済データにもとづいて概観するマクロ経済学の応用科目である。世界主要国の国民経済計算をまず学習し、続いて、これらのマクロ経済と国際貿易取引ならびに国際資本取引がどのような関係にあるのかを実際の統計を用い、学習する。具体的には、各国のGDP統計において、経済成長の規定要因となっているのはどの需要項目か、そして国際収支統計を、経常勘定である貿易取引、金融収支である外国直接投資、国際証券投資、国際銀行融資の各種統計を用い、両者の関係を実際の統計を用いて学修する。	
専門科目	サステナビリティ研究科目 グローバル経済科目	外国語短期研修	この授業科目は、短期国内外研修とその事前・事後学習のための演習である。日本経済のグローバル化が進展していく中、世界に活躍する人材を育成するには、深い専門知識と幅広い教養、それらに基づいて多様な人々と交流するための語学力が不可欠である。この授業は、国内外の語学研修で専門知識と語学力を高めることを希望する学生を積極的に支援する。研修前に集中的に英語を中心とする授業を実施し、研修後の外国語によるプレゼンテーションによって、学習の成果の振り返りを行う。	
専門科目	基礎科目 基盤Ⅰ	初級ミクロ経済学Ⅰ	この授業科目は、初習ミクロ経済学の科目である。この科目においては、市場の失敗がない完全競争市場にトピックスを限定する。第一に、市場における価格と取引量の決定メカニズムを説明する。特に、経済学での代表的な分析ツールである需要曲線と供給曲線の図による分析を、学生に習得させる。第二に、そのような完全競争での市場取引が潜在的な社会的余剰を最大にすることを説明する。ここでは、政府による市場への介入の例として市場への課税を挙げ、課税の下で均衡がどのように決まるか、またその下で非効率性が発生してしまうことを説明する。	
専門科目	基礎科目 基盤Ⅰ	初級マクロ経済学Ⅰ	この授業科目は、現代の経済社会における重要な活動単位である一国全体の経済活動を理解するための講義形式の科目である。特に、現実の経済の制度的側面に注目し、さまざまな経済学の科目をこれから学んでいくために必要な諸概念の習得を行う。具体的には、家計のしくみ (所得と消費)、生産のしくみ (GDP)、金融のしくみ (資金過不足、金融市場)、政府のしくみ (歳入、歳出)、失業・雇用 (失業率、非正規雇用)、貿易と為替レート (外国為替市場、国際収支) などの基本的な事項に関する知識を、具体的なデータを見ながら学習していく。	

授 業 科 目 の 概 要

(経済学部現代経済学科)

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	基盤科目	基盤Ⅰ	初級統計学Ⅰ	この授業科目は、統計的方法の基礎概念と基本的な手法を十分理解し、正確に適用できることを目標とした授業である。最近では社会のいたるところで大量のデータ入手が可能なものとなっており、データに関する正確な理解、その的確な解析方法の習得も強く要求されている。このような背景から、統計学に対する社会の期待は大きく、統計学の正確な知識はますます重要視される傾向にある。本授業では、統計学を学ぶ際の動機づけからはじめ、統計学ではどのような考え方をするのか、統計学の手法を用いると、どのようなことができるのかを示す。特に、記述統計学に重点を置き、身近なデータを題材として、具体的に分析しながら、統計理論を説明する。	
専門科目	基盤科目	基盤Ⅰ	初級経済数学	この授業科目は、初級の経済数学を解説するものである。経済学を習得する上で欠かせない数学的手法を、できるだけ経済学と関連させながら解説する。前半の内容は、1次関数とそのグラフ、連立方程式の解法、2次関数とそのグラフ、平方完成のテクニック、2次方程式の解法、指数と対数、数列とその和などである。後半の内容は、微分とその応用に関してであり、具体的には、極限、多項式の微分、指数・対数の微分、微分と接線の傾きの関係などを経済学の消費者・企業の最適行動を例にあげながら扱う。	
専門科目	基盤科目	基盤Ⅰ	初級ミクロ経済学Ⅱ	この授業科目は、「初級ミクロ経済学Ⅰ」を受講した学生を対象としたミクロ経済学の後続科目である。この科目においては、市場の失敗があるために政府による規制が必要とされる状況にトピックスを限定する。第一に、独占・寡占というような不完全競争の下で、価格と取引量がどのように決まるか、さらにそれらがどのような非効率性を生むのかを見る。第二に、外部性がある経済、あるいは公共財を含む経済では、市場を放任すると社会的には望ましくない結果が起こってしまうことを見る。第三に、経済主体の間で情報の非対称性がある状況では、モラルハザードや逆選択といった非効率性が生じてしまうことを見る。	
専門科目	基盤科目	基盤Ⅰ	初級マクロ経済学Ⅱ	この授業科目は、「初級マクロ経済学Ⅰ」を受講した学生を対象としたマクロ経済学の後続科目である。特に、国や地域の経済活動全体を、理論モデルによって記述する方法に焦点を当てる。具体的には、消費と貯蓄の決定、設備投資や在庫投資の決定、金融と株価、貨幣市場の均衡などを扱う。また、景気循環に際して不況を克服する手法を分析する枠組みである IS-LM モデルを解説する。政府や中央銀行による財政政策・金融政策がどのような条件下で不況を克服する機能を果たし、どのような条件下では機能しないのかを説明する。	
専門科目	基盤科目	基盤Ⅰ	初級統計学Ⅱ	この授業科目は、「初級統計学Ⅰ」を学び、記述統計学の考え方を修得した学生がさらに進んで、推測統計学の理論と手法を十分理解し、正確に適用できることを目標とした授業である。本授業では、調査、実験観測など様々な手段で得られるデータにおいて、推測統計学に基づき、数量的な分析を行い、仮説を検証し、正しい分析結果を導出するという一連のプロセスを体系的に学ぶ。統計的推定理論・検定理論について重点的に学習し、それらの標準的なレベルの諸概念を解説する。また、実際のデータ解析例もあわせて示しながら、講義を進め、統計的推測理論特有の論理の理解を目指す。	

授 業 科 目 の 概 要

(経済学部現代経済学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	基盤科目 基盤Ⅰ	社会経済地理学	この授業科目は、グローバル化した現代世界の地域課題を理解するとともに、これに関わる社会経済地理学および隣接領域の社会科学の諸概念に対する理解を深める。グローバル化のプロセスは、世界を画一的なものに塗り替えつつも、さまざまなロカリティを表出させ、世界都市やメガシティの形成、一方での経済的に困難な地域の形成などを随伴させている。本講義では、まずは、グローバル化に至るまでの世界経済の諸プロセスを見た上で、多国籍企業による世界の組織化、またグローバル価値連鎖のもとでの世界の地域間関係を明らかにする。その上で、先進資本主義国、新興諸国それぞれでの経済発展の地域的跛行性と地域経済社会の諸相と諸問題を理解する。	
専門科目	基盤科目 基盤Ⅱ	中級ミクロ経済学	この授業科目は、「初級ミクロ経済学Ⅱ」を受講した学生を対象とした中級レベルのミクロ経済学の科目である。第一に、効用最大化による消費理論を展開する。そこでは、無差別曲線の図や、偏微分を使用した数学的な分析手法が駆使される。第二に、エッジワースボックスを使った一般均衡理論の入門を行う。ここでは、2人2財交換モデルという限定された枠組みながら、厚生経済学の基本定理という経済学の金字塔について解説する。これら二つの主要テーマとは別に、完全競争市場における長期均衡について、自然独占の現象やそれへの対策について、さらにはゲーム理論を駆使した寡占分析など中級レベルの話題を扱う。	
専門科目	基盤科目 基盤Ⅱ	中級マクロ経済学	この授業科目は、「初級マクロ経済学Ⅱ」を受講した学生を対象とした中級レベルのマクロ経済学の科目である。特に、マクロ経済現象を時間の流れの中に位置づけ把握しようとする理論について説明する。具体的には、AD-ASモデルを解説し、経済政策の時間を通じた効果について説明する。また、財政と国債の持続性についての諸問題や、貨幣価値の時間を通じた変化であるインフレ・デフレについての基本的な考え方を説明する。そして、経済成長を説明する枠組みであるソローモデルについても説明する。	
専門科目	基盤科目 基盤Ⅱ	中級経済数学	この授業科目は、「初級経済数学」を受講した学生を対象とした、中級の経済数学を解説するものである。当科目での構成は、当学科における経済学教育に必要な数学ツールを数学の各分野から取り込んだものとなり、具体的には、以下の通りである。線形代数の分野においては連立1次方程式の行列表現を扱う。解析の分野においては多変数関数における偏微分、および全微分と陰関数定理を扱い、さらには制約なし最適化問題(1階の条件のみ)と等号制約付き最適化問題(1階の条件のみ)を扱う。また、確率論の分野からはベイズの定理、確率変数、分布関数、期待値などを扱う。	
専門科目	基盤科目 基盤Ⅱ	中級計量経済学	この授業科目は、「初級統計学Ⅱ」までを受講した学生を対象とした中級レベルの計量経済学の科目である。具体的には、企業・経済データを分析する際に必要とされる統計的な分析方法についてコンピュータ演習を通して学修する。授業の前半では「初級統計学Ⅰ」と「初級統計学Ⅱ」で学んだ平均・分散などの各種記述統計量の計算やさまざまなグラフをもちいたデータの特徴の視覚化といった基礎的な統計分析手法を復習する。授業の後半では、コンピュータ実習を交えて回帰分析の理論とその利用方法を学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要

(経済学部現代経済学科)

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	基盤科目	基盤Ⅱ	ゲーム理論	この授業科目は、経済学分析にとって必須となっているゲーム理論を解説する科目である。ゲーム理論は、大きく協力ゲームと非協力ゲームに大別されるが、本科目では経済学への応用という観点から非協力ゲーム理論のみを扱う。まず、戦略形ゲームを導入し、その下での解概念としてナッシュ均衡を定義する。次に、展開形ゲームを導入し、その下での解概念としてサブゲーム完全均衡を定義する。さらに、情報の不完備性をゲームに導入し、ベイズ・ナッシュ均衡や完全ベイズ均衡といった解概念を定義していく。ゲーム理論そのものの理解だけではなく、様々な経済現象がゲーム理論によって統一的に分析できることを見ていく。	
専門科目	基盤科目	基盤Ⅱ	応用計量経済学	この授業科目は、「中級計量経済学」あるいは「計量経済学Ⅱ」までを受講した学生を対象とし「卒業研究」などでしばしば利用される回帰分析の手法を使った実証研究を行う予定の学生に向けて開講されるものである。統計的な実証研究を行うためには一定のプロセスを踏むことが求められる。この授業科目は、その基本的なプロセスを理解することを目的としている。具体的には、リサーチ・クエスチョンの設定方法、データの収集方法、計量分析の方法、実証論文の書き方などについて学習する。	
専門科目	基盤科目	基盤Ⅱ	国際マクロ経済学	この授業科目は、マクロ経済学の応用分野として、国際貿易・国際金融のマクロ経済学的側面 (Macroeconomic Aspects of International Trade and Finance) と呼ばれる領域のテーマを扱う講義である。特に、マクロ経済学の貨幣市場の理論を復習しながら、自国と外国との間での相互依存的な国際マクロ経済現象について理論的理解が深まるように紹介する。具体的には、外国為替市場のしくみ、外国為替レートの種類や変動要因、国際収支、対外資産・負債、為替レートや輸出を含めたマクロモデル、そして、開放体系下での金融政策や財政政策の効果について国際金融市場のメカニズムとともに説明する。	
専門科目	基盤科目	基盤Ⅱ	行動経済学	この授業科目は、経済主体が合理的な意思決定を行うことを前提とする新古典派経済学に対し、現実に観察される人間の様々な心理的なバイアスを明示的に考慮する行動経済学について説明する講義形式の科目である。特に、行動経済学で標準的に議論されるトピックを扱う。具体的には、意思決定に際して、ある種の簡便なルールに従うこと (ヒューリスティックス)、確率についての認知が通常想定される期待効用仮説とは異なること (確率荷重関数についての考え方) などを説明する。また、利他性や利己性といったトピックについても解説する。そして、行動経済学の知見を応用し政策を考えるナッジなどについて説明する。	
専門科目	基盤科目	基盤Ⅱ	情報の経済学	この授業科目は、経済主体の間で情報の非対称性がある状況での問題について解説するものである。初めに、不確実性の下での経済主体の意思決定の基礎として、期待効用理論が導入される。情報の非対称性が労働契約や保険契約の後で生じる例としてモラルハザードがとりあげられ、リスクシェアリングとインセンティブのトレードオフが説明される。一方、情報の非対称性が労働契約や保険契約の前で既に生じている例として、逆選択がとりあげられる。さらに、逆選択を解決するために生まれるシグナリングやスクリーニングといった仕組みは、新たな問題を引き起こすことを説明する。	

授 業 科 目 の 概 要

(経済学部現代経済学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	基盤科目 基盤Ⅱ	経済発展論	この授業科目は人類の歴史において経済活動の究極の目標である経済発展について学修する講義科目である。産業革命以降の飛躍的な技術革新の成果を全人類が平等に享受しているわけではなく、今日、世界で8億人近くが1日1.9ドル足らずの所得で生計を立てるといふ絶対的貧困状態にあることを認識する必要がある。急成長を遂げた東アジア諸国と、停滞と貧困にあえぐアフリカ諸国との対比は明確である。この講義は「経済発展」という経済学にとっても最も古く、また重要なテーマを理論的・実証的に学ぶことにより、現代の世界経済の直面する諸問題への理解を深めることを目的としている。	
専門科目	基盤科目 基盤Ⅱ	人口学	この授業科目は、人口現象の分析手法を紹介しながら、人口統計資料をできるだけ多く提示して世界と日本の人口問題についての理解を深めることをねらいとする。世界的レベルで最も重視しなければならない人口問題は発展途上諸国における人口爆発であり、それは各国の首都付近に人口の多くの割合が集中する過剰都市化を伴っている。国内レベルでの人口問題としては、人口高齢化、少子化、晩婚化・非婚化、過疎化・過密化といった問題が指摘でき、一部の自治体では人口減少によって将来的な財政存続が危ぶまれている。各国の経済成長を分析する際にも人口ボーナス、人口オーナスといった人口学的な背景を理解する必要がある。基礎自治体レベルでの年齢構成を把握することはエリアマーケティングや公共政策を立案する際に不可避である。本講義では、必要最小限の作業実習を伴いながら、こうしたことに対する理解を促していく。	
専門科目	基盤科目 基盤Ⅱ	社会学	この授業科目は、社会学的方法論を用いて「社会」を分析し、現代社会の諸相を講義形式で考察していくものである。社会学の二大理論である、「社会」をシステムとしてとらえる社会システム論と「社会」をコミュニケーションの総体としてとらえるコミュニケーション論双方の概念および理論の解説を丹念に行っていく。社会学理論の大前提には、わたしたち人間が「社会」を崩壊することなく、少しでも長く秩序づけられた状態を維持しようとする人間の側からの暗黙の諒解がある。しかし、この人間による諒解により、人間と「社会」をとりまく環境に少なからぬ負荷を与えてもいる。そうした現状を正確に把握するために、社会学的な視座を用いることで浮上する近代社会の解釈、経済現象、多岐に複雑化する現代の社会問題を考察していく。	
専門科目	総合科目 制度・歴史	経済史の基礎	この授業科目は、さまざまな国・地域の経済史を学ぶための基礎的な知識を提供し、もっぱらグローバルな視点から講じる経済史概論である。まず導入として、社会科学の一分野としての経済史に関してその存在理由と研究史を述べる。次に古代から21世紀にいたるまでの世界経済史を、トランスナショナルな枠組み（アジア経済圏、イスラーム経済圏、ヨーロッパ経済圏）での交易の具体的な展開、政治変動に伴う通商環境の変遷、制度（市場・関税・会社組織）の発達というテーマで講じる。また代表的な「世界商品」（砂糖、茶、たばこなどの植民地物産、綿布などの工業製品）の歴史的展開についても個別に講義する。最後に19～21世紀の世界経済秩序について概説する。	
専門科目	総合科目 制度・歴史	現代日本経済	この授業科目は、現代の日本経済の現状と課題について講義するものである。日本経済の現状の歴史的経緯を学ぶほか、現在の課題を明確化し、今後の日本経済はどうなっていくのかについての未来展望を行う。この講義では、バブルの発生から崩壊をスタート地点として、長期にわたる不景気を経て、アジア通貨危機やリーマンショックの影響、アベノミクスのパフォーマンス評価まで、日本経済の30年間を豊富なデータをもとに講義する。	

授 業 科 目 の 概 要

(経済学部現代経済学科)

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	総合科目	制度・歴史	数量経済史	この授業科目は、数量経済史を講義するものである。数量経済史とは新しく登場した経済史のことで、分析対象に対してマクロ経済学やミクロ経済学の経済理論を援用し、エコノメトリック・モデルを使って計量的に対象を把握しようとする特徴を持つ。1960年代に創始され、ニュー・エコノミック・ヒストリーとして発展し、人口動態、生産・所得・物価動向、景気変動などについてめざましい成果があげられてきた。本講義では、この数量経済史を、最新の学会成果をふんだんに取り入れながら講義する。この講義では、ノーベル経済学賞を授賞した3人の業績、すなわち、ロバート・フォード、ダグラス・ノース、アンガス・ディートンの研究を、説得的な図表を多用して明解に講義する。	
専門科目	総合科目	制度・歴史	日本経済史A	この授業科目は、江戸期から近代における日本経済の発展について講義するものである。日本は、後進国から先進国にまで、どのような軌跡を描いて経済発展を遂げてきたのだろうか。そして、これから先、日本はどういった進路を採るべきなのだろうか。「歴史に学び、歴史の理解をもって未来を解く鍵にする」ことによって、日本経済の過去と現在と未来を考えていこうというのが、本講義のテーマである。本講義では、江戸時代における日本経済の動向から第一次世界大戦期までの日本経済の発展過程を、最新の学会の成果をふんだんに取り入れつつ講義する。	
専門科目	総合科目	制度・歴史	日本経済史B	この授業科目は、近代から現代における日本経済の発展について講義するものである。「歴史に学び、歴史の理解をもって未来を解く鍵にする」ことによって、日本経済の過去と現在と未来を考えていこうというのが、本講義のテーマである。近代化に成功した日本は、現在、世界屈指の経済大国に成長した。日本はどのような軌跡を描いて経済発展を遂げてきたのか。この問題に関して、最新の学会の成果に基づき、第一次世界大戦期からバブル経済崩壊までの、約100年間の日本の経済発展を、最新の研究成果をふんだんに盛り込みながら講義する。	
専門科目	総合科目	制度・歴史	西洋経済史A	この授業科目は、ヨーロッパ経済、とりわけその中世期の発展を対象とする経済史総論である。導入部分をなす前半は西洋経済史という分野の紹介であり、とくにヨーロッパを空間軸と時間軸でまず捉える。空間軸ではヨーロッパが経済的・心理的な次元で一つの地域として認識されるようになった背景を述べ、時間軸では旧来の経済発展段階説に替えて新たな三分法（統合的な中世ヨーロッパ経済、分裂的な近代ヨーロッパ経済、再統合的な現代ヨーロッパ経済）を提示する。後半ではこのように位置づけられた中世ヨーロッパ経済の特徴を、歴史的に固有のシステムとして新しい視点から明らかにする。また長く暗黒で発展の契機を欠いた静態的な経済とみなされてきた中世経済について、その動的な実像を提示する。とりわけ制度・装置・組織そして人間類型のなかに見られる一定の合理性を「ヨーロッパ近代」の萌芽的要素として捉え直す。	

授 業 科 目 の 概 要

(経済学部現代経済学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	総合科目 制度・歴史	西洋経済史B	この授業科目は、近代のヨーロッパ経済を対象とする経済史総論である。すなわち16世紀から20世紀半ばまでの波乱に富んだ分裂と角逐の時代におけるヨーロッパの経済史が講じられる。まず16世紀の宗教改革がヨーロッパ経済に与えた個人的次元での影響（プロテスタンティズム信仰と経済的な行動様式）と国家的次元での影響（政治面での国家理性、経済面での国民主義の芽生え）が述べられる。次にヨーロッパで最初に起こった工業化の過程を3つのベクトル（地域次元でのプロト工業化、国家次元での重商主義、国際的次元での世界システム）でおさえたいえで、諸国民経済の形成・発展過程、そして19世紀のイギリスを中心とするヨーロッパの経済秩序の成立とその動揺の局面から二度の大戦を経て再統合される（ローマ条約調印）までの過程が明らかにされる。	
専門科目	総合科目 制度・歴史	比較経済史	この授業科目は、欧・日間の比較を中心とする経済史である。比較にあたっては、従来のように依拠すべき先進的・模範的な欧州経済と学ぶ側の立場にある後進的ないし中進的な日本経済という対比（普遍と特殊）ではなく、異なる経済文化のフィルターを濾過した同じ経済原理の構造的差異、あるいは同じ資本主義発展の異なる道筋という新たな認識をもって両方の経済史にアプローチする。具体的には欧・日間での封建制、都市、首都機能、市場、近世国家の経済システム、市民革命、近代成長の7つの項目に関して両者の類似点と相違点を明らかにする。総じて二つの経済史においては相違点よりむしろ類似点が多いという事実を提示する。	
専門科目	総合科目 制度・歴史	経済学史	この授業科目は、経済学を歴史的に捉えることによって、経済学の体系的理論に対する理解を深めることを目的とする。経済学の教科書に登場するスミスやリカード、ケインズをはじめとする多くの経済学者たちの整然とした諸理論は、彼らが各時代の困難な課題に対して相互に活発な議論を展開し、人間の本性と経済活動および経済的現象について熟慮し、試行錯誤を重ねたことの所産であり、人類の共有財産にほかならない。学生にはこうした過去の経済学者たちの貴重な知見を、教科書の単なる一項目としてではなく、親近感をもって受け止めて自らの見識に取り入れて活用することが期待される。各経済理論がもつ歴史的背景と経済学者たちの主張を支える思想的根拠とを提示し、経済学の人間味あふれる側面に向き合う機会を提供するこの授業を通じて、学生は現代を考える上でも有益な示唆を得られるはずである。	
専門科目	総合科目 制度・歴史	地域経済史	この授業科目は、ヨーロッパを対象とする地域経済史である。EUの拡大・深化とともに国家主権による縛りが少しずつ弱まるなかで、ヨーロッパでは中世以来の歴史的な地方的枠組みが客観的にも心理的にも復活しつつある。授業ではまず今日における地域史研究の問題関心のありよう、地域として見た場合のヨーロッパについて講じた後、国民国家や国民経済を自明のものとする思考・知の枠組みをはみ出るような経済圏・生活圏の実体を、フランスとスイスの国境をまたぐ経済空間の具体例を通じて明らかにする。磐石にみえるフランス国民経済のなかに「フリー・ゾーン」という経済特区が200年も前に設定され、現存していることを知ることは現代の経済特区の理解にも役立つはずである。また、ミクロ・ヒストリー（国境地域史）の凝視・追跡を通じてマクロ・ヒストリー（フランス、スイス、イタリア、ドイツ、オーストリアの近代史・国民史）の理解を深めることができよう。	

授 業 科 目 の 概 要

(経済学部現代経済学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	総合科目 制度・歴史	社会思想史	この授業科目は、「経済」を人間性ととも論じた経済学者や社会学者の思想、および彼らを取りまく思想の歴史、時代背景などの考察と解説を講義形式で行うものである。個々の人間に着目するだけでは浮上してこない、集団としての全体性や統一性をそなえた「社会」のなかで、「経済」や「経済生活」はどのような意味合いをもつものとしてとらえられてきたのかについて深く考えていく。授業では、可能な限り翻訳された原典も参照しながら、思想家たちの生の主張を考察していく。古典を単なる古典として読み、理解することだけにとどめることはしない。古典のどの部分が現在のわたしたちの社会理解のために、生かされるのかを徹底的に追求して行く。	
専門科目	総合科目 制度・歴史	社会史	この授業科目は、絹織物、美意識、服飾ファッション、リゾート、メディアなどの社会史を取り上げていく。これらの多くは、「具体的な形として残るもの」の誕生、推移、廃退が想定され解説されることが多い。しかし、この授業では「形として残るもの」は象徴的なものだけを解説するにとどめ、できうる限り、これらの社会史を通して、日常の芸術、文化、生活の中に投影される「目にはみえない意識」の在処やその変化を深く考察していく	
専門科目	総合科目 制度・歴史	総合特殊講義 (家族関係と法)	この授業科目は、民法の家族法の課題について、相続問題を中心に考察するものである。夫婦・親子の家族関係を前提として、相続によって財産が移転する。相続制度は、相続権と相続分、寄与分、相続の承認と放棄、遺言による遺贈、遺留分制度などが複雑に錯綜し、当事者間の利害を公平に調整できる制度を構築するために、法改正が積み重ねられている。さらに、家族の身分関係をめぐる紛争が絡まって、相続財産を巡る紛争が生じている。判例など具体的な事案を通じて、家族法と相続制度の課題を検討する。	
専門科目	総合科目 社会理解	労働法	この授業科目は、労働法の理解を深めることを目標とする。講義では、労働者の募集・採用から始めて、配置転換・出向、人事考課・評価、教育訓練・能力開発、昇進・昇格、福利厚生そして労使関係に至る流れに沿って解説を行う。労働契約法・労働基準法を中心に解説し、労働組合法、労働関係調整法、最低賃金法、職業安定法、労働者災害補償保険法、労働者派遣法、男女雇用機会均等法、高齢者雇用安定法等の法規についても、適宜、解説を加える。労働法の知識は労使いずれにとっても必須の知識である。戦後の日本経済の成長を支えてきた労使協調と言われた労使関係が、労働市場の流動化の中で、変化してきている。日本的経営の特徴と呼ばれる終身雇用制、年功制、企業内労働組合が、現実の企業の中でどう変化してきているのかを、実務と労働法とを関連づけさせて授業を行う。	
専門科目	総合科目 社会理解	企業会計	この授業科目は、企業会計について学ぶ講義形式の科目である。現代の企業は投資家等から資金を募り、投資家等に対して活動成果を報告する必要がある、そのための手法の一つが企業会計である。企業の経営成績や財政状態を知るには、会計情報に関する知識を持つことが不可欠になっている。授業では、組織における企業会計の役割、企業会計の目的、そして会計情報を一連の規則にしたがって作成した財務諸表の読み方を学ぶ。	
専門科目	総合科目 社会理解	社会理解実践講義	この授業科目は、諸分野で活躍している実務経験が豊富な講師が実社会での経験をもとに実践的な内容を講義するものである。この授業では、他の科目を学ぶことで得た知見をどのように現実の問題に適用すれば課題解決につながるのか、といった実践的な内容について、講義担当者が自らの経験をもとに講義し、これを通じて大学での学習をいかに社会問題の解決へ活かすのか、その実践を考察する機会を提供するものである。	

授 業 科 目 の 概 要

(経済学部現代経済学科)

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	総合科目	社会理解	経済実務講義	この授業科目は、実務経験が豊富な講師が国内外での経験を踏まえて実践的な内容を講義し、日本経済や世界経済に対する学生の関心と理解を深め、日々発生する経済事象について学生一人ひとりが独自の意見を持てるようになること、またそれを他者に説明できるようなコミュニケーション力を習得することを目的とした講義形式の科目である。学生には講師との討論等を通じて世界の動向を学び、社会に対する理解を深めることが求められる。	
専門科目	応用発展科目	企業経済科目	産業組織論A	この授業科目は、市場競争のメカニズムと企業の戦略的行動について学ぶことがテーマである。具体的には、企業が活動を行う産業の市場構造の違いが企業の行動にどのような違いを生じさせるのかを講義を通じて見ていく。競争的な市場で活動している企業と独占的な市場で活動している企業の行動にはどのような違いがあるのか。市場が競争的かどうかというのは、どうやったら分かるのだろうか(市場とは国内市場のことか、国際市場のことか?)。企業が海外でも活動を行う現在では、産業や市場をどの範囲でとらえたらよいかを考える。	
専門科目	応用発展科目	企業経済科目	産業組織論B	この授業科目は、市場構造や政策と企業の戦略的行動の関係について学ぶことがテーマである。具体的には、市場集中度やカルテル、M&Aなどのテーマを通じて、企業の成長戦略や競争を促進するための規制と企業活動の国際化に対応した規制の流れを学ぶ。また、企業と消費者の間には製品に対する情報の格差がある。企業は自分たちの販売する商品の良さをどうやって消費者に伝えようとするのか。情報が完全でない場合、消費者はどのような政策によって保護されるのか。不必要な規制が緩和されると、どのような効果をもたらされるのかなどを、講義を通じて学習していく。	
専門科目	応用発展科目	企業経済科目	組織の経済学	この授業科目は、企業という組織の内部に焦点をあてて、経済学的視点から分析することが目的である。民営化、企業の合併・買収、従業員の報酬制度、取締役会制度や監査制度など、新聞には経済組織に関する記事が毎日のように載っている。これらの現象をばらばらにみるのではなく、統一的な経済学的視点から捉えることが組織の経済学の目的である。企業組織内のモチベーション(動機付け)、企業間関係と契約、企業の資本構成とインセンティブ、組織のデザインなど、従来は経営学で扱われてきた対象を、経済学的手法を用いて分析する。	
専門科目	応用発展科目	企業経済科目	法と経済	この授業科目は、法律や規制がわれわれの行動にどのような影響を与えるのか、またどのような法律や規制が社会的に望ましいかを考えることをテーマとする。企業も消費者も決められたルールのもとで、利潤や効用最大化を目的として意思決定をし、行動している。そのルールというのが、我々の社会では法律や規制である。ルールが変われば、企業や消費者の行動も変わる。本講義では、「法と経済」の基礎的分析手法である経済学的思考の基礎を学ぶ。また、「法と経済」の分野で取り扱われるさまざまなトピックスについて、経済学の観点から検討する。	
専門科目	応用発展科目	企業経済科目	国際経済学A	この授業科目は、国際経済学を理論・データ面双方から学習するものである。国際経済学の理論に対し、現実の国際貿易・資本取引がどのように推移しているのか、そしてそれは各国通商政策、通貨政策、貿易協定により影響を受けているのか否かを確認し、理解を深める。理論面では、リカードの定理、ヘクシャー・オリーンの定理などをもとに貿易政策のあり方を検証する。データ面では、日本企業の貿易取引、直接投資を通じた進出状況などについて講義を進めることとする。	

授 業 科 目 の 概 要

(経済学部現代経済学科)

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	応用発展科目	企業経済科目	国際経済学B	この授業科目は、ミクロ経済学・国際経済学の理論を土台として、現実の日本企業、外国企業がどのような国際戦略を展開しているのかを事例を踏まえながら解説するものである。自動車産業ではトヨタ vs. フォルクスワーゲン、医薬品産業では武田薬品 vs. ファイザー製薬など、電子産業ではソニーvs. サムスン電子など、具体的な企業のM&A戦略、国際販売戦略、研究開発イノベーションの動向を学ぶことで、ミクロ経済学・国際経済学の理論と実際について学習する。	
専門科目	応用発展科目	企業経済科目	労働経済学	この授業科目は、ミクロ経済学を応用することで労働者と企業の行動、労働市場の機能、そして政府の役割など、労働経済学の理論と労働市場の現状と課題について講義するものである。労働需要と労働供給、労働市場の均衡、賃金の決定理論、教育訓練と人的資本理論、昇進、労働移動（転職・再就職）、雇用と失業、労働時間、定年制度などのトピックスを通じて、理論と労働経済に関する統計指標の理解をめざす。また、現在の労働市場における課題として、若年失業者、非正規労働者、女性労働やワークライフバランス、高齢者就業などのトピックスを取り上げ、その現状と政策動向について解説する。	
専門科目	応用発展科目	企業経済科目	企業を取り巻く法律	この授業科目は、企業社会において生起する事象に関連する法律として、商法・会社法を中心に、契約法（民法）、金融商品取引法、独占禁止法、労働法など、企業をとりまく法律の基礎を学ぶ講義形式の授業である。いかなる企業の経済活動も、法律と無縁ではいられない。法律は、企業が経済活動を行う上で守るべきルールであると同時に、経済社会を支える重要なインフラでもある。実務における取引事例、新聞で報道されているトピックスや最近話題となった裁判例等も随時紹介しながら授業を進めていく。	
専門科目	応用発展科目	企業経済科目	企業経済特殊講義（観光と経済）	この授業科目は、近年、注目を浴びている観光の経済学について、理論的・実証的に解説を行うものである。日本および世界経済の主要産業として、観光産業は大きく注目されている。観光の経済効果は甚大であるため期待も大きいですが、需要の不安定性に伴う大きなリスクがあるとともに、国内外で競争は激化している。この授業では、観光およびツーリズムというサービスの特徴、需要者行動と観光産業の分析、情報革命と規制緩和への対応、運営体制や資金調達などに関して、事業者の先進的事例や着地型観光の成功事例を通じて具体的に学修する。	
専門科目	応用発展科目	企業経済科目	企業経済特殊講義（企業の社会的責任）	この授業科目は、企業の社会的責任(CSR)の世界的潮流、日本CSRの歴史と限界、CSRの主要論点とともに、社会的課題から考える「CSR経営」における実践領域と情報開示(CSR報告書やコミュニケーション)、さらにCSR経営の評価について講義を行う。近年、CSRへの取組みが国内外で進んでいる。グローバル時代には、ブランディングやビジネスチャンスとともにリスクマネジメントの観点からも企業経営に不可欠の考え方である。企業は単に利益だけを追求する組織ではなく、「社会の公器」である。新しい学問・実践領域ゆえ、基本的なCSRの考え方を提示したうえで「企業実態」をみながら理解の深化に力点をおく。	
専門科目	応用発展科目	金融経済科目	ファイナンスA	この授業科目は、現代ファイナンス理論を資金循環勘定、銀行システムの構造、証券市場、ポートフォリオ理論の4つの観点から学習するものである。日本経済の資金循環の構造を理解した上で、その中で銀行システムが果たす役割、証券市場がもたらす影響を学び、企業、家計、機関投資家がどのような投資を実施すべきであるのかについても学習する。ファイナンス理論を学習する過程では、証券アナリスト等が重視する財務指標、株価指標などへの理解を深めることとする。	

授 業 科 目 の 概 要

(経済学部現代経済学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	応用発展科目 金融経済科目	ファイナンスB	この授業科目は、コーポレートファイナンス理論を学ぶことで、企業の活動についての理解を深めるものである。企業の生産活動、設備投資、研究開発投資に際する資金調達活動が、実際の損益計算書、貸借対照表にどのように計上されているのかを学び、また資本の所有構造がこうした経済活動にいかなる影響をもたらすのかを併せて学習する。日次株価データを用い、企業価値の算出方法を学んだ上で、今日の企業経営において、いかなる財務戦略が企業価値最大化をもたらすのかも、同時に解説する。	
専門科目	応用発展科目 金融経済科目	金融論A	この授業科目は、現代経済における金融取引の基本的な役割を説明する講義形式の科目である。特に、金融取引の基本的役割を理解することや、資金循環統計をもとに日本経済の特徴を金融面から理解するのに役立つようなトピックスを扱う。具体的には、複雑な金融システムを資金需要、資金供給からなる単一の資金市場に単純化する貸付資金市場のモデルを用い、家計、企業、政府、海外の資金取引の相互依存関係を説明する。そこで、政府による巨額の財政赤字、日本銀行による非伝統的金融政策、企業の資金需要の低下、巨額の対外純資産の保有と言った日本経済の金融面での特徴について解説する。	
専門科目	応用発展科目 金融経済科目	金融論B	この授業科目は、現代経済における金融システムの基本的な機能を説明する講義形式の科目である。特に、金融取引のもつ異時点間の資源配分機能やリスクの配分機能に注目し、金融システムを構成する金融市場、金融機関の意義・役割を理解するのに役立つようなトピックスを扱う。具体的には、銀行を中心とする金融システムと金融市場を中心とする金融システムについて説明し、それぞれの下での家計の資産形成、企業の資金調達行動がどのような特徴を持つのかを説明する。また、戦前から現在にいたるまでの日本の金融システムの歴史の変遷についても説明し、日本の金融システムの将来像について考える。	
専門科目	応用発展科目 金融経済科目	金融に関する法律	この授業科目は、金融システムを支える「法律」を、以下の2つの側面から解説する。第一は、我が国の法体系と、国民経済上重要な金融システムを国が規制することにより、利用者（預金者・契約者・投資者等）を保護すると共に、金融システムの安定・健全性を確保する「金融監督法」の分野である。第二は、金融機関と利用者との間の金融サービスの取引の内容、利害を調整するための「金融取引法」の分野である。この授業で取り上げる金融サービスは「伝統的金融サービス」とするが、最近の動向についても重要なものは解説する。また、消費者の観点から、商品内容や法律の仕組みの他に、金融サービスのポイントや注意点を含めて解説する。	
専門科目	応用発展科目 金融経済科目	国際金融論	この授業科目は、マクロ経済学や金融論の応用分野として、国際金融の現状、制度、及び、理論の領域を扱う講義である。世界全体としては、複数の通貨が流通しており、このことから生じる「通貨と通貨の交換性」、「外国為替制度」、「為替レート変動」、及び、「国際資本移動」などが主たるテーマとなる。また、外国為替制度の歴史的展開、中央銀行の政策、国際金融市場、金融危機とその波及、及び、国際金融機関の役割などについて制度的・理論的な検討を踏まえつつ現代的な国際金融の課題を紹介する。	
専門科目	応用発展科目 地域・環境科目	環境経済学A	この授業科目は、環境問題とその解決策について経済理論の観点から論じるものである。環境問題と経済活動を切り離すことはできず、その解決には環境だけでなく経済的な側面も考慮する必要がある。講義の前半は環境経済学の基礎理論として、外部性と外部性下の余剰分析を紹介する。さらに基礎理論を踏まえて、代表的な環境政策とその効果について論じる。講義の後半は、情報の非対称性など、より具体的・現実的な経済状況を想定し、そのような経済でも有効な環境政策のデザインについて紹介する。	

授 業 科 目 の 概 要

(経済学部現代経済学科)

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	応用発展科目	地域・環境科目	環境経済学B	この授業科目は、日本と世界の環境政策の歴史や現状について経済学的観点から論じるものである。日本における環境政策は、主に公害対策や自然環境保護から発展した。その後、廃棄物、資源・エネルギー、気候変動など、取り組むべき環境問題は広がり続けている。また、環境政策のデザインにおいて、政治的背景や産業界・市民団体など様々な要素が影響しあっている。これを経済学的枠組みで解釈しながら、世界のいくつかの環境政策についても併せて講述し、日本の政策と比較する。	
専門科目	応用発展科目	地域・環境科目	都市経済学	この授業科目は、土地市場と住宅市場を中心に都市における様々な問題を経済学の立場から分析することを目的としている。土地や住宅は、通常の財とは異なり、消費財と投資財の性質を併せ持ち、空間というディメンションを持つ異質な財サービスである。土地・住宅市場がどのように機能するのか、他の財サービス市場と比較しながら分析を試みる。また、土地・住宅問題だけではなく交通混雑、ゴミ問題、教育問題、都市財政といった都市が抱える諸問題は、市場の失敗のひとつである外部性の問題として捉えることができる。これらの分析を通して様々な都市問題を主体的に考えるための基礎力の習得を目指す。	
専門科目	応用発展科目	地域・環境科目	経済地理学A	この授業科目は、経済地理学のなかでも、産業立地に関わる諸問題を扱う。産業活動がどこに立地するかという命題は、地表空間上でのモビリティが格段に上昇した現代においても、企業や地域の成長戦略上、また公共政策上も重大な問題となっており、本講義では、経済地理学の枠組みを紹介した上で、その柱をなす産業立地論についてなるべく詳細な事例を交えて概説する。具体的には、前半はチューネンの農業立地論、ウェーバーの工業立地論、クリスターの中心地論、マーシャル、ヴァーノンらの産業集積論など古典的立地論より構成し、後半は産業立地をめぐる現代的諸問題を考える構成とする。	
専門科目	応用発展科目	地域・環境科目	経済地理学B	この授業科目は、経済地理学のなかでも、地域経済や地域政策に関わる諸問題を扱う。20世紀における地域経済政策は、理論的には経済的基盤説、地理的乗数理論、成長極理論などに立脚してきたが、近年では、グローバル化や知識経済化の中で産業クラスター論や制度・文化的議論など様々な方向に展開している。本講義では、まず、イギリスにおける産業分散政策やアメリカ合衆国のTVA事業など、20世紀初頭の先進諸国における地域政策の芽生えをみた上で、地域経済成長に関わる諸モデルを概説し、その上で、日本における地域経済政策の歩みと今日における様々な取り組みを考察し、持続可能な地域経済社会づくりの探究につなげていく。	
専門科目	応用発展科目	地域・環境科目	地球環境問題	この授業科目は、地球の自然環境の本来の姿を理解するために、地球環境システムの基礎を学び、さらに地球上でおこっている様々な環境問題について、問題発生メカニズムから現在行われている対策の有効性等について議論するものである。地球環境は様々な系から成り立ち、それぞれがバランスをとりながらうまく循環している。その地球環境システムの基礎的な事項を理解することを第一の目標とする。そして文明創成期以降の人間活動による地球環境への様々な影響・問題について、地球温暖化やオゾン層破壊、砂漠化、土壌・大気汚染などを取り上げて、その発生メカニズムや対策について理解を深めたいうえで、最終的には個々の学生が有効な対策を提案し、互いにディスカッションできる力を身に付けることを目指す。	

授 業 科 目 の 概 要

(経済学部現代経済学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	応用発展科目 地域・環境科目	資源経済学	この授業科目は、経済を発展させるための経済活動である経済開発と資源について学修する講義科目である。経済の発展は人類の歴史において究極の目標であったが、20世紀以降の飛躍的な技術革新と経済開発の成果を全人類が平等に享受しているわけではない。なぜ、農業国である発展途上国の人々が飢え、工業国である先進国で食糧が余っているのだろうか？食糧やエネルギー資源は枯渇してしまうのだろうか？人類の英知と経済活動は資源の制約を乗り越えられるのだろうか？この授業は地球上の資源（食糧、エネルギー、人間）に着目しつつ、「資源制約のもとでの経済開発」という経済学にとって重要なテーマを実証的に学ぶことにより、現代の世界経済が直面する諸問題への理解を深めることを目的としている。	
専門科目	応用発展科目 地域・環境科目	環境と法	この授業科目は、公害と被害者救済・地域再生、廃棄物の処理、循環型社会、地球温暖化対策、生物多様性など環境問題に対応する「環境基本法」を中心とする環境法分野の法制度について、国内法の制定・改正を基礎づけている国際条約を踏まえながら考察するものである。深刻な社会問題となっている具体的な紛争事案について、法制度を通じてどのような解決がなされているか、判例資料や統計資料なども活用して、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な到達目標」の観点から、環境法の到達点と課題を検証する。	
専門科目	応用発展科目 地域・環境科目	地域・環境特殊講義（環境社会学の基礎）	この授業科目は、環境問題を通して、自然環境と人間のあり方を講義形式で考えていくものである。いま目の前で発生している自然環境の破壊の現状だけにとどまらず、自然環境破壊が発生するようになった原因や背景を深く探り、その思索を現代社会の考察に生かしていくことを学生たちにうながすことをしていく。授業では、水俣病被害調査や捕鯨問題等を通して、被害（加害）構造論、受益圏・受苦圏論、社会的ジレンマ論、生活環境主義などを理解し、「人間/自然」「社会/自然」がどのような形で折り合いをつけていくことが「できるのか/できたのか」を探りながら、いまなお解決されることのない環境問題をさまざまな観点から考察していく。	
専門科目	応用発展科目 地域・環境科目	地域・環境特殊講義（交通経済学）	この授業科目は、交通経済学の知見に基づいて、人々の日常生活において用いる交通、すなわち地域内交通の範囲内での事象を中心に、交通に関する諸問題を考察する。近年、地方圏では過疎化ないしは少子高齢化が原因となって鉄道やバス路線の廃止が相次いでいる。他方、大都市圏においても新しく開業した通勤鉄道が経営赤字を抱えていることが少なくない。採算性の悪い公共交通を単純に廃止してしまえば、その交通手段の沿線の居住環境が悪化することによって、さらなる人口減少や不動産価値の下落などを招く可能性がある。本講義では、交通需要関数や交通手段選択理論、運賃制度といった交通経済学の基本的概念について説明するとともに、具体的な地域交通市場における諸問題と交通政策について紹介し考察を深めていく。	
専門科目	応用発展科目 公共政策科目	財政学A	この授業科目は、わが国の制度や政策との関連で「財政」の役割と仕組みを解説し、あわせて今日の主要な財政問題に関する議論を展望し整理する。政府の経済的役割とその実行のための手段手法の理解、わが国の財政の制度としくみの理解、さまざまな課税および公債発行が民間の経済活動に及ぼす作用の理解、およびわが国の財政の現状の理解を踏まえて、今日の財政問題とその解決策を主体的に考えるための基礎力の修得を目指すものである。	

授 業 科 目 の 概 要

(経済学部現代経済学科)

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	応用発展科目	公共政策科目	財政学B	この授業科目は、経済学の視点から、地方財政の現状と課題について考える。わが国は財政的にも長らく中央集権的な国家であり続けたが、バブルの崩壊以降、にわかに分権論議が高まり、都市・地方が今後どのようにしていくか不透明な部分が多い。この授業は、都市・地方が抱える課題（財政悪化、グローバル化、高齢化など）を踏まえ、これからの地方財政のあり方を主体的に考えるための基礎力の習得を目指す。取り扱うテーマは地方政府の役割と財政制度、自治体運営と財政、地方税体系と改革、政府間財政関係、地方債、NPM（ニューパブリックマネジメント）などである。	
専門科目	応用発展科目	公共政策科目	公共経済学	この授業科目は、効率性と公平性という観点から市場経済における政府（公共部門を含む）の役割について学ぶことを目的とする。市場が効率的である（無駄のない状態を実現する）ためにはどのような条件が必要か。どのような状況において政府の介入は正当化されるのか。政府が市場に介入するとしてもっとも効果的な方法はどのようなものか。政府がとる政策はインセンティブや行動にどのような影響を及ぼすのか。こうした疑問に答えるべく基礎的なミクロ経済学のツールを体系的、網羅的に学びながら、公共政策の分析・評価をするための素地を養う。	
専門科目	応用発展科目	公共政策科目	教育経済学	この授業科目は、個人が教育を受けるメリットや、教育が社会・経済に与える影響について、経済学の分析手法を用いて説明する講義形式の科目である。まず、基礎的な理論である人的資本論とシグナリング理論を説明し、高等教育機関の存在意義について検討する。次に、政府が教育政策を行う意義について説明し、日本における教育制度と財政の仕組み、および少子高齢化社会における教育財政の課題について解説する。そして、教育が経済成長や所得格差に与えるマクロ的影響を考察する。	
専門科目	応用発展科目	公共政策科目	社会保障論A	この授業科目は、社会保障の基礎理論と公的年金制度の仕組みと諸問題を経済学のツールを用いて講義する。まず、社会保障の基礎理論として、社会保障の機能、社会保険と民間保険の違い、社会保障財政と再分配政策などを学んだ上で、公的年金制度の仕組み、公的年金の財政方式、公的年金制度が労働供給や家計、貯蓄率等の経済に及ぼす影響、少子化問題や就業形態の多様化などの社会経済要因との関わりなどを解説する。あわせて年金改革の動向などを講義し、公的年金制度の知見を深めることとする。	
専門科目	応用発展科目	公共政策科目	社会保障論B	この授業科目は、社会保障制度のうち、社会福祉分野に該当する各種制度と社会福祉サービスの市場の機能・役割について経済学のツールを用いて講義する。社会福祉の根幹である貧困問題（生活保護と貧困の測定方法）、対人福祉サービス（児童福祉制度、障害者福祉制度、高齢者福祉制度の仕組みと財政、サービス供給の問題等）、労働保険（雇用保険・労災保険）、最低賃金制度などの各制度の仕組みと問題点、福祉サービスの供給主体の多様化にともなう市場のあり方、準市場原理について学修する。	
専門科目	応用発展科目	公共政策科目	医療経済学	この授業科目は、医療サービスの経済的な側面について講義を行う。具体的には、医療保険の基本的理論（情報の非対称性、逆選択、モラルハザード）、医療における価格・計画、競争・規制、診療報酬と医師の行動、自己負担と患者の行動、医療資源の最適配分、医療サービスの効率化などの医療経済学の基本的事項について解説した後、健康の経済学分野として、所得分配と健康格差、生活習慣病と医療費、経済要因による行動変容（肥満、たばこや酒などの税と消費行動）などについて講義を行う。適宜、諸外国との医療制度の国際比較について解説する。	

授 業 科 目 の 概 要

(経済学部現代経済学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	応用発展科目 公共政策科目	ベーシック民法	この授業科目は、2017年の民法（債権法）改正を踏まえて、市民生活・社会経済生活に関わる、契約（売買、賃貸借、金銭消費貸借など）、不法行為（交通事故、医療事故、製造物責任など）、所有権（共有・区分所有、登記制度など）について、民法の基本的ルールと公共政策との関連性を解説するものである。まず、民法の基本的な制度や条文について概説し、さらに、判例などを参照して具体的な事案を考察することを通じて、市民生活・社会経済生活において、民法のルールがどのように適用されてどのように機能しているのか理解できるように解説する。	
専門科目	応用発展科目 公共政策科目	公共政策特殊講義	この授業科目は、公共政策にかかわる特化したテーマを扱うものである。20世紀半ばに確立した福祉国家の社会経済システムは、終身雇用、世帯賃金という前提の上に、充実した社会保障政策によって成り立っていた。しかし、女性の社会進出、未婚者・晩婚者の増加といったライフコース上の変化、少子高齢化に象徴される人口構成上の変化、また財政上の困難に直面し、今日、福祉政策のあり方が問われていると言わなければならない。本講義においては、福祉国家の変容の構図を理解し、社会福祉・社会保障に関する諸政策を取り上げて検討していく。	
専門科目	応用発展科目 公共政策科目	政策課題演習	この授業科目は、都市、産業、企業、金融、交通、社会福祉、医療、労働、環境などの分野における重要な課題を解決するための政策に関して、提示された特定のテーマについて、演習形式の授業において、報告と議論を通じて考察するものである。演習形式で授業を進めることによって、政策的思考を通じて社会問題を解決する能力を身につける。このような問題解決能力を活かして、大学卒業後に就業する場で活躍し、社会に貢献できるようにする。	
専門科目	応用発展科目 EAGLE国際教養科目	International Business	この授業科目は、「企業活動の国際化とはどういうことか?」、「その国際化はどのようにして行われるのか?」、「なぜ企業は国際化するのか?」、「国内経営にはない、国際経営ならではの課題にはどのようなものがあるか?」といった問題関心に沿って、最近の事例をまじえつつ、企業活動の国際化についての理解を深めることを目的とする。国際戦略（国際分業の方針）、国際マーケティング、貿易と国際産業立地、国際戦略提携、グローバル・ブランド戦略、国際的な財務戦略などのトピックについて学ぶ。なおこの授業は、日本語を補助的に用いる場合を除き、原則として英語で授業を行う。	
専門科目	応用発展科目 EAGLE国際教養科目	Japanese Economy	この授業科目は、日本経済の近年の歴史、現在の日本経済が抱えている課題について学び、今後の日本経済の動向について理解を深める。日本経済は長期的に見ると、少子高齢化のため経済成長の減退が懸念されている。バブル景気とその崩壊後の経済停滞、及び2000年代の世界的な金融危機によって日本経済が直面した問題を検討する。新聞や雑誌などで報道される経済記事を理解できるようにすることを目的とする。なおこの授業は、日本語を補助的に用いる場合を除き、原則として英語で授業を行う。	
専門科目	応用発展科目 EAGLE国際教養科目	Current Topics in Business and Economics	この授業科目は、経済学と経営学に関する様々な副題（トピック）の授業を講義する。例えば「日本的経営」という視点から日本経営史について学んだ上で、日本企業が直面するグローバル化の問題について考察する。そして日本企業の経営のあり方についての見識を培う。あるいは「現代日本経済史」というテーマの授業の場合、20世紀以降の日本経済の発展について学び、現代の日本における経済的事象を世界情勢との関係の中で理解する力を養う。なおこの授業は、日本語を補助的に用いる場合を除き、原則として英語で授業を行う。	

授 業 科 目 の 概 要

(経済学部現代経済学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	応用発展科目	EAGLE国際教養科目 International Relations	この授業科目は国際政治の大きな潮流を俯瞰しながら、現下の国際情勢への理解を深めることを目的とする。より具体的には、冷戦終結以降の国際政治の動向を踏まえつつ、世界で起きている種々の緊張や危機に目を向ける。アクターが多様化し、パワーバランスの変化が著しい時代に、どのような緊張と危機が生じているかを具体的な事例とともに解説していく。そして国家間に見られる緊張関係、特に大国間における戦略的競争の推移に留意しながら、21世紀の新たな国際環境のなかで日本がとるべき道について考察を巡らせる。なおこの授業は、日本語を補助的に用いる場合を除き、原則として英語で授業を行う。	
専門科目	応用発展科目	EAGLE国際教養科目 Regional Studies	この授業科目は、特定の国に焦点を当て、その国の歴史と文化を概観するとともに、世界との関わりを学ぶものである。とりわけ英語が発祥した英国の歴史と文化を学ぶことを主眼とする。古代および中世の英国の歴史・文学・文化、さらにはこれらに関連した語彙を学ぶとともに、こうしたテーマについて自身の考えを積極的に発信できるよう理解を深めていく。英国文化がどのように形成されたのかを学びながら、英語能力を高め、クリティカル・シンキングを向上させることを目標とする。なおこの授業は、日本語を補助的に用いる場合を除き、原則として英語で授業を行う。	
専門科目	応用発展科目	EAGLE国際教養科目 Current Topics in Global Issues	この授業科目は、国際関係の協調的な側面に着目しつつ、世界の共通課題に国際社会がいかに取り組んでいるのかを検証するものである。国際関係においては特定の課題をめぐり利害対立が起きる一方で、地球規模の課題(グローバル・イシューズ)に各国が協力して対処しようという機運も形成される。この授業科目ではグローバル・イシューズのなかでも特に注目されるトピックを選びながら、問題の背景や現状、今後の課題について論じていく。なおこの授業は、日本語を補助的に用いる場合を除き、原則として英語で授業を行う。	
専門科目	応用発展科目	EAGLE国際教養科目 Japanese Contemporary Issues	この授業科目は、おもに日本の現代の文化(アニメ、映画、小説)などと現代の日本の政治情勢との関連を読み解くことを目指す。その目的は、単に現代文化を娯楽として消費するのではなく、文化研究の一環としてそれを分析することにある。その文脈で、ジェンダー、セクシュアリティ、人種などの「差異」が重視されることになるだろう。その意味で、前述の政治情勢とは、必ずしも顕在的なものではなく、一見したところ不可視で潜在的なものも含まれることになる。なおこの授業は、日本語を補助的に用いる場合を除き、原則として英語で授業を行う。	
専門科目	応用発展科目	EAGLE国際教養科目 Japanese Traditional Culture	この授業科目は、英語文献・視聴覚資料を参照し、英語で行われる講義を受けることで、日本の「伝統文化」について日本社会と英語圏社会がどのように理解してきたかを学び、両者の理解のしかたの違いを知り、そのことを通じて、単に日本の伝統文化についての基礎知識を得るだけでなく、日本の伝統文化について英語圏の人々が興味を持つように英語でプレゼンテーションができるようになることを目指す。扱う対象は、歌舞伎、能狂言、落語などである。また教室での講義だけではなく課外でこれらの伝統文化を鑑賞し、実践することを推奨する。なおこの授業は、日本語を補助的に用いる場合を除き、原則として英語で授業を行う。	

授 業 科 目 の 概 要

(経済学部現代経済学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	応用発展科目	E A G L E 国際教養科目	<p>この授業科目は、今日の変化する世界を文化や社会の視点から考察することを趣旨とする。文化を幅広い意味でとらえ、諸文化の接触や変化、多様な文化的背景をもつ人びとの共生、文化面での活動や政策を通じたよりよい世界の構築といったテーマを探求する。受講者は、資料分析、討論、プレゼンテーションなどを通じ、これらのテーマへの理解を深めるとともに、批判的に考え、自分の意見をまとめ、表現できるようになることを目標とする。なおこの授業は、日本語を補助的に用いる場合を除き、原則として英語で授業を行う。</p>	

授 業 科 目 の 概 要				
(経済学部現代経済学科)				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	広域基礎科目	日本史概論Ⅰ	この授業科目は、旧石器時代から江戸時代までの前近代日本史を対象とし、旧石器、縄文時代、弥生時代の特徴、古墳時代、奈良時代、平安時代、鎌倉時代、室町時代、戦国時代、江戸時代の各時代の政権や幕府の構造とその変化をめぐる政治の動きと社会と経済の変動、文化のあり方の歴史の流れのポイントを認識し、その歴史認識の基礎になっている史(資)料の取り扱い方を理解し、受講生が自ら学習を深めていけるようにすることを目標としている。	
専門科目	広域基礎科目	日本史概論Ⅱ	この授業科目は、幕末から現代までの近現代日本史を対象とし、幕末、明治時代、大正時代、昭和から現代までの政治の動きと社会と経済の変動、文化のあり方の歴史の流れのポイントを、世界の歴史の動きとの関連で認識し、その歴史認識の基礎になっている史(資)料の取り扱い方を理解し、受講生が自ら学習を深めていけるようにすることを目標としている。	
専門科目	広域基礎科目	世界史概論Ⅰ	この授業科目は、前近代世界史の基本的な流れを理解し、「古代文明・古代帝国と地域世界の形成」「中央ユーラシアの発展と東アジアの再編」「唐宋変革」と「中央ユーラシア型国家」の時代」「ユーラシア西方の変動と新しい地域世界の成立」「海陸の交流とモンゴル帝国」「モンゴル帝国とアフロ・ユーラシアの「グローバル化」「明を中心とする国際秩序」「後期帝政期中国の文化」「西アジア・南アジアの近世帝国」「ルネサンスと西ヨーロッパ「近代」の胎動」「ヨーロッパ人の世界進出と「近代世界システム」の形成」「銀と火器による東アジアの激動」「東アジア諸国の「鎖国」「アジア伝統社会の成熟」について、受講生が内容をまとめることで、それぞれの時代のそれぞれの地域の歴史を簡単に説明でき、歴史的に考える力を身につけることを目標とする。	
専門科目	広域基礎科目	世界史概論Ⅱ	この授業科目は、近現代世界史の基本的な流れを理解し、「イギリスとフランスの覇権争奪」「イギリスの工業化」「環大西洋革命の展開」「「パクス・ブリタニカ」の成立」「欧米の国民国家建設と工業化」「近代化と大衆社会の萌芽」「イスラーム世界の苦悩」「南アジアの植民地化」「東南アジアの植民地時代」「東アジアの衝撃と模索」「アジア間貿易」とアジアの工業化」「帝国主義と第一次世界大戦」「アジアのナショナリズム」「戦間期」の繁栄と世界恐慌」「第二次世界大戦とアジア太平洋戦争」「戦後の国際秩序と「冷戦」「熱戦」「脱植民地化と新興国の国民国家建設」「平和共存」と高度経済成長」「ベトナム戦争とアメリカの覇権の動揺」「中ソ対立と社会主義の行き詰まり」「新自由主義と冷戦の終結」「開発と民主化」「イスラームの復興と挑戦」「グローバル化と反グローバル化」について、受講生が内容をまとめることで、それぞれの時代のそれぞれの地域の歴史を簡単に説明でき、歴史的に考える力を身につけることを目標とする。	
専門科目	広域基礎科目	人文地理学	人文地理学は人間活動の空間的諸相に関わる学問分野である。本授業科目は、教職課程の受講者に人文地理学の見方・考え方を身につけてもらうことを狙いとする。今日の人文地理学の研究対象、またアプローチは多様性に満ちているが、本科目は、地図の種類と活用法を学んだ上で、とくに景観的視点、空間構造視点を理解するために、集落・都市地理学、人口地理学、農業地理学といった系統地理学の各分野における古典的アプローチを中心に概説する。本講義を通じて、人文地理学を構成する各々の研究分野の初歩的な諸概念を理解するとともに、多様な地図資料等を用いて、また自ら作成することによって、景観・空間構造といった視点から地表上の諸事象を理解できることを目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要

(経済学部現代経済学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	広域基礎科目	自然地理学	自然地理学は、地形、気候、植生、土壌、生物などの自然環境について、形成のメカニズムやその空間的分布の特徴、時間的変化について、理解を深めていく学問である。本科目では、自然地理学の基礎的な知識とそれに関連する時事問題や自然災害などの応用的な知識を取得することを目指す。具体的には、地球上で起こっている様々な時空間スケールの環境変化や問題、自然災害などに関連した映像や写真、図表をもとに、自然環境にとどまらず、人間との相互関係について理解を深められるように解説し、自然地理に関する様々な主題図やグラフ、GIS を利用した読図をもとに、自然と人間の相互作用の空間分布や時間変化の特徴を読み取る地理的技能を身に付けることを目標とする。	
専門科目	広域基礎科目	地誌学	本授業科目では、地誌学の基本的調査方法と分析方法について学ぶ。地誌学は、中学校社会の地理的分野や高校地理の主内容を構成するものあり、学習指導要領では、日本の各地方地誌と世界の各地域の地誌を動的に把握するように指導されている。この講義では、地誌を網羅的に学ぶのではなく地誌学の基本的調査・分析方法を理解することを念頭において、日本地誌と世界地誌のそれぞれについて地理的スケールを変えながら複数の事例を取りあげて具体的に地域の特徴を検討する。あわせて、主題図の作成や人口統計等のグラフ化等によって、身近な地域を地誌学的に考察する方法を学ぶ。これらを通じて、地理的見方・考え方を理解するとともに、教育現場での指導に最低限必要な地理的技能を身につけることを目標とする。	
専門科目	広域基礎科目	現代の政治学	本科目は、政治学の基礎を政治思想から政治過程まで、地方自治から国際政治まで幅広く学ぶことを目標としている。「民主政治の起源」、「民主政治の変容」、「福祉と政治」、「民主政治のさまざまな仕組み」、「選挙」、「議会と政党」、「政策過程と官僚・利益集団」、「世論とマスメディア」、「地方自治」、「グローバル化」、「民主政治の現在」、「権威主義と民主化」を各授業のテーマとし、理論的な部分と歴史的な部分と現状分析的な部分とが組み合わせて展開することによって、日本と世界の現代政治を理解する基本的な用語(概念)と考え方を総合的に理解できるようにする。	
	教職課程の大学が独自に設定する科目	教職特論演習Ⅰ	この授業科目は、これまで履修・修得してきた教職科目を振り返り、丹念な確認によって不足や欠落を補い、「教職教養」と呼ばれる内容の総括的な、深い学び直しをする科目である。これは、「教師になる」ことを目指して学ぶ者にとって、採用者や学校現場のニーズに適切に対応し、教師への道を拓くための基礎的準備ともなる。「十分な知識と力量」「豊かな教養力」「人間と関わり・交わる卓越した力」だけではなく、「桃李成蹊の人」である教師となるため、志を同じにする仲間との対話や議論を通して、課題解決を図ることを中心に取り組む。	
	教職課程の大学が独自に設定する科目	教職特論演習Ⅱ	この授業科目は、これまでに、免許状取得要件となる教職科目の殆どを履修・修得し、教育実習を控える段階で、「教職教養」と呼ばれる内容を改めて総括する科目である。単なる知識の記憶再生に留まるのではなく、教育の本質に迫るものとする。これは、採用者や教育現場のニーズに適切に対応するとともに、それぞれの志望に合わせて、教師への道を実際に拓くことに直結する。教師に求められる資質・力量に加え、「桃李成蹊の人」としての教師を目指し、明日からの教育実践を支え得る土壌としての「知」を固めるために、同じ志を抱く仲間との学び合いの場とする。また、前年度からの成長・深化を確認しつつ、教育課題を演習的に探究し、調べ・考えた内容を、限られた時間と紙幅を活用して適切な論述ができる力の鍛錬・熟成にも力を注ぐ。	

授 業 科 目 の 概 要

(経済学部現代経済学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教職課程の大学が独自に設定する科目	学校経営と学校図書館	この授業科目は、情報社会において図書館が果たすべき機能、殊に社会教育及び学校教育という枠組みの中で、如何にして人の知的探求心に応えてゆくかを、多様な観点から考察することをテーマとする。授業では、図書館の起源より現在までの、社会的機能・位置付けの時系列的変遷と地理的相違を学習し、歴史的・地理的な必然性を理解する。次に、現在図書館が置かれている状況-教育・文化・技術-を知り、それが内包するあるいはその外延的な矛盾点・問題点を理解する。その上で、人類の知的所産としての著作物及び文化施設としての図書館を、どのように未来へ継承すべきかを考察します。書館史・資料文化・図書館運営・教育的機能を理解するための基礎知識と、応用力を身につけることを到達目標とする。	
教職課程の大学が独自に設定する科目	学校図書館メディアの構成	この授業科目は、学校図書館で収集、受入している資料(学校図書館メディア)について、資料の選択、収集、組織化(目標作成、件名付与、分類記号付与)、蔵書構築・評価等を取り上げ、講義と演習で理解を図っていく科目である。情報メディア(資料)の収集では、すべての資料を集めることはできないので選択が必要になり、その際に資料の評価や資料収集方針について学んで行く。その組織化では、図書館で収集した資料を利用者がスムーズに利用できるように、どのように資料を書架上に並べ、そして取り出しているのか、そのための仕組みはどのようにになっているのか、どのような道具(規則)が使われ、全国どこにおいても情報メディアを同じ分類記号を用いて書架上で利用できるのか、どのように標準化が図られているのか等を、演習を通して理解を図っていく。その集積としての蔵書では、その構築プロセスや評価法について学んでいく。	
教職課程の大学が独自に設定する科目	学習指導と学校図書館	この授業科目は、学校図書館を運営するうえで必要な技能を修得し、学習支援・自学能力を育成するための効果的かつ効率的な図書館利用指導への応用を実践的に身につける科目である。第一段階として、図書分類・図書目録の原理を理解し、多様な資料への応用を実践する。第二段階として、受講生自身が授業計画を立て、その為に必要な資料の体系的な選書を行うことで、図書分類・図書目録の効果的利用の指導方法を考える。第三段階として、資料の所属、所在調査、内容調査、書誌事項調査、事実事項調査等、およそ考えられる範囲での多様な参考調査を行う。それによって、図書館における資料の使い分け、資料・情報の効果的収集方法と提示方法等、学習期に習得すべき情報スキルの指導方法を実践的に考察する。	
教職課程の大学が独自に設定する科目	読書と豊かな人間性	この授業科目は、私たちの身近にある文章を「読む」ということは、どのような行為なのか、「読む」という行為の楽しみは、どのような経緯をたどって、私たち読者にもたらされるのかなど、読書の原点である「読む」ことの内実について学び、文章を読み解く楽しみの再発見を目指す科目である。さらに、読書周辺の楽しみ方として、文学散歩について学ぶ。実際に文学散歩を体験すると共に、任意の作品を選んで文学散歩の企画立案を行う。加えて、メディア・リテラシーについても学び、情報を批判的に取捨選択していく力を育てる指導について考える。	

授 業 科 目 の 概 要

(経済学部現代経済学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教職課程の大学が独自に設定する科目	情報メディアの活用	この授業科目は、学校図書館で選択・収集、受入、整理、蓄積、そして利用に供している多様な種類の情報メディア(図書館資料)の特性を解説、さらに実際にこれらの図書館資料の検索を通して学んで行く科目である。情報メディア(図書館資料)を対象としている『日本目録規則』1987年版改定3版が、2018年には新しい版になり、これらの情報メディア(図書館資料)の変化と共にその利用の在り方も変化を受けてきている。特に、速報性のある情報メディアの新聞や雑誌の利用の形が現在進行形のかたちで変化が起きている。視聴覚資料においても、LPレコードやカセットテープが若い世代に新鮮なものとして見直されたり、映画がネット配信されたりもしている。図書館もこれらの変化の動向をチェックしながら、また意見交換も取り入れながら情報メディア(図書館資料)の特徴を考察する。	
教職の教科及び教職に関する科目	教職論	この授業科目は、教育職員免許状取得のために必要な「教職の意義及び教員の役割・職務内容」に関する内容を行う科目である。我が国における今日の学校教育及び教職の社会的意義を理解し、公教育の目的とその担い手である教員の存在意義を理解し、進路選択に向け、他の職業との比較を通して、教職の職業的特徴を理解していることを到達目標とする。教職の意義や教員の役割について概説し、教職への意欲や適性等について受講者が多角的に考察する機会を提供し、進路選択の過程を支援する。また、教員の職務内容等について、具体的実践的に理解できるように簡単な演習やグループ討議などを行い、受講者が当事者としてのイメージをもてるようにする。	
教職の教科及び教職に関する科目	教育課程論	この授業科目は、教育職員免許状取得のために必要な「教育課程の意義および編成の方法」に関する内容を行う科目である。教育課程(カリキュラム)とは、「学校における子どもの学習体験の総体」とも言える。それは、子どもの学習体験をどうデザインするかということでもある。教育課程(カリキュラム)を、教科・科目の時間数や単位数の配分などに矮小化しがちだが、知識基盤社会、グローバル化、ICT化が進む中では、前例や常識に囚われず、本源的に探究しなければならない。目的の明確化、内容の策定だけではなく、実践と評価も統合したカリキュラム・マネジメントの視点が不可欠となる。そのため教育課程編成の大綱的基準である「学習指導要領」を熟知した上で、教育課程(カリキュラム)デザインの意義と思想、方法を獲得し、創造の担い手となる力を養う。	
教職の教科及び教職に関する科目	道徳教育の指導法	この授業科目は、教育職員免許状取得のために必要な「道徳の理論及び指導法」に関する内容を行う科目である。今日の学校教育は多くの課題を背負っており、その中心とも言える重要な課題は「心の教育」である。「いじめ防止対策推進法」施行から時間を経ても、相変わらず「いじめ」は後を絶たない状況である。この「心の教育」は道徳だけでなく、学校教育すべてにおいて、更には家庭や地域との連携において行われるものである。これからその核となるのが「特別の教科 道徳」である。道徳教育の本質・意義を理解し、教師としてどのように実践するべきなのか、具体的に考究していく科目である。	

授 業 科 目 の 概 要

(経済学部現代経済学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教職の教科及び教職に関する科目	総合的な学習の時間の指導法	この授業科目は、教育職員免許状取得のために必要な「総合的な学修の時間の指導法」に関する内容を行う科目である。変化の激しい社会に対応して、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てることをねらいとする科目である。従って、思考力・判断力・表現力等が求められる「知識基盤社会」の時代において、ますます重要な役割を果たすものとなる。上記の内容を、教科を超えて必要となる資質・能力の育成の観点から理解していること、さらに学習指導要領における総合的な学習の時間の目標並びに各学校において目標及び内容を定める際の考え方や留意点を理解していることが求められる。	
教職の教科及び教職に関する科目	特別活動の指導法	この授業科目は、教育職員免許状取得のために必要な「特別活動の指導法」に関する内容を行う科目である。教育課程（カリキュラム）の中に「特別活動」という領域が設けられているが、生徒を初め一般的には馴染みの薄いものとなっている。ともすれば「特別なもの＝余分なもの」と見られたりもする。しかし、学校は集団で学び・生活する場ですから、「豊かな人間関係の形成」「集団の意思決定と社会参画」及び「自己実現」の学びの場として、特別活動は極めて重要である。中学校・高等学校学習指導要領による「学級活動（中）・ホームルーム活動（高）」「生徒会活動」「学校行事」の3領域それぞれの歴史的背景を踏まえ、意義・実践・課題を理解し、教科指導・生徒指導・キャリア教育などとの関連、家庭や地域との連携を考えながら、指導のあり方を学んでいく。	
教職の教科及び教職に関する科目	教育方法論	この授業科目は、教育職員免許状取得のために必要な「教育の方法及び技術」に関する内容を行う科目である。本学教職課程の理念のうち、教職に関する深い教養と教育的技能の養成を目指し、学習指導要領等をふまえた教育の方法と技術について学習することを目的とする。豊富な実践事例を示し、これからの社会で求められる資質・能力の育成を可能とする多様な教育方法(授業デザイン、学習指導方法、ICTを含む教材作成、および評価方法等)についての基礎理論を学ぶ。併せて、それらの基礎理論を身につけて受講生自身の教育実践に適用できるように実践的な演習を行い、理解や思考の深化を目指す。	
教職の教科及び教職に関する科目	生徒・進路指導論	この授業科目は、教育職員免許状取得のために必要な「生徒指導」「進路指導及びキャリア教育」に関する理論と方法を学ぶ科目である。生徒指導とは、生徒一人ひとりの学校生活や発達上の問題の解決や、将来の希望の実現を指導・援助する学校教育サービスの一つである。本科目では、『生徒指導提要』や学校教育サービスの理論と技法の研究を主たる目的とする学問である「学校心理学」に基づき、中学生・高校生を対象とした生徒指導について考える(進路指導及びキャリア教育を含む)。具体的には、前半では現在の中学生・高校生の実態および教育上の課題を理解し、「学校心理学」を基盤とした生徒指導の在り方(心理教育的援助サービスのモデル)を学ぶ。後半では、具体的な生徒指導に関する事例を取り上げ、これらの課題の解決のために、教師はどのような生徒指導や進路指導及びキャリア教育を展開することが望ましいかを演習を通して学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要

(経済学部現代経済学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教職の教科及び教職に関する科目	教育相談	この授業科目は、教育職員免許状取得のために必要な「教育相談」に関する理論と方法を学ぶ科目である。教育相談とは、生徒それぞれの発達に即して、望ましい人間関係を育て、生活によく適応させ、自己理解を深めさせ、人格の成長への援助を図ることを目的とした教育活動である。いじめ・不登校・発達障害・非行など教育場面における問題は複雑かつ深刻化している。教師として、教育相談およびカウンセリングについて理解を深め、生徒理解に必要な心理学的知識と実践的な相談技術を習得することは必須である。したがって、1) 教育相談の意義と理論を理解する、2) さまざまな課題に関する基本的事項と具体的な教育相談の進め方を理解する、3) 教育相談を進める際に必要な基礎的知識(カウンセリングに関する基礎的事柄を含む)を理解する、4) 教育相談の組織的な取り組みや連携の必要性を理解する。以上四点をの到達目標とする。	
教職の教科及び教職に関する科目	教育実習論	この授業科目は、教育実習前にあたって、教育実習の意義と課題の確認を行い、教師という立場に必要な基礎知識を充実し、発声・話し方の音声コミュニケーション能力、板書・プリントづくりの文字媒体の作成能力のレベルを向上させ、教育実習に対する不安の解消を図り、誠実に取り組む必要性を認識し、教育実習に取り組む責任感、実習生としての立場の自覚とその心構えを養い、教育実習の実効をあげようとする意欲を育むことを授業内容とする。来年の教育実習に向け、事前に身に付けておくべき基礎的基本的知識・技能を修得し、教育実習の意義と課題の確認をすることができること、教育実習において、教師という立場で必要な基礎知識を充実させることができること、発声・話し方の音声コミュニケーション能力、板書・プリントづくりの文字媒体の作成能力のレベルを向上させることを到達目標とする。	
教職の教科及び教職に関する科目	教育実習(中・高)	この授業科目は、教育実習に取り組む必修科目である。教育実習に行く意義と課題を明確にし、その取り組む内容の確認を行う。その内容とは、教育実習中におけるすべての活動の常識も含めて、教科指導の実践力まで、丁寧に実施する。その後、教育実習が行われ、その研究授業については大学教員を派遣する。教育実習から戻ってくると事後学習において、その振り返りをする。教育実習における観察、自らの教育実践の成果と事前から設定していた研究課題についての省察を行う。なお、「教育実習(中・高)」は、中学校の教育職員免許状または中学校および高等学校の免許状を取得しようとする学生向けで、中学または高校での教育実習を3週間(120時間)以上行うこととする。	
教職の教科及び教職に関する科目	教育実習(高)	この授業科目は、4年次において教育実習に取り組む必修科目である。教育実習に行く意義と課題を明確にし、その取り組む内容の確認を行う。その内容とは、教育実習中におけるすべての活動の常識も含めて、教科指導の実践力まで、丁寧に実施する。その後、5月から11月にかけて教育実習が行われ、その研究授業については大学教員を派遣する。教育実習から戻ってくると事後学習において、その振り返りをする。教育実習における観察、自らの教育実践の成果と事前から設定していた研究課題についての省察を行う。なお、「教育実習(高)」は、高等学校の教育職員免許状のみを取得しようとする学生向けで、高校(または中学校)での教育実習を2週間(60時間)以上行うこととする。	

授 業 科 目 の 概 要

(経済学部現代経済学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教職の教科及び教職に関する科目	教職実践演習 (中・高)	この授業科目は、教職課程の科目の履修を終え、教育実習を行った者が、その集大成として理想とする教師像とこれまでの学びを振り返る科目である。教育実習を通して考察した教員の機能と資質、教員としての自己の力量・資質を省察し、充足すべき課題を明確化する。教職の意義と責任、対人関係能力、生徒理解と生徒支援、学級経営、教科の指導力など各領域にわたる実践的能力を自覚し基礎固めを行う。到達目標は、教員として求められる資質、 1. 使命感や責任感、教育的愛情 2. 社会性や対人関係能力 3. 生徒理解や学級経営の能力 4. 教科の指導力を習得したことが確認できることである。履修履歴の確認とこれまでの学びおよび教育実習の振り返りによる各自の目標の設定や討議を通して、最低のレベルとして不十分な力量は何か、課題の再把握をする。その上で、4つの領域に基づき、教員として必要な資質の確認と不足についての補充をグループによる討議、事例の検討、指導案の作成などを通して実践的に行う	
教職の教科及び教職に関する科目	社会科教育法A	この授業科目は、受講生全員が学習指導案を作成して模擬授業をおこない、中学社会科について、学習指導案づくりと授業をおこなう力量を養うことをテーマとし、中学社会科の内容を理解し、教材研究をおこなって授業内容・授業目標を理解把握でき、授業研究にもとづき学習指導案を作成し、学習指導案にもとづいて的確な模擬授業ができることを到達目標とする。授業は、中学社会科の内容、教材研究の方法、学習指導案作成の授業研究の方法、授業を行う上で留意しなければならない点について講義をし、その後学生の模擬授業を行う。学生の模擬授業については、教材研究、授業研究について、随時指導する。模擬授業について、各時間内に講評・検討する。	
教職の教科及び教職に関する科目	社会科教育法 B	この授業科目は、中学校社会科の模擬授業を行う。「中学校学習指導要領解説 社会編」を精読し、その理解に基づいて履修者全員が学習指導案を作成、模擬授業を行う。模擬授業担当者は、単元計画及び本時計画としての指導案、板書計画、授業ノート、授業資料を準備する。模擬授業担当者以外の者は生徒役を担いながら、授業構成や時間配分、評価の観点と活動の一致、発問や板書の的確さ等、授業内容の検討と別様の方法について考え提案する。模擬授業担当者は、自身の模擬授業へのコメントや他の参加者の模擬授業参観に基づいて、よりよい授業構想をし、学習指導案を再度練り直す。	
教職の教科及び教職に関する科目	社会科・地理歴史科教育法	この授業科目は、中学社会科・高校地理歴史科の歴史をたどり、学習指導要領の内容について理解し、学力及び授業法をめぐる議論を取り上げ、社会科・地理歴史科教育の内容、課題を考えることを第一のテーマとする。そのことを踏まえて、学習指導のあり方を理解し、教材研究と授業連展開の研究の意味と内容を理解し、学習指導案を作ることを授業の第二のテーマとする。中学社会科、高校地理歴史科の授業にむけて、中学社会科・高校地理歴史科の学習指導要領と学習内容を理解し、学力と授業法について自らの意見を論述できる、社会科地理歴史科の学習指導案を作成できることを到達目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要

(経済学部現代経済学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教職に関する科目 教職の教科及び	社会科・公民科教育法	この授業科目は、中学校社会科及び高校公共科の学習指導要領の目標及び内容の理解に基づいて、授業構想をする。社会科・公民科教育法の授業では、中学校社会科（公民領域）の学習指導案と高校公民科の学習指導案を作成する。そのために、中学校社会科及び高校公民科の学習指導要領の精読、各出版社から出版されている教科書の読み比べ、既習事項の確認として前段階の学校種の教科書内容の整理、単元の知識の展開と本時の位置づけの確認、板書計画、ワークシート、パワーポイントなどデジタル授業資料の作成を行う。また、グループによる模擬授業を行う。	
教職の教科及び教職に関する科目	地理歴史科教育法	この授業科目は、受講生全員が学習指導案を作成して模擬授業をおこない、中学社会科について、学習指導案づくりと授業をおこなう力量を養うことをテーマとし、中学社会科の内容を理解し、教材研究をおこなって授業内容・授業目標を理解把握でき、授業研究にもとづき学習指導案を作成し、学習指導案にもとづいて的確な模擬授業ができることを到達目標とする。授業は、最初の四回は、中学社会科の内容、教材研究の方法、学習指導案作成の授業研究の方法、授業を行う上で留意しなければならない点について講義をし、その後学生の模擬授業を行う。学生の模擬授業については、教材研究、授業研究について、随時指導する。模擬授業について、各時間内に講評・検討する。	
教職の教科及び教職に関する科目	公民科教育法	この授業科目は、高等学校公共科の模擬授業を行う。「高等学校学習指導要領解説（公共）編」を精読し、その理解に基づいて履修者全員が学習指導案を作成、模擬授業を行う。模擬授業担当者は、単元計画及び本時計画としての指導案、板書計画、授業ノート、授業資料を準備する。模擬授業担当者以外の者は生徒役を担いながら、授業構成や時間配分、評価の観点と活動の一致、発問や板書の的確さ等、授業内容の検討と別様の方法について考え提案する。模擬授業担当者は、自身の模擬授業へのコメントや他の参加者の模擬授業参観に基づいて、よりよい授業構想をし、学習指導案を再度練り直す。	

学校法人成蹊学園 設置認可等に関わる組織の移行表

令和1年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和2年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
成蹊大学				成蹊大学				
経済学部				経済学部				令和2年4月学生募集停止
経済経営学科	500	-	2,000	0	-	0		
				経済学部				学部の設置(届出)
				経済数理学科	80	-	320	
				現代経済学科	150	-	600	
				経営学部				学部の設置(届出)
				総合経営学科	290	-	1,160	
理工学部				理工学部				
物質生命理工学科	133	-	532	物質生命理工学科	125	-	500	定員変更(△8)
情報科学科	134	-	536	情報科学科	150	-	600	定員変更(16)
システムデザイン学科	133	-	532	システムデザイン学科	125	-	500	定員変更(△8)
文学部				文学部				
英語英米文学科	130	-	520	英語英米文学科	121	-	484	定員変更(△9)
日本文学科	90	-	360	日本文学科	84	-	336	定員変更(△6)
国際文化学科	110	-	440	国際文化学科	110	-	440	
現代社会学科	110	-	440	現代社会学科	105	-	420	定員変更(△5)
法学部				法学部				
法律学科	280	-	1,120	法律学科	280	-	1,120	
政治学科	160	-	640	政治学科	160	-	640	
計	1,780	-	7,120	計	1,780	-	7,120	
成蹊大学大学院				成蹊大学大学院				
理工学研究科				理工学研究科				
理工学専攻(M)	70	-	140	理工学専攻(M)	70	-	140	
理工学専攻(D)	10	-	30	理工学専攻(D)	10	-	30	
経済経営研究科				経済経営研究科				
経済学専攻(M)	6	-	12	経済学専攻(M)	6	-	12	
経済学専攻(D)	3	-	9	経済学専攻(D)	3	-	9	
経営学専攻(M)	10	-	20	経営学専攻(M)	10	-	20	
経営学専攻(D)	3	-	9	経営学専攻(D)	3	-	9	
法学政治学研究科				法学政治学研究科				
法律学専攻(M)	8	-	16	法律学専攻(M)	8	-	16	
法律学専攻(D)	4	-	12	法律学専攻(D)	4	-	12	
政治学専攻(M)	4	-	8	政治学専攻(M)	4	-	8	
政治学専攻(D)	2	-	6	政治学専攻(D)	2	-	6	
文学研究科				文学研究科				
英米文学専攻(M)	8	-	16	英米文学専攻(M)	8	-	16	
英米文学専攻(D)	4	-	12	英米文学専攻(D)	4	-	12	
日本文学専攻(M)	8	-	16	日本文学専攻(M)	8	-	16	
日本文学専攻(D)	4	-	12	日本文学専攻(D)	4	-	12	
社会文化論専攻(M)	8	-	16	社会文化論専攻(M)	8	-	16	
社会文化論専攻(D)	4	-	12	社会文化論専攻(D)	4	-	12	
計	156	-	346	計	156	-	346	